湯　屋　遺　跡

湯屋温泉線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

岐　阜　県
財団法人　岐阜県文化財保護センター

縄 文 土 器 （瘤付土器）

序

益田郡小坂町湯屋地区は、小坂川の支流大洞川沿いの集落で、湯治客や御岳山登山客で賑わう温泉街でもあります。この地の中心部に位置する冨士神社の周辺が、縄文時代の集落遺跡として知られる湯屋遺跡です。

このたび、湯屋温泉線道路改良工事に伴い、埋蔵文化財の記録保存を行うために、湯屋遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査は岐阜県土木部萩原土木事務所から岐阜県教育委員会に委託され、財団法人岐阜県文化財保護センターが担当しました。

今回の発掘調査の結果、縄文時代の土坑などの穴が数多く見つかり、集落の一部を形成していた様子が判明しました。また、縄文時代中期から晩期にかけての各時期の土器や石器が大量に出土しました。その中でも、東北地方に分布の中心がある瘤付土器の出土は注目されます。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関ならびに関係者各位の温かい御理解と御協力を頂き、感謝申し上げます。また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なる御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

財団法人　岐阜県文化財保護センター

理事長　　篠　田　幸　男

例　言

1．本書は岐阜県益田郡小坂町湯屋字下切に所在する湯屋遺跡（遺跡番号21582-00909）の発掘調査報告書である。

2．本調査は湯屋温泉線道路改良工事に伴うもので、岐阜県土木部萩原土木事務所から岐阜県教育委員会を通じて委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3．発掘調査は、平成９年度に実施し、渡辺誠名古屋大学文学部教授の指導のもとに上嶋善治・八賀哲夫が担当した。

4．本書に記載した遺物の実測は、次の者が主に行った。

縄文土器（拓本含む）　畠中裕子　横井さだ子　清田由美子　瀬戸幸子　大西和子　岩田　舞　所　洋子

陶磁器　瀬戸幸子

石器　前畑裕美　上嶋善治　大石崇史

土製品　古田奈緒子　大石崇史

5．実測図等のトレースは次の者が主に行った。

脇渕純子　白栗由美　政井美子

6．遺物の写真撮影は佐藤右文氏に依頼した。

7．本書の執筆は、第２章第１節は岐阜大学教育学部付属小学校教諭古田靖志氏に、第４章第４節は京都大学霊長類研究所助手本郷一美氏に玉稿を賜り、他は上嶋が執筆したが、縄文土器底部については谷口和人、石器については上原真昭・大石崇史、土製品については古田奈緒子、陶磁器については小野木学の協力を得た。編集は上嶋が行った。

8．空中写真撮影は㈱イビソクに委託して行った。

9．発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関からご助言・ご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・順不同）

大江　命　岡崎晋明　大石崇史　小坂町教育委員会　小坂町産業振興課

10．発掘調査作業ならびに調査記録及び出土品の整理等には、次の方々の参加・協力を得た。

坂谷正道　川浦　泉　青木　茂　瓜田英明　三村昇子　渡瀬　保　清水　武　上野鈴子　成瀬力雄　岩島昭三　畠中裕子　横井さだ子　清田由美子　瀬戸幸子　大西和子　岩田　舞　所　洋子　前畑裕美　古田奈緒子　脇渕純子　白栗由美

11．土層および遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』(1997)を参照した。

12．調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例　言
第1章　調査の経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　発掘調査の経緯 …… 3
第2章　遺跡の環境 …… 4
　第1節　遺跡および周辺の地形・地質について …… 4
　第2節　歴史的環境 …… 5
第3章　遺　構 …… 8
　第1節　基本的層序 …… 8
　第2節　土　坑 …… 9
　第3節　ピット …… 16
　第4節　その他の遺構 …… 17
　　1　立　石 …… 17
　　2　配石遺構 …… 18
　　3　溝状遺構 …… 18
　　4　竪穴状遺構 …… 18
第4章　遺　物 …… 21
　第1節　縄文土器 …… 21
　　1　概　要 …… 21
　　2　遺構出土の縄文土器 …… 21
　　3　包含層出土の縄文土器 …… 29
　　4　底　部 …… 55
　第2節　石　器 …… 58
　第3節　土製品 …… 74
　第4節　陶磁器 …… 77
　第5節　動物遺存体 …… 79
第5章　まとめ …… 82
　第1節　発掘調査の成果 …… 82
　第2節　土坑について …… 82
　第3節　縄文土器について …… 84
引用・参考文献 …… 86

図版目次

図版１　１．遺跡遠景　　２．発掘前の状況　　３．遺跡全景
図版２　１．Ｃ列東壁　　２．４列南壁　　３．作業風景
図版３　１・２．遺構検出状況　　３．ＳＫ５　　４．ＳＫ11　　５．ＳＫ15　　６．ＳＫ19
　　７．ＳＫ47　　８．ＳＫ52
図版４　１．ＳＫ63　　２．立石１　　３．立石２　　４．立石３　　５．配石遺構
図版５　１～３．遺物出土状況
図版６　１・２．土坑出土の縄文土器
図版７　１．土坑出土の縄文土器　　２．ピット出土の縄文土器
図版８　１・２．その他の遺構出土の縄文土器
図版９　１．縄文土器Ⅰ群１類　　２・３．縄文土器Ⅰ群２類
図版10　１・２．縄文土器Ⅰ群２類
図版11　１．縄文土器Ⅰ群２類　　２．縄文土器Ⅰ群３類
図版12　１．縄文土器Ⅰ群３類　　２．縄文土器Ⅱ群１類
図版13　１．縄文土器Ⅱ群１類　　２．縄文土器Ⅰ群２類　　３．縄文土器Ⅱ群２類
図版14　１．縄文土器Ⅱ群２類　　２．縄文土器Ⅱ群３類
図版15　１・２．縄文土器Ⅱ群４類
図版16　１・２．縄文土器Ⅱ群５類
図版17　１．縄文土器Ⅱ群３類　　２．縄文土器Ⅲ群２類　　３．縄文土器Ⅲ群１・２類
図版18　１．縄文土器　底部　　２．石器類　石鏃・石錐
図版19　１．石器類　削器・掻器・石匙・両極剥離痕のある石器
　　２．石器類　二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・異形石器・石核
図版20　１．石器類　打製石斧　　２．石器類　磨製石斧
図版21　１．石器類　横刃形石器・切目石錘・有溝石錘・礫石錘・砥石
　　２．石器類　磨石・凹石・敲石類
図版22　１．石製品　　２．土製品
図版23　１～６．陶磁器

挿図目次

第1図　遺跡の位置 …… 1
第2図　地区設定図 …… 2
第3図　遺跡周辺の地質 …… 4
第4図　小坂川流域の主な縄文遺跡 …… 6
第5図　土層図 …… 9
第6図　遺構配置図 …… 10
第7図　土坑(1) …… 11
第8図　土坑(2) …… 12
第9図　土坑(3) …… 13
第10図　立石・配石遺構 …… 19
第11図　溝状遺構・竪穴状遺構 …… 20
第12図　土坑出土の縄文土器(1) …… 23
第13図　土坑出土の縄文土器(2) …… 24
第14図　土坑出土の縄文土器(3) …… 25
第15図　ピット出土の縄文土器 …… 26
第16図　その他の遺構出土の縄文土器(1) …… 27
第17図　その他の遺構出土の縄文土器(2) …… 28
第18図　包含層出土の縄文土器(1) Ⅰ群1類 …… 30
第19図　包含層出土の縄文土器(2) Ⅰ群2類 …… 31
第20図　包含層出土の縄文土器(3) Ⅰ群2類 …… 33
第21図　包含層出土の縄文土器(4) Ⅰ群2類 …… 34
第22図　包含層出土の縄文土器(5) Ⅰ群2類 …… 35
第23図　包含層出土の縄文土器(6) Ⅰ群3類 …… 37
第24図　包含層出土の縄文土器(7) Ⅰ群3類 …… 38
第25図　包含層出土の縄文土器(8) Ⅱ群1類 …… 39
第26図　包含層出土の縄文土器(9) Ⅱ群1類 …… 41
第27図　包含層出土の縄文土器(10) Ⅱ群2類 …… 43
第28図　包含層出土の縄文土器(11) Ⅱ群3類 …… 45
第29図　包含層出土の縄文土器(12) Ⅱ群3類 …… 46
第30図　包含層出土の縄文土器(13) Ⅱ群4類 …… 47
第31図　包含層出土の縄文土器(14) Ⅱ群4類 …… 49
第32図　包含層出土の縄文土器(15) Ⅱ群5類 …… 50
第33図　包含層出土の縄文土器(16) Ⅱ群5類 …… 51
第34図　包含層出土の縄文土器(17) Ⅱ群5類 …… 52
第35図　包含層出土の縄文土器(18) Ⅲ群1類 …… 53

第36図　包含層出土の縄文土器(19)Ⅲ群２・３類 …… 55
第37図　縄文土器　底部・脚台 …… 57
第38図　石器類(1)石鏃 …… 60
第39図　石器類(2)石錐 …… 61
第40図　石器類(3)削器 …… 63
第41図　石器類(4)掻器・石匙・両極剥離痕のある石器 …… 64
第42図　石器類(5)二次加工のある剥片・使用痕のある剥片 …… 65
第43図　石器類(6)異形石器・石核 …… 67
第44図　石器類(7)打製石斧 …… 68
第45図　石器類(8)磨製石斧 …… 70
第46図　石器類(9)横刃形石器・切目石錘・有溝石錘・礫石錘・砥石 …… 71
第47図　石器類(10)磨石・凹石・敲石類 …… 73
第48図　石製品 …… 74
第49図　土製品(1) …… 75
第50図　土製品(2) …… 76
第51図　陶磁器 …… 78
第52図　土坑および立石の配置 …… 83
第53図　飛騨地方南部の縄文後期後半の土器 …… 85

表目次

第１表　小坂川流域の主な縄文遺跡 …… 7
第２表　土坑一覧表 …… 14
第３表　ピット一覧表 …… 16
第４表　陶磁器一覧表 …… 77
第５表　湯屋遺跡出土の動物遺存体：種構成 …… 80
第６表　湯屋遺跡出土の動物遺存体の同定結果 …… 81
第７表　石器一覧表 …… 87

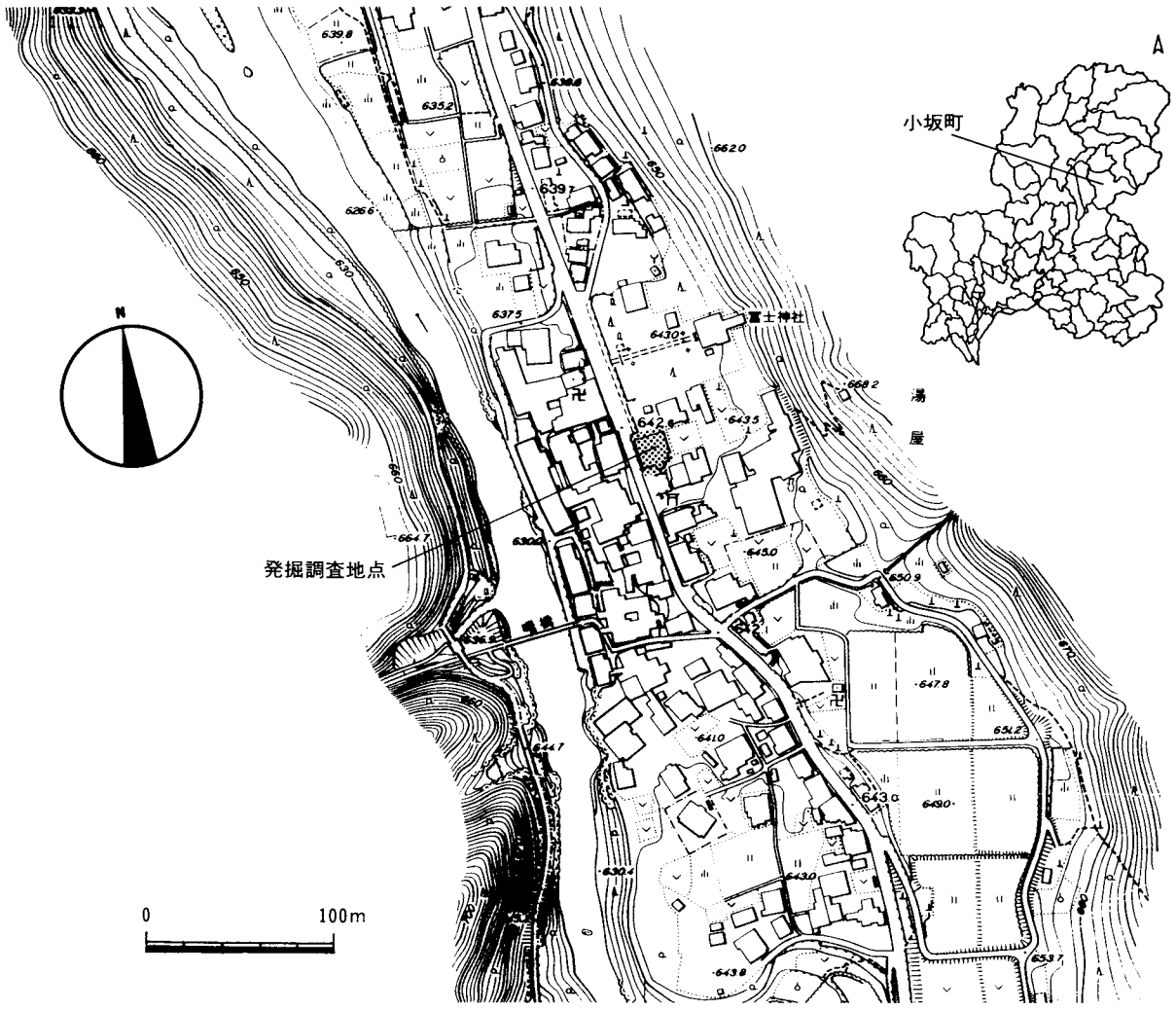
第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

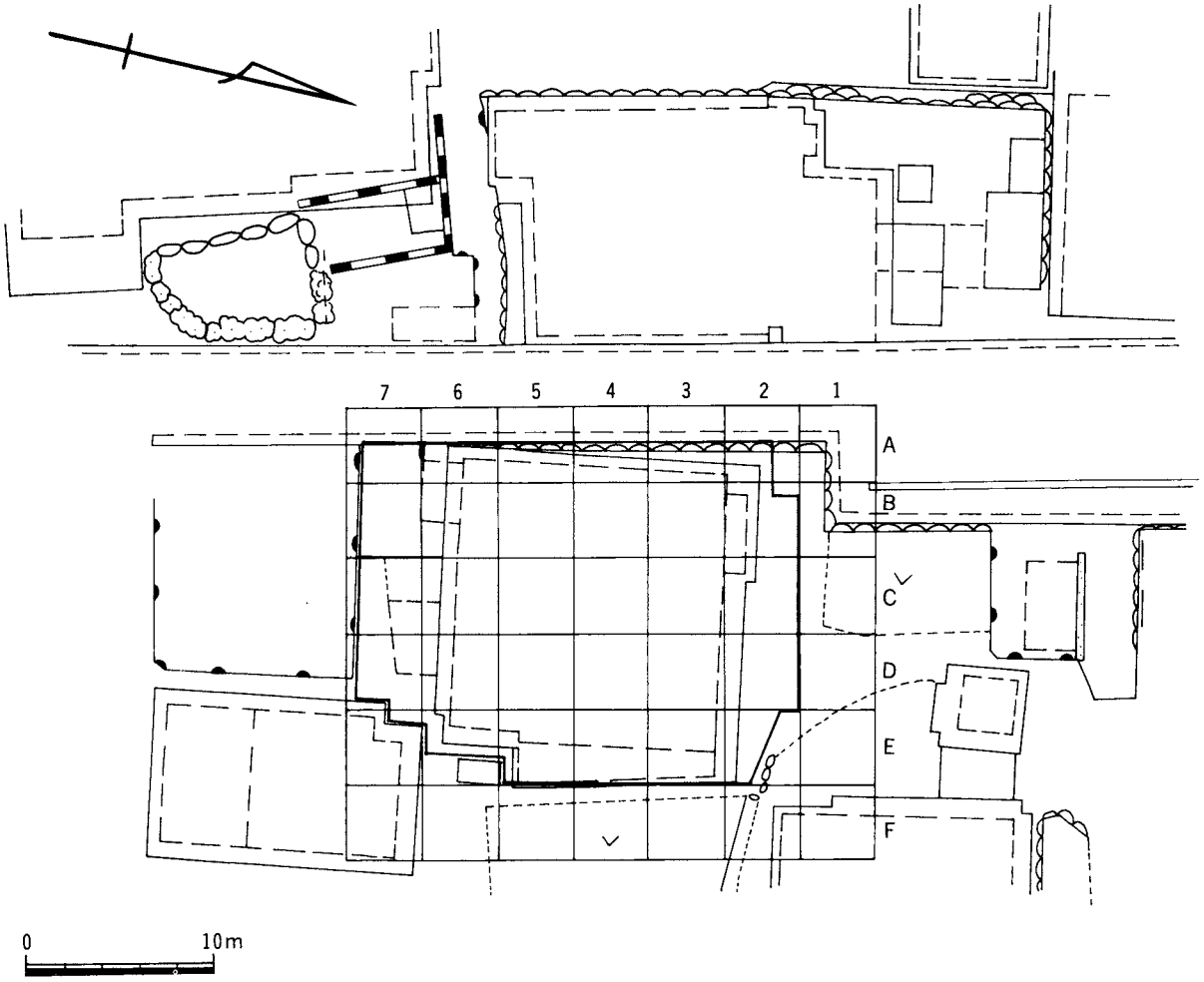
今回の発掘調査で、湯屋遺跡が対象となったのは、岐阜県土木部萩原土木事務所による湯屋温泉線道路改良事業による。この遺跡は、第２章第２節で述べるように古くからその存在が知られており、1988（昭和63）年には、冨士神社前の道路拡幅ため、小坂町教育委員会によって今回の調査地点の北側部分の発掘調査が行われた。

今回の発掘調査対象地点は、道路拡幅部と、工事に伴って隣接する岩島昭三氏所有の宅地も掘削することから、岐阜県土木部萩原土木事務所と岐阜県教育委員会文化課との協議の結果、その地点も合わせて、東西約18ｍ、南北約24ｍの400㎡を発掘調査することになった。

調査地点は宅地であり、家屋取り壊し後の整地面が広がっていた。周辺の畑地および調査地点では、土器片や石器類が容易に表採できた。従って、道路側の石垣のみ重機を利用して除去したが、調査区



第１図　遺跡の位置



第2図　地区設定図

は手掘りで平面発掘を行った。

発掘調査にあたっての地区の設定は、県道に平行して第2図のように、4×4mの区画を設けた。北から南へ1・2・3とし、西から東へA・B・Cとした。方向軸は、磁北に対して14°西へふれている。

土捨て場が付近で確保できない状況であったので、まず、北半分（4列以北）を掘削し、排土を南側に積み上げ、重機を利用して処理をした。その後、調査区の南東部分を掘削し、同様にして、調査区内に排土を積み上げ、その都度処理をした。ただし、7列および、2C・2D区のあたりは撹乱が激しい地点であったので、この場所も最後には、土捨て場として利用した。

出土遺物の地点については、グリッド一括で取り上げた小破片以外は、コンピューター・システム㈱の「サイト」を使用して、位置・標高を記録した。遺構実測における「サイト」の使用は一部だけにとどめた。

第2節　発掘調査の経緯

7月下旬までに現場事務所の設置、用具の搬入等の準備作業を行った。杭打ちおよび掘削は8月4日に開始した。以下、週ごとに調査経過を記述する。

第1週（8.4～8.8）　地区の設定を行い、調査区の北半分を手掘りで掘削を始めた。土捨て場が確保できないので、調査区の南半分を当面の土捨て場とした。2C区で石棒、3E区で土製耳飾りが出土し、さらに、4E区で縄文晩期の土器がまとまって出土した。

第2・3週（8.11～8.22）　第2週は夏季休業。第Ⅰ層から第Ⅱ層の掘削。縄文土器、石器類の出土が多く、取り上げ作業に時間がかかった。3D区で立石状の石が見えてきた。

第4週（8.25～8.29）　遺物包含層を掘りきり、一部で黄色の砂地の層が見えてきた。3C区で下呂石の大型石核が出土した。4C区で瘤付土器（注口土器）が出土した。3B区で骨がまとって出土した。土坑等は検出されなかった。

第5週（9.1～9.5）　2C～4C区の東壁のセクションの実測を行い、土層観察用の畦を撤去した。その際、4D区で敷石状の遺構（SX1）の一部を検出した。3D区の立石は土坑に伴うものと判明した。調査区の南東部に掘削範囲を広げた。

第6・7週（9.8～9.19）　調査区の南東部（5D～7D区および5E・6E区）に掘削範囲を広げた。4A区から4E区南壁のセクションを実測。配石を伴う土坑など遺構の平面実測等の処理も進めた。

第8週（9.22～9.26）　5D区から7D区の西壁のセクションを実測。5B～7B区および5C～7C区に掘削範囲を広げた。遺構の掘削等も合わせて行った。

第9週（9.29～10.3）　SX1の実測・写真撮影を行って石の除去を行った。7列は後世の撹乱が大きく遺構がほとんど検出できないので、土捨て場とした。5B～6C区にかけて、撹乱層より近世の陶磁器類が出土した。

第10週（10.6～10.11）　5A～6D区の遺構検出面までの掘削を終えた。6B区から石棒が出土した。さらに、縄文中期の土器がまとまって出土した。遺構の可能性を検討したが不明であった。5E区に黒色土の広がりが見られた。竪穴状遺構（SB1）とした。10月11日に現地説明会を実施した。

第11週（10.13～10.17）　6A～6B区でも竪穴状遺構（SB2）を検出した。その後、竪穴状遺構の掘削を進めた結果、床面等が検出されず、住居址の可能性はほとんどないことが判明した。10月16日に空中写真撮影を行った。10月17日に用具の一部搬出を行った。

第12・13週（10.20～10.29）　遺構の実測作業と精査を行い、10月24日に用具の最後の搬出を行った。10月27日から残土の処理および引き渡しのための整地作業を行って、10月29日で現地での発掘調査を終了した。

以後、財団法人岐阜県文化財保護センター飛騨出張所にて整理作業に入った。

第2章　遺跡の環境

第1節　遺跡および周辺の地形・地質について

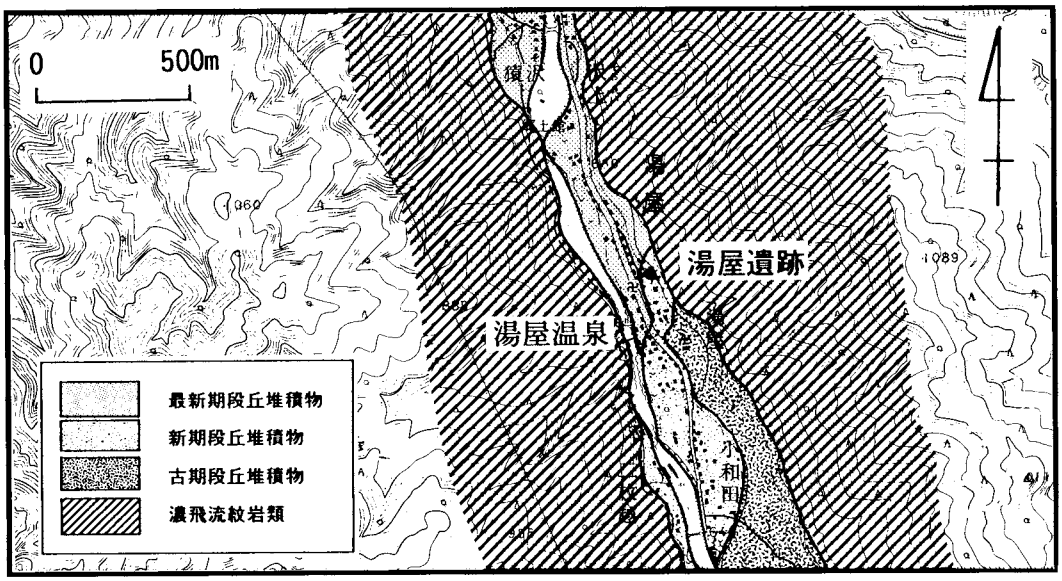
遺跡の存在する益田郡小坂町湯屋地区周辺の地形は、1100m前後の定高性の山々と、大洞川によって開析された深い谷からなる。大洞川は落合地区で濁河川と合流するまでは北北西方向に流下し、流域に小規模な河岸段丘を形成している。

このうち、山地部分はすべて濃飛流紋岩類からなっており、極めて単調な地質を呈している。濃飛流紋岩類は中生代白亜紀後期の大規模な火山活動による堆積物であり、この地域の岩質は暗灰色－緑灰色を呈する流紋岩溶結凝灰岩である。

大洞川流域に見られる河岸段丘は、第四紀更新世以降に大洞川によって形成されたものであり、湯屋地区付近では最新期段丘面、新期段丘面、古期段丘面に区分できる。これらの段丘は、濃飛流紋岩類の基盤上に堆積したものであり、主に砂礫層からなる。砂礫層に含まれる礫はいずれも濃飛流紋岩の円礫で、礫径は2～6cmのものが主となっているが、稀に1m以上の巨礫を含む。基質は黄褐色の粗粒礫である。

湯屋地区の大洞川沿いには、湯屋遺跡（冷鉱泉）が湧出している。泉質は炭酸泉であり、古くから胃腸病に効く名湯として知られている。

湯屋遺跡は、大洞川が形成した河岸段丘上に立地している。この辺りの山麓斜面が非常に急峻なため、人々の生活の場は、昔から流域の河岸段丘による平坦面に限られている。遺跡の立地面は新期段丘面に区分されるものであり、川面からかなりの比高を有するため、比較的安定した土地であったことが推測できる。



第3図　遺跡周辺の地質
（国土地現院 1／25000「湯屋」を使用）

第2節　歴史的環境

湯屋遺跡は、益田郡小坂町湯屋に所在する。小坂川の支流大洞川の右岸段丘上に立地する。湯屋温泉街の中心にある冨士神社の境内およびその周辺に遺跡が広がっている。

ここは、古くから縄文時代の遺跡と知られ、1935（昭和10）年発行の飛騨考古土俗学会編輯『飛騨石器時代遺蹟地名表』では、出土遺物として「縄紋式土器．石鏃．石錐．磨製石斧．石棒．石剣」があげられている。

1955（昭和30）年に、道路の拡幅の際、竪穴住居跡内の埋甕と推定される土器が出土しており、縄文中期後半の遺物が多く出土した。また、縄文中期前葉や晩期の土器も出土し、刻文入りの石皿も出土している。この状況は、まず、大江錦舟によって報告され（大江錦舟1956）、さらに、大江命によって、底部を欠失した土器の紹介がなされた（大江命1957）。これらの調査成果は、整理報告されている（大江命1965）。

1988（昭和63）年には、道路拡幅のために冨士神社前が発掘調査されており、竪穴住居跡とピット群が見つかった。竪穴住居跡は6軒検出された。住居跡は石囲炉を有するものがあり、縄文中期後半を中心とした遺物が出土している。

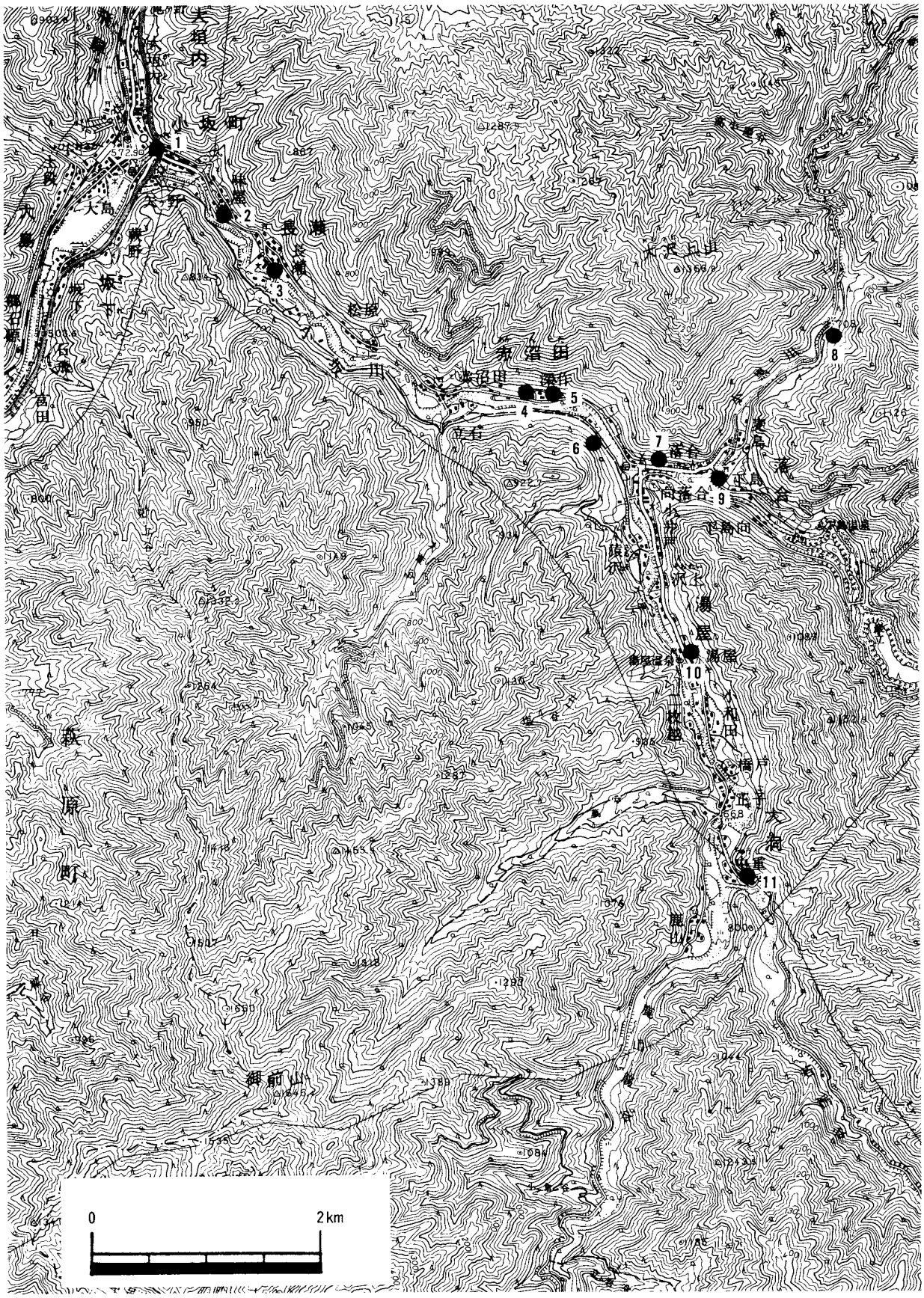
小坂川流域には、多くの縄文時代の遺跡が分布している。その様相については、簡略にまとめたことがある（上嶋1994）。ここでは、発掘調査がなされたり、資料紹介されている主な縄文遺跡のみを取り上げて、図示し表にまとめた（第4図、第1表）。あらためて概観すると、早期には、前半期の押型文土器が出土した遺跡としては、水口遺跡・長瀬上野遺跡・福応寺遺跡などがあり、後半期の条痕文系土器を出土した遺跡としては、味屋遺跡・南垣内遺跡などがある。つまり、早期の前半と後半では、それぞれ比較的近い地点で遺跡を異にしている点が顕著である。

前期の遺跡は少なく、味屋遺跡にまとった資料を見る程度である。中期から後期にかけては、水口遺跡、南垣内遺跡、湯屋遺跡が、検出された遺構や出土した遺物の量などから見て、拠点集落的な遺跡の様相を呈する。特に、南垣内遺跡と湯屋遺跡は、ともに中期から後期の各時期の遺物が多く出土しているが、時期的に相互に補完し合う関係にあるようである。ただし、発掘調査等では、まだ遺跡の概要の一部しか把握できていない状況なので、遺跡間の関係は今後の課題となろう。

晩期の遺跡は少ないが、南垣内遺跡、湯屋遺跡に前半期の土器がややまとまって見られる。後半期の遺跡としては阿弥陀堂遺跡が代表的な遺跡である。浮線文系の土器や条痕文系の土器が出土しており、編年的には大洞A式から大洞A'式にかけての位置付けが検討されている。また、遠賀川系の土器や大地式の土器も出土しており、弥生時代へつながる重要な遺跡である。

小坂町の町域は、「和名抄」によると益田郡益田郷に含まれ、室町時代になり、小坂郷と呼ばれたようである。湯屋の地は、鉱泉が湧くことに因み、「湯谷」と記されたこともあったようである。鉱泉の発見の時期は不明であるが、小坂霊湯記（奥田文書）によれば、美濃金華山城下の武士奥田孫左衛門が、薬師如来の霊夢により、1541（天文19）年当地に来て、桃の崖下に湧く湯を発見。この湯によって病が平癒したので以後当地に移り住んだと伝えられる。

今回の発掘調査では、18世紀後半以降の陶磁器類が出土している。調査前に取り壊された家屋以前



第4図　小坂川流域の主な縄文遺跡

の家に伴うものと考えられる。1766（明和3）年の村明細帳には、高17石余、家数29、1800（寛政12）年の村明細帳には高24石余、田6反余、畑8町6反余、家数29となっている。飛騨の百姓一揆である大原騒動の際には、安永年間に当村の長三郎は江戸に潜入して幕府へ直訴を企てた者の1人で捕らえられ、江戸の牢獄で死亡した。冨士神社境内に、1960（昭和35）年に「義民長三郎之碑」が建立された。この冨士神社は、創建の時期は不詳であるが、棟札によると1821（文政4）年に本社が造立されているが、熊野三尊の背面墨書には1731（享保16）年の造立とされている。

第1表　小坂川流域の主な縄文遺跡

番号	遺跡名	早期	前期	中期	後期	晩期	備考（文献）
1	水口	——	----------	———	———	----------	大江命1965・1978
2	味屋		-----	————			大江命1965
3	長瀬上野	——		----------	----------		大江命1965
4	阿弥陀堂					——	大江命1965、藤田ほか1994
5	深作裏垣内	----------	----------	———			大江命1962・1965
6	深作川向上段					——	大江命1965
7	福応寺	——					大江命1965
8	平氏ヶ原				----------		大参1972
9	南垣内	----------	----------	———	———	----------	大江命1965・1984
10	湯屋			———	———	----------	大江命1965
11	中重	----------			----------	----------	大江命1983

第3章　遺　構

第1節　基本的層序

検出された遺構は、土坑、ピット、立石、配石遺構、溝状遺構、竪穴状遺構である。まず、基本的層序について述べ、以下遺構ごとに順に記述する。

湯屋遺跡は前述のように、小坂川支流大洞川の右岸段丘上に位置する。調査地点の現況は宅地であった。明治時代の建物があったが、調査前に取り壊されていた。表土である第Ⅰ層は整地層である。家屋取り壊しの際に、植木を除去したため、深く撹乱されている所もあった（２Ｃ・２Ｄ区)。また、調査区南側を中心に、近世の家屋があったらしく、撹乱された地点が広がっており（５Ｃ・６Ｃ区)、陶磁器類が比較的まとまって出土した。

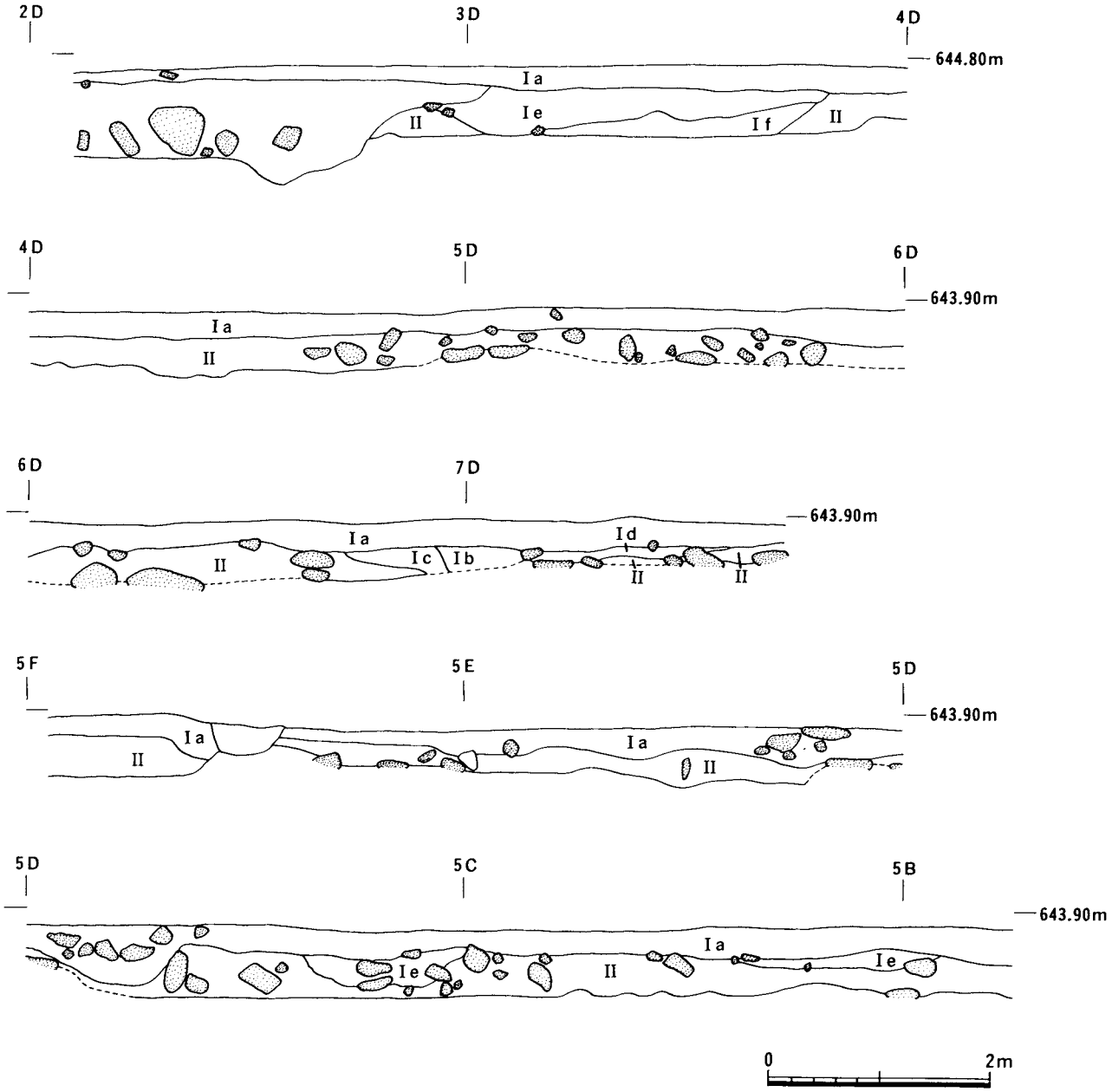
撹乱を含む表土層から地山まで、大きく次の３層からなる。

第Ⅰ層　調査区の表土は、家屋を取り壊した後の整地層である。約20～30㎝の厚さで堆積するが、南側では、塩ビ管や土管を埋めた所があり、深さ50㎝程度の撹乱層が広がっている。また、北側は植木を除去しており、広い範囲にわたって深さ１ｍ以上撹乱されていた。

Ⅰａ層　暗褐色土(7.5YR3／3)　しまり、粘性ともにあり。調査区全域に広がっている。
Ⅰｂ層　黄褐色土(2.5Y5／3)　塩ビ管を埋めた時の埋土。６列と７列の間のあたりを東西方向にのびている。
Ⅰｃ層　黒褐色土(7.5YR3／2)　土管を埋めた時の埋土。６列の南寄りの地点を東西方向にのびている。
Ⅰｄ層　橙色土(7.5YR6／8)　粘土質の焼けた土が７Ｃ区から７Ｄ区にかけて広がっていた。
Ⅰｅ層　黒褐色土(7.5YR3／2)　しまり、粘性ともにあり。径２～４㎝の礫が混じる。
Ⅰｆ層　明黄褐色砂質土(2.5Y6／6)　径２～４㎝の礫が混じる。

第Ⅱ層　黒褐色土(10YR2／2)　しまりは弱く、粘性あり。遺物包含層である。厚さは約20～30㎝である。縄文中期から晩期の遺物が出土している。土質の違いがほとんど不明で、分層できなかった。

第Ⅲ層　黄褐色砂質土(10YR5／6)　地山である。径５㎜～２㎝の礫が混じる。



第5図 土 層 図

第2節 土 坑

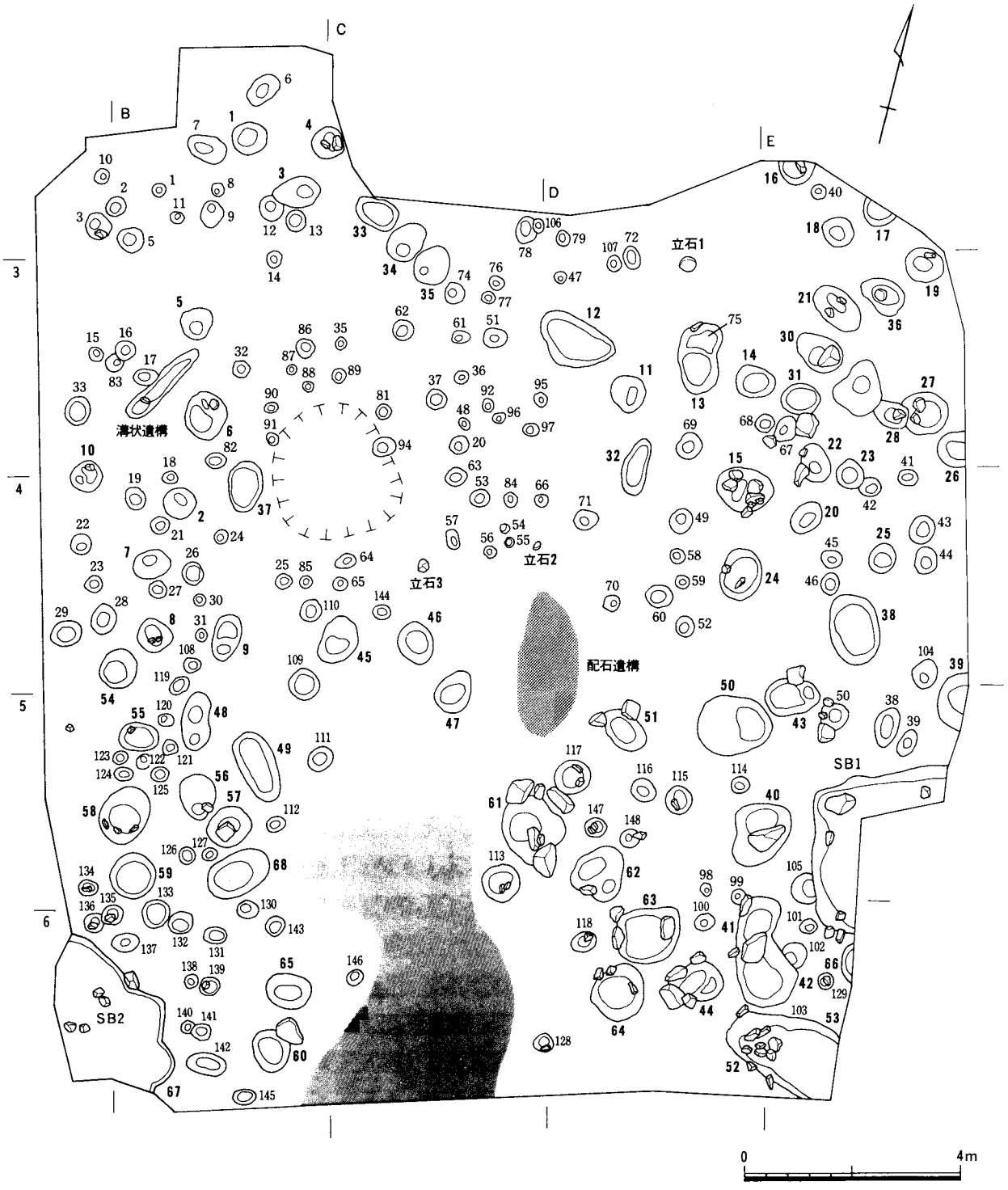
竪穴住居址は検出されなかったが、大小の穴が点在していた。土坑とピットの区別があいまいであるが、径60㎝をその区分の基準とした。主な土坑を図示し（第7～9図）、形状、大きさ、遺物等はまとめて一覧表に表した（第2表）。

分布状況は、中央部が撹乱されているが、西側に少なく、東側に多い。また、南側の方にやや大きいものが見られる。

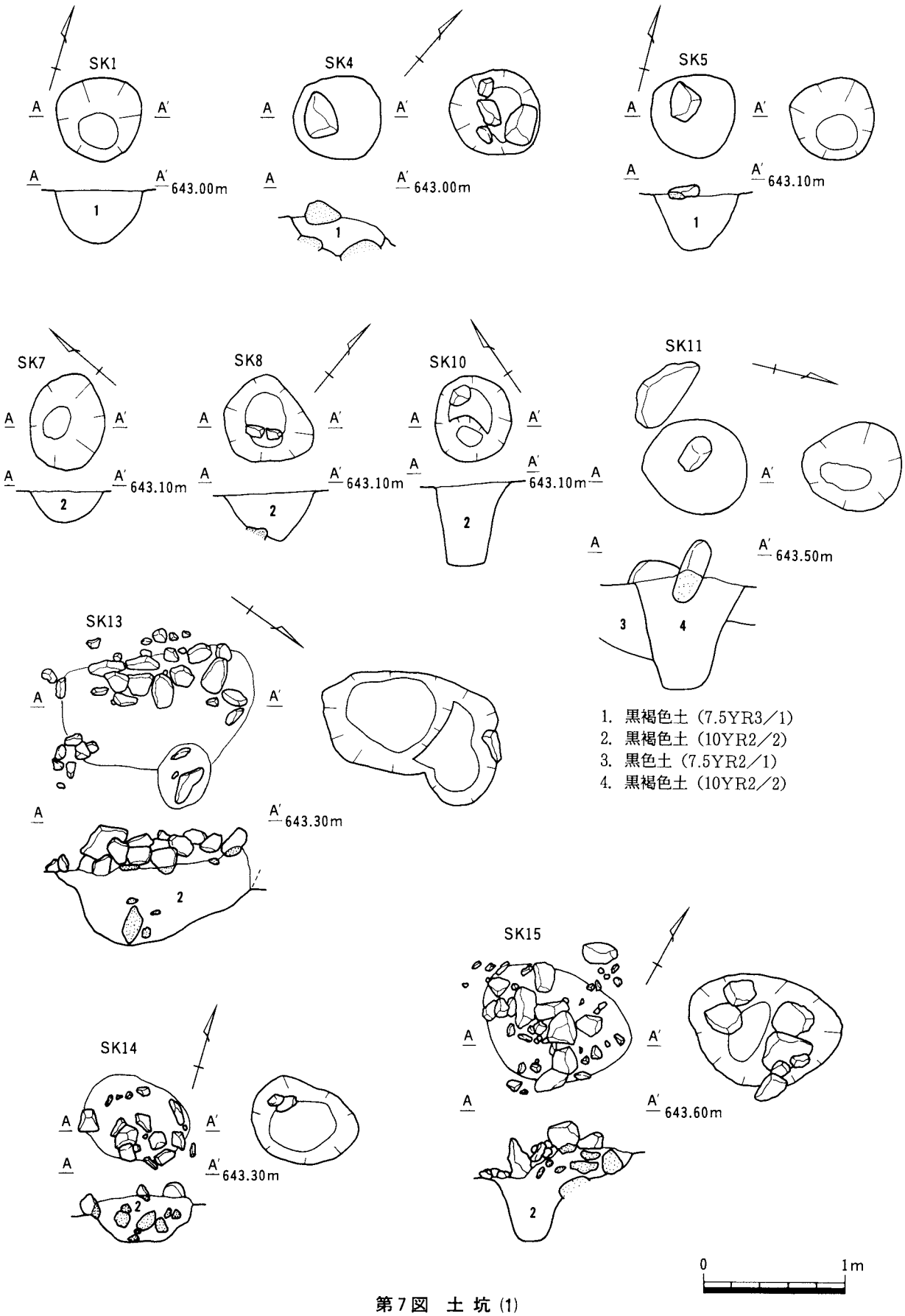
配石を伴うもの（SK4・SK13・SK14・SK15・SK44など）や、立石を伴うもの（SK11・

ＳＫ47)、骨が出土したもの（ＳＫ38・ＳＫ58・ＳＫ65・ＳＫ68など）がある。ただし、骨は、鑑定の結果、後述するように獣骨ばかりであった。

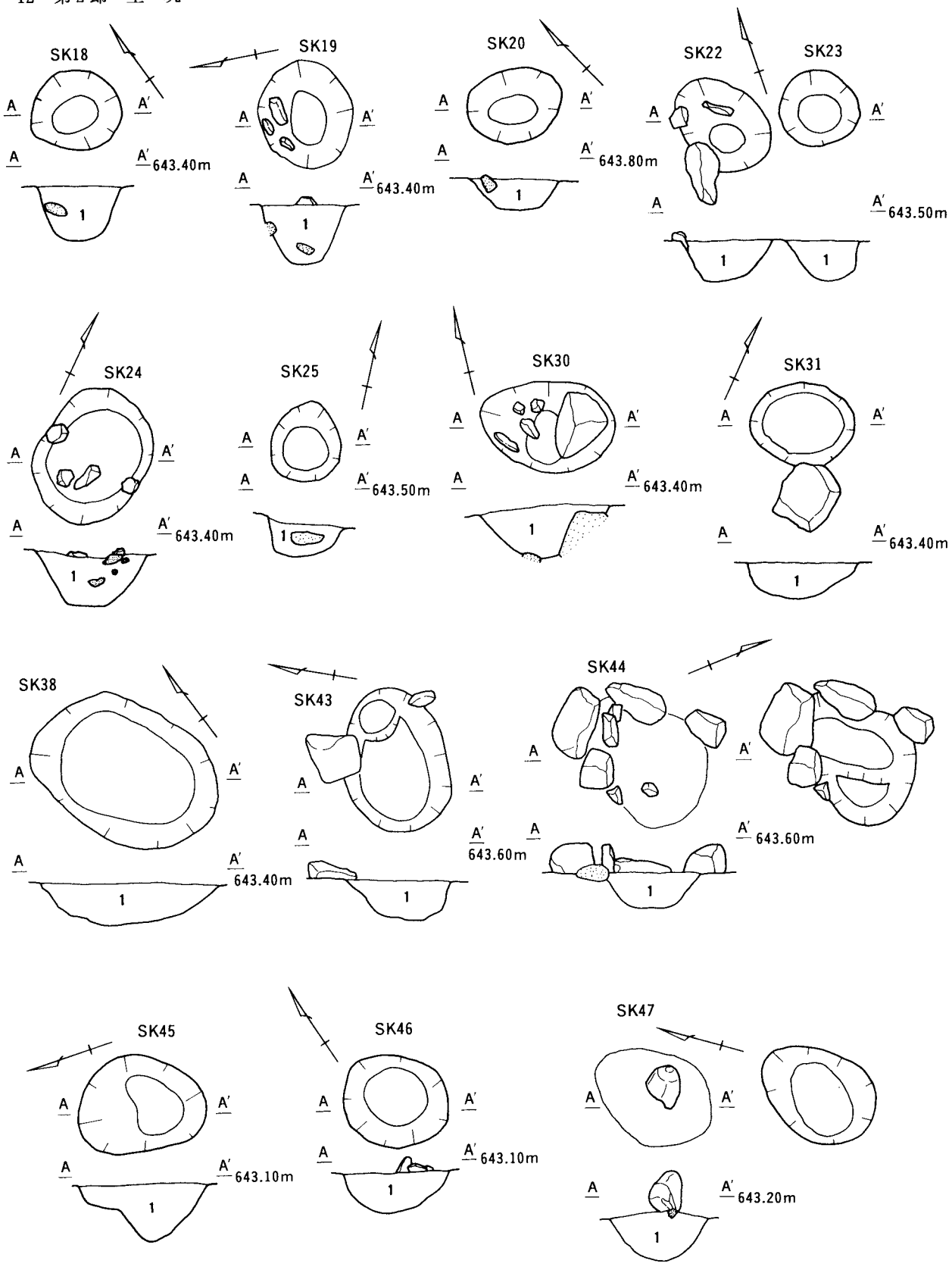
土坑の時期は、出土遺物および土層の観察より同時性を指摘できるものがあり、いくつかの時期に分けられそうである。その分析については第５章第１節で述べるが、縄文中期後葉から後期後葉まで、大きく４期に区分した。



第６図　遺構配置図

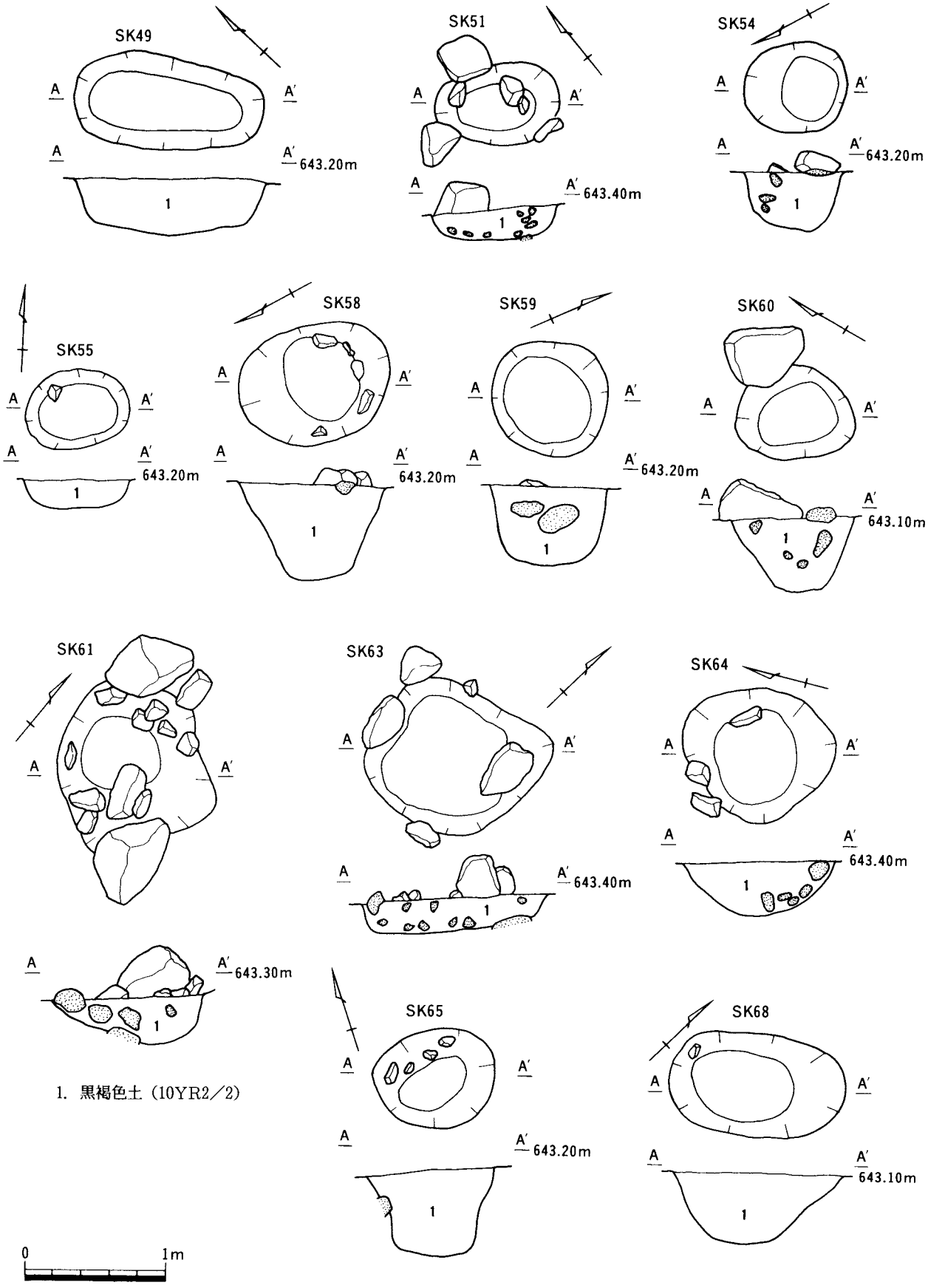

SK1
A
A′
A
A′
643.00m
1
SK4
A
A′
A
A′
643.00m
1
SK5
A
A′
A
A′
643.10m
1
SK7
A
A′
A
A′
643.10m
2
SK8
A
A′
A
A′
643.10m
2
SK10
A
A′
A
A′
643.10m
2
SK11
A
A′
643.50m
3
4
1. 黒褐色土 (7.5YR3/1)
2. 黒褐色土 (10YR2/2)
3. 黒色土 (7.5YR2/1)
4. 黒褐色土 (10YR2/2)
SK13
A
A′
A
A′
643.30m
2
SK14
A
A′
A
A′
643.30m
2
SK15
A
A′
A
A′
643.60m
2
0
1m

第7図 土 坑 (1)



1. 黒褐色土 (10YR2/2)

第8図 土 坑 (2)


SK49
SK51
SK54
SK55
SK58
SK59
SK60
SK61
SK63
SK64
SK65
SK68
A
A′
643.20m
643.40m
643.10m
643.30m
1
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
0
1m

第9図 土 坑 (3)

第2表　土坑一覧表（単位はcm）

番号	地　区	平面図	大きさ	深さ	遺　物　（数字は挿図番号）	時　期
1	2B	円　形	65× 65	43	土器7(12－1)、フレイク1	後　期
2	4B	円　形	65× 60	42	土器14(12－2)、フレイク8	後期後葉
3	2B	楕円形	90× 65	33	土器1、フレイク1	不　明
4	2B・2C	円　形	60× 60	29	土器2(12－3)	後　期
5	3B	円　形	60× 60	33	フレイク7	不　明
6	3B	円　形	90× 85	39	土器7、フレイク5	不　明
7	4B	楕円形	70× 60	50	土器11(12－4)、石鏃1、フレイク17	後　期
8	4B	不定形	70× 60	41	土器(12－5)、フレイク5	後　期
9	4B	楕円形	90× 60	46	土器5、フレイク2	後　期
10	3A・4A	円　形	60× 60	51	土器8、フレイク11	後　期
11	3D	円　形	70× 65	45	土器19(12－6)、磨石類1、フレイク15	中　期
12	3D	楕円形	150× 90	28	土器43(12－7)、打製石斧1、磨石類1、フレイク16	後期前葉
13	3D	楕円形	120× 70	65	土器104(12－8～15)、石鏃1、石錐3、両極石器1、フレイク49	中　期
14	3D・3E	楕円形	80× 65	40	土器110(12－16～20)、フレイク20	後期前葉
15	4D	楕円形	110× 80	62	土器106(12－21～27)、打製石斧1、フレイク32	中　期
16	2E	不　明	(70)×？	(37)	土器4(12－28)、フレイク2	中　期
17	2E	不　明	(70)×？	(24)		不　明
18	2E	円　形	65× 60	39	土器16(12－29～34)、フレイク11	後期中葉
19	3E	楕円形	75× 65	41	土器10(12－35)、フレイク12	不　明
20	4E	楕円形	65× 60	23	土器10(12－36)、磨石類1	中　期
21	3E	楕円形	110× 60	46	土器27(12－37～40)、石鏃1、フレイク7	中　期
22	3E・4E	楕円形	70× 60	57	土器20(12－41・42)	中　期
23	3E・4E	円　形	60× 60	28	土器2(12－43・44)	中　期
24	4D	楕円形	95× 80	36	土器58(13－45～50)、フレイク5	後期前葉
25	4E	円　形	60× 60	26	土器1、フレイク3	後　期
26	3E	不　明	(60)×？	25	土器4(13－51)	中　期
27	3E	円　形	80× 75	38	土器17(13－52・53)、両極石器1、フレイク18	後期中葉
28	3E	楕円形	70× 60	32	土器18(13－54)、フレイク8	中　期
29	3E	楕円形	95× 70	37	土器46(13－55～58)、フレイク32	後期前葉
30	3E	楕円形	95× 70	37	土器18(13－59)、石錐1、横刃形石器1、フレイク5	後期前葉
31	3E	楕円形	75× 60	29	土器12(13－60)、フレイク1	中　期
32	3D・4D	楕円形	105× 60	18	土器37(13－61・62)、フレイク9	後期中葉
33	2C	楕円形	85× 60	9	土器2(13－63)	不　明
34	2C	楕円形	80× 60	35		不　明

番号	地　　区	平面図	大きさ	深さ	遺　　物　（数字は挿図番号）	時　期
35	3 C	円　形	75× 70	29		不　明
36	3 E	不定形	85× 60	32	土器29(13－64～67)	中　期
37	3 B・4 B	楕円形	90× 60	8		不　明
38	4 E	楕円形	160×130	60	土器108(13－68～71)、石鏃２、石錐１、打製石斧１、切目石錘１、フレイク22	後期前葉
39	4 E・5 E	不　明	(80)×？	30	土器77(13－72～76)、石鏃１、フレイク12	中　期
40	5 D・5 E	不定形	110×110	38	土器41(13－77)、打製石斧１、フレイク18	中　期
41	6 D・6 E	楕円形	110× 70	40	土器35(13－78・79)、フレイク17	中　期
42	6 D・6 E	不定形	110×100	29	土器100(13－80～85)、フレイク28	中　期
43	5 E	楕円形	100× 75	43	土器50(13－86～88)、磨石類１、フレイク５	中　期
44	6 D	楕円形	100× 70	40	土器34(14－89～93)、フレイク２	中　期
45	4 C	楕円形	90× 70	43	土器19(14－94・95)、フレイク１	後　期
46	4 C	楕円形	75× 65	43	土器37(14－96～99)、石鏃１、フレイク４	後期前葉
47	4 C・5 C	楕円形	80× 60	34	土器11(14－100・101)、フレイク５	中　期
48	5 B	楕円形	115× 60	40	土器35(14－102)、フレイク１	後期前葉
49	5 B	楕円形	135× 70	45	土器16(14－103・104)、石鏃１、フレイク３	中　期
50	5 D	楕円形	140×125	48	土器69(14－105～107)、フレイク18	後期前葉
51	5 D	楕円形	90× 60	26	土器14(14－108・109)、打製石斧１、両極石器１	中　期
52	6 D・6 E	円　形	110×110	43	土器54(14－110・111)、フレイク12	中　期
53	6 E	楕円形	130×100	30	土器１(14－112)	中　期
54	4 A・4 B	楕円形	75× 65	42	土器９(14－113)、フレイク２	不　明
55	5 B	楕円形	75× 65	24	石鏃１	不　明
56	5 B	不定形	85× 70	37	土器10(14－114)、フレイク５	後　期
57	5 B	円　形	80× 75	49	土器48(14－115～117)、石鏃４、フレイク25	後期前葉
58	5 A・5 B	楕円形	110× 85	76	土器107(14－118～124)、石鏃１、削器１、打製石斧２、フレイク24	後期前葉
59	5 B	円　形	90× 85	55	土器28(14－125～127)、石錐１、礫石錘１、磨石類１	中　期
60	6 B	楕円形	85× 70	54	土器72(14－128～130)、磨石類１、フレイク５	後期前葉
61	5 C・5 D	不定形	120×110	37	土器30(14－131・132)、石鏃１、フレイク８	不　明
62	5 D	不定形	110×100	52	土器17(14－133)、フレイク３	不　明
63	6 D	不定形	120×100	26	土器20(14－134)、両極石器１、フレイク３	後期前葉
64	6 D	円　形	110×100	37	土器44(14－135)、フレイク16	後期前葉
65	6 B	楕円形	85× 70	57	土器28(14－136・137)、石鏃１、フレイク８	中　期
66	6 E	不　明	(75)×？	(28)	土器12(14－138)、フレイク１	中　期
67	6 B	円　形	80× 80	15		不　明
68	5 B	楕円形	125× 75	53	土器39(14－139・140)、フレイク８	後期中葉

第3節　ピット

ピットは全部で142基確認した。ピットとして検出したが、掘り込みが不明瞭で、掘削後に欠番としたものもある。土坑と同じように一覧表にまとめた。なお、直線的に並んだりするものはなく、掘立柱建物の跡は不明であった。

第3表　ピット一覧表（単位はcm）

番号	地区	大きさ	深さ	遺物（数字は挿図番号）	番号	地区	大きさ	深さ	遺物（数字は挿図番号）
1	2 B	30×26	13		40	2 E	30×27	16	
2	2 B	42×35	22		41	4 E	34×26	11	
3	2 A	53×50	45	土器18(15－141・142)、フレイク6	42	4 E	43×33	14	土器3(15－153)、フレイク7
5	2 B	43×40	15	土製品1	43	4 E	47×43	16	土器8(15－154)、石鏃1
6	2 B	60×45	38	土器4(15－143)、フレイク2	44	4 E	50×41	31	土器11(15－155)、フレイク3
7	2 B	80×48	31	フレイク1	45	4 E	38×30	11	
8	2 B	23×20	8		46	4 E	44×30	14	
9	2 B	50×40	13		47	3 D	24×21	18	
10	2 A	35×28	18	フレイク2	48	3 C	23×19	13	土器1(15－156)
11	2 B	22×22	12		49	4 D	46×41	21	土器12(15－157)
12	2 B	50×45	46	土器1、フレイク1	50	5 E	49×46	19	土器1
13	2 B	36×33	8		51	3 C	36×35	16	
14	3 B	32×24	9		52	4 D	38×32	12	土器1
15	3 A	32×27	11		53	4 C	33×30	24	土器1(15－158)
16	3 B	34×33	21		54	4 C	18×18	35	
17	3 B	40×28	17		55	4 C	18×17	37	
18	4 B	23×22	10		56	4 C	25×22	23	
19	4 B	40×39	24	土器2(15－144)	57	4 C	34×27	13	土器8
20	3 C	33×30	19		58	4 D	28×23	15	土器3(15－159)、フレイク1
21	4 B	39×33	13		59	4 D	27×25	13	土器9
22	4 A	38×35	34	土器2(15－145)、石鏃1、フレイク2	60	4 D	45×43	20	土器3(15－160)、フレイク2
23	4 A	31×30	17	土器2、石鏃1	61	3 C	27×26	28	
24	4 B	20×20	19		62	3 C	38×38	22	土器1、フレイク1
25	4 B	30×27	32		63	4 C	32×32	21	
26	4 B	40×38	54	土器15(15－146)、フレイク1	64	4 C	40×28	43	
27	4 B	36×30	24		65	4 C	30×27	21	
28	4 A	48×45	24	土器10(15－147)、フレイク3	66	4 C	25×25	10	
29	4 A	53×50	18	土器5(15－148)、フレイク2	67	3 E	50×36	21	フレイク1
30	4 B	24×22	12		68	3 E	30×30	12	土器2
31	4 B	25×22	20	フレイク3	69	3 D	47×40	21	土器19、フレイク4
32	3 B	37×36	20	土器2(15－149)	70	4 D	40×35	30	土器14、フレイク4
33	3 A	50×45	16	土器6(15－150)、フレイク6	71	4 D	50×37	34	土器8(15－161)、フレイク1
35	3 C	25×20	20		72	3 D	45×30	48	
36	3 C	24×21	16	フレイク1	74	3 C	38×35	28	
37	3 C	38×35	24	フレイク1	75	3 D	44×35	23	土器4(15－162)、両極石器1
38	5 E	63×40	27	土器16(15－151)、フレイク3	76	3 C	30×21	19	土器1(15－163)
39	5 E	49×32	35	土器5(15－152)、打製石斧1、フレイク2	77	3 C	23×20	23	

番号	地区	大きさ	深さ	遺物（数字は挿図番号）	番号	地区	大きさ	深さ	遺物（数字は挿図番号）
78	2 C	47×27	16		115	5 D	50×45	22	フレイク1
79	2 D	30×23	29		116	5 D	47×38	27	土器3(15−174)
81	3 C	26×24	20		117	5 D	70×59	50	土器54(15−175〜177)、石鏃1
82	3 B	40×31	11		118	6 D	48×30	25	土器5(15−178)、二次加工のある剥片1
83	3 B	32×30	12		119	4 B	43×24	12	土器1
84	4 C	28×25	11		120	5 B	33×26	21	土器6(15−179・180)、フレイク1
85	4 B	26×24	18		121	5 B	38×30	25	土器6、フレイク1
86	3 B	38×34	23		122	5 B	34×26	17	土器1
87	3 B	20×20	15		123	5 B	33×27	19	土器3(15−181)、両極石器1
88	3 B	25×22	13		124	5 B	33×28	17	土器2(15−182)
89	3 C	27×25	13		125	5 B	33×32	28	
90	3 B	26×18	9		126	5 B	30×30	28	土器3(15−183)
91	3 B	23×23	36		127	5 B	25×24	26	土器9、フレイク1
92	3 C	25×23	14	フレイク1	128	6 C	36×34	25	フレイク2
94	3 C	37×34	41		129	6 E	35×33	10	
95	3 C	25×20	11		130	6 B	40×36	15	土器9(15−184)、フレイク1
96	3 C	23×23	20		131	6 B	38×34	64	土器28(15−185〜187)、フレイク3
97	3 C	24×22	22	土器3	132	6 B	47×43	32	土器12(15−188・189)、フレイク5
98	5 D	28×27	11	土器1	133	6 B	53×47	28	土器10、フレイク1
99	5 D	25×21	25	土器5(15−164)、フレイク3	134	5 A	40×28	13	
100	6 D	36×34	36	土器3、フレイク6	135	6 A	38×33	13	
101	6 E	30×26	13		136	6 A	35×34	15	土器2(15−190)
102	6 E	20×20	10		137	6 B	52×37	24	土器2
104	4 E	56×45	43	土器17(15−165〜167)、石鏃2、両極石器1、フレイク10	138	6 B	30×26	20	土器3、フレイク1
105	5 E	50×40	20	土器16(15−168・169)、フレイク1	139	6 B	40×35	17	土器3、石鏃1、フレイク1
106	2 C	20×18	17		140	6 B	24×21	12	
107	3 D	25×20	14		141	6 B	28×26	10	フレイク1
108	4 B	35×25	38	土器5(15−170)	142	6 B	70×40	19	土器13(15−191)、フレイク4
109	4 B	53×50	26	土器5(15−171)、フレイク3	143	6 B	36×30	29	土器3、フレイク1
110	4 B	45×40	38	土器10	144	4 C	31×29	38	土器21(15−192・193)、フレイク1
111	5 B	53×39	32	土器14(15−172)、RF1、フレイク6	145	6 B	42×32	21	土器1
112	5 B	40×28	12	土器1	146	6 C	36×24	15	土器1(15−194)
113	5 C	66×55	28	土器13(15−173)、フレイク4	147	5 D	39×37	24	土器1(15−195)、フレイク1
114	5 D	38×37	19		148	5 D	33×30	18	フレイク1

第4節　その他の遺構

1　立　石（第10図、図版4）

第Ⅱ層を掘り下げて行く段階で、石が直立していた状況が数か所見つかった。明かに土坑に伴うことが判明したものは、ＳＫ11とＳＫ47であった。それ以外の3基は、穴を掘って石を立てているが、径が小さいので土坑とは判断しなかった。ただし、当時の生活面が正確に捉えられていないので、はたして立石と呼ぶにふさわしいか疑問でもある。

立石1は、直径30cm程の丸い石が立ててあり、10cm程離れた所に数個の石が配してあった。立石2

は、直径約15㎝、長さ約45㎝の石が立っていた。立石３は直径約20㎝、長さ約40㎝の石が立っていた。

時期は、特定できないが、土坑の時期を縄文中期から後期にかけて４期に分けたが、その中のどこかに入ると思われる。さらに、立石１・立石２と立石を伴う土坑ＳＫ11・ＳＫ47の配置は、南北方向にほぼ一直線に並んでいるように見える。ＳＫ11とＳＫ47は縄文中期後葉と推定される。もし、これらの立石と関連性があるとすれば、立石の時期も同時期ということになる。

２　配石遺構（第10図、図版４）

５Ｃ杭を中心に、４Ｂ・４Ｃ・５Ｂ・５Ｃ区に広がっていた。約20×20㎝から40×40㎝程の大きさで厚さ約10㎝の偏平な石が2.7×1.2ｍにわたって敷いた状況であり、敷石遺構と表現することもできる。敷石のすぐ近くまで、撹乱層が続いていたが、後世の遺構ではなく、縄文時代のものであろう。石の直上から出土した遺物は、いずれも無文の土器で、時期は決定しがたいが、縄文後期から晩期にかけてのものであろう。

３　溝状遺構（第11図）

３Ｂ区で検出した。形状が細長いので、土坑とは区別して、溝状遺構（ＳＤ）としたが、約180×40㎝の規模で、それほど長くはなかった。遺物は、覆土から土器片が出土した。いずれも無文で時期決定は困難であるが、縄文後期のものであろう。

４　竪穴状遺構（ＳＢ）

竪穴住居跡の可能性がある遺構を検出したが、掘り下げた結果、床面の確認ができず住居跡としては不適当なものであったので、竪穴状遺構とした。

ＳＢ１（第11図）

５Ｅ区から６Ｅ区にかけて、第Ⅱ層の堆積が広がっている地点があった。調査区外へ広がっているので、不明な部分が多いが、竪穴住居跡の可能性も含めて検討した。住居跡ならば、一辺が約３ｍの隅丸方形のプランを呈するようである。

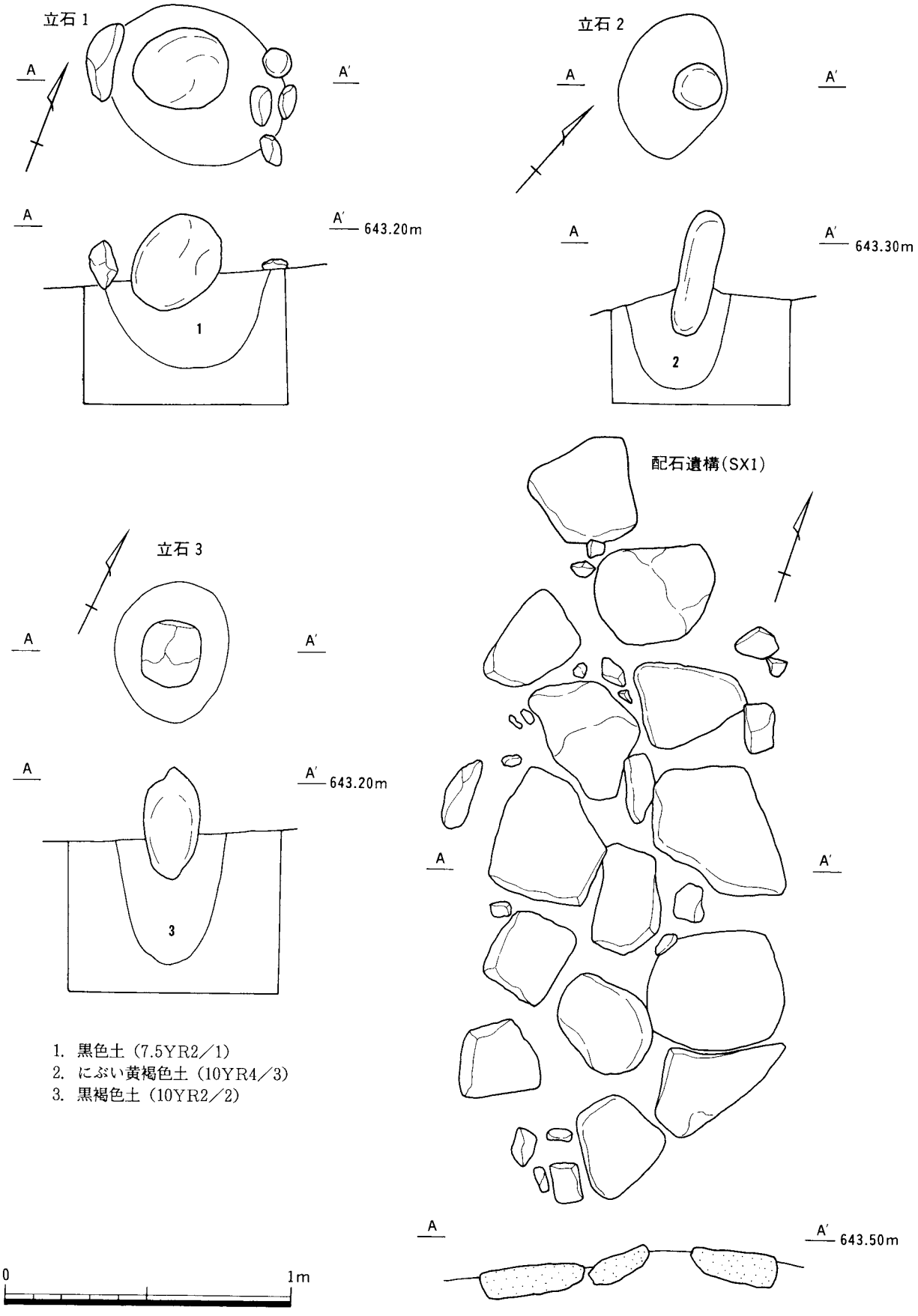
遺物は後期前葉の土器が出土している。

ＳＢ２（第11図）

６Ａ区から６Ｂ区にかけて、第Ⅱ層の堆積が広がっていて、竪穴住居跡の可能性を検討した。東側でＳＫ67を切っている。西側は調査区外に広がっており、南側は撹乱の激しい地点であり、プランや規模は不明である。

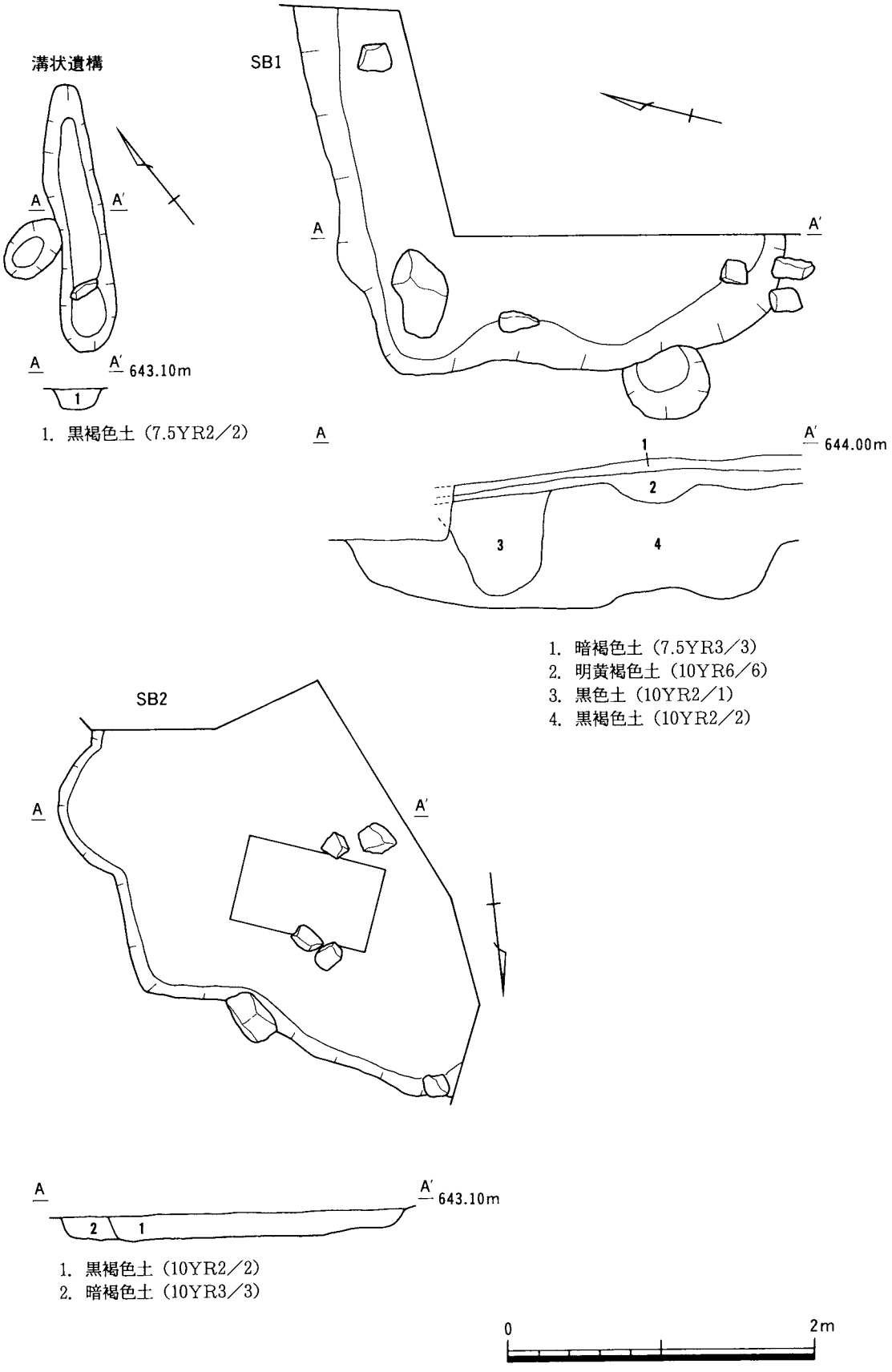
中央部にさらに黒色のピット状の部分が見られた。掘削してみると第17図228の土器が出土し、獣骨も出土した。検出時に確認できなかったが、上からの掘り込みとも考えられる。骨も出土したが、状況が不明であったので、トレンチを設定して掘り下げた。

遺物は、第16・17図にあるように、縄文中期ものと、後期のものが混在しているが、ピット状の掘り込み部から後期前葉の土器が出土している。



1. 黒色土（7.5YR2／1）
2. にぶい黄褐色土（10YR4／3）
3. 黒褐色土（10YR2／2）

第10図　立石・配石遺構



第11図　溝状遺構・竪穴状遺構

第4章　遺　物

第1節　縄文土器

1　概　要

今回の発掘調査では、調査面積の割りには多量の縄文土器が出土した。破片点数は約17,500点である。接合可能のものは、できるだけ接合を行った。紙面の都合で報告できないものもあるが、中期前半から晩期後半までの各時期のものがある。主体となるのは、中期後半と後期後葉であるが、後期前葉から中葉の土器も比較的多い。

分類

中期から晩期にかけての各時期の土器を次のように分類した。細分に関しては後述する。

Ⅰ群　中期の土器
- 1類　中期前半の土器
- 2類　中期後半の土器
- 3類　無文土器

Ⅱ群　後期の土器
- 1類　後期前葉の土器
- 2類　後期中葉の土器
- 3類　後期後葉の土器
- 4類　時期不明の土器
- 5類　無文土器

Ⅲ群　晩期の土器
- 1類　晩期前半の土器
- 2類　晩期後半の土器
- 3類　条痕文の土器

2　遺構出土の縄文土器

土坑、ピット、竪穴状遺構などから、縄文中期後葉から後期後葉にかけての土器が出土している。

土坑出土の縄文土器（第12～14図、図版6・7）

図示した土器の土坑番号は第2表に記した通りである。

中期後半から後期の各時期のものが出土している。Ⅰ群2類にあたるものとして、40は、隆帯によ

る繋ぎ弧文に区画された中を沈線が埋めるもので、長野編年の中期後葉Ⅱ期にあたるものであろう(寺内・野村1988)。同様の時期のものとしては、73・74は横位の隆帯と交互刺突文があり、その下に羽状に条線が施されたものである。他は、曲線的な隆帯や直線的に垂下する隆帯間を沈線で埋めるものが多い（8・25・36・64・76・81・82・85)。28は内傾する口縁で内面に隆帯があり、幅が広くて浅い沈線が曲線的に施されている。65は、沈線が区画された中に縄文を充填した浅鉢であり、北陸地方に見られるものである。

Ⅱ群1類にあたるものとしては、微隆起線文の土器（7・14・16～18・47・48・56・61・69・96・106・117・128・134・135）や、縁帯文風の口縁部を有するもの（97・105・106・118～120）がある。微隆起線文の土器としては、16は内傾する口縁で、微隆起線文が口縁部に沿って横走し、その下に同心円状に弧線が引かれている。48は、微隆起線に沈線が伴っている。128は渦巻き状に描かれている。縁帯文の土器としては、105や120には平行沈線間に連続刺突がある。119は波状の沈線が引かれている。

Ⅱ群2類としては、29・30が加曽利Ｂ2式段階のものであろう。139は沈線による弧状の区画文があり、縦に刺突が並ぶ。

Ⅱ群3類としては、2が凹線文の土器であり、口縁端部および屈曲部に刺突がある。

その他は、時期不明の沈線文の土器や、縄文・無文の土器である。

ピット出土の縄文土器（第15図、図版7）

図示した土器のピット番号は第3表に記した通りである。

中期から後期の各時期のものが出土している。171は平口縁で、蓮華文風の彫り込みがある。Ⅰ群1類の土器である。Ⅰ群2類にあたるものとして、隆帯間を沈線で埋めたもの（152・154・159・168）や、それに類する沈線が施文されているもの（165・172）がある。166は縄文地に沈線文の土器である。155はキャリパー形の口縁部に刺突が充填してある。162は、キャリパー形の口縁に沿って沈線が引かれている。東海系のものである。178は隆帯を伴う脚台で、透かし穴がある。第37図11と同様のものである。195は条線文の土器である。

Ⅱ群1類にあたるものとしては、微隆起線文の土器（158・160・161・175・181・192）がある。175は波状口縁で、波頂部は曲線的に展開する。185は、縁帯文風の口縁部を有する土器で、渦巻き状に沈線が描かれ、口縁端部に山並状の突起装飾（戸田1993）が施してある。

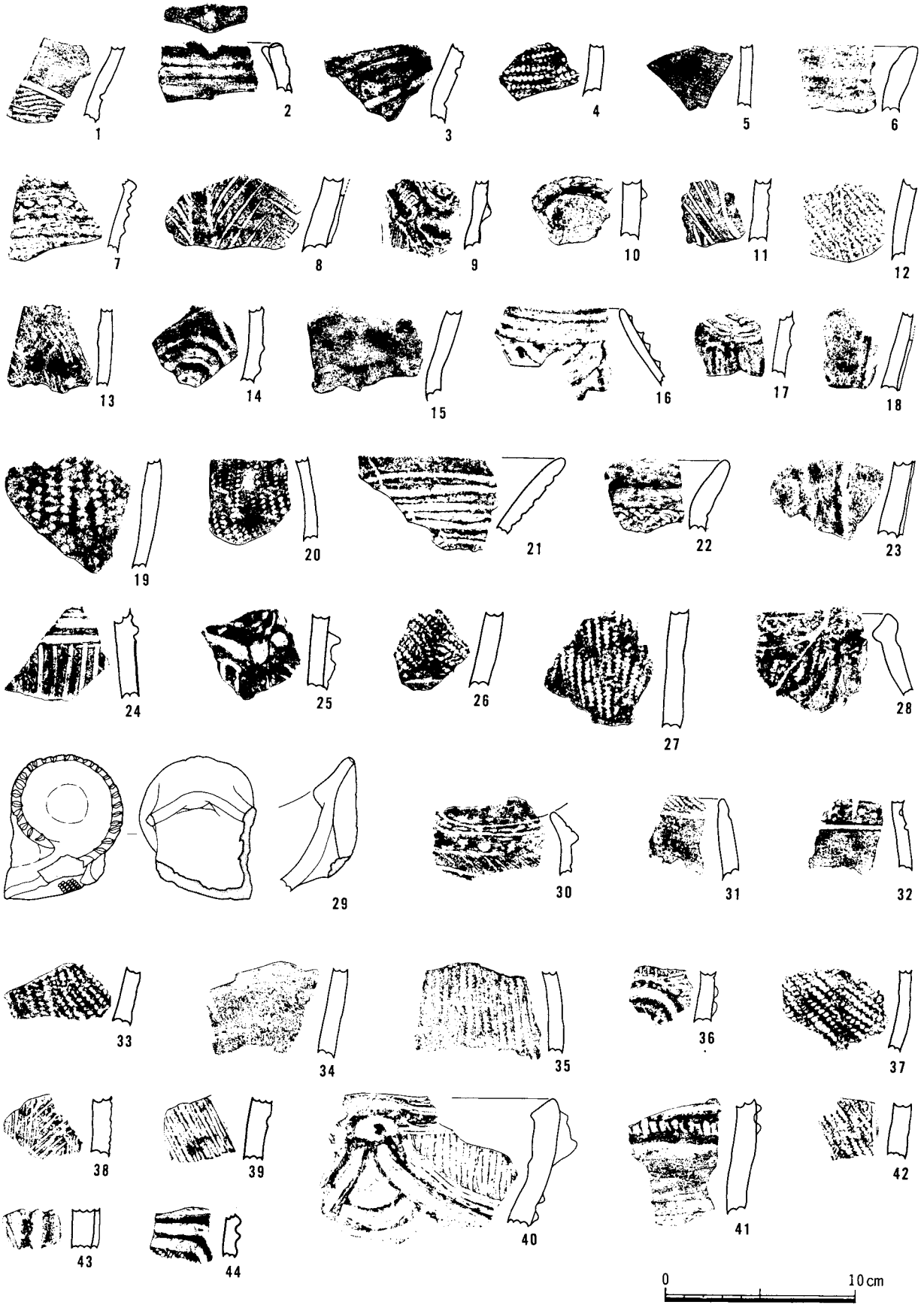
164はⅡ群3類である。平口縁で凹線が引かれている。

163は突起部である。上面には中心に円形の刺突があり、その下に焼成前の両面穿孔の孔がある。目の細かい縄文が施文されている。151は底部であるが、スダレ状圧痕が見られる。

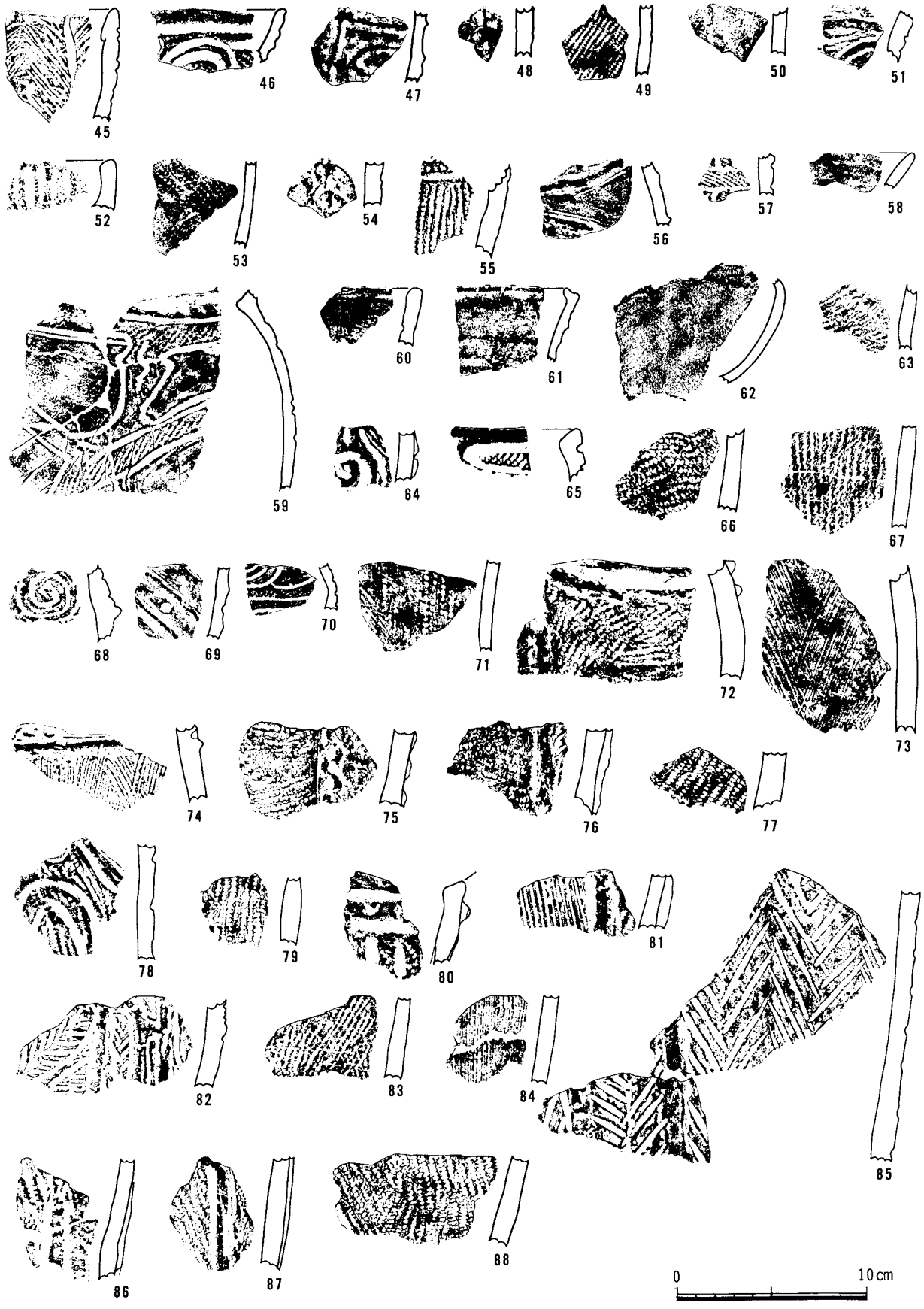
その他の遺構出土の縄文土器（第16・17図、図版8）

196～199は配石遺構出土の縄文土器である。196は微隆起線に連続刺突が施されている。197はや内傾する口縁で、沈線による渦巻きと区画文が見られる。198はＲＬの縄文が施されている。199は無文である。

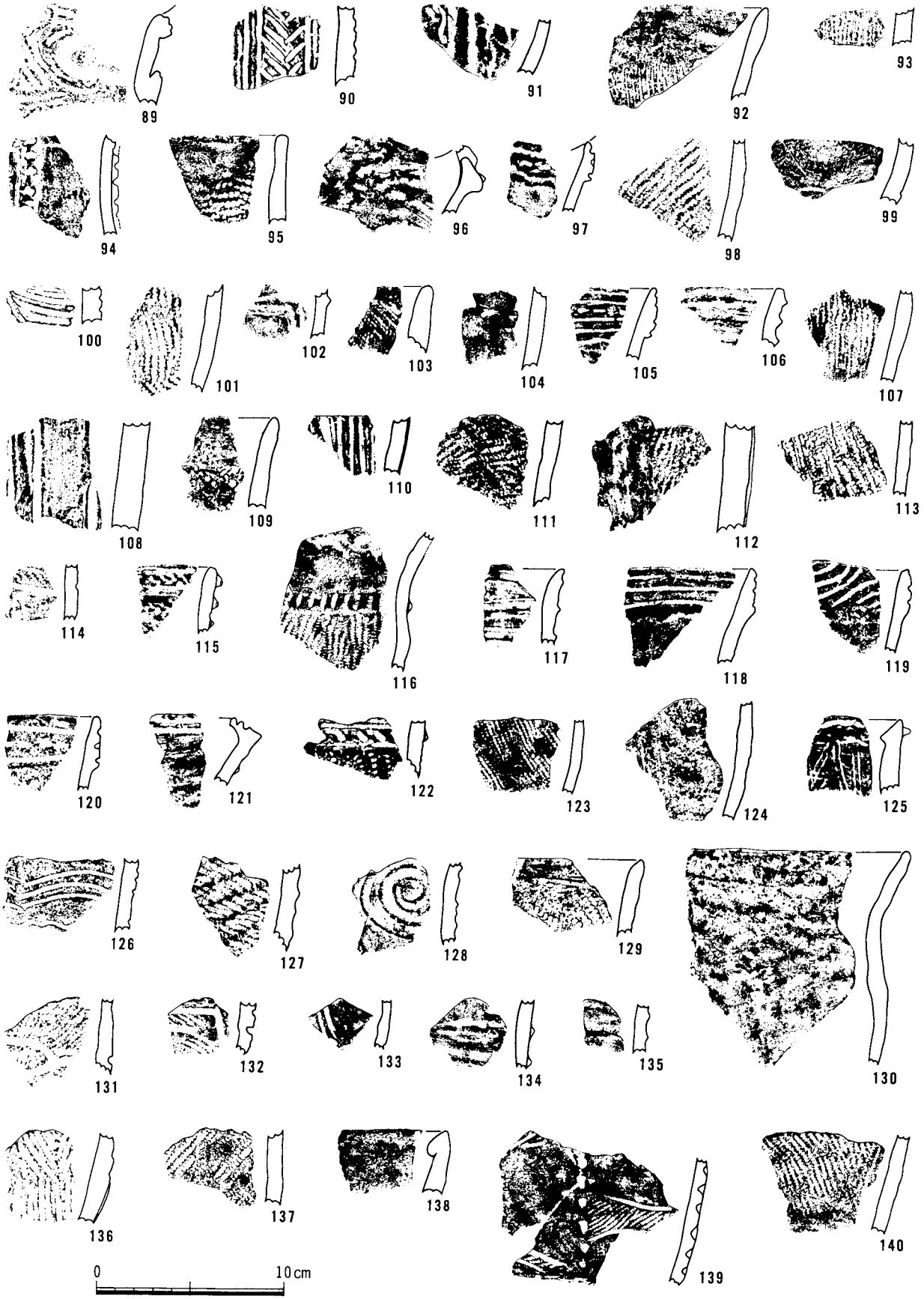
200～202は溝状遺構出土の縄文土器である。いずれも無文の土器で時期を決定しがたい。200はや



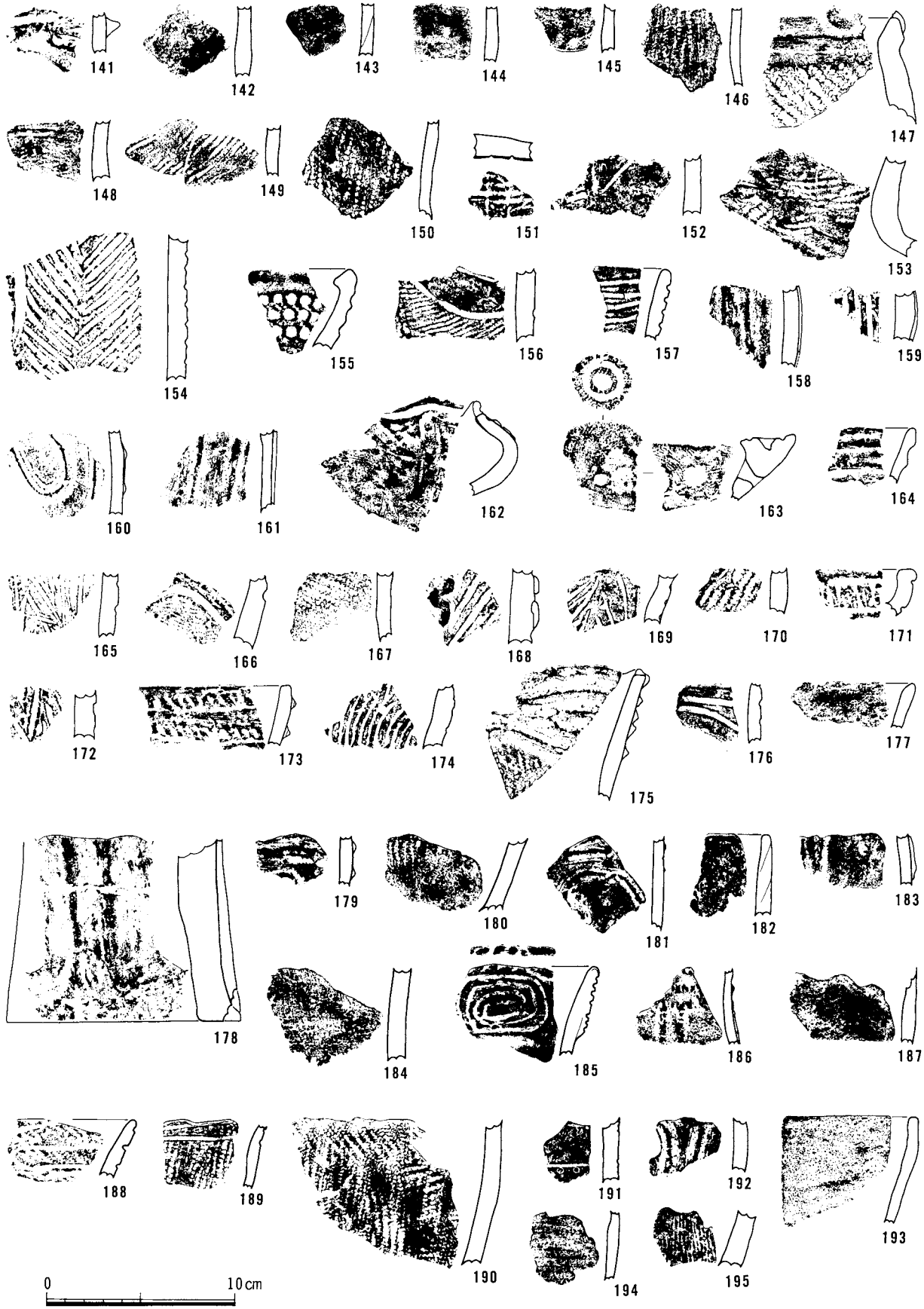
第12図　土坑出土の縄文土器(1)



第13図　土坑出土の縄文土器(2)



第14図　土坑出土の縄文土器(3)



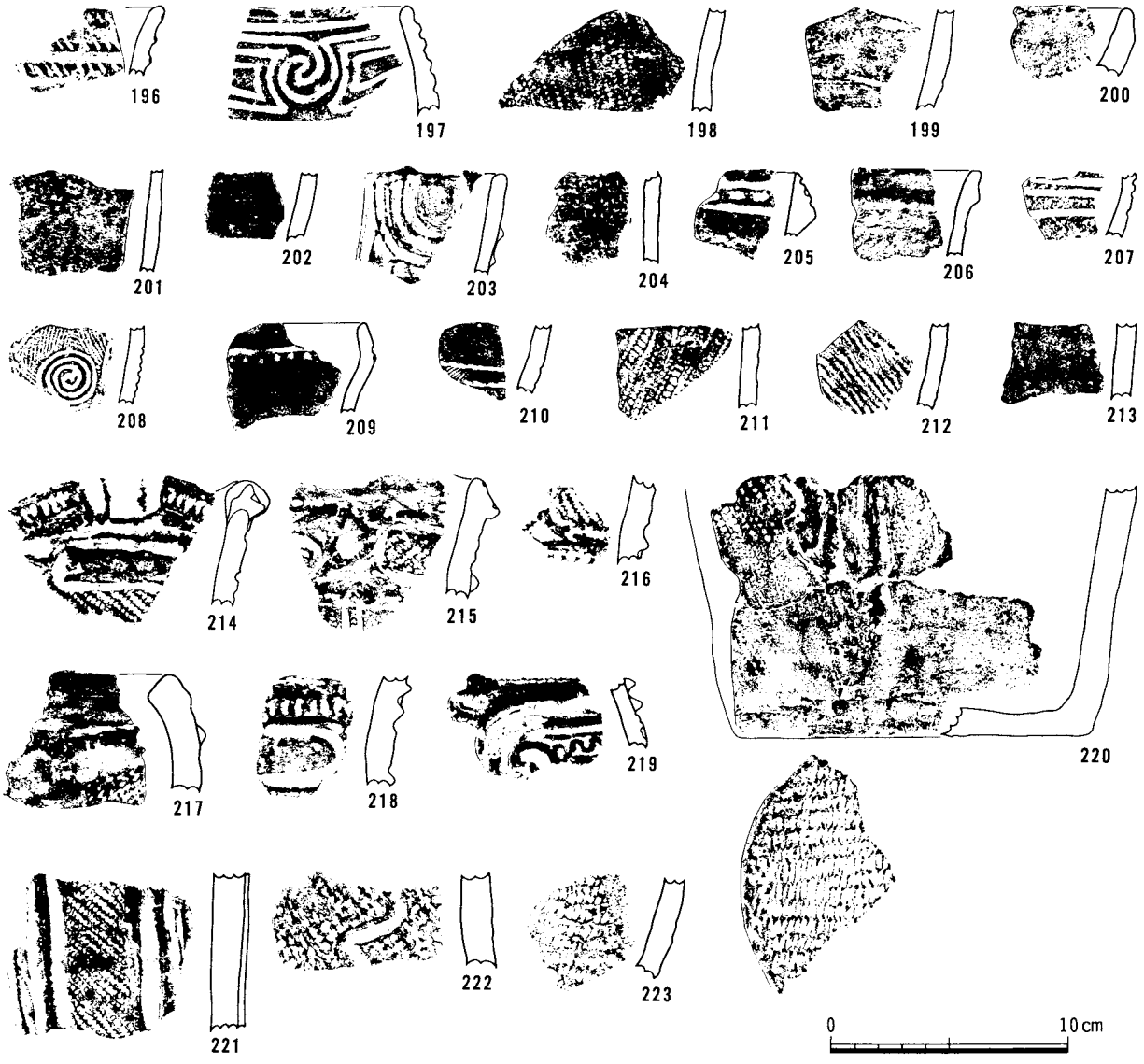
第15図　ピット出土の縄文土器

や開きながら立ち上がる口縁である。

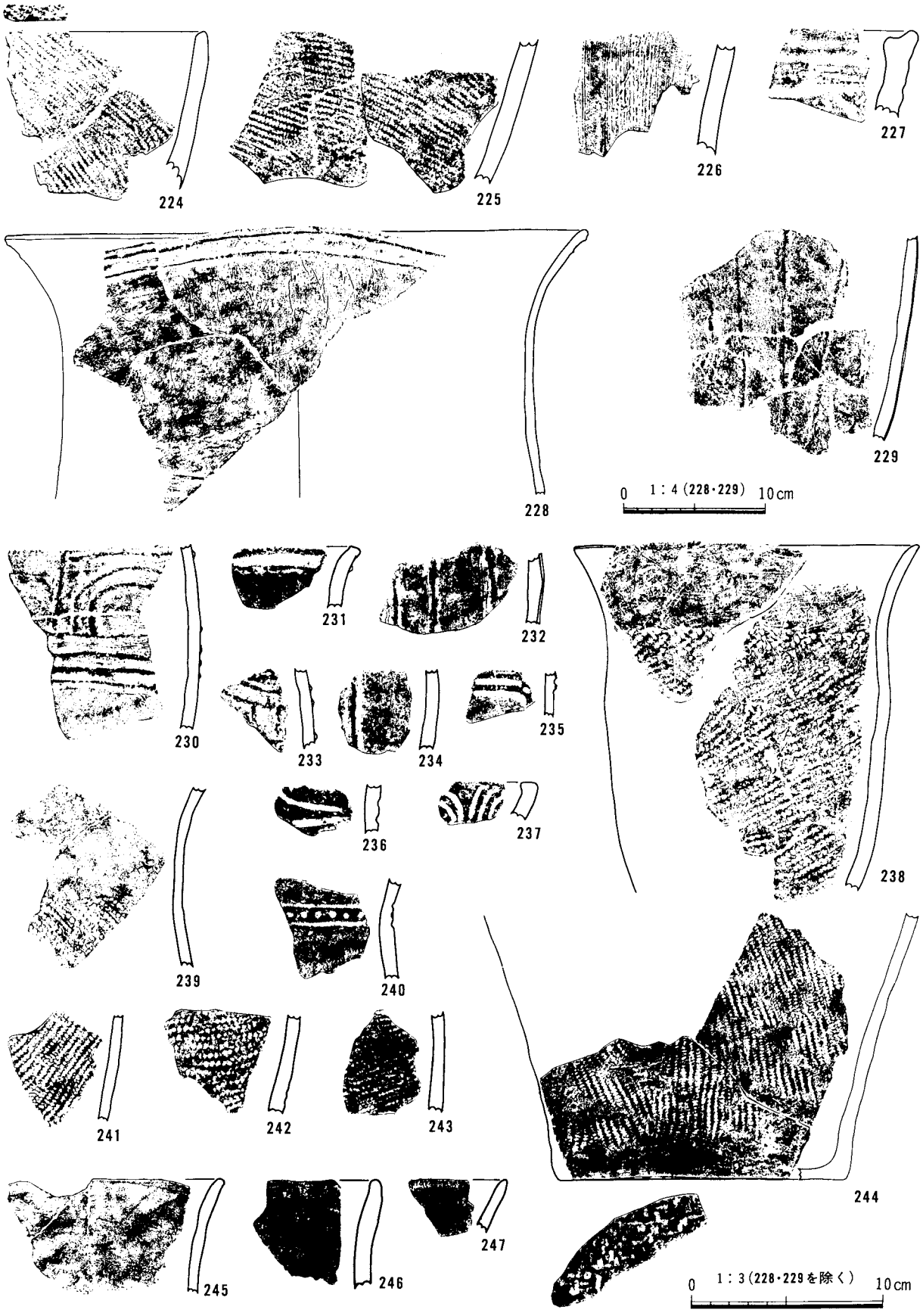
203～213はＳＢ１出土の縄文土器である。203は直立する口縁で、微隆起線がＵ字状に三重に描かれ、その下に微隆起線が垂下する。204は、微隆起線上に連続刺突が施されている。205・206は縁帯文風の口縁部で、205には、平行沈線間に連続刺突がある。207～210には、沈線あるいは刺突が施されているが、208は縄文地に渦巻きの沈線が描かれている。209は内屈する平口縁で、沈線が１本引かれ、屈曲部に刺突が連続する。211・212は縄文で、213は無文である。

214～244はＳＢ２出土の縄文土器である。中期の土器（214～227）と後期の土器（228～244）が混在している。後者は、トレンチ部からの出土がほとんどである。中期の土器は、口縁部に沿って連続刺突が見られ、沈線あるいは隆帯による区画が施されるもの（214～218）や交互刺突文が施されるもの（219）がある。220・221は縄文地に隆帯が垂下するものであり、222は縄文地に蛇行沈線が垂下する。224・225は同一個体である。直線的に立ち上がる器形の縄文施文の土器である。

228～234は微隆起線が施されている。228は外反する器形で、口縁に沿って２本平行に微隆起線が



第16図　その他の遺構出土の縄文土器(1)



第17図　その他の遺構出土の縄文土器(2)

引かれ、頸部にも微隆起線が横走する。229は胎土等から見て、228と同一個体と思われるが、縦方向に施文されており、228とどうつながるか不明である。230は区画された部分と直線的に横走する部分がある。231は外反する口縁部で口縁に沿って微隆起線が引かれている。233は、弧状の部分と縦方向の部分か接続している。232・234は縦方向の施文である。235～237は沈線文の土器である。240は沈線間に刺突が連続する。時期不明である。238・239は別個体であるが、外反する器形で、口縁部は無文で、胴部に縄文が施文される。241～244は縄文、245～247は無文である。

3　包含層出土の縄文土器

第Ⅰ層および第Ⅱ層から、中期から晩期の各時期の土器が出土した。分層できていないし、また、地点による顕著な違いが認められない。以下、分類毎に記述する。

Ⅰ群　中期の土器（第18～24図、図版9～12）

中期初頭から中期後葉までの各時期の土器が出土している。有文土器は大きく2類に分類したが、中期後葉のものがほとんどである。

1類　中期前半の土器（第18図、図版9）

量的には少ない。施文方法により次の3類に分類する。

a類（1～6）

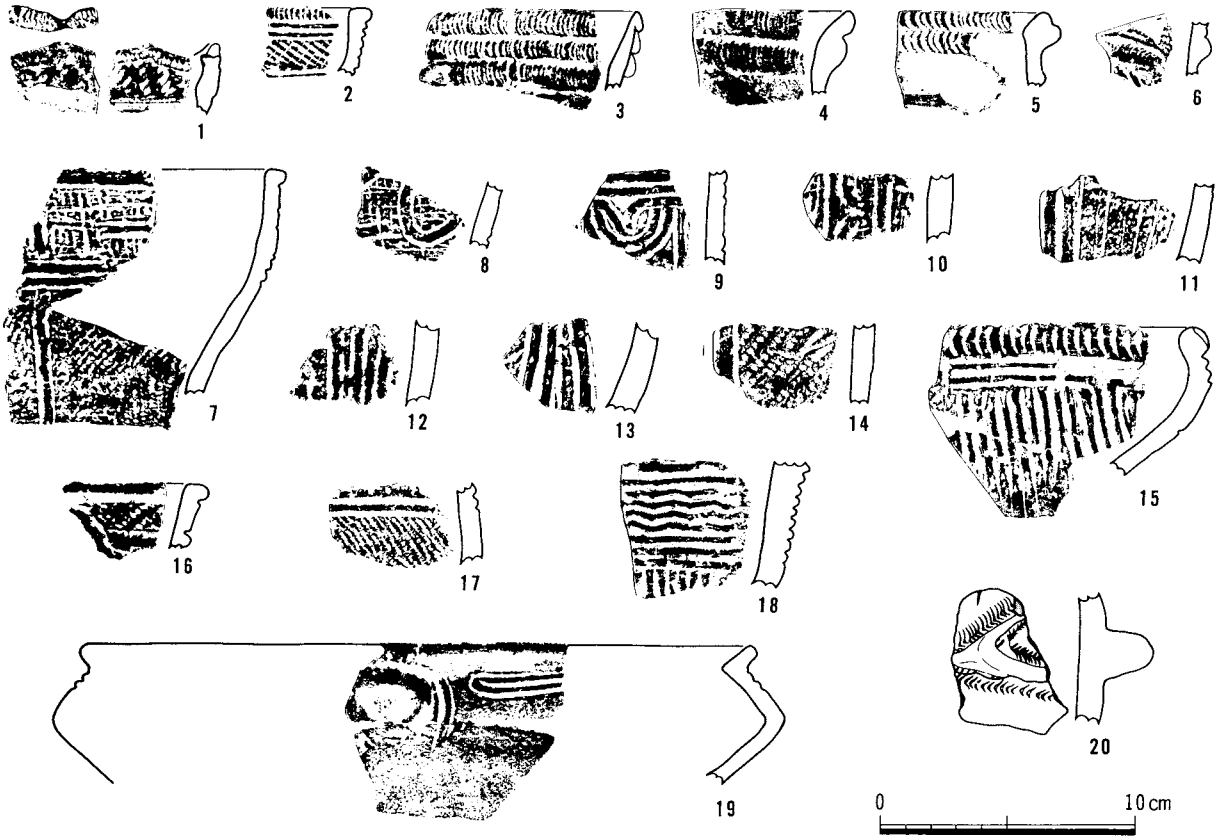
連続爪形文を施す土器である。1は小波状を呈し、口縁端部に連続爪形文が施されており、口縁内面に縄文が施される。前期末の可能性もある。2は、口縁部に、斜格子文があり、新保式に相当すると考えられる。3～5は、口縁部に肥厚する隆帯が横走し、連続爪形文が施される。東海系の土器で、北裏ＣⅠ式に相当するであろう（増子1981）[1]。6は、隆帯に連続爪形文が施されている。

b類（7～19）

半截竹管による施文の土器である。半隆起線が浅いもの（7～14）と深いもの（15～19）がある。7は開きながら直立する口縁で、口縁部は格子状に施文され、頸部から下は縄文地に半隆起線が垂下する。8は胎土的には7とよく似ている。9・10は曲線的なモチーフが見られ、11～14は縦方向の施文である。15は、キャリパー形の口縁で、口縁端部に連続爪形文が施されており、頸部に縦方向に連続的に施文されている。16は平口縁で、区画された中に縄文が施文されている。17は、縄文地に半隆起線が横走する。18は、波状に数本の半隆起線が引かれ、さらに下には縦方向に並んでいる。19は、屈曲して外反する口縁の浅鉢で、半隆起線の区画文は、隆帯による円形の文様がある。

c類（20）

押し引き文が見られる土器である。勝坂系の土器であろう。



第18図　包含層出土の縄文土器(1)Ⅰ群1類

2類　中期後半の土器（第19～23図、図版9～11）

中期後半の土器は、信州系の土器が主体である。長野編年（寺内・野村1988）の中期後葉Ⅱ期の段階の土器がほとんどである。

a類（21～60）

地文が縄文の土器である。隆帯および沈線で施文されたもの（21～38）と、沈線のみによるもの（39～60）がある。

21・22は波状を呈し、波頂部に隆帯による渦巻きがある。23～26は平口縁で、隆帯による渦巻きを描いたもの（23・24）、交互刺突文（26・27）を施されたものがある。隆帯が曲線的に展開するもの（28～31）、直線的に横位に展開するもの（32～37）、縦位に展開するもの（38）がある。

39～41は曲線的な沈線の土器である。39は二段の長楕円区画文の間に3本1組の刺突状の短沈線が二段引かれている。中期末の可能性もある。42～50は縦位に沈線が施されている。51～55は蛇行沈線の土器である。56～60は幅が広くて浅い沈線による施文である。

b類（61～129）

隆帯および沈線による施文の土器である。61～95は、隆帯による区画がなされ、その間を沈線で埋める唐草文系土器である。

第19図　包含層出土の縄文土器(2)Ⅰ群2類

61は、6Ｂ区で横につぶれた状態で出土した。キャリパー形の平口縁の土器で、口縁部に隆帯による渦巻きと繋ぎ弧文が7単位ある。頸部に隆帯が横走し、その下に沈線による渦巻きと垂下する3本ないし4本の沈線と、蛇行沈線が交互に配されている。底部は欠失している。黒褐色を呈する。

70は区画された中に交互刺突による蛇行隆帯が縦位に配されている。72・73は同一個体であるが、横走する隆帯の下に刺突が連続する。77にも同様の刺突が見られる。74・76には交互刺突文が施されている。その他、大柄渦巻き文や、隆帯による腕骨文の土器などかある。

96～129は、典型的な唐草文系土器ではないが、やはり隆帯と沈線を組み合わせて施文してある。

96はゆるい波状口縁を呈し、橋状把手が付く。97は波状口縁で、隆帯による渦巻きと短沈線だ組み合わせてあるが、口縁内面に沈線が引かれている。100～105は同一個体の可能性がある。隆帯による渦巻きは、垂下する隆帯間に沈線が斜位に施され、条線状の細い沈線がまわりを埋めている。107～110は比較的細い沈線が施文されている。111～128は垂下する隆帯と沈線を組み合わせたものである。129は6Ｅ区で出土した。胴部のみであるが、埋設土器の可能性もある。垂下する隆帯間に沈線が斜位に交差して施されている。隆帯に沿って沈線状の調整があり、この時期のものと判断した。

ｃ類（130～143）

隆帯のみの施文の土器である。130・131は小波状を呈し、隆帯による円形の区画文がある。132は外傾する平口縁で、隆帯が弧状に施文されている。133も外傾する平口縁である。隆帯による区画があり内面にも隆帯が横走する。134・136・137・140・141は隆帯が横位に展開し、138・139・143は縦位に施されている。141には隆帯に沿って押し引きが見られる。やや古いものかもしれない。135・142は隆帯が曲線的に展開する。

ｄ類（144～154）

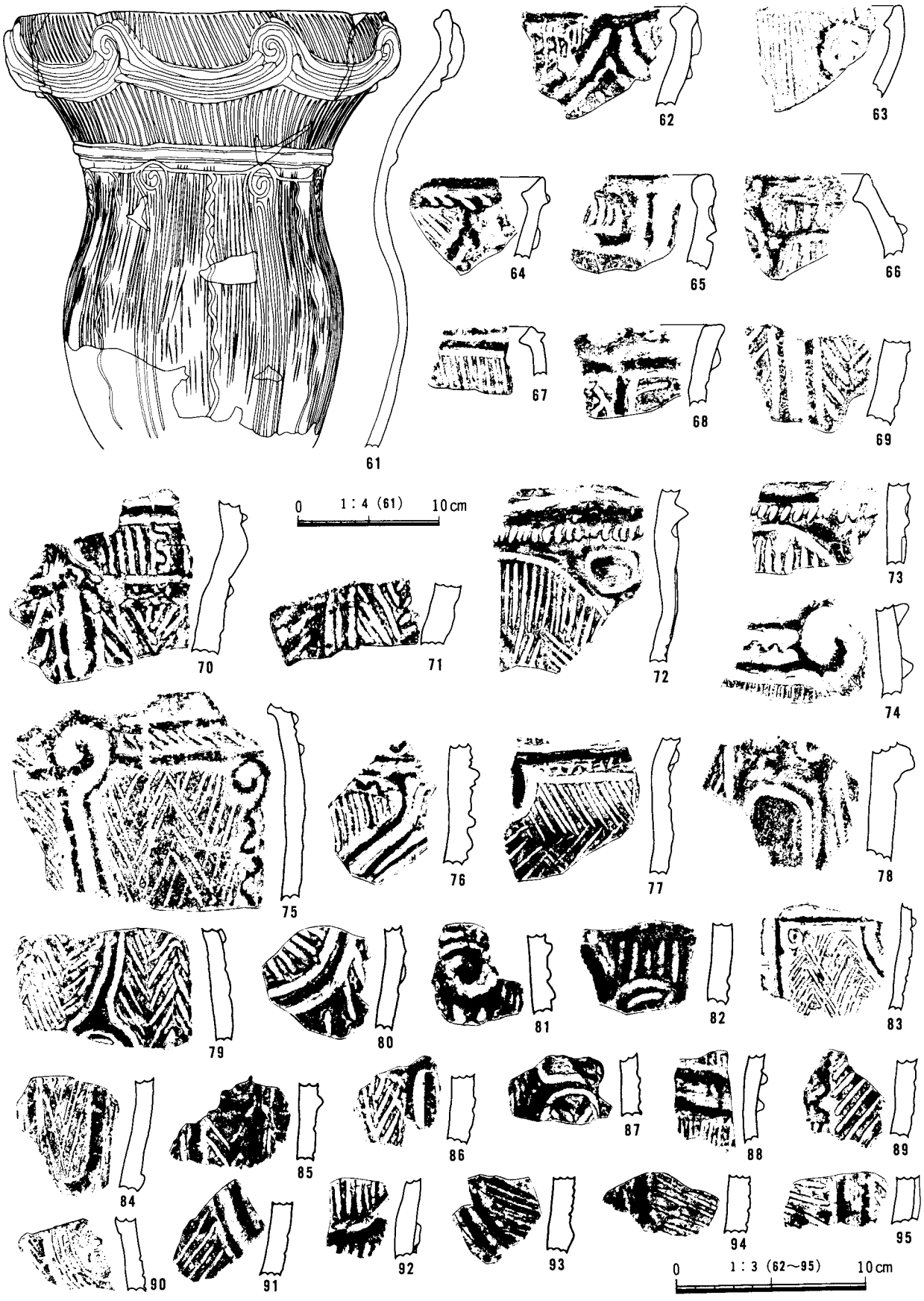
沈線文の土器である。145は頸部が肥厚する平口縁の土器である。148は平口縁で、条線状の細い沈線が施文されている。149は平口縁で、綾杉状に沈線が施されている。150は半截竹管による平行沈線が綾杉状に施されている。151は沈線が横走し、その下は条線である。152～154は地文は撚糸文で、口縁部は横位に胴部は縦位に沈線が施されている。口縁部には刻みが入り、口縁端部にも沈線が引かれている。

ｅ類（155～166）

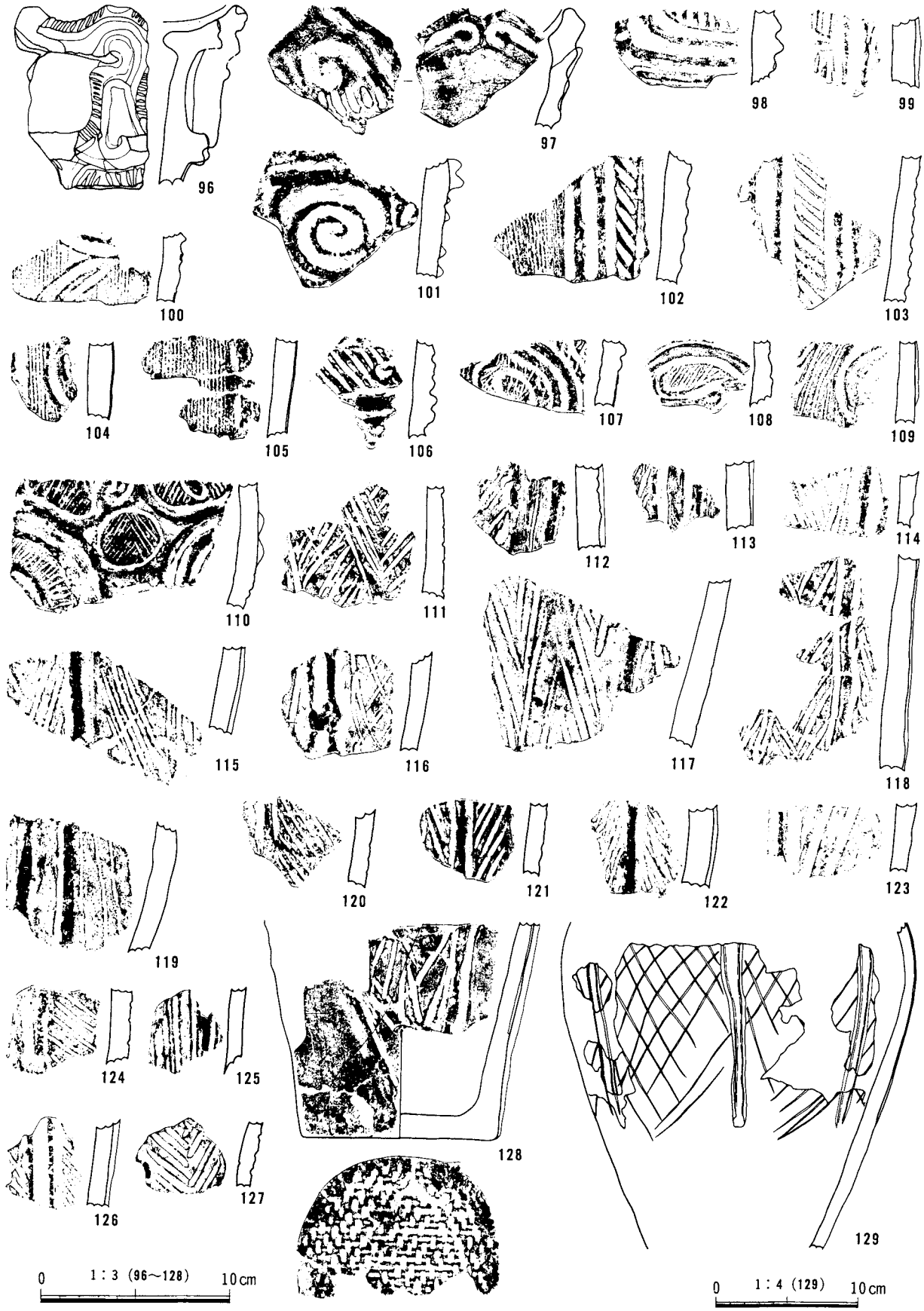
刺突文の土器である。155～159は櫛状工具による連続刺突が施されている。北陸系の土器の影響を受けたものであろう。160はキャリパー形の器形で、縦長の刺突が、4段になって横位に連続的に施されている。161は同じくキャリパー形の器形で、円形の刺突が充填されている。162は隆帯間に163は隆帯上に刺突が施されている。164は内傾する平口縁で、口縁に沿って円形の刺突が連続している。165は沈線の周辺に細かい刺突が施され、166は横走する隆帯の下に刺突が連続する。

ｆ類（167～174）

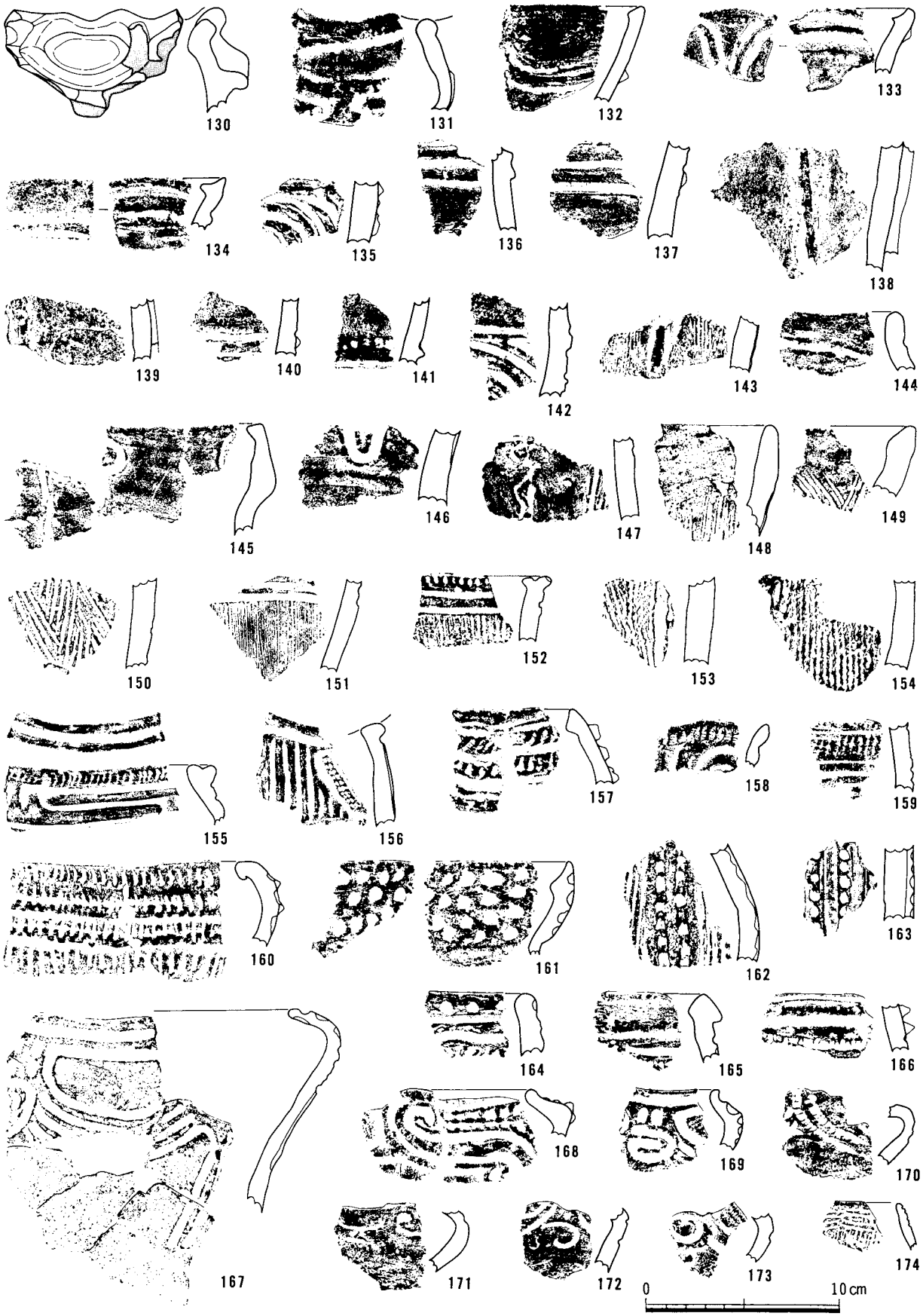
キャリパー形の土器で、強く内湾する器形で、押し引きを伴う沈線で文様が展開するいわゆる東海



第20図　包含層出土の縄文土器(3) I 群 2 類



第21図　包含層出土の縄文土器(4) Ⅰ群2類



第22図　包含層出土の縄文土器(5) I 群 2 類

系の土器である。167は口縁部は沈線で区画され、頸部は連弧状にさらに胴部に垂下する沈線が引かれている。168は貼り付け隆帯が格子目に施文されている。170は押し引きの沈線が施されている。174は、撚糸文に沈線が引かれている。

3類　無文土器（第23・24図、図版11・12）

器厚、胎土、焼成等から見て、中期のものと判断したものを集めた。

a類（175～218）

縄文施文の土器である。直立する口縁のものが多い。外反するもの（184・185）もある。

b類（219・220）

撚糸文の土器である。いずれも器形不明の胴部片である。

c類（221～229）

条線文の土器である。いずれも器形不明の胴部片である。

d類（230～264）

無文の土器である。やや外反気味のものが多い。口縁端部内面側に面取りをしたもの（230～234）がある。241は口縁端部に刻みがある。242～264は胴部片である。

II群　後期の土器（第25～34図、図版12～17）

後期の前葉から後葉までの各時期のものが出土している。1988（昭和63）年の発掘調査では、中期後半が主体であったのに対して、今回の発掘調査では、後期の土器が比較的多く出土した。時期を考慮して次のように分類した[2)]。

1類　後期前葉の土器（第25・26図、図版12～13）

小破片ばかりであるが、個体数は比較的多い。次のように分類する。

a類（265～289）

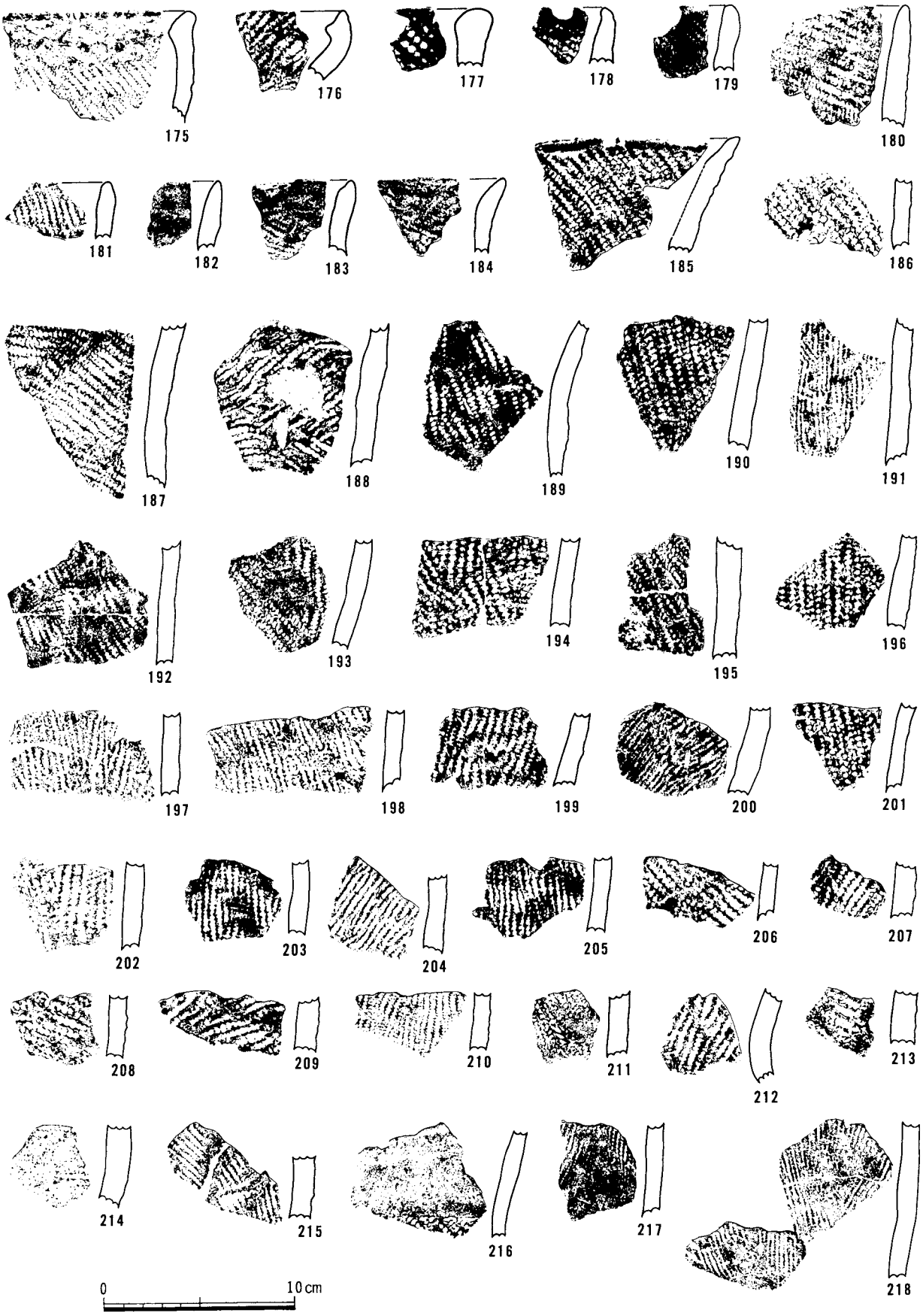
隆帯に連続刻みが入るものである。さらに2類に細分する。

a1類（265～277）

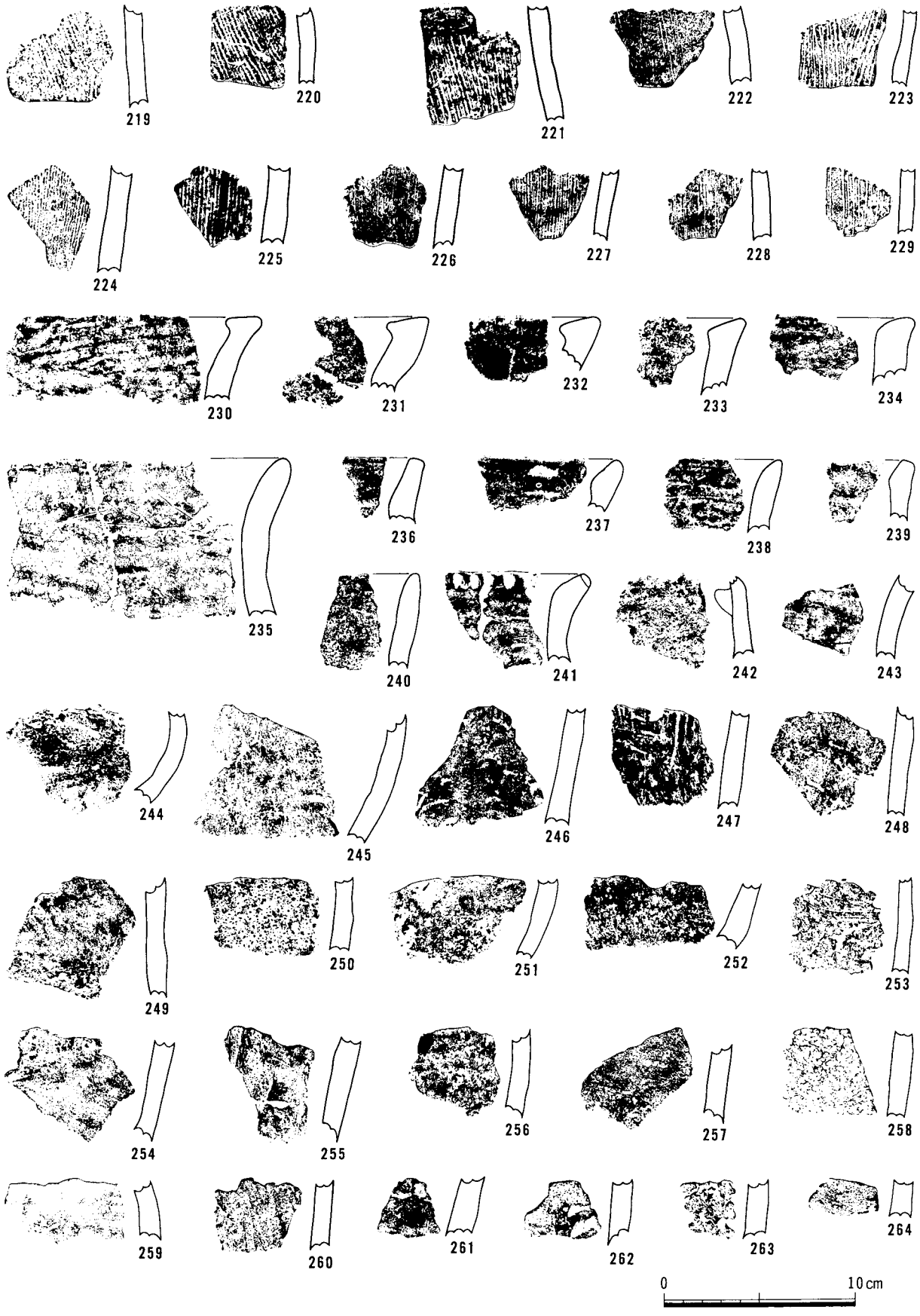
いわゆる宮田式2類とされるものである（増子1978）。隆帯に斜位に連続刻みが施される。直立する平口縁で、横位に隆帯が展開している。

a2類（278～289）

宮田式とは異なる形態のものである。279・280は渦巻き状の隆帯である。頸部と胴部の区画隆帯と推定されるものが見られる。



第23図　包含層出土の縄文土器(6) I 群 3 類



第24図　包含層出土の縄文土器(7) I 群 3 類

第25図　包含層出土の縄文土器(8)II群1類

b類（290～325）

いわゆる微隆起線文の土器である。さらに3類に細分する。

b1類（290～312）

微隆起線が曲線的に展開し、縦方向に垂下する傾向にある。平口縁で、やや外傾するもの（290・292）と、やや内傾するもの（291・293・294）がある。

b2類（313～316）

外反する器形で、口縁に沿って横位に展開する。

b3類（317～325）

微隆起線が直線的に展開し、区画をなす傾向にある。

c類（326～339）

微隆起線を沈線に置き換えたタイプのものである。直立する平口縁のもの（326・331～334）と波状口縁のもの（327～330）がある。沈線は口縁に沿って平行の部分と頸部以下の曲線的な部分がある。

d類（340～350）

口縁端部に1条の沈線が引かれている。堀之内Ⅰ式あるいは成立期の縁帯文土器の段階である。外傾する平口縁のもの（340～347）と、波状口縁のもの（348）がある。349・350は胴部片で、磨消縄文が曲線的に展開する。

e類（351～367）

縁帯文土器と思われるものである。北白川上層式1期に類似する。肥厚する口縁に沈線で施文されている。351は、沈線間に連続刺突が施されている。

f類（368）

口縁部に気屋式風の連続三角刺突が施されている。『縄文土器大観』によれば、気屋式は、吉城郡古川町中野山越遺跡、益田郡小坂町南垣内遺跡で出土しているが、最近の発掘調査により、吉城郡国府町荒城神社遺跡（野村ほか1994）、吉城郡古川町岡前遺跡（上嶋1995）等でも出土している。

g類（369～375）

いわゆる南垣内型鉢と呼ばれているタイプのものである（戸田1993）。L字形に内屈する口縁部を有する。隆帯上に円形刺突を有する（373・374）。375はS字状の装飾が付く突起部であるが、この類に入るであろう。

h類（376）

上記の分類には入らないものである。浅鉢で口縁端部に逆S字状の隆帯が付けてある。

第26図　包含層出土の縄文土器(9)II群1類

2類　後期中葉の土器（第27図、図版13・14）

加曽利B式段階の土器である。比較的大型破片がある。次のように分類する。

a類（377・378）

北白川上層式3期に類似するものである。377は3単位の大波状口縁で沈線による渦巻き文が施文されている。378は屈曲した口縁部である。

b類（379～383）

加曽利B1式に類似するものである。379・380・382・383は内面に平行沈線が引かれている。381・382の口縁端部は、いわゆる外削ぎ状の面を作っている。

c類（384～391）

加曽利B2式に類似するものである。頸部に文様を有するものである。384・387・388・390は内屈する平口縁である。385は外反する平口縁で、区切り文が見られる。390は口縁部に貼り付け隆帯による円文があり、横長の刺突が連続する。頸部に対向する磨消弧線文が描かれ、胴部は無節の縄文が羽状に配置されている。391は波状口縁で、逆「の」の字文が見られる。口縁内面に平行沈線が引かれている。

d類（392～394）

在地化した一乗寺K式から元住吉山I式と考えられるもの。加曽利B2式類似の土器で、頸部に文様を有しないものである。392は波状口縁、393・394は平口縁である。392・393は屈曲部に沈線が施されている。

e類（395～398）

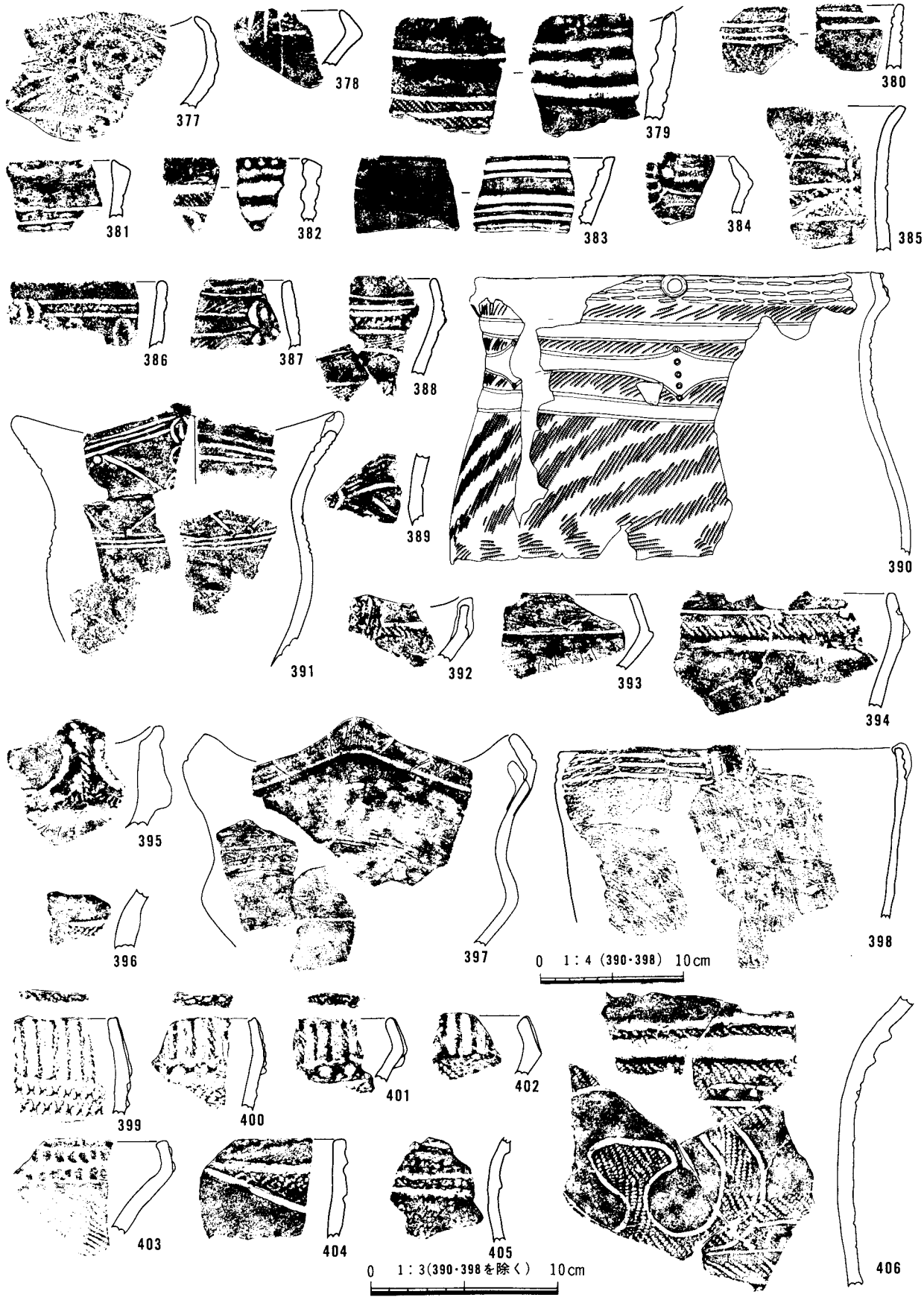
元住吉山I式に相当するものである。395・396は同一個体である。395～397は波状口縁で、頸部が括れる器形である。398は直立する平口縁で、口縁に沿って3本沈線が引かれている。

f類（399～403）

やや内屈する平口縁で、縦位の隆帯が並ぶ。隆帯には縄文が施文されている。屈曲部には刺突が連続している。399～401は口縁端部にも縄文が施されている。403は口縁部にコブ状の突起が連続する。

g類（404～406）

その他の後期中葉と考えられる土器である。404は直立する平口縁で沈線が斜めに引かれている。405・406は頸部から胴部のあたりを隆帯で区画し、隆帯上に縄文を施文する。胴部には磨消縄文が曲線的に展開する。



第27図　包含層出土の縄文土器(10) II群2類

3類　後期後葉の土器（第28・29図、図版14・17）

後期後葉の土器に関しては、西日本系の凹線文土器や、東日本系の瘤付土器などがあるが、中部高地に見られる羽状沈線文系の土器が主体である。羽状沈線文系の土器に関しては百瀬編年を参考にした（百瀬1984）[3]。器形の復元できるものがあり、量的に多い印象を受けるが、個体数はそれほど多くない。

a類（407～416）

百瀬編年の第3段階に相当するものである。波状口縁のもの（407～410）と平口縁のもの（411～416）がある。408は波頂部に半円形の隆帯が付き、口縁部に対向する沈線が引かれている。416には焼成前と思われる片面穿孔の孔が2つある。

b類（417～424）

百瀬編年の第4段階あるいはそれ以降のものと考えられるものである。417・418はやや内湾する平口縁で、平行沈線間に刺突が連続し、頸部以下に羽状沈線文が施されている。417は胴部に横位の沈線で区画されている。419～423は波状口縁で、424には突起が付く。

c類（425～429）

瘤付土器あるいはそれに類似するものである。428は波状口縁で、口縁に縄文が施文されている。429は4C区で横倒しの状態で出土した。注口土器であるが注口部は欠失している。丸みを持つ胴部で底部は欠失していた。頸部は長くて途中に段がある。口縁部は上から見ると楕円形で、上方は割れていて不明であるが、透かし孔を有するようであり、注口を正面にすると口縁部の左右は低くなっているので、筒状になるのかもしれない。口縁部から頸部、胴上半にかけて、浅い平行沈線が引かれ、大小の瘤が貼り付けてある。胴部の左右の瘤はやや大きく縦に刺突が入る。黒褐色を呈する。飛騨地方で瘤付土器の出土例はほとんど知られておらず、貴重な資料となる。

d類（430～433）

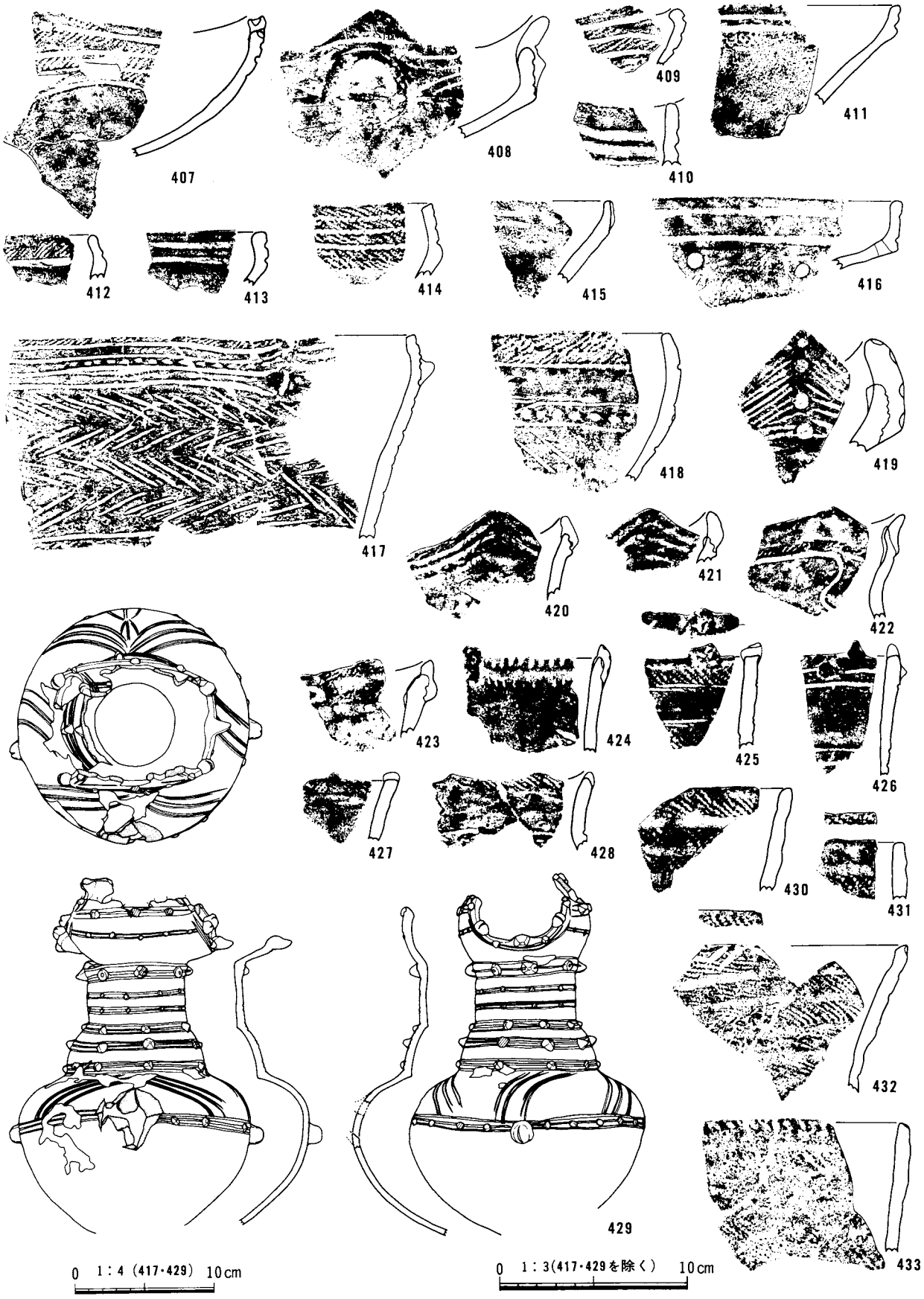
凹線文が施されているものである。直線的に立ち上がる平口縁で、横位に凹線が平行に施されている。431は口縁端部に縄文が施文され、432・433は口縁部に連続刻みが施されている。

e類（434～440）

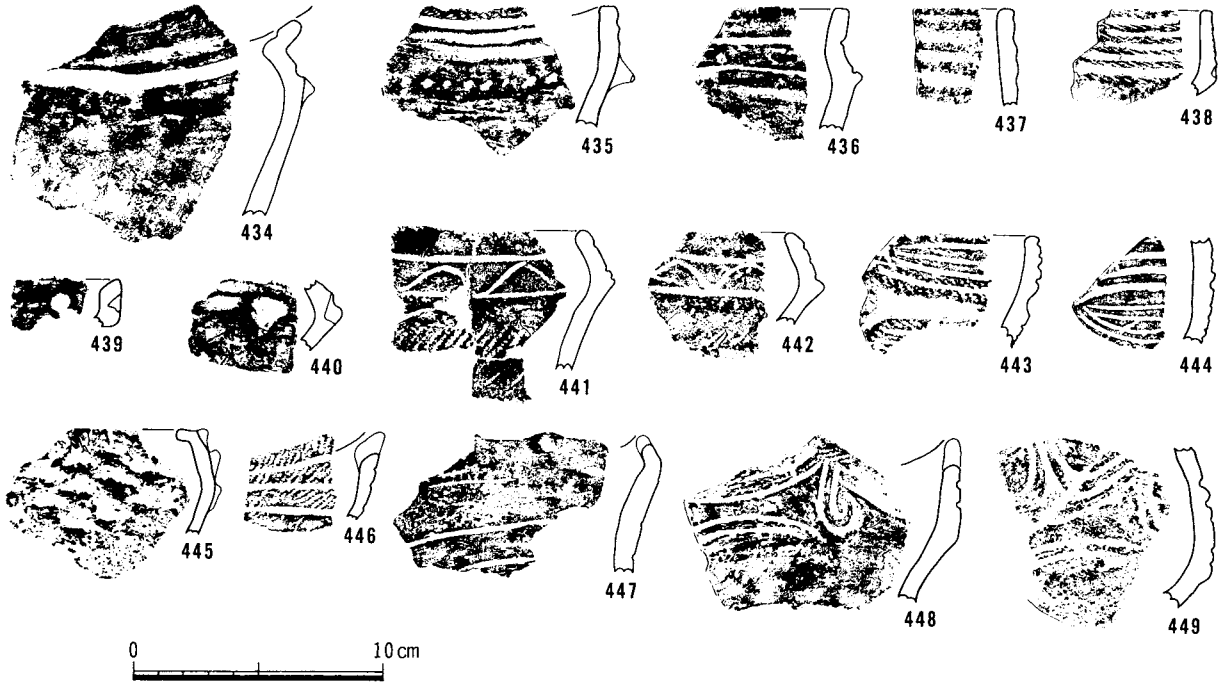
いわゆる凹線文土器に類似するものである。434・435は小波状を呈し、436～439は平口縁である。439・440は巻き貝と思われる工具による刺突が見られる。

f類（441・442）

441・442は同一個体である。東海系の後期後半のものである。内屈する口縁で、口辺部の平行沈線間に沈線が波状に描かれている。



第28図　包含層出土の縄文土器(11) II群3類



第29図　包含層出土の縄文土器(12) II群3類

g類（443・444）

八日市新保式に類似するものである。口縁部に沿って引かれた平行沈線が収束している。

h類（445～449）

その他の後期後葉の土器である。445は、内湾する口縁で、粘土紐を網代状に編んだような施文である。器形がやや異なるが、同様の土器が吉城郡河合村室屋遺跡で出土している。448・449は同一個体である。後期末から晩期初頭にかけてのものであろう。

4類　時期不明の土器（第30・31図、図版15）

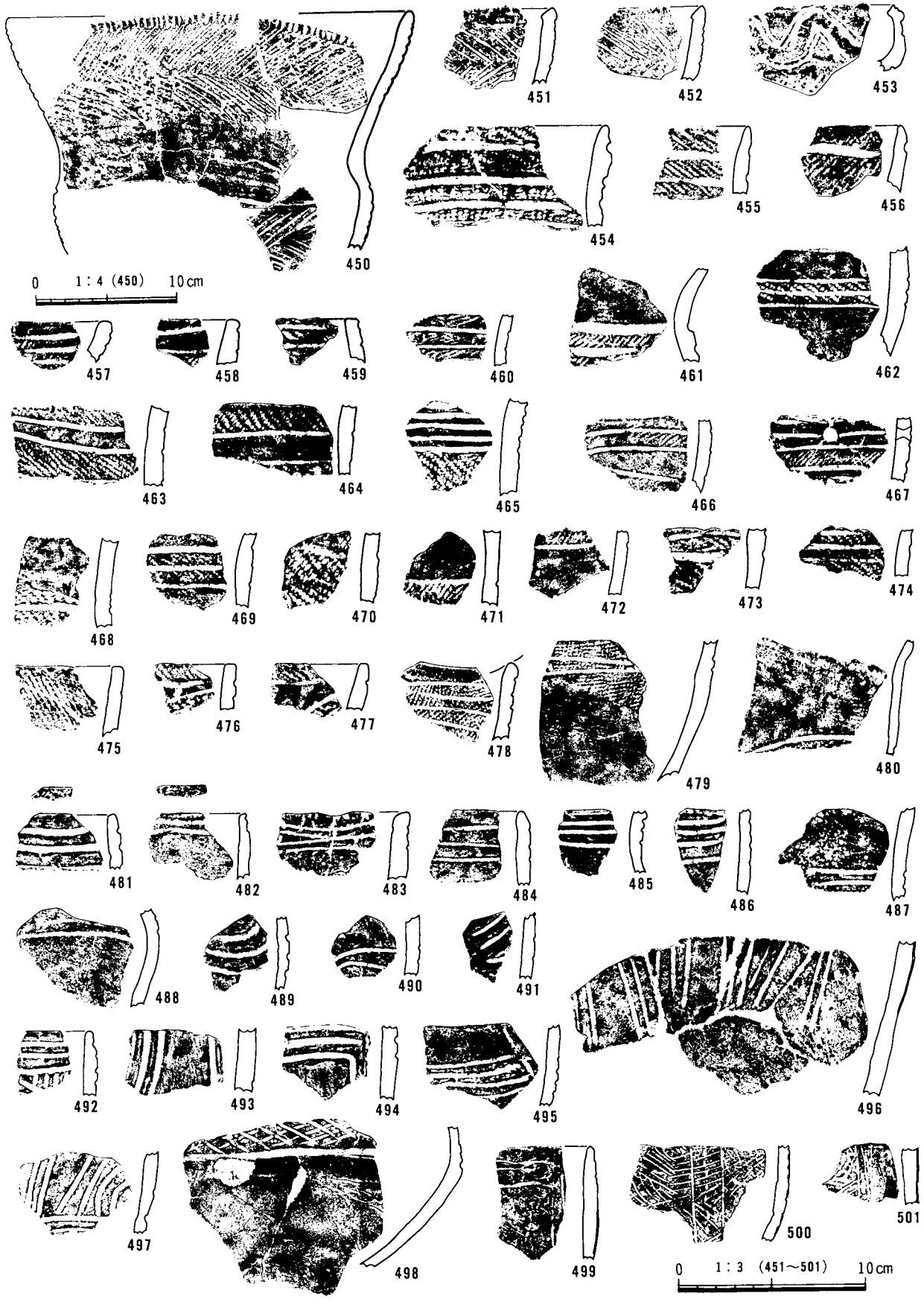
時期不明であるが、後期の土器と考えられるものである。

a類（450～453）

羽状沈線文の土器である。後期中葉から後葉にかけてのものである。450は頸部で括れて直線的に開く平口縁の土器で、口縁端部に刻みが入る。口縁部に羽状沈線文が施され、頸部は無文であるが、胴部上半部に沈線が横走し、その下にも羽状沈線文が施されている。451・452は同一個体で、口縁部に羽状沈線文が施されている。 453は隆帯が波状に施されている。

b類（454～480）

縄文を伴う沈線文の土器である。454～474は、沈線が横位に直線的に展開する。475～480は沈線が曲線的に展開する。



第30図　包含層出土の縄文土器(13) II群4類

c類（481～501）

沈線のみの土器である。次の2類に分類する。

c 1類（481～498）

棒状工具による沈線が横位に展開するもの（481～488）、曲線的に展開するもの（489～492）と、縦位あるいは縦横に展開するもの（492～498）がある。498は内屈するが、屈曲部に沈線が横走し、その上は沈線が格子目に施文されている。

c 2類（499～501）

細い沈線のものである。499は直立する平口縁で、口縁に沿って横方向に沈線が引かれ、さらに縦位に沈線が施されている。500は縦位に区画された沈線内に刺突が連続し、まわりは斜位に沈線が密集している。

d類（502～550）

注口土器と推定されるものを集めた。後期中葉のものが多いと思われる。502～507は突起部などである。円形の刺突あるいは貫通孔がある。縄文および細線文を施すもの（508～540）と無文あるいは沈線のもの（541～547）がある。508～511は口縁部であるが、内湾気味のもの（508）と外反するもの（509～511）がある。以下は胴部片である。縄文を充填するものや細線文が曲線的に展開するものがある。517は厚みのある肩部である。538～540は沈線間に短沈線が連続する。

541は内傾する口縁で、542は段を有する口縁である。546は細い沈線で、547は太い沈線で施文されている。548～550は注口部である。

5類　無文土器（第32～34図、図版16）

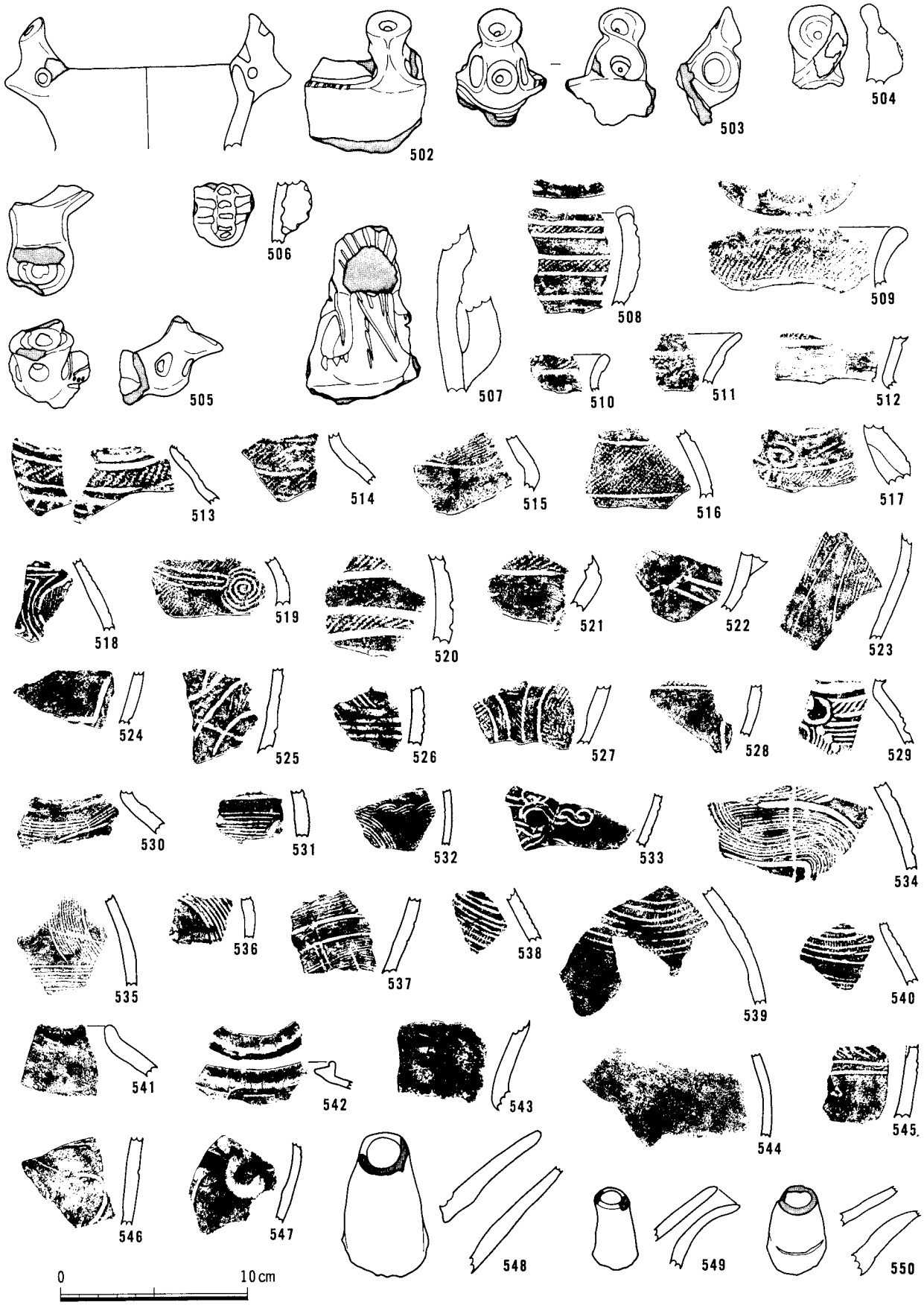
器厚、胎土、焼成等から見て、中期のものではないと判断したものを集めた。ただし、晩期のものが含まれる可能性がある。

a類（551～592）

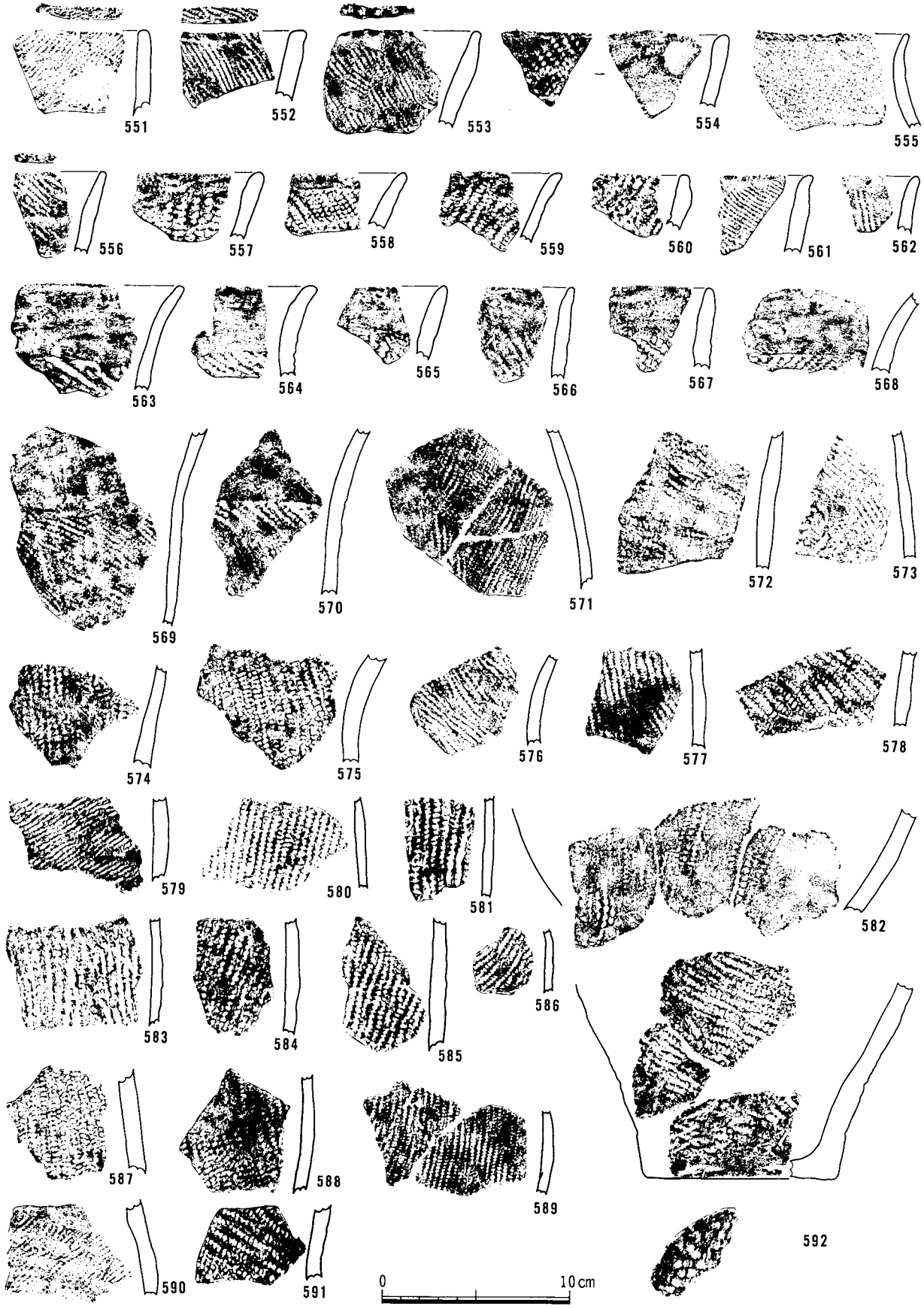
縄文施文の土器である。やや外反するものが多い。551～553は、口縁端部にも縄文が施されている。554は内面に指押さえが見られる。563～570は口縁部は無文で、頸部以下に縄文が施文されている。第17図238と同様のものである。後期前葉のものであろう。571～591は器形不明の胴部片であり、592は底部である。

b類（593～684）

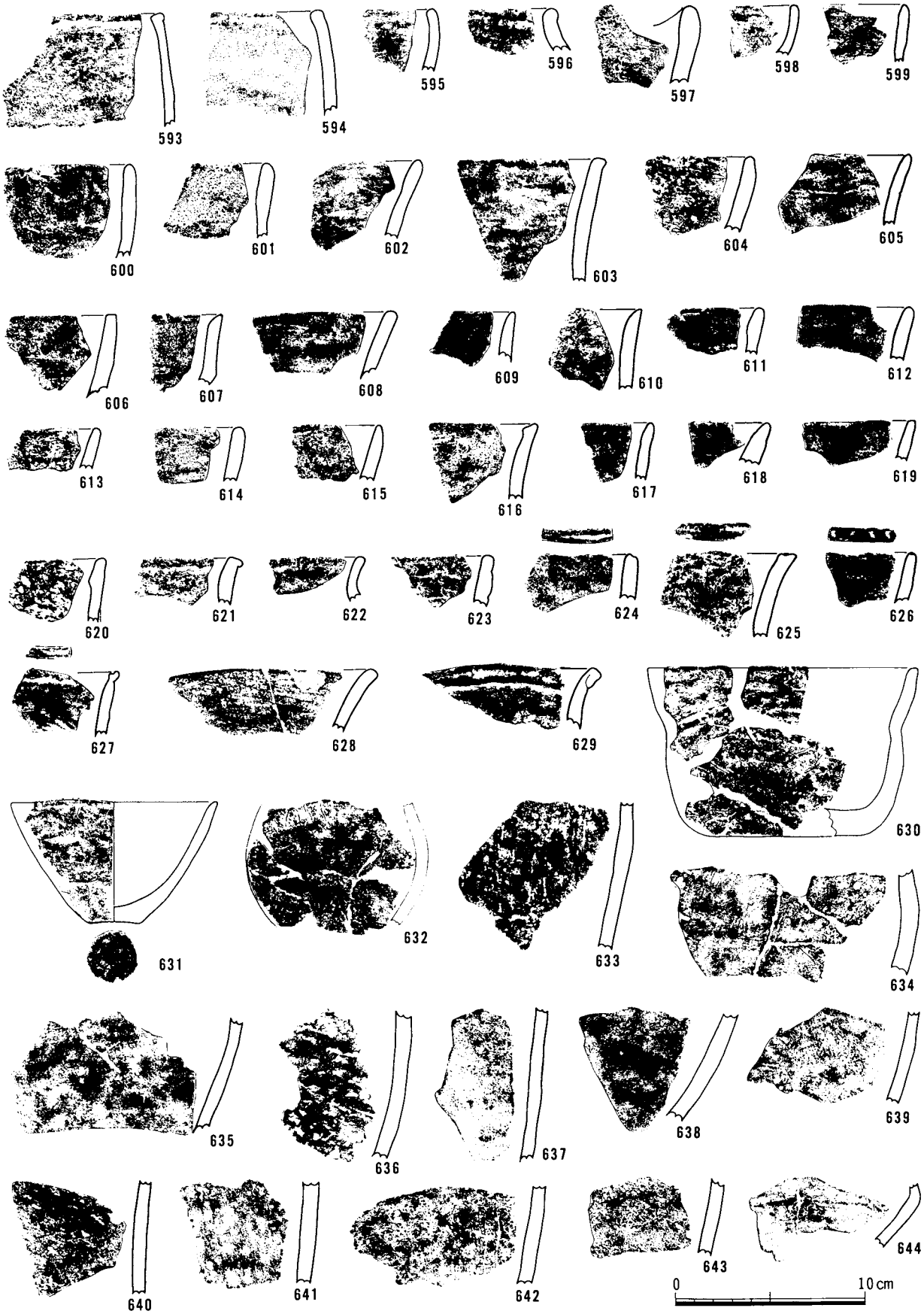
無文の土器である。やや内傾するもの（593～596）、直立するもの（597～601）、やや外反するもの（602～631）がある。624～627は口縁端部に沈線文あるいは刺突文が施されている。630は頸部がややくびれた鉢形土器であり、631は直線的に開く器形の小型の鉢形土器である。684は胴上部に突起が見られる。



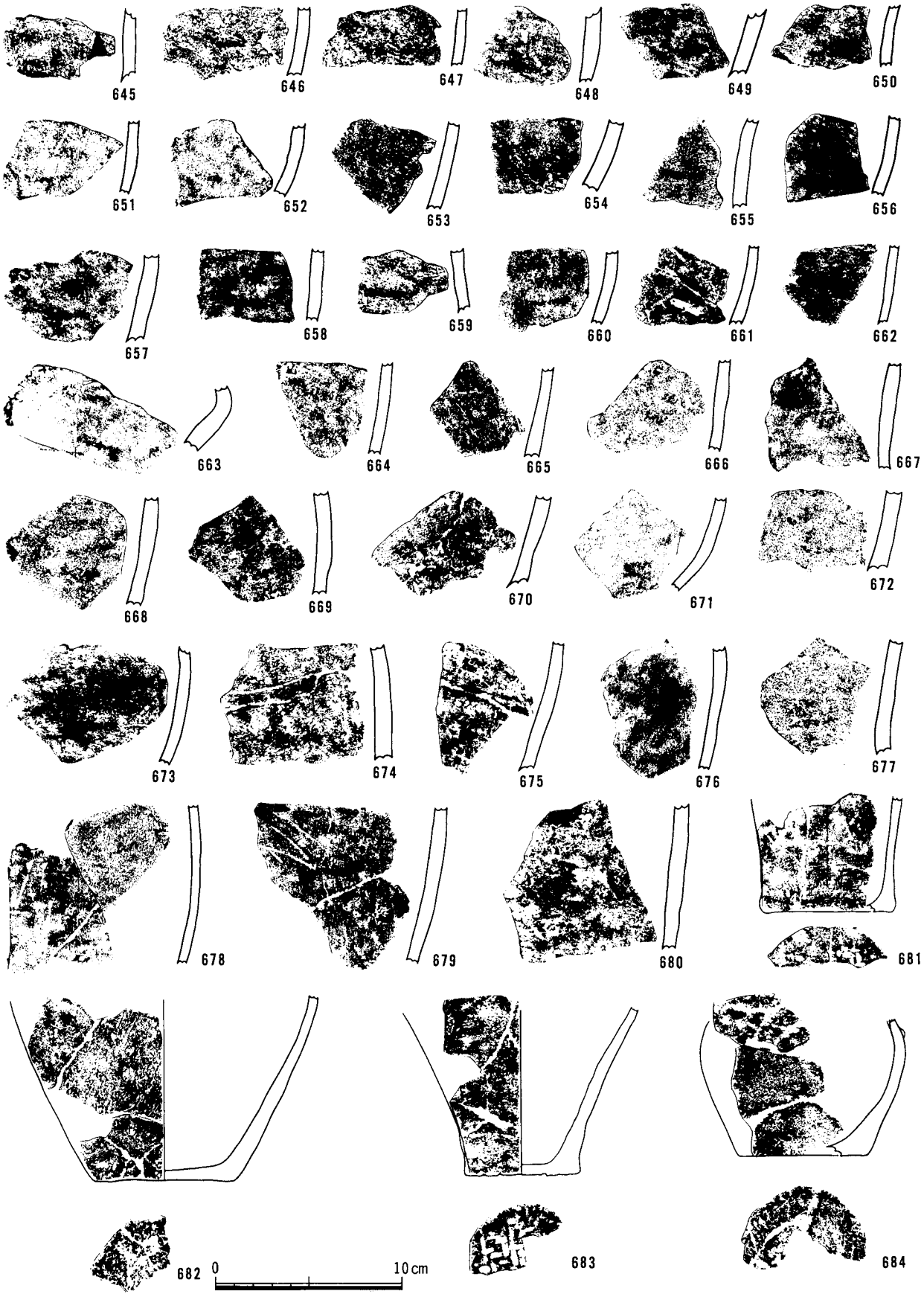
第31図　包含層出土の縄文土器(14) II群4類



第32図　包含層出土の縄文土器(15) II群5類



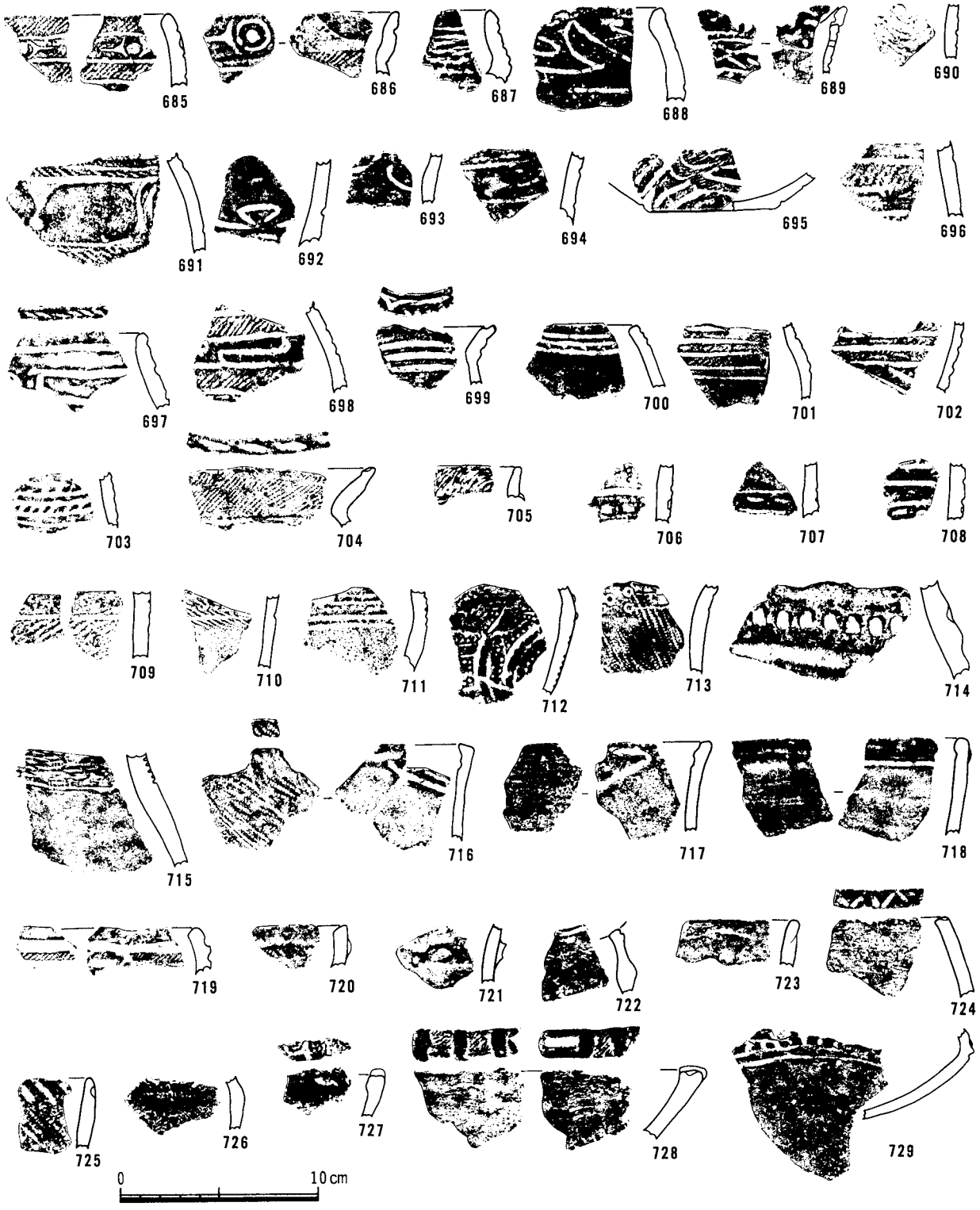
第33図　包含層出土の縄文土器(16)II群5類



第34図　包含層出土の縄文土器(17) II群5類

III群　晩期の土器（第35・36図、図版17）

晩期の土器は少量であるが、初頭のものから浮線文系の土器まで各時期のものが出土している。次の3類に分類して記述する。



第35図　包含層出土の縄文土器(18) III群1類

1類　晩期前半の土器（第35図、図版17）

685・686は玉抱き三叉文を有する。

687は、口縁部に半截竹管による横方向の施文がある。東海地方の晩期初頭のものと見られる。688～695は、曲線的な磨消縄文および沈線が展開する。689は器厚が4㎜と薄く、山形の突起が見られる。695は底部であるが、開く角度が大きいので、皿形土器であろう。底部近くまで施文されている。

696～698は鍵の手状の文様が施文されている。697は内傾する平口縁で口縁端部に刻みが入る。699～703は沈線が横方向に展開する。

704・705はくの字に屈曲して外反する口縁部で口縁部に縄文が施文され、704は口縁端部に刺突が見られる。

706～715は刺突が多用されるものである。ただし、刺突の形態は様々なものがある。706～711は沈線間に刺突が並ぶが、工具を横に引いて大きめの刺突を施すもの（706～708）と細い工具を突き刺した小さい刺突のもの（709～711）がある。712は隆帯に沿うように刺突が並ぶ。713は円筒状の刺突であり、714は縦方向に押し引きしたような大きめの刺突である。715は沈線で区画された所に横長の刺突が並ぶ。

716・717は内面に沈線が斜位に引かれている。718～722は隆帯がついている。719・720は平口縁で、横方向の隆帯に縄文が施文されている。721は隆帯上に連続の指押さえがある。

723・724は無文であるが、723は粘土の継ぎ目が残っているもので、この時期のものであろう。724は口縁端部にジグザグ状の刻みが入る。

725・726は擬縄文の土器である。727・728は口縁端部に隆帯が張り付けてある。729は浅鉢で胴部上部の屈曲部に連続刺突が見られる。

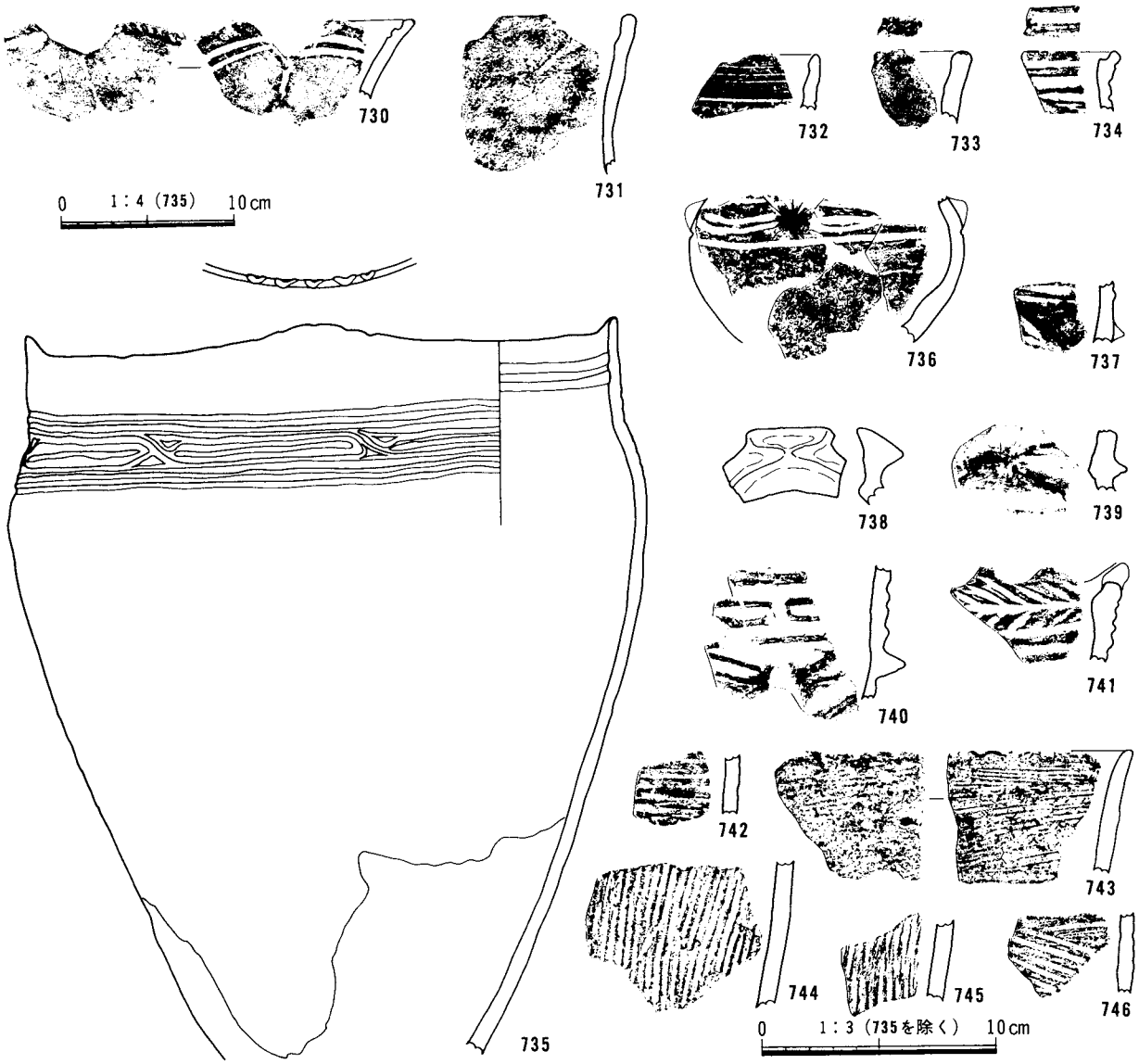
2類　晩期後半の土器（第36図730～741、図版17）

730～733・735は内面に沈線が横走する。733は口縁端部に円形刺突が見られる。735は4Ｅ区でまとまって出土した。底部を欠くが2分の1分の破片が折り重なっていた。破片は表側を上にして折り重なった状態であり、いわゆる甕棺墓の可能性はなかった。口縁部は直立し波状を呈する。波頂部の口縁端部にくの字状の刺突が5つ施される。口縁部の内面に2本の沈線が横走し、外面は無文である。肩部に沈線が横方向に展開し、斜位に結んで区画を形成する。734は口縁端部内面に沈線が引かれている。736は丸みを持った胴部を有する小型の鉢形土器である。長楕円区画状の沈線間に突起がある。

737～740は、隆帯による浮線状の文様を施文したものである。738は、いわゆる茸状の突起である。740は隆帯の継ぎ目の突起に刻みが入る。741は沈線が矢羽根状に施文される。737～741は阿弥陀堂遺跡に多く見られるものである（大江1965・藤田ほか1994）。

3類　条痕文の土器（第36図742～746、図版17）

742・743は横方向に施文されている。743は内面にも条痕が施されている。744・745は縦方向に、746は斜位に施文されている。



第36図　包含層出土の縄文土器(19)III群2・3類

4　底　部（第37図、図版18）

底部は、437点出土している。時期別に検討すべきであるが、判断のつかないものが多いので一括して記述する。

器形

底部から胴部への立ち上がりの角度により、次のように分類する。

A類　110度以下　胴部に膨らみを持たない深鉢

B類　110～120度　胴部が膨らむ深鉢

C類　120～140度　鉢形土器や胴下半部が大きく膨らむ深鉢

D類　140度以上　浅鉢や皿形土器

E類　脚台を有する台付土器

以上の分類によると、A類79点、B類67点、C類29点、D類2点、E類10点、不明250点となる。

第37図では、8がA類、1・3がB類、2・4がC類、9～14がE類となる。9～11は透かし孔がある。13・14は微隆起線が施されている。

底部圧痕

底部圧痕に関しては、網代圧痕、スダレ状圧痕、葉脈圧痕等がある。

網代圧痕は290点である。以下のように分類する。

- 1本越え1本潜り1本送り　46点（網代の後にナデ調整のもの1点を含む）
- 2本越え2本潜り1本送り　44点
- 1本越え1本潜り1本送り　50点（網代の後にナデ調整のもの1点を含む）
- 2本越え1本潜り1本送り　13点
- 3本越え3本潜り1本送り　1点
- 3本越え2本潜り1本送り　1点
- 基本は1本越え1本潜り1本送りであるが、「アンギン」圧痕に類似したもの　5点
- 不明　123点
- 網代の後ナデ調整で不明　7点

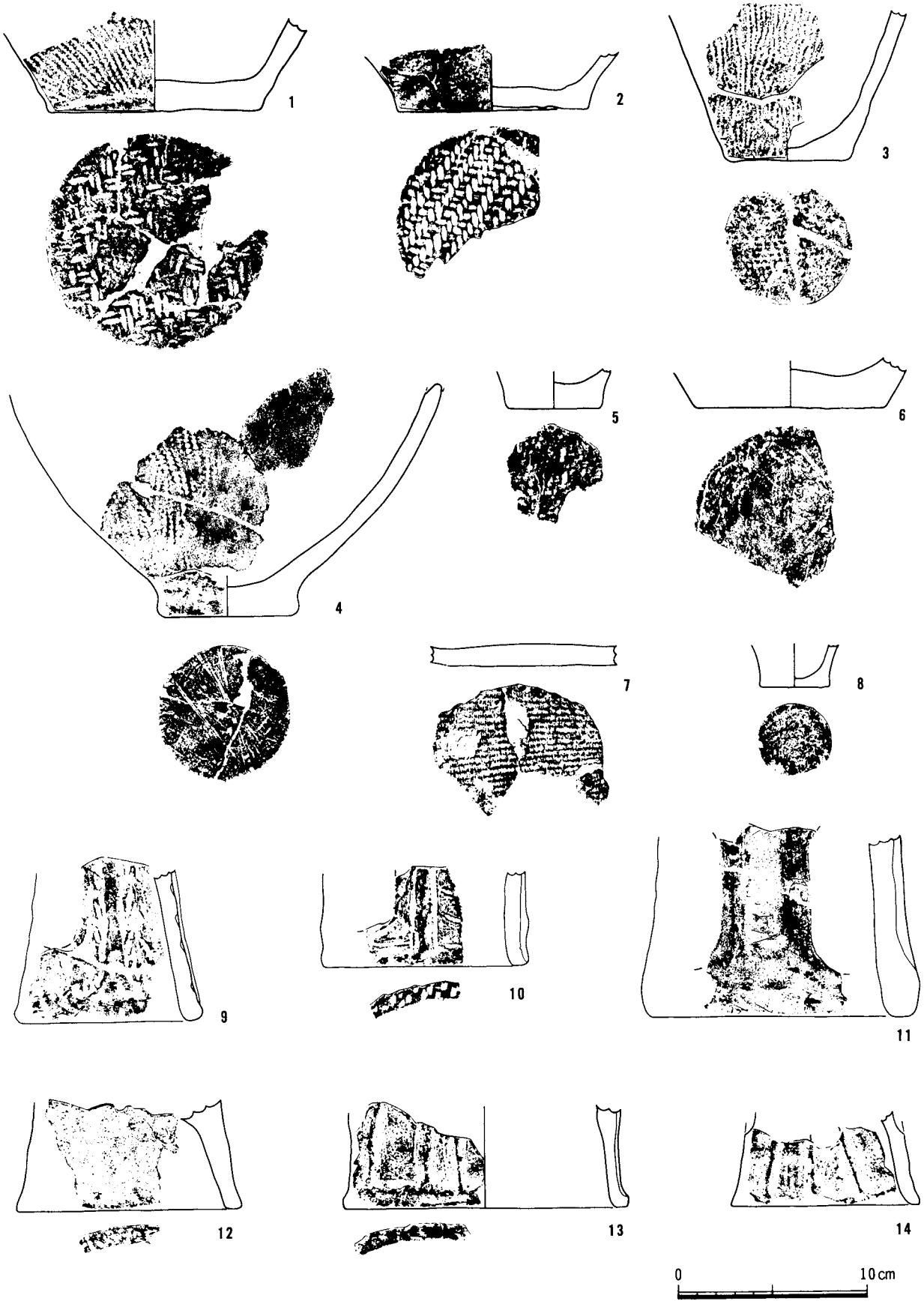
網代圧痕以外では、スダレ状圧痕が6点、葉脈圧痕が10点ある。葉脈圧痕のうち網状脈は8点、並行脈は2点である。

その他のものとしては、ナデ調整のものが51点あり、不明が79点である。

1)　北裏ＣⅠ式をＣⅠ式とＣⅡ式に時期的に二分する考えが、増子康真氏によって示されている（増子1995）。

2)　分類に関しては大石崇史氏のご教示を得た。

3)　百瀬長秀氏は、さらにタイプを分けて細分している（百瀬1996）。ここでは、「つ」の字文タイプの段階をそのまま利用した。



第37図　縄文土器　底部・脚台

第2節 石 器

遺構および包含層から出土した石器類の総数は約16,600点である。出土層位および地点を一括して器種ごとに記述する。

石鏃（第38図、図版18）

371点出土している。石材は、下呂石353点、チャート7点、黒曜石11点である。下呂石が95%と圧倒的に多い。他の器種も同様である。

形態に関しては、尖頭部と基部との組み合わせで分類した[1)]。

尖頭部の分類

1類 鋭角な尖頭部を持つもの。
2類 1類と同じく鋭角な尖頭部を持つが、全体が細長いもの（全長が全幅の2倍以上)。
3類 鈍角な尖頭部を持つもの。
4類 先端が小さく尖り、側縁部の肩が張った形状を持つもの。
5類 先端が尖らず、丸いカーブ描くもの。

基部の分類

A類 基部の中央部がU字型に深くえぐられているもの。
B類 基部の凹状のえぐりが浅く不明瞭なもの。
C類 基部が凹状のもの。
D類 いわゆる平基鏃で、基部が直線状になるもの。
E類 いわゆる円基鏃で、基部が丸みを帯びて突出したもの。
F類 いわゆる有茎鏃で、基部が突出したもの。
G類 いわゆる有茎鏃で、基部ににえぐりがあるもの。

破損、折損の部位による分類

a 尖頭部欠損
b 一方の脚部または基部の一部欠損
c 脚部のみ残存
d 尖頭部のみ残存
e 尖頭部と一方の脚部欠損
f 基部から胴部の半身欠損
g 両脚を欠損
h 基部を欠損（胴部と尖頭部が残存）
i 胴部のみ（基部と尖頭部を欠く）

以上の分類によると、１Ｂ類21点、１Ｃ類116点、１Ｄ類22点、１Ｅ類12点、１Ｆ類８点、２Ｂ類１点、２Ｃ類13点、２Ｅ類１点、２Ｆ類13点、２Ｇ類２点、３Ｃ類１点、４Ｂ類１点、４Ｃ類７点、４Ｆ類８点、４Ｇ類２点、５Ｂ類４点、５Ｃ類11点、５Ｄ類７点、不明121点である。１Ｃ類が圧倒的に多い。後晩期のものと思われる４類あるいはＦ・Ｇ類が存在する。

10は黒曜石製で、長さ1.1cmと非常に小型のものである。

石錐（第39図、図版18）

150点出土している。下呂石143点、チャート７点である。石鏃同様下呂石が95％を占める。形態分類は以下のようである。

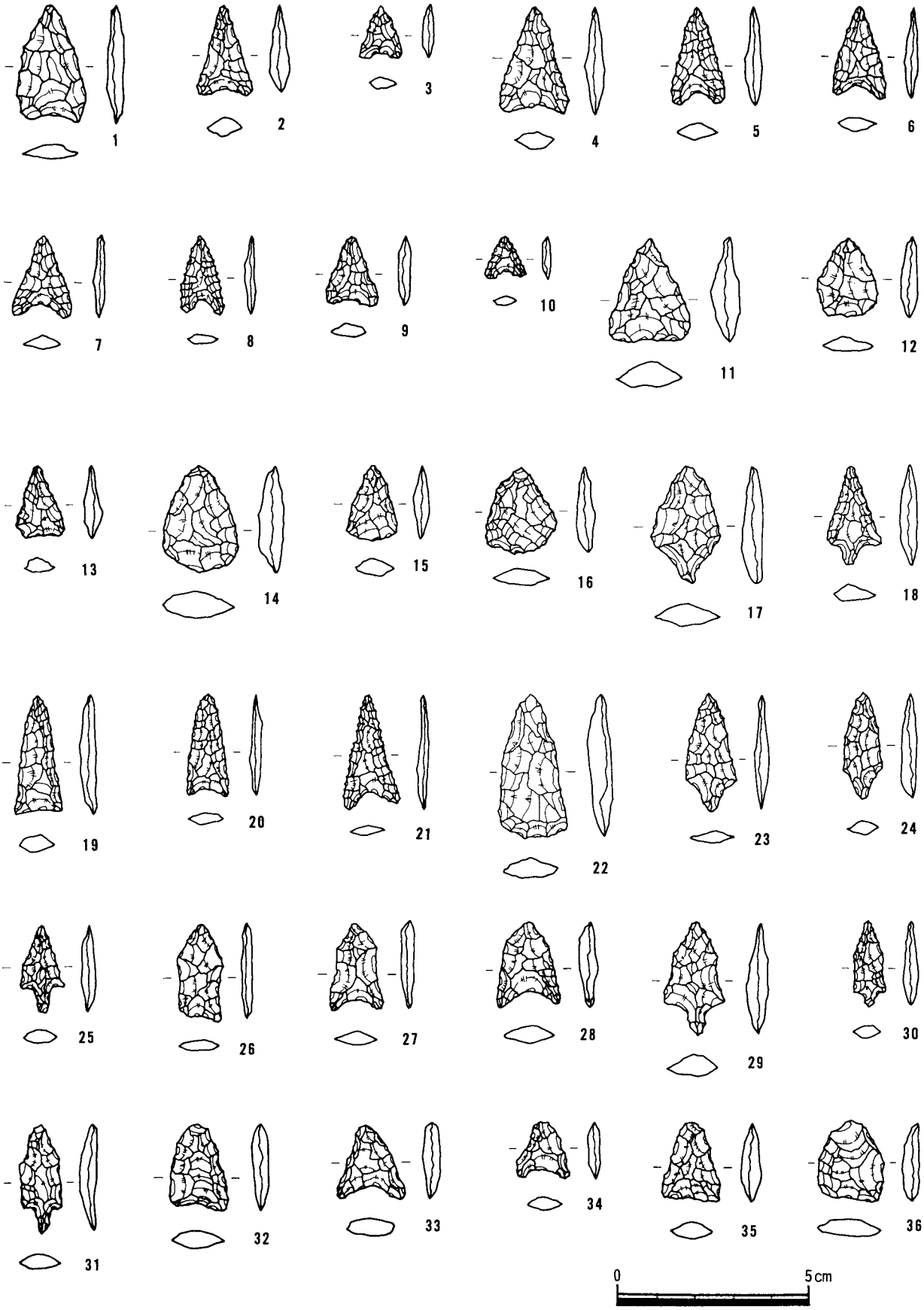
１類　全体の形状が棒状をなすもの。
　１Ａ類　両端が尖るもの。
　１Ｂ類　錐部は一端のみに作られ、他端は鈍頭をなすもの（全面に調整加工を施されるものを原則とする）。
２類　剥片の一端に長い錐部を作り出し、明瞭なつまみ状の頭部を持つもの。
　２Ａ類　つまみ状の頭部も全面に調整が施されているもの。
　２Ｂ類　頭部は素材の剥片の形状を留めるもの。
３類　明瞭なつまみ状の頭部を持つもので、錐部が著しく短いもの。
　３Ａ類　頭部に調整加工が施されるもの。
　３Ｂ類　頭部は素材の剥片の形状をそのまま残すもの。
４類　錐部が次第に広がっていき頭部との区分が不明瞭なもの。
　４Ａ類　両面もしくは片面の全体が調整加工を施されているもの。
　４Ｂ類　錐部の両側縁に調整加工の施されるもので、素材の剥片の形状を留めるもの。
５類　棒状あるいは長い三角形状の剥片の先端に微弱な調整加工を加え、そのまま錐として用いたもの。

以上の分類によると、１Ａ類44点、１Ｂ類16点、２Ａ類７点、２Ｂ類６点、３Ａ類６点、３Ｂ類４点、４Ａ類31点、４Ｂ類17点、不明19点である。

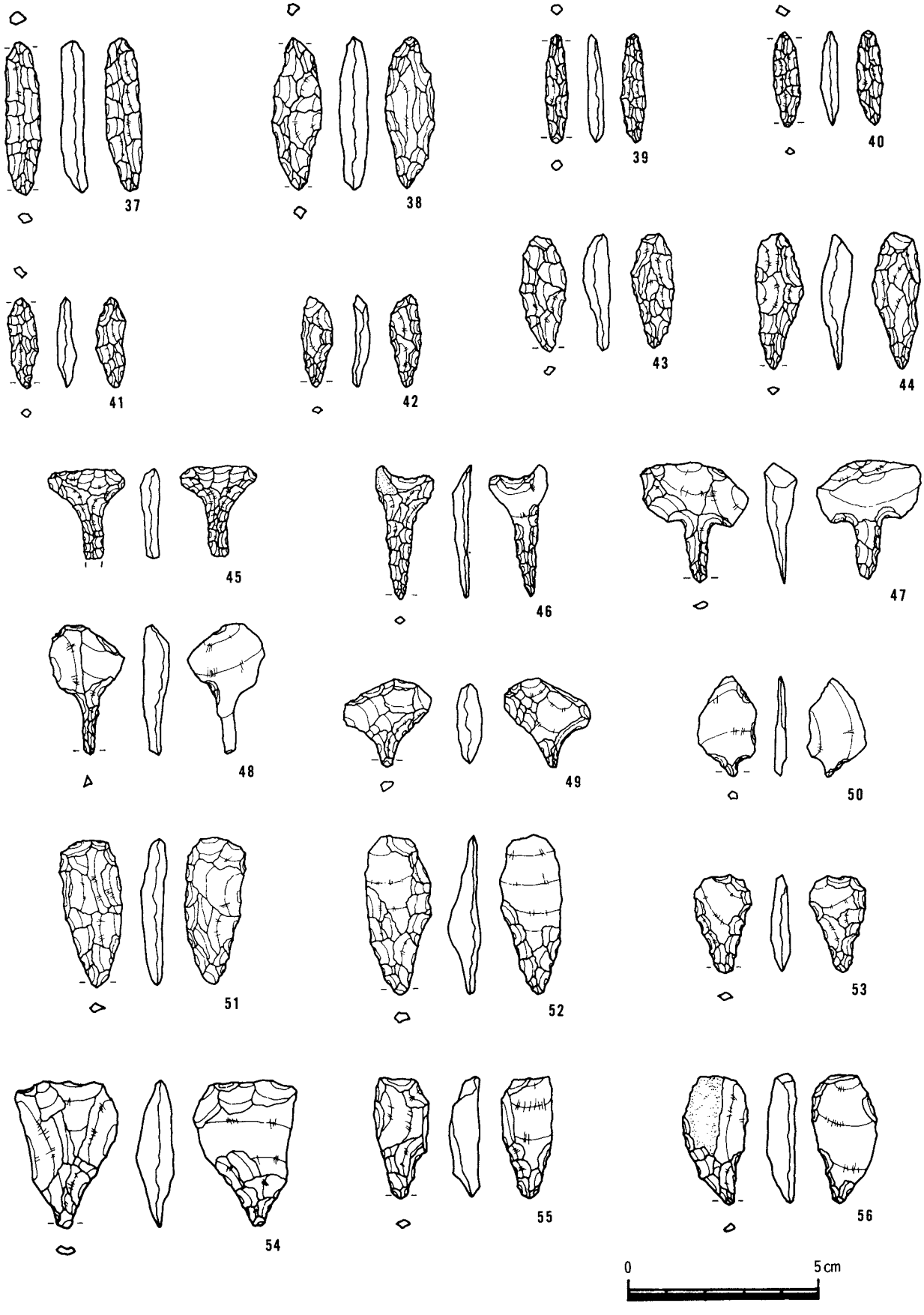
削器（第40図、図版19）

剥片の縁辺に連続的な調整によって刃部を作り出した石器を削器とした。刃部の作出方法により次のように分類する。

１類　片面加工により刃部を作出したもの。
２類　片面加工により作出された刃部と、両面加工により作出された刃部を合わせ持つもの。
３類　両面加工により刃部を作出したもの。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
0
5cm

第38図　石器類(1)石鏃



第39図　石器類(2)石錐

下呂石49点、チャート5点の計54点出土している。形態は1類16点、2類2点、3類36点である。3類が多いが、チャートは5点のうち3点が1類である。

掻器（第41図67～69、図版19）

急角度に調整された刃部を持つ石器を掻器とした。刃部の位置と数により次のように分類する。

1類　素材の全周が刃部となるいわゆるラウンドスクレイパー。
2類　素材の一辺縁を除く三辺縁が刃部となるもの。
3類　縦長剥片が用いられ、その側縁と末端が刃部となるもの。
4類　素材の側縁あるいは先端部に刃部を作り出したもの。

下呂石5点、チャート1点の計6点出土している。形態は2類1点、4類5点である。

石匙（第41図70・71、図版19）

2点出土している。ともに安山岩製である。70はいわゆる縦形のものであり、71は横形のものである。

両極剥離痕のある石器（第41図72～83、図版19）

向かい合った二辺ないし四辺の辺縁部に剥離痕やつぶれが認められる石器。大部分がピエス・エスキーユと考えられるが、機能的に異なるものが含まれると推定される。総数77点出土している。石材は下呂石74点、チャート2点、黒曜石1点である。

二次加工のある剥片（第42図84～90、図版19）

剥片の側縁に大小の剥離痕を連続して施したものを二次加工のある剥片とした。総数119点出土している。下呂石111点、チャート4点、黒曜石4点である。

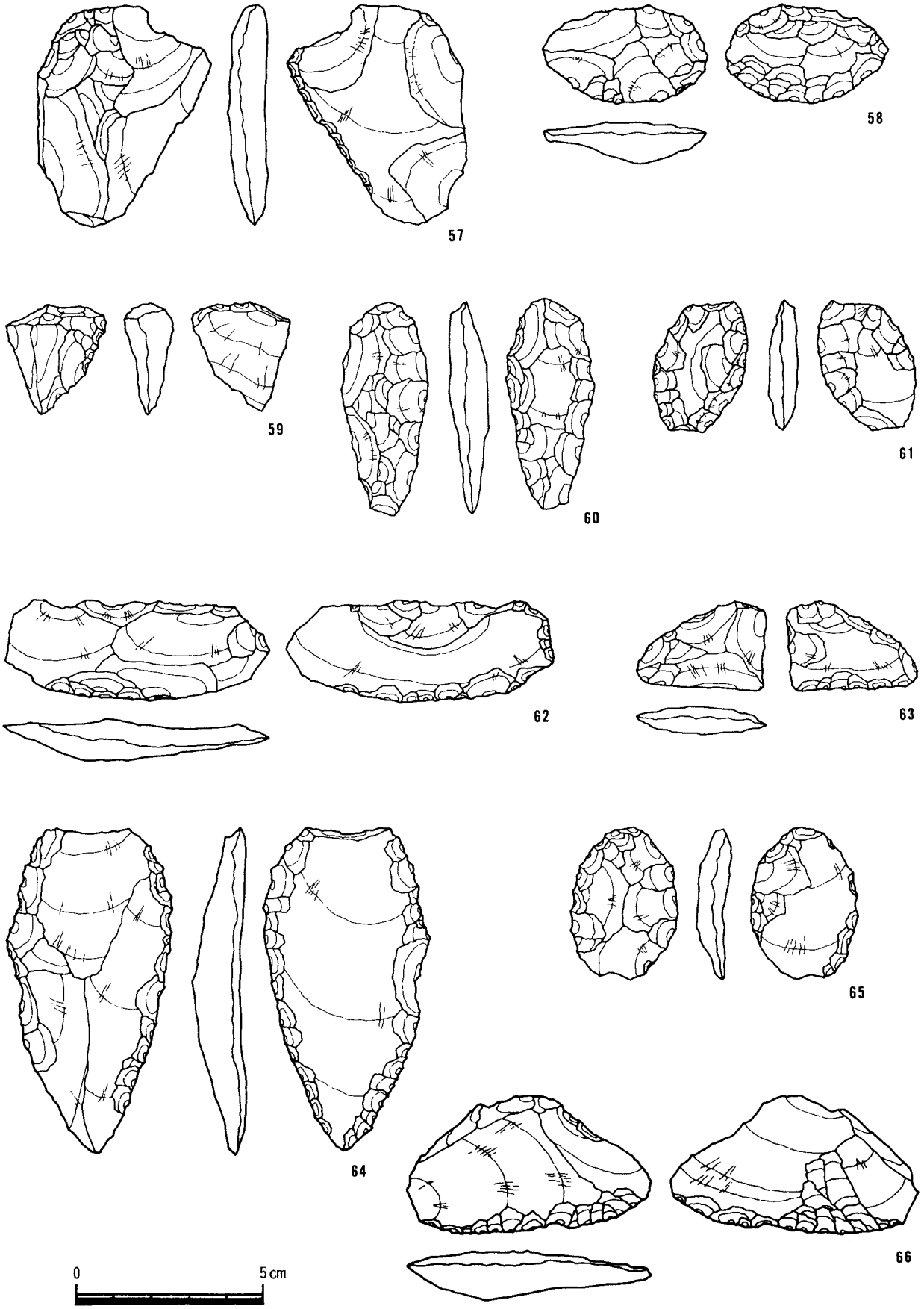
使用痕のある剥片（第42図91～97、図版19）

剥片の側縁に微細な剥離痕が密接して、あるいは不規則に観察されるものを使用痕のある剥片とした。総数86点出土している。下呂石74点、チャート3点、黒曜石8点、その他1点である。

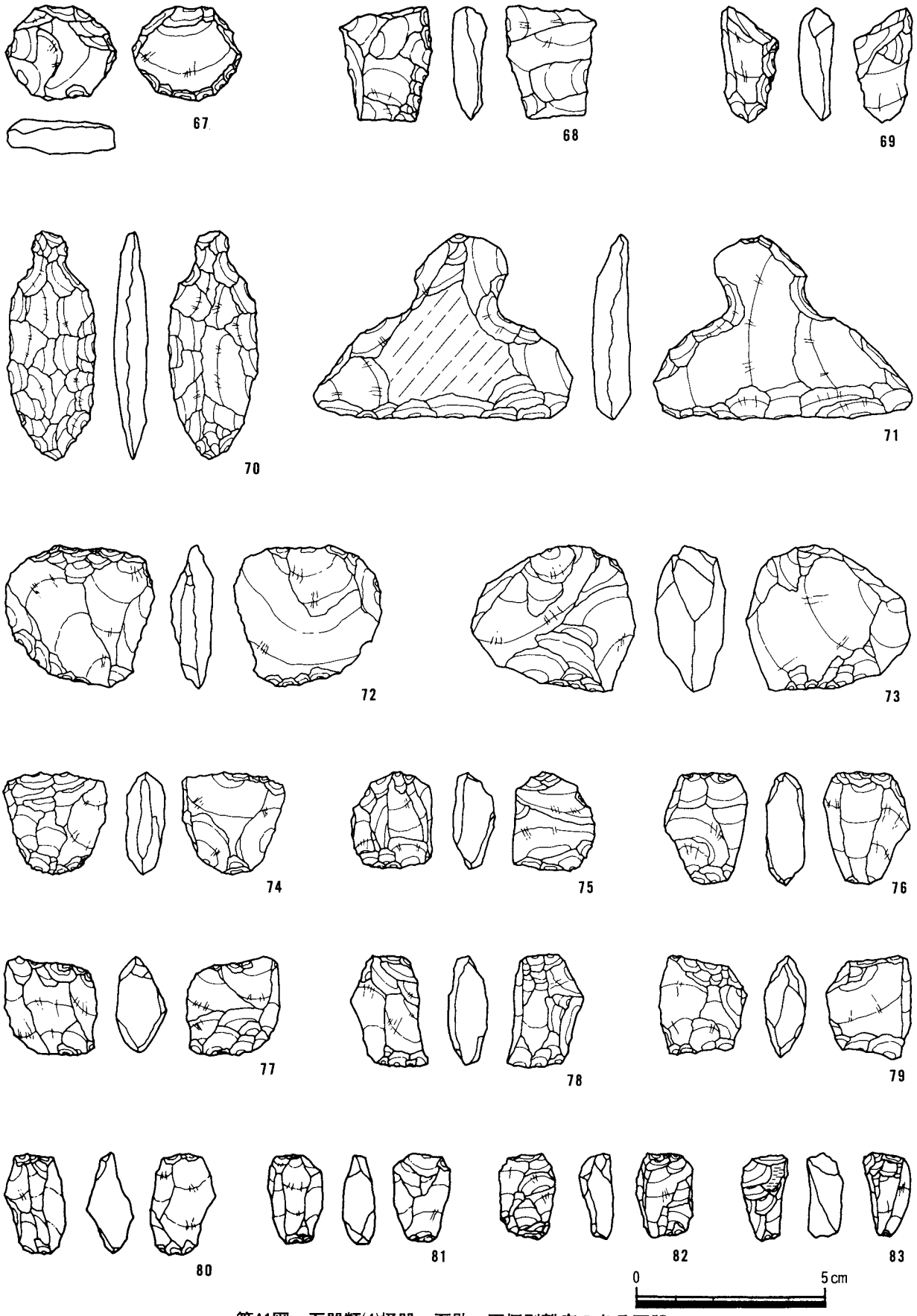
異形石器（第43図98、図版19）

下呂石製である。第28図429の土器と並んで出土した。縄文時代後期後葉のものであろう。突起が4か所付いている。仮に突起の側を刃部とし、突起のない部分を柄部とする。

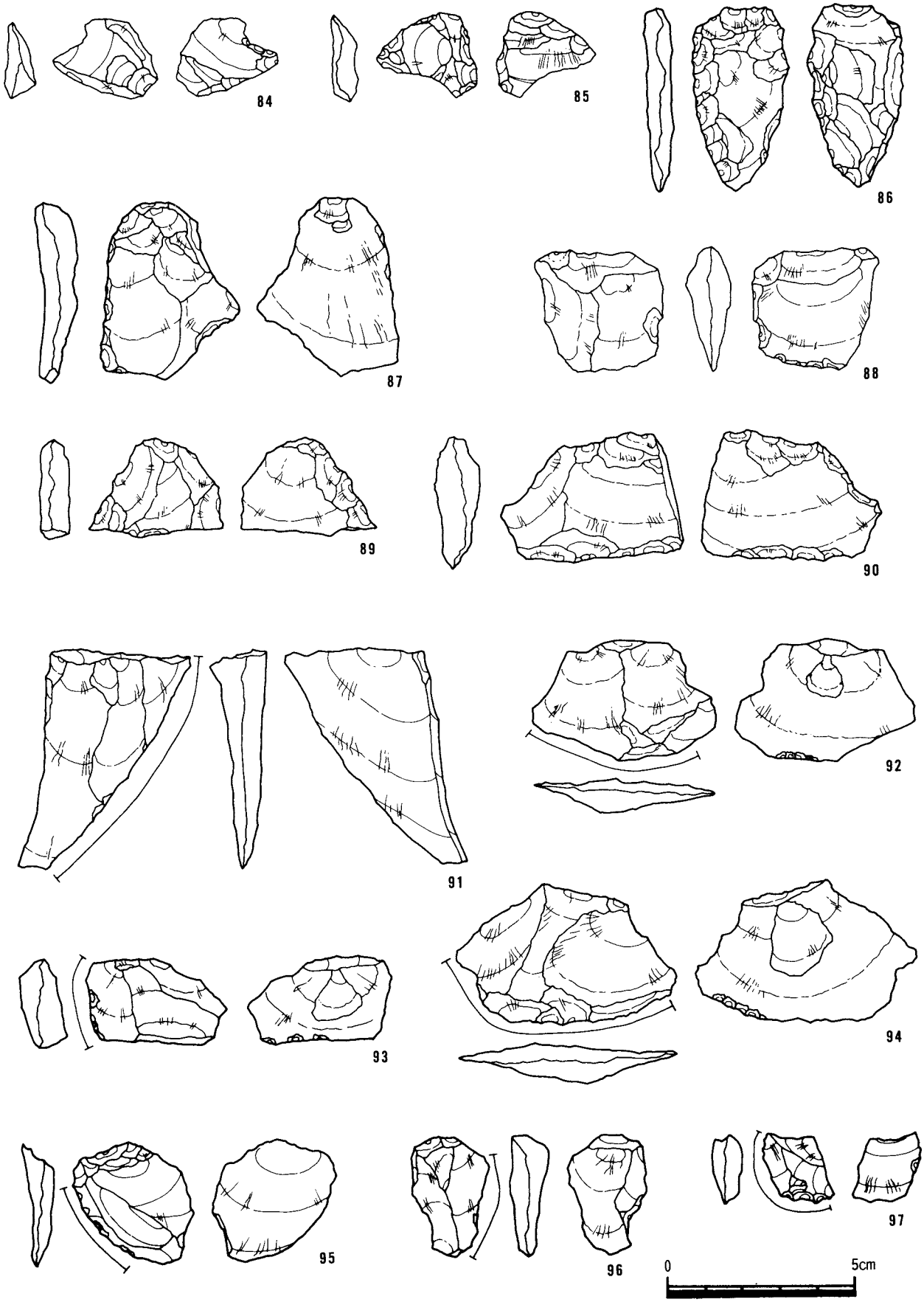
背部（刃部の反対側）は表面から厚い剥離を、裏面から薄い剥離を加えて作り出している。刃部は両面から調整し、柄部は厚い剥離を加える部分もあるが、あまり手を加えていない。背部と柄部の一部および刃部の凹部につぶれが観察できる。



第40図　石器類(3)削器



第41図　石器類(4)掻器・石匙・両極剥離痕のある石器



第42図　石器類(5)二次加工のある剥片・使用痕のある剥片

石核（第43図99～103、図版19）

53点出土している。石材は、下呂石50点（99～102）、黒曜石3点（103）である。

99・100は厚みのある剥片を素材とし打面を移動している。101は長大な剥片を素材としている。102は厚手の板状剥片を素材とし、打面は1つで作業面は2面である。103はサイコロ状の剥片を素材としている。

剥片

出土した剥片類は10,779点である。下呂石10,451点、黒曜石116点、チャート194点、その他18点出土している。

打製石斧（第44図、図版20）

139点出土している。次のように分類する。

1類　頭部がほぼ平行な、いわゆる短冊形。
2類　胴部がくびれる、いわゆる分銅形。
3類　形状が基部に向かって収束する、いわゆる撥形。

折損部位による分類

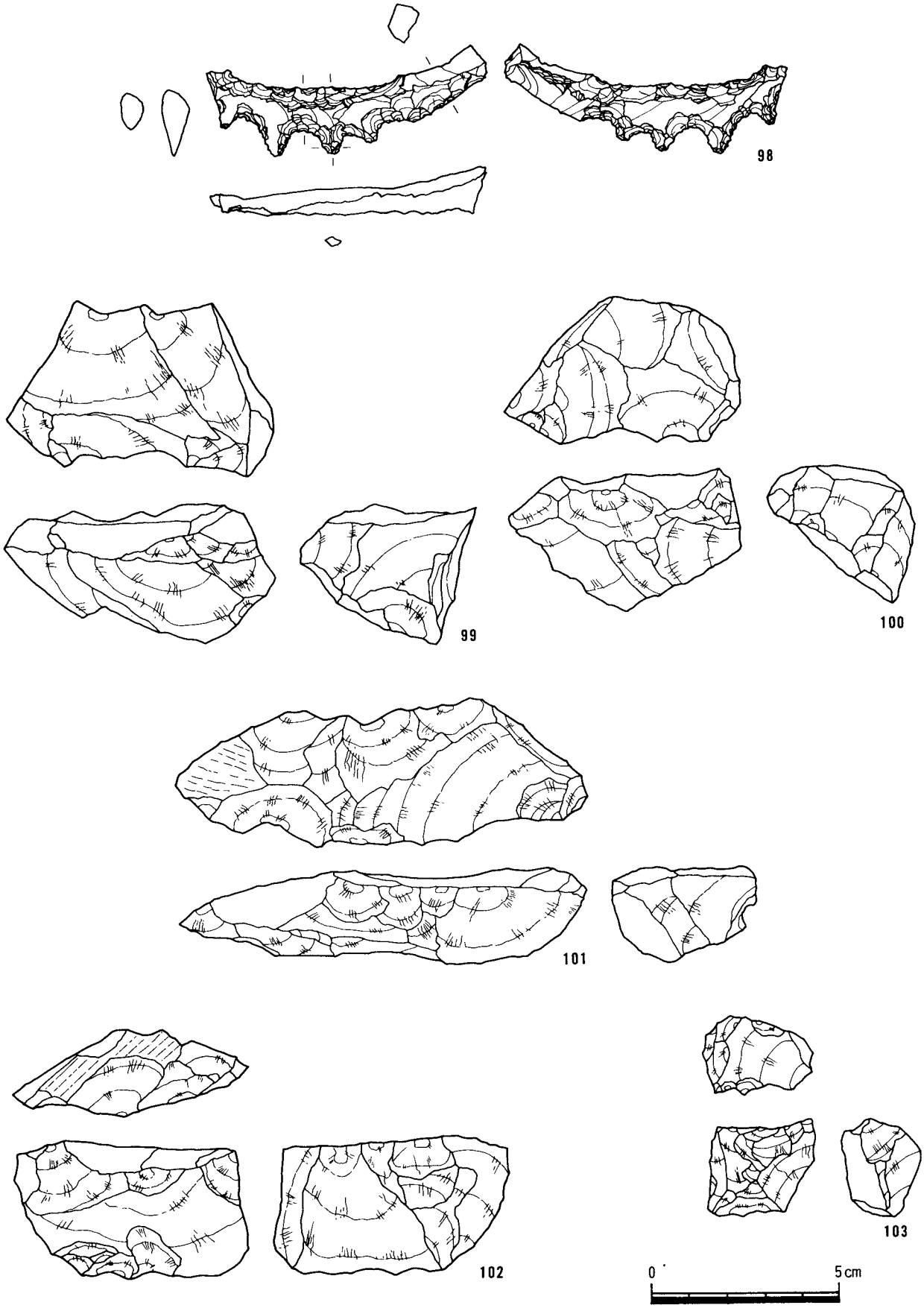
a　刃部を欠く
b　基部を欠く
c　基部の一部を欠く
d　胴部のみ（両端を欠く）
e　破片

形態別では、1類83点、3類11点、不明45点である。明確な2類は見あたらなかった。

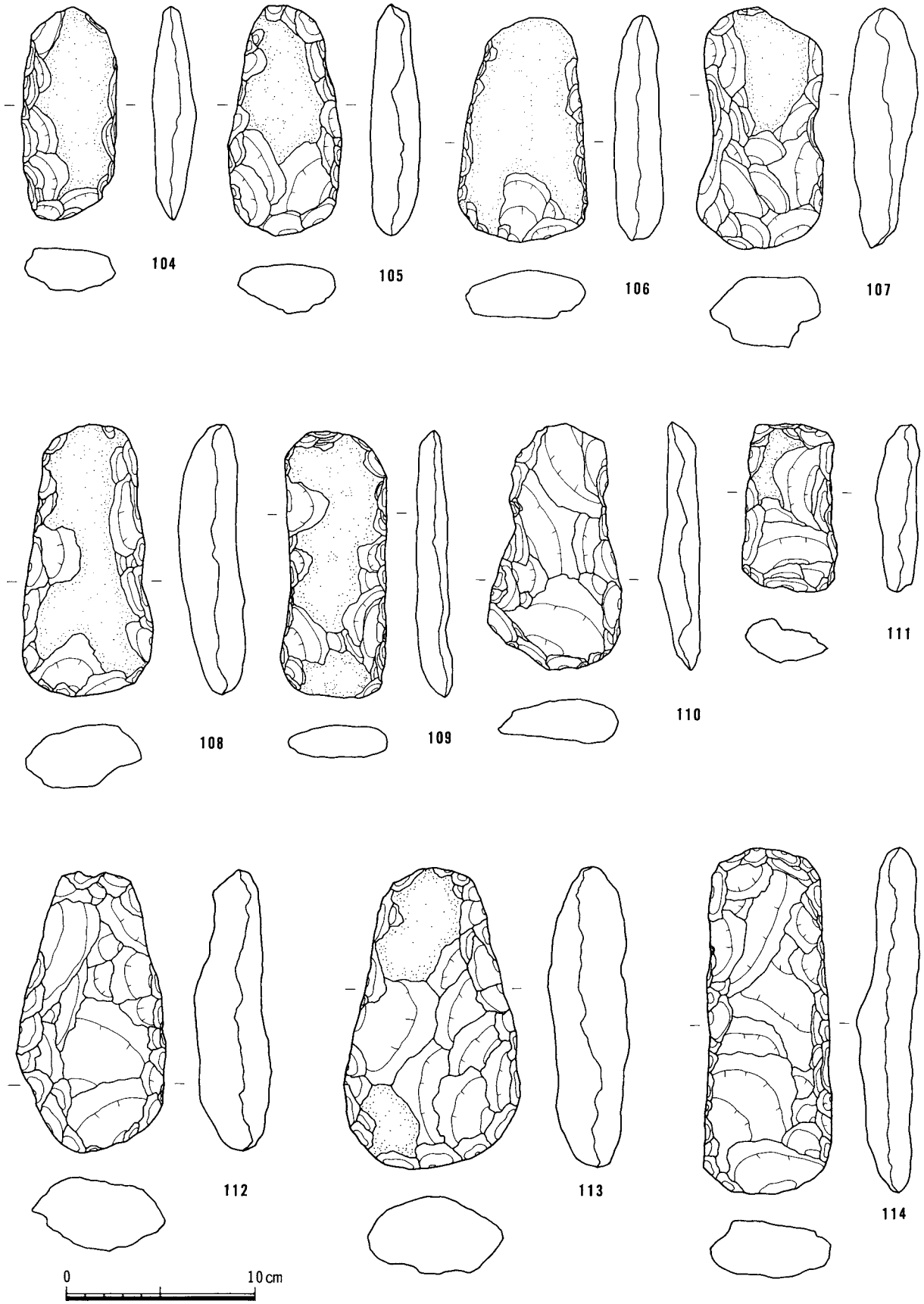
磨製石斧（第45図、図版21）

52点出土している。次のように分類する。

1類　側面が未発達で横断面が方形にならない偏平なもの。
2類　定角式磨製石斧。大きさで4つに細分する。
　2A類　長さが10cm以上のもの。
　2B類　長さが4cm以上10cm未満で、幅が2cm以上のもの。
　2C類　長さが4cm以上、幅が2cm未満のもの。
　2D類　長さが4cm未満のもの。
3類　乳棒状磨製石斧



第43図　石器類(6)異形石器・石核



第44図 石器類(7)打製石斧

折損部位による分類

a　刃部を欠く
b　基部を欠く
c　基部の一部を欠く
d　胴部のみ（両端を欠く）
e　破片

形態別では、1類1点、2A類10点、2B類12点、3類7点、不明22点である。

横刃形石器（第46図126～128、図版21）

10点出土している。凝灰岩質のものが多い。

切目石錘（第46図129～131、図版21）

6点出土している。比較的小型のものばかりである。

有溝石錘（第46図 32、図版21）

1点出土している。凝灰岩製で、長さ2.2cmと小型のものである。

礫石錘（第46図133～135、図版21）

5点出土している。凝灰岩が4点、粘板岩が1点である。

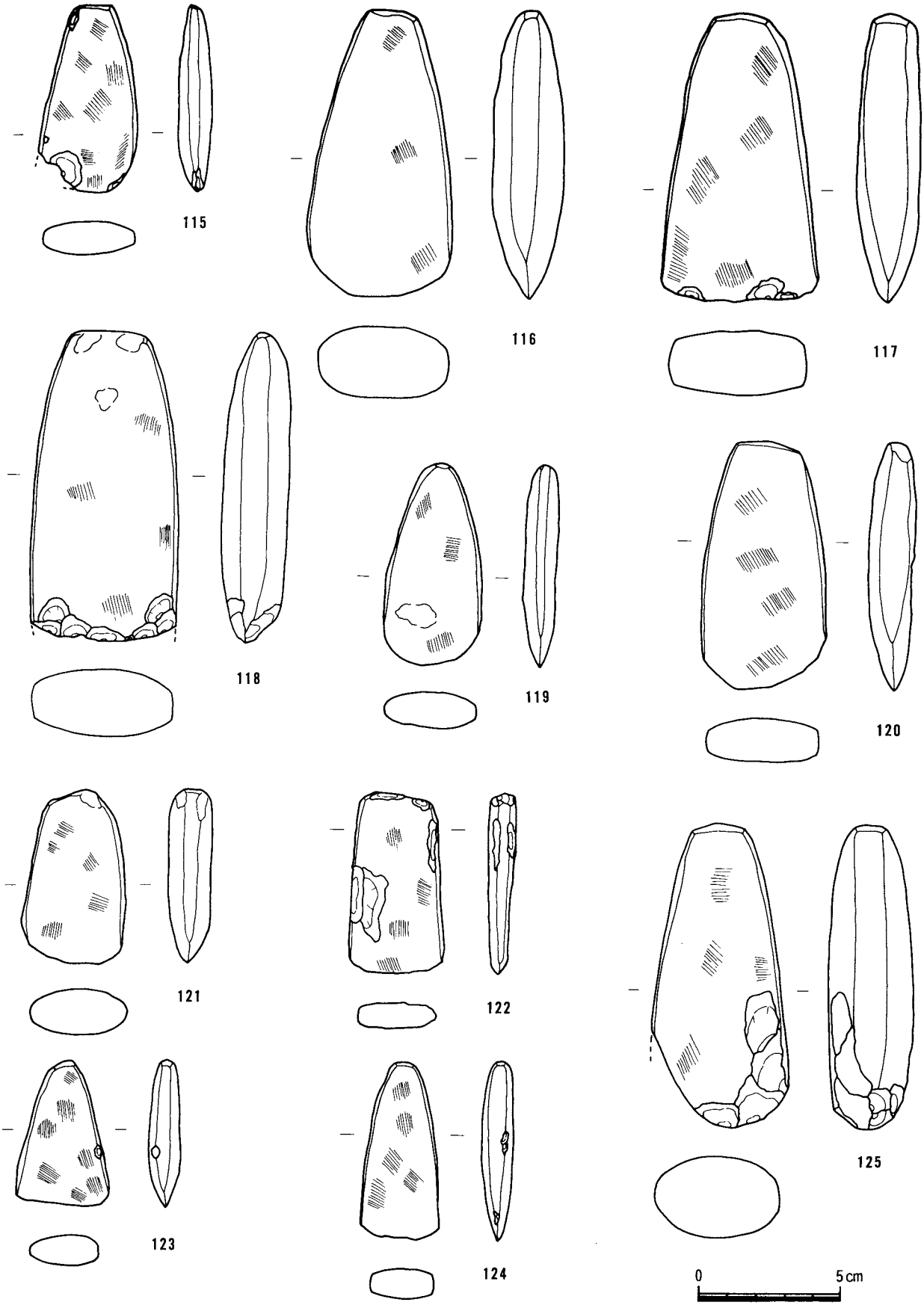
砥石（第46図136、図版21）

2点出土している。図示した136は、砂岩製で浅い溝が2条ある。

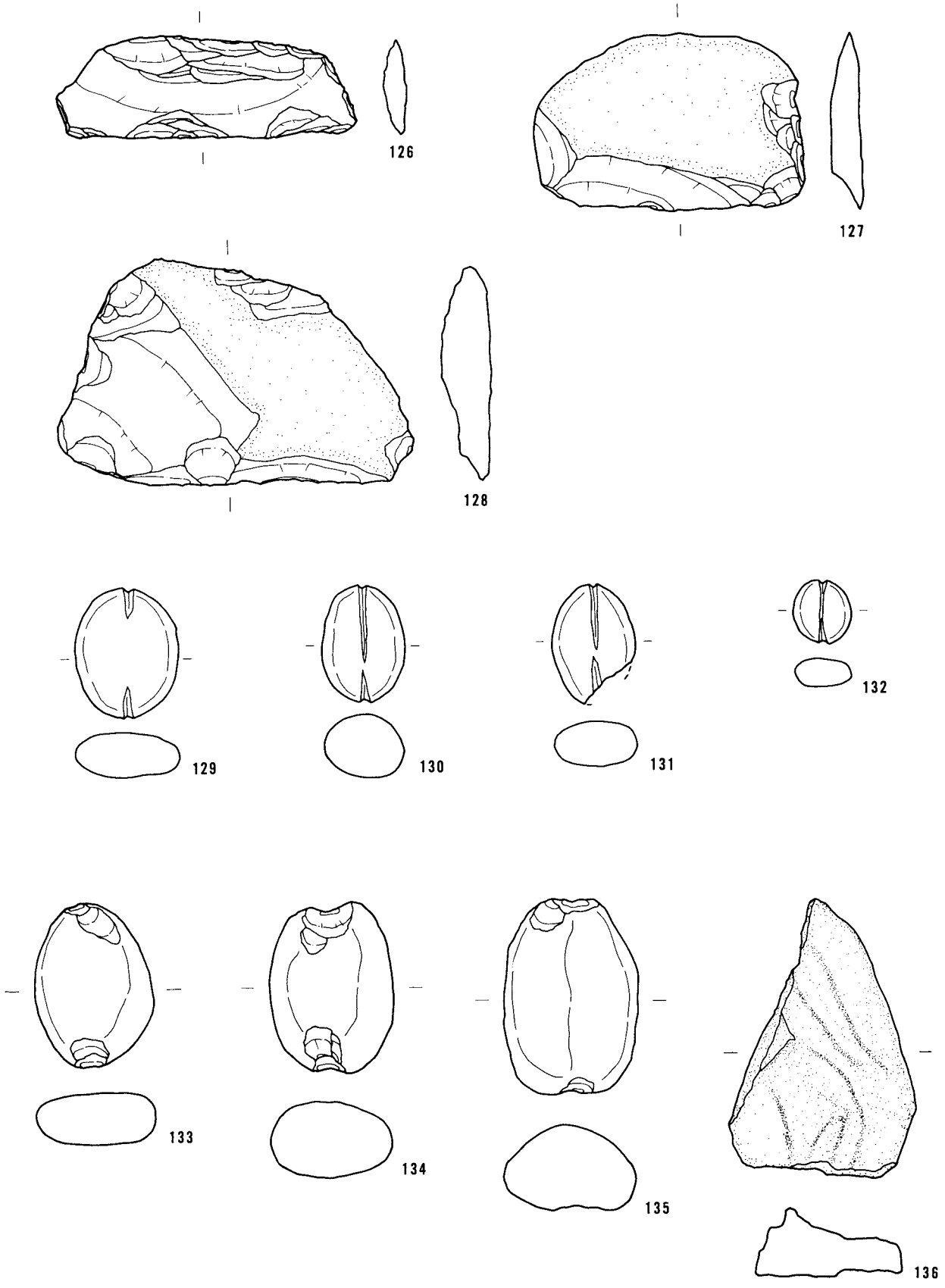
磨石・凹石・敲石類（第47図、図版21）

この類の石器では、磨痕・凹痕・敲打痕など複数の痕跡が重複していることが多く、機能も多様であると考えられるが一括して扱うこととする。形態については、まず平面形および断面形によって次のように分類する。

Ⅰ類　平面形が円形のもの。
Ⅱ類　平面形が楕円形のもの。
Ⅲ類　平面形が方形のもの。
1～3類は、その断面形によりさらに4つに細分した。
a類　断面形が円形のもの。
b類　断面形が楕円形のもの。
c類　断面形が凸レンズ状のもの。
d類　断面形が方形のもの。



第45図 石器類(8)磨製石斧



第46図　石器類(9)横刃形石器・切目石錘・有溝石錘・礫石錘・砥石

Ⅳ類　角柱状や円柱状の自然礫を用いたもので、断面は多角形。

凹痕の数については、いわゆる表面・裏面・その他の面の個数を一覧表に示した。また、凹の形状について、次の1～3のように分類した。

1　敲打痕がかたまって浅い凹痕をつくっているもの。

2　すりばち状のはっきりした凹痕のあるもの。

3　右上がり状に広がる細長い凹痕を有するもの。

なお、凹痕のないものについては、磨面や敲打痕の様子を一覧表に記述した。

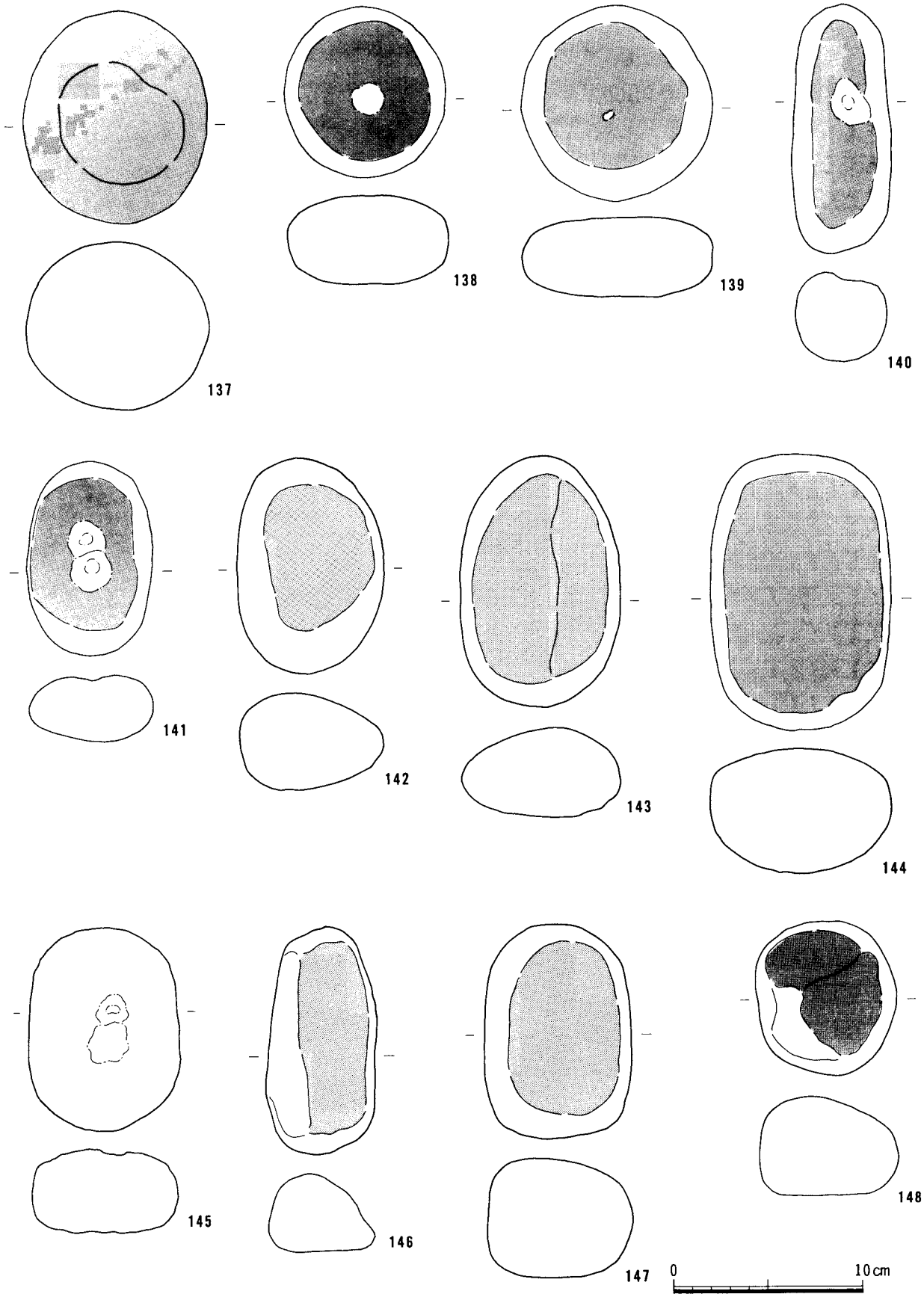
出土点数は151点である。形態別では、Ⅰａ類2点、Ⅰｂ類17点、Ⅰｃ類1点、Ⅰｄ類1点、Ⅱａ類4点、Ⅱｂ類58点、Ⅱｃ類23点、Ⅱｄ類10点、Ⅲｂ類5点、Ⅲｃ類2点、Ⅲｄ類5点、Ⅳ類7点、不明16点となっている。

石製品（第48図、図版22）

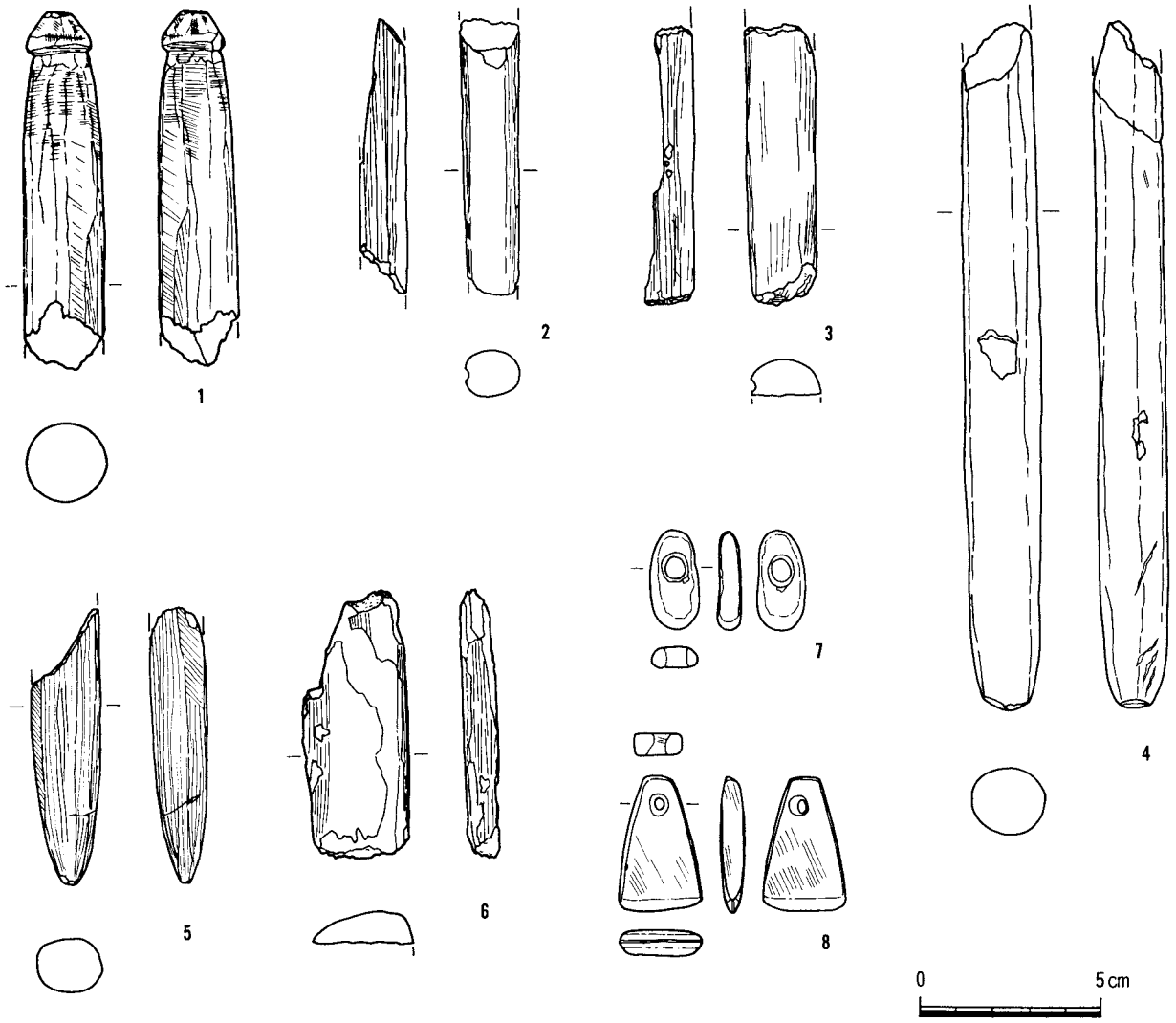
総数13点出土している。刀剣形石製品11点と石製装身具2点である。刀剣形石製品は、石棒5点、石刀3点、不明3点である。1～5は石棒である。1は先端部がくびれて頂部を作りだしている。頂部の先端は面取りされている。くびれから下は横位の研磨痕が顕著であり、稜線が縦にはっきりと走る。2・3は峰部に樋が入る。縦方向の研磨痕が見られる。4は端部が面取りされている。5は先細りで、研磨痕が顕著である。6は石刀である。残存状況は悪いが峰部はしっかり面取りされている。

7・8は垂飾である。8は定角式磨製石斧状の垂飾である。刃部は鋭利さに欠けている。わずかに研磨痕が見られる。両面穿孔である。

1）分類に関しては、五味原遺跡群（岐阜県大野郡丹生川村）の発掘調査報告例を参考にした（上嶋ほか1997）。



第47図　石器類(10)磨石・凹石・敲石類



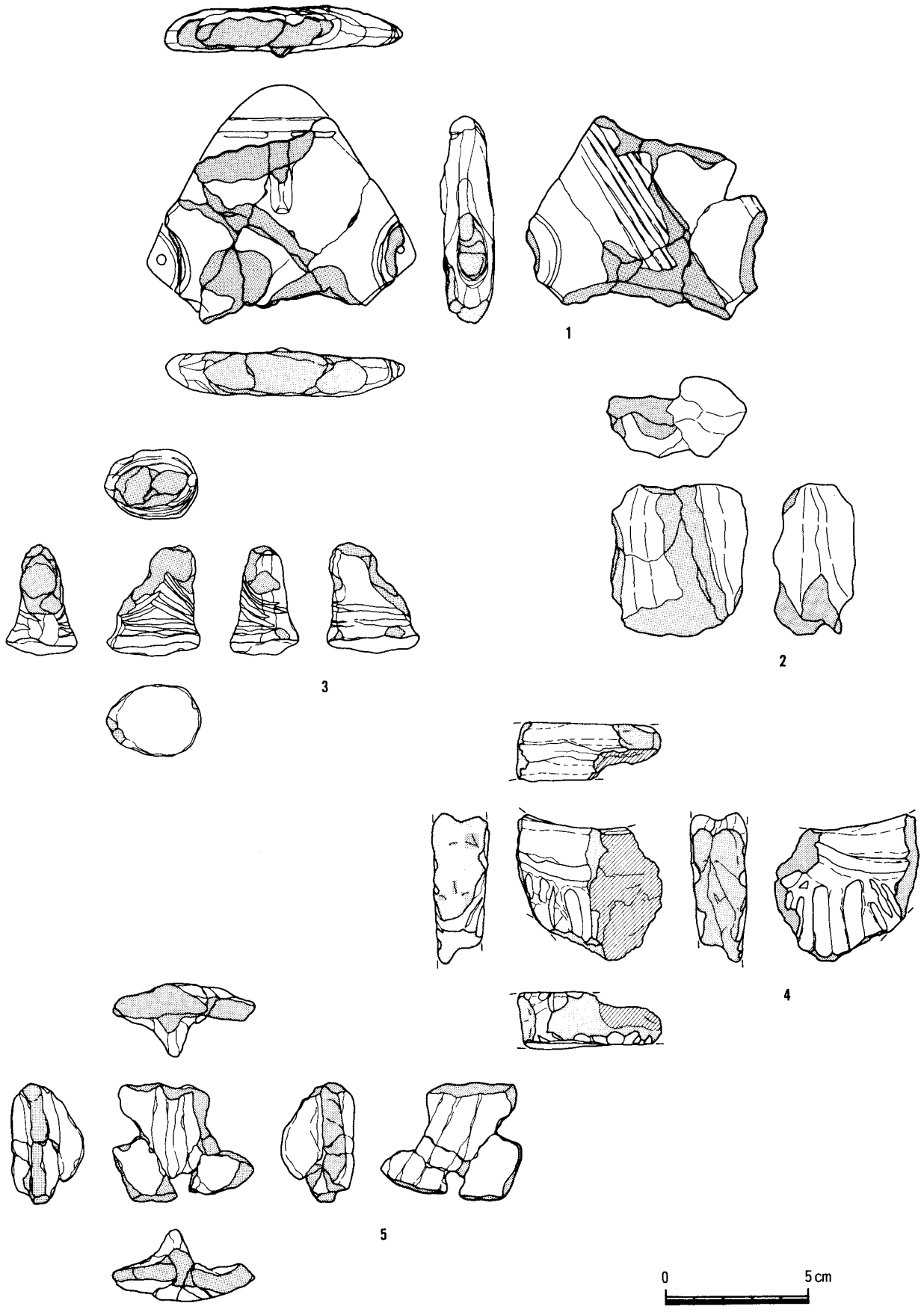
第48図　石 製 品

第3節　土製品

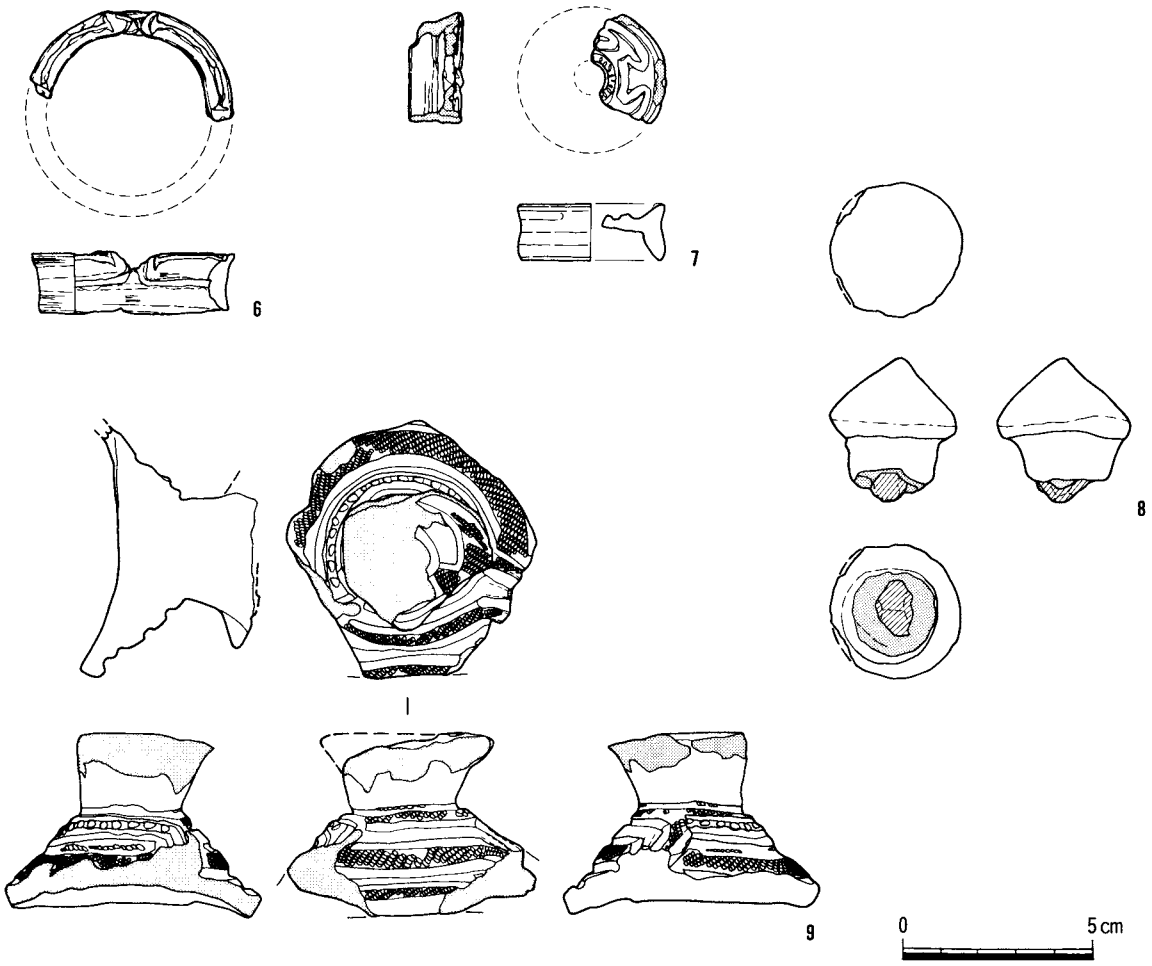
縄文時代の土製品は、土偶、土製耳飾り、その他の土製品である。

土偶（第49図1～5、図版22）

土偶は、破片数で7点出土しているが、個体数では3点である。1～3は3D区で出土した同一個体である。形態から見て縄文後期のものであろう。1は頭部であるが、山形の頭部は欠損している。首の部分の形状から見て菱形に近い形態の頭部かもしれない。左側の眉と思われる隆帯が一部残っている。鼻の部分とつながりT字形の隆帯があったと推定される。耳の部分は2条の沈線が弧状に引かれ、左耳の部分には穿孔の痕跡が見られる。後面には、左上から右下に3条の沈線が引かれている。2は、部位は不明であるが、左腕部の可能性がある。向かって左側に低い隆帯が縦位にあり、その右側は欠失しているが、隆起した状態である。3は左脚部である。わずかに裾広がりで、接地面はやや丸みを持っている。表面には沈線が綾杉条に引かれ、その下には2条の沈線が裏面まで回っている。



第49図　土製品(1)



第50図　土製品(2)

4は6E区で出土した。おそらく右腕部であろう。上面に沈線があり、表面・裏面ともに沈線が1条横方向に引かれ、その下に縦方向に沈線が並ぶ。胎土等から見て縄文中期のものであろう。

5は5B区で出土した。右胸部であろう。偏平で細長い隆起が乳房と思われる。背面に右上から左下方向に隆起した部分がある。全体に薄手である。

土製耳飾り（第50図6・7、図版22）

2点出土している。いずれもいわゆる滑車形のものである。6は接合資料である。SK64から出土している。外径5.5cm、内径4.2cm、装着部外径4.9cmである。上面に三叉文が連続している。三叉文の間の文様は、接合部で表面が欠失していたため不明である。内面に三叉文に対応して沈線が引かれている。三叉文および沈線内に赤色顔料が付着している。文様から見て晩期前半のものであろう。7は3E区で出土した。外径3.8cm、内径0.7cm、装着部外径3.7cmである。陽刻技法により文様を浮き上がらせている。中心部の縁には刺突が連続する。凹部の一部に赤色顔料が残っている。縄文晩期後葉のものと推定される。

その他の土製品（第50図8・9、図版22）

不明の土製品が2点出土している。8はピット5から出土した。円錐状の傘が付いた形態をしている。根元はソケット状である。土器の突起部の可能性もある。土製品ならば茸形土製品の一種かもしれない。9は5D区で出土した。当初、縄文晩期の蓋と想定していたが、実測図正面下端の状況から見て、器形が単純な円形をなさないことから蓋の可能性は少なくなった。また、台付き土器の可能性も検討したが、実測図上方の面の様子から見て、台付き土器の可能性もないことが判明した。従って不明の土製品として扱うことにした。裏面は湾曲して高まっており、頂部は平である。突起部の下に隆帯と沈線がまわり縄文が施されている。隆帯上に連続刺突が半周する。突起部上面にも沈線と縄文が一部残っている。

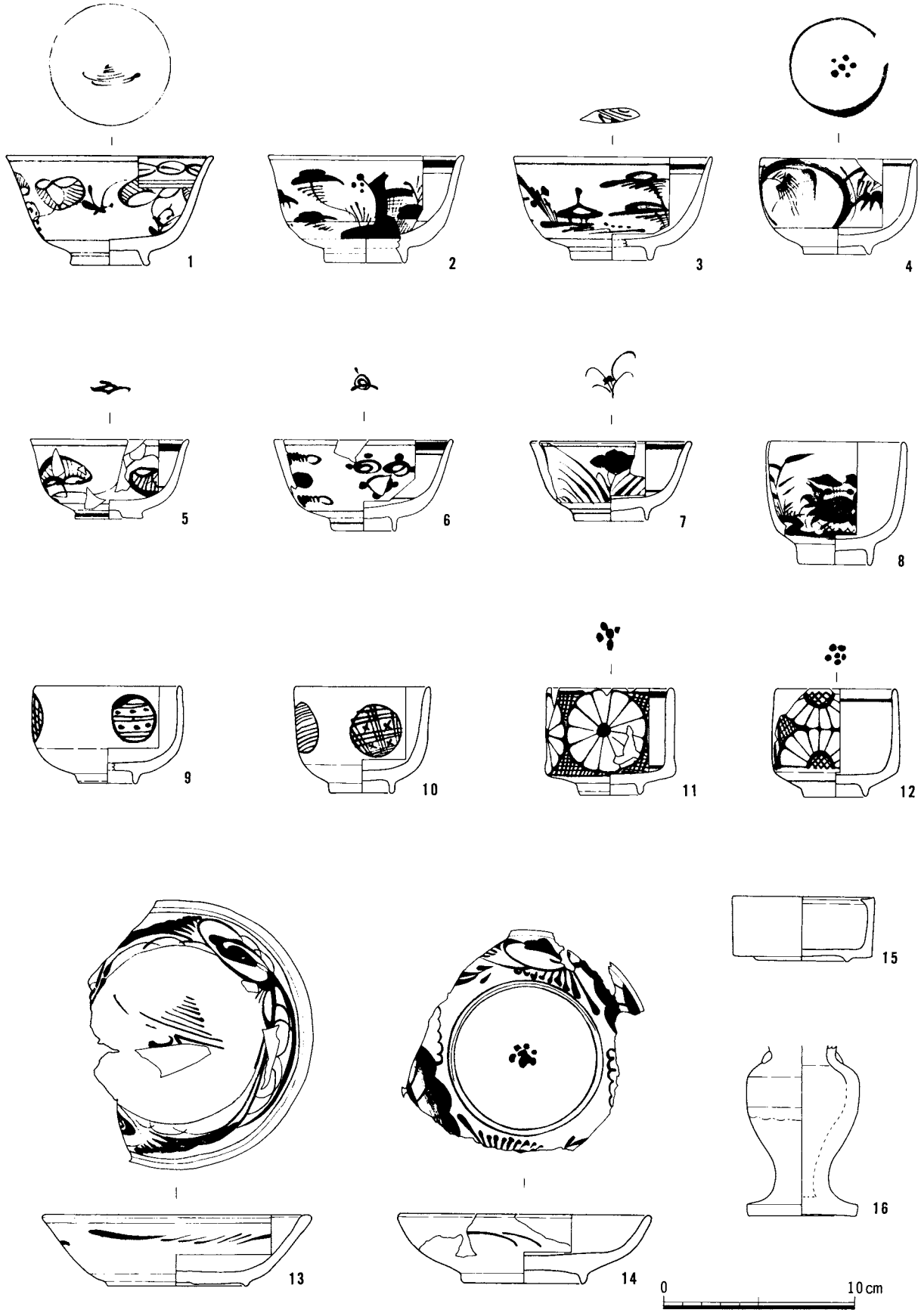
第4節　陶磁器

5C区から6C区のあたりは、撹乱が激しく縄文時代の遺構は検出されなかったが、近世の陶磁器が出土している。また、3B区のあたりからも少し出土している。時期は18世紀後半から幕末までのものと考えられる。磁器類は透明釉で、文様はすべて呉須による。法量および文様は第4表にまとめた。

1～3は染付端反碗である。4～10は染付湯呑である。11・12は箱型湯呑である。13・14は染付皿である。15は重ね物で、灰釉がかかっている。16は仏花瓶で上方に灰釉、下方に柿釉が施してある。

第4表　陶磁器一覧表

番号	器種	地区	法量（cm）			文様	釉薬	備考
			口径	底径	器高			
1	染付端反碗	6C	11.0	4.2	5.7	体部外面に河骨、口縁部内面円文繋ぎ、底部内面に島	透明釉	
2	染付端反碗	6C	10.2	4.4	5.6	体部外面不明	透明釉	
3	染付端反碗	6C	10.4	4.3	5.4	体部外面に海浜風景、底部内面に帆船	透明釉	
4	染付湯呑	6C	8.1	3.5	5.0	体部外面に竹林、底部内面に梅	透明釉	
5	染付湯呑	6C	8.4	3.5	4.2	体部外面に河骨、底部内面不明	透明釉	
6	染付湯呑	6C	9.4	4.8	3.4	体部外面、底部内面文様不明	透明釉	
7	染付湯呑	3B	8.5	3.8	4.3	体部外面、底部内面不明	透明釉	
8	染付湯呑	2B	7.2	3.8	6.5	体部外面に蟹と草	透明釉	
9	染付湯呑	6C	7.8	3.2	5.1	体部顔面に丸文	透明釉	
10	染付湯呑	6C	7.2	3.4	5.6	体部外面に丸文	透明釉	
11	箱型湯呑	6C	6.6	3.1	5.6	体部外面に菊花つなぎ、斜格子、底部内面五弁花	透明釉	
12	箱型湯呑	3B	6.4	3.4	3.7	体部外面に半菊花、斜格子、底部内面五弁花	透明釉	
13	染付皿	6C	14.0	7.4	3.7	体部内外面不明、底部内面帆船	透明釉	
14	染付皿	6C	13.4	6.4	3.6	体部内外面不明、底部内面五弁花	透明釉	
15	重ね物	6C	7.4	4.8	3.4		灰釉	
16	仏花瓶	6C	－	5.8	－	頸部外面下方2か所に粘土粒貼り付け	灰釉・柿釉	



第51図　陶 磁 器

第5節　動物遺存体

包含層掘削の際、3B区から獣骨が集中的に出土した。また、土坑および竪穴状遺構（SB2）からも獣骨が出土した。細片等一部の資料を除いて、京都大学霊長類研究所の本郷一美氏に同定を依頼した。以下はその報告である。

湯屋遺跡出土の動物遺存体

(1) はじめに

湯屋遺跡は岐阜県益田郡小坂町湯屋にあり、小坂川の支流である大洞川の右岸段丘上に位置する。遺跡の調査は平成9年8月から10月まで行われ、縄文時代中期および後期の遺構が検出された。

(2) 動物遺存体資料

湯屋遺跡の動物遺存体資料は土坑（SK38, 57, 58, 65, 68)、竪穴状遺構（SB2)、および3B区から出土したものである。3B区出土のものは、№22の3点をのぞき、1m×1.5mほどの範囲に集中して出土した。計117点の破片が出土したが、接合できるものがあり、最終的な資料数は111点となった。

湯屋遺跡出土の動物遺存体の大部分が火を受け灰化している。全く火を受けた痕跡がないのは、竪穴状遺構（SB2）から出土したものの一部である6点のみであった。これらの焼骨は灰白色を呈している。焼骨の色は、火を受けたときの骨の新鮮さ軟部組織の残り具合にも左右されるため、色の観察のみから一概に論ずることはできないが、このように灰白色に変色するのは摂氏645度から940度ぐらいの火で焼かれた場合である（Shipman 1984)。湯屋遺跡出土の資料は均質に焼けており、おそらくすでに軟部組織がほとんどついていない状態でたき火や炉に投げすてられるなどして高温の火にさらされたのであろう。高温で焼かれ灰化した骨は特に土中での保存が良いということも、湯屋遺跡から出土した動物遺存体の大部分がこのような焼骨である理由の一つであろう。なお、3B区出土のもののうち2点は火を受けてはいるが、灰白色の変色はみられず。やや低温で焼けたもののようである。

(3) 同定された動物種および出土部位

動物遺存体の同定結果を第6表にまとめた。第5表に、種ごとの破片数を集計した。同定された動物種は、イノシシ（Sus scrofa）がもっとも多く32点、ニホンジカ（Cervus nippon）6点であった。そのほか、おそらくイノシシと思われる破片とシカと思われる破片が各2点、カモシカ(Capricornis crispus）の可能性のある肩甲骨片が1点、カモシカまたはシカ3点が同定された。未同定の破片は65点で、うち中型ほ乳類（イノシシ、ニホンジカ、カモシカ程度の大きさ）のものがもっとも多く55点あり、小－中型ほ乳類（犬程度の大きさ、若年のイノシシ、シカ、カモシカも含まれる）が5点、小型ほ乳類（ウサギ程度の大きさ）1点、種不明の鳥の骨が1点含まれていた。そのほか、部位、動物の大きさともに不明の小破片が3点あった。

土坑および竪穴状遺構から出土した動物遺存体には、ニホンジカとイノシシの両方が含まれている。

この中には、四肢骨の破片が多い。一方、3B区から出土したものは大部分がイノシシの頭部の小破片である。上顎骨犬歯窩のサイズからみて、これらはオスとメスが混ざっている。3B区出土のイノシシの最小個体数は2個体である。種の同定ができなかった小破片も、おそらく同じ個体に由来する頭部の破片であろう。そのほか、ニホンジカの骨が2点、シカあるいはカモシカと思われる頭部および下顎骨の破片が3点出土している。

(4) 解体痕

土坑SK58から出土したニホンジカの上腕骨に解体痕がみられた。近位側の骨幹、大結節稜の付近に、水平方向に2ミリほどの短い傷が繰り返しつけられている。石器を用いて肉を切り取る際についた傷であろう。

(5) 結　論

土坑および竪穴状遺構から出土した動物遺存体は、四肢骨の破片を多く含み、解体痕がついたものも含まれていることから、解体、調理され、肉が消費された後に残された骨の破片が捨てられたのであろう。一方3B区から集中して出土した動物遺存体は、頭部の破片が大部分であり、わずかに頚椎と下肢の骨が混じっているが、肉の多い部位の骨は含まれていない。3B区から出土した動物遺存体は、解体の後、頭部だけが破棄されたものであろう。湯屋遺跡から出土した動物遺存体資料の大部分が強い火を受けて細破片となっているにもかかわらず、出土地点である土坑や竪穴状遺構、3B区には特に火を使った痕跡はみられないことから、これらの動物遺存体は二次的な堆積過程により出土地点に運ばれたと考えられる。

第5表　湯屋遺跡出土の動物遺存体：種構成

動物種	破片数
イノシシ	32
イノシシ？	2
ニホンジカ	6
ニホンジカ？	2
カモシカ？	1
ニホンジカまたはカモシカ	3
中型ほ乳類	55
小型－中型ほ乳類	5
小型ほ乳類	1
鳥類？	1
種不明	3
合　計	111

参考文献

Shipman, P., G. Foster, and M. Shoeninger (1984) Burnt Bones and Teeth:an Experimental Study of Color, Morphology, Crystal Structure and Shrinkage. Journal of Archaeol ogical Science 11, pp.307－325.

加藤嘉太郎、山内昭二 (1995)「改著　家畜比較解剖図説」養賢堂

第6表　湯屋遺跡出土の動物遺存体の同定結果

番号	出土地点	出土状況	層位	時　代	取り上げ番号	部　位	左右	破　片	動　物　種	備　考　1　(解体痕など)	備考2	点数
1	SK38	土坑		縄文後期	(一括)	大腿骨	右	遠位端	イノシシ	焼骨(灰化)		1
2	SK57	土坑		縄文後期	(一括)	尺骨	右	骨幹遠位部	シカ？	焼骨(灰化)		1
2	SK57	土坑		縄文後期	(一括)	部位不明の長骨		骨幹部破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		2
3	SK58	土坑		縄文後期	4217	脛骨	左	骨幹近位部	シカ	焼骨(灰化)		1
3	SK58	土坑		縄文後期	4217	上腕骨	右	骨幹、大結節稜	シカ	焼骨(灰化)、解体痕:骨幹に垂直、短い、繰り返し		1
3	SK58	土坑		縄文後期	4217	肩甲骨	左	肩峰	カモシカ？	焼骨(灰化)		1
3	SK58	土坑		縄文後期	4217	中手／中足骨		骨幹部破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
3	SK58	土坑		縄文後期	4217	部位不明の長骨		骨幹部	鳥？	焼骨(灰化)		1
4	SK65	土坑		縄文中期	(一括)	種子骨			中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
4	SK65	土坑		縄文中期	(一括)	基節骨		近位端	イノシシ	焼骨(灰化)		1
4	SK65	土坑		縄文中期	(一括)	部位不明の長骨		骨幹部破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
5	SK68	土坑		縄文後期	4227	中節骨		遠位端	シカ	焼骨(灰化)	3点接合	1
5	SK68	土坑		縄文後期	4227	部位不明の長骨		骨幹部破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
6	SK68	土坑		縄文後期	4281	部位不明の長骨		骨幹部破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
7	SB2	竪穴状遺構			4235	頚椎		後関節突起	中型ほ乳類	焼骨		1
7	SB2	竪穴状遺構			4235	部位不明		破片	中型ほ乳類	焼骨		3
8	SB2	竪穴状遺構			4236	部位不明		破片		焼骨(灰化)		1
9	SB2	竪穴状遺構			4241	中足骨（第Ⅳ）	左	近位端および骨幹	イノシシ	焼骨(灰化)		1
10	SB2	竪穴状遺構			(一括)	上腕骨？		遠位骨幹？	中型ほ乳類			1
10	SB2	竪穴状遺構			(一括)	軸椎		前関節突起・椎窩	シカ			2
10	SB2	竪穴状遺構			(一括)	頭頂骨			イノシシ？		若年個体	1
10	SB2	竪穴状遺構			(一括)	部位不明の長骨		骨幹部破片	中型ほ乳類		若年個体	1
10	SB2	竪穴状遺構			(一括)	部位不明		破片	中型ほ乳類			1
11	3	B		Ⅱ	1401	下顎骨		下顎体(臼歯縁)	シカまたはカモシカ	焼骨(灰化)		1
11	3	B		Ⅱ	1401	部位不明			中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
12	3	B		Ⅱ	1608	側頭骨	左	頬骨突起	イノシシ	14番と接合・焼骨(灰化)		1
12	3	B		Ⅱ	1608	頬骨側頭突起	右		イノシシ	焼骨(灰化)		1
12	3	B		Ⅱ	1608	上顎骨	右		イノシシ	焼骨(灰化)		1
12	3	B		Ⅱ	1608	頬骨側頭突起	左		イノシシ	焼骨(灰化)		1
13	3	B		Ⅱ	1609	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		2
13	3	B		Ⅱ	1609	下顎骨	右	下顎体(切歯部)	イノシシ	焼骨(灰化)		1
13	3	B		Ⅱ	1609	部位不明		破片		焼骨(灰化)		1
14	3	B		Ⅱ	1610	側頭骨	左	頬骨突起	イノシシ	12番と接合・焼骨(灰化)		1
14	3	B		Ⅱ	1610	鼻骨			イノシシ	焼骨(灰化)		1
14	3	B		Ⅱ	1610	前頭骨		破片	イノシシ	焼骨(灰化)		1
14	3	B		Ⅱ	1610	蝶形骨		右側破片	イノシシ	19番と接合・焼骨(灰化)		1
15	3	B		Ⅱ	1612	側頭骨	左	頬骨突起	イノシシ	焼骨(灰化)		1
15	3	B		Ⅱ	1612	上顎骨	右	犬歯窩	イノシシ	焼骨(灰化)	オス	1
15	3	B		Ⅱ	1612	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		3
16	3	B		Ⅱ	1613	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		4
17	3	B		Ⅱ	1614	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		5
18	3	B		Ⅱ	1615	中手骨		骨幹部破片	シカまたはカモシカ	焼骨(灰化)		1
18	3	B		Ⅱ	1615	部位不明		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
19	3	B		Ⅱ	1616	蝶形骨			イノシシ	14番と接合・焼骨(灰化)		1
19	3	B		Ⅱ	1616	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		5
20	3	B		Ⅱ	1618	角			シカ	焼骨(灰化) 高熱を受け変形		1
20	3	B		Ⅱ	1618	部位不明		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
21	3	B		Ⅱ	1619	肩甲骨		破片	中型ほ乳類	焼骨		2
21	3	B		Ⅱ	1619	環椎			中型ほ乳類	焼骨		1
21	3	B		Ⅱ	1619	後頭骨		後頭顆	イノシシ	焼骨		1
22	3	B		Ⅱ	1620	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		3
22	3	B		Ⅱ	1620	後頭骨	左	頚動脈突起	イノシシ	焼骨(灰化)		1
23	3	B		Ⅱ	1723-1	側頭骨	右	頬骨突起	イノシシ	焼骨(灰化)		1
23	3	B		Ⅱ	1723-1	後頭骨	左	項陵部	イノシシ	焼骨(灰化)		1
24	3	B		Ⅱ	1723-2	側頭骨	右	側頭窩	イノシシ	焼骨(灰化)		1
24	3	B		Ⅱ	1723-2	前頭骨	右	眼窩部	イノシシ	焼骨(灰化)		1
24	3	B		Ⅱ	1723-2	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
25	3	B		Ⅱ	1724-1	鼻骨	右		イノシシ	焼骨(灰化)		2
25	3	B		Ⅱ	1724-1	側頭骨	左	側頭窩	イノシシ	焼骨(灰化)		1
25	3	B		Ⅱ	1724-1	環椎	左	前関節窩	イノシシ？	焼骨(灰化)		1
26	3	B		Ⅱ	1724-2	上顎骨	右		イノシシ	オス・焼骨(灰化)	2点接合	1
26	3	B		Ⅱ	1724-2	上顎骨			イノシシ	焼骨(灰化)		2
26	3	B		Ⅱ	1724-2	鼻骨			イノシシ	焼骨(灰化)		1
26	3	B		Ⅱ	1724-2	部位不明		破片		焼骨(灰化)		1
27	3	B		Ⅱ	1724-3	部位不明の長骨		骨幹部	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
27	3	B		Ⅱ	1724-3	上顎骨	左	犬歯窩	イノシシ	オス・焼骨(灰化)		1
27	3	B		Ⅱ	1724-3	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		2
27	3	B		Ⅱ	1724-3	後頭骨			中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
28	3	B		Ⅱ	1725	頭頂骨	右		イノシシ	焼骨	2点接合	1
28	3	B		Ⅱ	1725	頭頂骨			イノシシ	焼骨(灰化)		1
28	3	B		Ⅱ	1725	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
29	3	B		Ⅱ	1726	頭部		破片	小－中型ほ乳類	焼骨(灰化)		2
29	3	B		Ⅱ	1726	側頭骨		破片	シカまたはカモシカ	焼骨(灰化)		1
30	3	B		Ⅱ	1727	上顎骨	左	犬歯窩	イノシシ	メス？・焼骨(灰化)		1
30	3	B		Ⅱ	1727	頭部		破片	小－中型ほ乳類	焼骨(灰化)		3
31	3	B		Ⅱ	1728	頚椎		前関節突起	イノシシ	焼骨(灰化)		1
32	3	B		Ⅱ	1729	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
32	3	B		Ⅱ	1729	頭部		破片	小型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
32	3	B		Ⅱ	1729	椎骨		椎体破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
32	3	B		Ⅱ	1729	椎骨？		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		2
33	3	B		Ⅱ	1974	部位不明の長骨		骨幹部	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
33	3	B		Ⅱ	1974	椎骨		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
33	3	B		Ⅱ	1974	頭部		破片	中型ほ乳類	焼骨(灰化)		1
33	3	B		Ⅱ	1974	口蓋骨		水平板	シカ？	焼骨(灰化)		1
33	3	B		Ⅱ	1974	側頭骨	右	頬骨突起	イノシシ	焼骨(灰化)		1
												計111

第5章　まとめ

第1節　発掘調査の成果

湯屋遺跡の発掘調査の概要は、前章までで述べた通りである。本章では、今回の発掘調査の成果をまとめ、遺構および縄文土器について若干の検討を加えることにする。

湯屋遺跡は、大洞川右岸の段丘上に立地するが、冨士神社の境内を中心に遺跡が広がっていると推定される。今までに行われた発掘調査は神社の前の道路拡幅部のみである。ここからは、縄文中期後半の竪穴住居跡が6軒検出されている。今回の調査地点では明確な住居跡は検出されなかった。おそらく住居は、神社境内方面に広がっていたのではないかと推定される。それに対して、今回の調査地点は、土坑、ピットおよび立石がまとまって見つかっていることから、集落の中の居住区域ではなく、別の機能を果たす地点であったのであろう。骨は出土したものの獣骨ばかりであったので、課題は残るが、墓域の一部であった可能性は否めない。

出土遺物に関しては、調査面積の割りには大量の遺物量であった。点数で最も多いのは下呂石のフレイク類である。産地に近いということが大きい理由であるが、石材供給の拠点的な地点であった可能性もある思われる。土器に関しては、今まで知られていたように、縄文中期前半の土器が少しあり、中期後半以降のものが多く、さらに晩期のものが少量出土した。ただ、今回の発掘調査では、後期の土器が多く出土した点が注目される。周辺の遺跡では、後期中葉から後葉の資料がそれほど多く無かったが、今回、比較的まとまって出土している。加曽利B1式の段階から各段階の土器があるが、関東系、関西系、東海系のものが、それぞれ出土している。後葉になると、羽状沈線文系の土器が多くなる。さらに、後葉の瘤付土器の出土が注目される。飛騨地方では出土例がほとんど知られていないものである。

今回の調査地点は宅地であり、明治期に建てられた家屋の取り壊し後の調査であった。近世の遺構に関してはしっかり捉えることができなかったが、18世紀後半から幕末にかけての陶磁器が出土している。図示しえたのは、碗類と湯呑類が主であるが、近世の遺跡の発掘調査が少ない飛騨地方では、貴重な資料となろう。

第2節　土坑について

検出された遺構のうち土坑について時期を推定し図示したのが第52図である。遺構番号をつけて検出したものでも、極端に浅いものなど土坑として認められないものは省略した。調査区の南方は5C区から6C区のあたりの撹乱が激しく土坑の存在は不明である。西北部にも、一部撹乱された所があるが、全体的に遺構が少なく、穴があっても小規模なピットである。

土坑については、時期不明のものも多いが、中期後半と後期前葉のものが多く、後期中葉以降は激

減する。巨視的に見れば、中期後半はやや東よりに多く、後期前葉になると全域に広がっているようである。立石を伴う土坑（ＳＫ11・ＳＫ41）が中期後半と推定されるが、もし立石を中期後半のものと考えると、調査区の北東から南西にかけて、立石および立石を伴う土坑を結ぶような形で直線を結ぶことができる。そして、このラインを挟んで東側と西側で、土坑の密集度が異なり、集落の中での何らかの区分があったことが予想される。

第52図　土坑および立石の配置

第3節　縄文土器について

今回の発掘調査では、縄文中期から晩期までの各時期の土器が出土したが、後期後半の土器が比較的多く出土した点が注目される。飛騨地方の該期の土器編年については、今まであまり研究されていない。分水嶺を境として飛騨地方北部では、吉城郡河合村の室屋遺跡で後期から晩期の資料があり、編年的に分析されている（増子1971)。また、大野郡丹生川村五味原遺跡群の西田遺跡でかなりまとまった資料が出ている。それに対して飛騨地方南部では、後期後半の土器がまとまって出土した遺跡は少なく、今回の発掘調査は該期の土器について段階を追って知ることができる数少ない遺跡である。

この時期の編年についは、関西では、元住吉山Ⅰ式、元住吉山Ⅱ式、宮滝式、滋賀里Ⅰ式という枠組みがある。また、関東では、加曽利Ｂ３式、曽谷式、安行Ⅰ・Ⅱ式と型式編年が組まれている。これらの対応関係は部分的にはまだよくつかめていない。飛騨地方の該期の土器を検討する際に、信州方面との関係は重要であろう。百瀬長秀氏は羽状沈線文系の土器について７段階に区分した（百瀬1984)。ここで関連して来るのは第２段階から第５段階までであろう。また、安孫子昭二氏の「高井東様式大波状口縁深鉢」の分析によれば、第Ⅰ段階から第Ⅴ段階が該当する時期となる（安孫子1993)。これらを参考に、飛騨地方南部の縄文後期後半の土器について、次のように大きく４段階に区分してみたい。

第Ⅰ段階

大野郡久々野町藤原遺跡から出土した土器（第53図１・２）は、百瀬編年の第２段階に相当すると考えられる。湯屋遺跡ではⅡ群２ｅ類がこの段階のものであろう。

第Ⅱ段階

湯屋遺跡Ⅱ群３ａ類が相当する。益田郡小坂町南垣内遺跡出土の土器のうち、後期後半のもの（第53図３・４）がここに位置付けられるであろう。

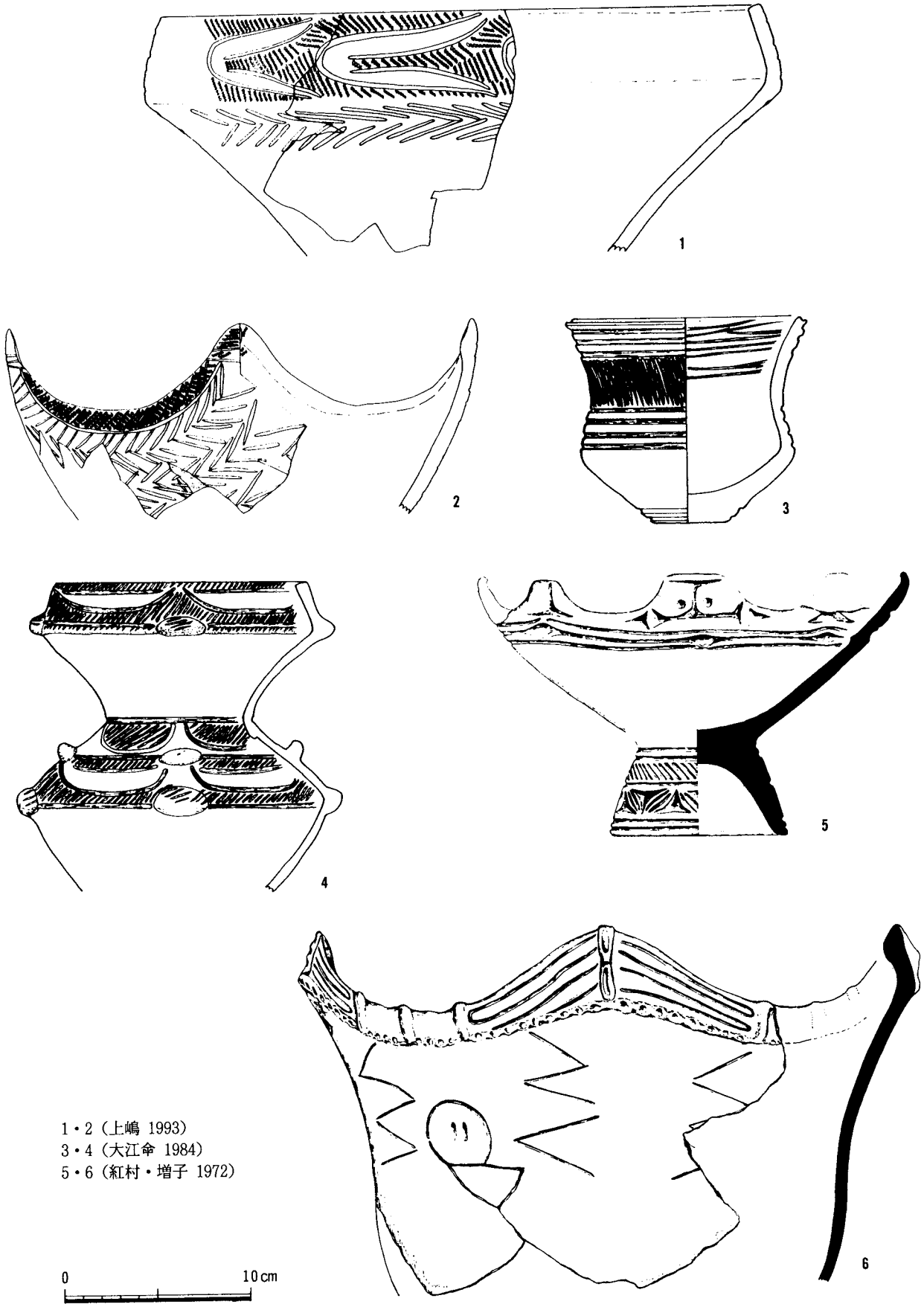
第Ⅲ段階

百瀬編年の第４段階に相当する。湯屋遺跡Ⅱ群３ｂ・３ｃ類が相当し、瘤付土器もここに位置する。湯屋遺跡Ⅱ群３ｄ～３ｆ群の位置づけは不明である。

第Ⅳ段階

益田群萩原町横倉遺跡出土の土器（第53図５・６）が後期末から晩期初頭にかけての好資料である。湯屋遺跡では、Ⅱ群３ｇ類が相当する。

以上のような段階を設定した場合、第Ⅲ段階以降、北方からの影響が次第に強くなる傾向にあり、それに対応して、信州方面の影響が次第に弱まって行くとも言える。より詳細な分析は今後の課題としたい。



第53図　飛騨地方南部の縄文後期後半の土器

引用・参考文献

安孫子昭二　1993「「高井東様式大波状口縁深鉢」の編年と分布」『東京考古』11

大江錦舟　1956「湯屋遺跡について」『飛騨春秋』2－3

大江　命　1957「飛騨における無底部土器について」『古代学研究』17

1962「岐阜県小坂町上垣内遺跡」『日本考古学年報』11

1965『飛騨の考古学Ⅰ』

1978『水口遺跡　ソラ遺跡』小坂町教育委員会

1983『鹿山　中重』小坂町教育委員会

1984『南垣内遺跡Ⅰ』小坂町教育委員会

大参義一　1972「第三章　縄文時代」『岐阜県史』通史編原始

角川日本地名大辞典編集委員会　1978『角川日本地名大辞典』21岐阜県

岐阜県教育委員会　1990『改定版　岐阜県遺跡地図』

紅村　弘・増子康真　1972『飛騨横倉』萩原町教育委員会

後藤信祐　1986・1987「縄文後晩期の刀剣形石製品の研究(上・下)」『考古学研究』131・132

上嶋善治　1993『藤原遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

1994「第1章　遺跡の立地と歴史的環境　第2節　歴史的環境」『阿弥陀堂遺跡・深作裏垣内遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

1995『岡前遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

上嶋善治ほか　1997『カクシクレ遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

鈴木道之助　1981『図録石器の基礎知識Ⅲ』

谷藤保彦・関根慎二 編　1996a『第9回縄文セミナー　後期中葉の諸様相』縄文セミナーの会

中部高地縄文土器集成グループ　1979『中部高地縄文土器集成』第1集　縄文中期後半の部その1

土田吉左衛門 編　1987『飛騨の神社』

寺内隆夫・野村一寿　1988「中期後葉土器」『長野県史考古資料編』全1巻(4)

所　三男 監修　1989『岐阜県の地名』平凡社

戸沢充則 編　1994『縄文時代研究事典』

戸田哲也　1993「飛騨を中心とした縄文後期前半土器の様相」『先史考古学研究』第4号

野村宗作ほか　1994『荒城神社遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

林　魁一　1938「岐阜縣に於ける住居跡と思はる石器時代遺跡及び石の蓋ありし縄文土器發見に就いて」『考古学論叢』9

飛騨考古土俗学会 編　1935『飛騨石器時代遺蹟地名表』

藤田英博ほか　1994『阿弥陀堂遺跡・深作裏垣内遺跡』㈶岐阜県文化財保護センター

増子康真　1974「1.室屋遺跡」『下小鳥ダム関係埋蔵文化財調査報告書』河合村教育委員会

1978『東海先史文化の諸段階（資料編Ⅱ）』

1981「第3章　東海地方西部の縄文文化」『東海先史文化の諸段階』本文編　補足改定版

1992「宮田式土器細別（試論）」『どっこいし』第40号

1995『クダリヤマ遺跡』稲武町教育委員会

百瀬長秀　1984「羽状の沈線をもつ土器の系統と展開」『長野県考古学会誌』49

1996「羽状沈線文系土器群の様相――長野県・山梨県の縄文後期中葉の土器――」『第9回縄文セミナー　後期中葉の諸様相――記録集――』

米沢義光　1989「気屋式土器様式」『縄文土器大観』第4巻

第7表　石器一覧表（単位はcm）

石鏃

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	2 A	Ⅱ	下呂石	(2.0)	1.4	0.3	(0.5)	1 C	b		
2	2 B	Ⅰ	下呂石	(1.9)	1.4	0.3	(0.6)	1	h		
3	2 B	Ⅰ	下呂石	2.6	1.2	0.3	0.7	2 F			
4	2 B	Ⅰ	下呂石	1.1	1.1	0.2	0.3	A	a		
5	2 B	Ⅰ	下呂石	(1.4)	1.3	0.2	(0.2)	1 C	a		
6	2 B	Ⅰ	下呂石	1.8	(1.4)	0.2	(0.4)		f		
7	2 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	1.6	0.3	(1.0)		i		
8	2 C	Ⅰ	下呂石	(1.4)	(1.5)	0.3	(0.5)		d		
9	2 C	Ⅰ	下呂石	(2.2)	1.6	0.4	1.3		a		
10	2 C	Ⅰ	下呂石	1.5	1.3	0.3	0.5	1 C			
11	2 C	Ⅰ	下呂石	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.6)		g		
12	2 C	Ⅰ	下呂石	(2.5)	1.1	0.7	1.6	1 F	b		
13	2 C	Ⅰ	下呂石	(2.4)	(1.9)	0.4	(1.7)		h		
14	2 C	Ⅰ	下呂石	2.0	(2.0)	0.5	(1.0)		b		
15	2 C	Ⅱ	黒曜石	(1.2)	(1.1)	0.3	(0.4)		e		
16	2 D	Ⅰ	下呂石	2.4	(1.2)	0.3	(0.6)	1 C	b		
17	2 D	Ⅱ	下呂石	2.5	(1.5)	0.4	1.1	5 D	b		
18	2 E	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.5)	0.4	(0.6)	1 C	b		
19	2 E	Ⅱ	下呂石	2.0	(1.2)	0.3	(0.4)	1 C	b		
20	2 E	Ⅱ	下呂石	(1.0)	1.0	0.2	(0.2)		a		
21	3 A	Ⅱ	下呂石	3.9	1.8	0.5	3.7	2 E		38－22	
22	3 A	Ⅱ	下呂石	2.8	1.2	0.5	1.3	2 F			
23	3 A	Ⅱ	下呂石	2.3	1.6	0.5	0.9	1 C			
24	3 A	Ⅱ	下呂石	3.0	(1.8)	0.6	(2.8)		b		
25	3 A	Ⅱ	下呂石	1.7	1.3	0.3	0.5	1 C			
26	3 A	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.2)	0.4	(0.5)		e		
27	3 A	Ⅱ	下呂石	(1.6)	1.1	0.4	0.6		a		
28	3 A	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.0)	0.3	(0.5)	1	g		
29	3 A	Ⅱ	下呂石	(1.1)	1.6	0.3	(0.3)	1 C	b		
30	3 B	Ⅰ	下呂石	2.3	1.3	0.3	0.9	5 C			
31	3 B	Ⅰ	下呂石	(3.0)	1.5	1.6	(2.4)	F	a		
32	3 B	Ⅰ	下呂石	(2.8)	1.0	0.6	(1.5)	2 C	g		
33	3 B	Ⅰ	下呂石	1.0	0.8	0.2	0.1	1 C			
34	3 B	Ⅰ	下呂石	2.1	1.9	0.3	1.7	1 D			
35	3 B	Ⅰ	下呂石	3.1	1.8	0.5	2.5	1 F		38－17	
36	3 B	Ⅰ	下呂石	(2.5)	1.0	0.5	(0.9)	2 F	b		
37	3 B	Ⅰ	下呂石	(1.9)	(1.4)	0.4	(0.9)		e		
38	3 B	Ⅰ	下呂石	(2.2)	1.4	0.4	(1.0)	4	h		
39	3 B	Ⅰ	下呂石	2.4	(1.4)	0.3	(0.8)	1 C	b		
40	3 B	Ⅰ	下呂石	2.8	1.8	0.8	3.8	5 D			
41	3 B	Ⅰ	下呂石	2.7	(1.1)	0.2	(0.3)	1	b		
42	3 B	Ⅰ	下呂石	1.7	(1.1)	0.3	0.5	1 C	b		
43	3 B	Ⅱ	下呂石	2.3	2.2	0.3	1.8	1	h		
44	3 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.6	0.4	1.0	1 C			
45	3 B	Ⅱ	下呂石	2.6	1.3	0.4	1.4	5 C			
46	3 B	Ⅱ	下呂石	(0.6)	1.7	0.3	(0.5)	C	a		
47	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.7)	(1.5)	(0.5)	(0.9)	B	f		
48	3 B	Ⅱ	下呂石	2.3	0.9	0.3	0.7	4 F		38－30	
49	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.4)	(1.8)	0.5	(2.2)	1	h		
50	3 B	Ⅱ	下呂石	1.7	1.0	0.2	0.2	1 C			
51	3 B	Ⅱ	下呂石	2.1	1.5	0.5	1.1	1 B			
52	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	(1.7)	0.4	(1.0)	C	e		
53	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	1.4	0.3	0.4	1 C			
54	3 B	Ⅱ	下呂石	2.0	1.3	0.3	0.5	1 C			
55	3 B	Ⅱ	下呂石	2.1	1.7	0.4	1.7	5 D		38－36	
56	3 B	Ⅱ	下呂石	2.0	1.5	0.4	1.3	1 D		38－12	
57	3 B	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.2)	0.2	(0.4)	1 C	b		
58	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.2	0.4	0.6	2 G		38－25	
59	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	1.7	0.4	(1.1)		a		
60	3 B	Ⅱ	下呂石	2.9	1.1	0.4	1.1	4 G		38－31	
61	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	1.6	0.4	(1.1)	1	h		
62	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.5)	1.1	0.3	(0.7)	4 G	e		
63	3 B	Ⅱ	下呂石	2.8	1.6	0.6	2.1	1 B			
64	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.4)	(1.1)	0.3	(0.7)	1	h		
65	3 B	Ⅱ	下呂石	2.1	1.0	0.4	0.7	2 F			
66	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.1)	0.2	(0.3)	1	h		
67	3 B	Ⅱ	下呂石	2.0	0.8	0.4	0.6	1 D			
68	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.0)	1.8	0.4	(0.9)		a		
69	3 B	Ⅱ	下呂石	3.0	1.6	0.6	1.9	4 F		38－29	

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
70	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.0)	(1.2)	0.4	0.5	1	h		
71	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	1.5	0.7	(2.1)		a		
72	3 B	Ⅱ	下呂石	2.2	(1.5)	0.4	(1.0)		b		
73	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.7)	1.0	0.4	(0.8)	2 F	a		
74	3 B	Ⅱ	下呂石	2.8	1.1	0.4	0.9	2 F			
75	3 B	Ⅱ	下呂石	1.6	1.5	0.3	0.5	1 C			
76	3 B	Ⅱ	下呂石	2.3	1.5	0.5	1.6	5 B		38－32	
77	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	(1.4)	0.3	(0.5)		e		
78	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	(1.1)	0.2	(0.6)		b		
79	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	1.2	0.4	(0.9)	1 F	e		
80	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.9)	(1.6)	0.4	(0.9)		e		
81	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.0)	(1.5)	0.5	(1.3)	1	g		
82	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.0)	1.8	0.5	(1.8)		g		
83	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.1)	(1.2)	0.3	(0.6)		a		
84	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.8)	1.2	0.4	(0.7)		e		
85	3 B	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.6)	0.3	(0.8)		e		
86	3 B	Ⅱ	下呂石	1.8	1.8	0.5	1.3		a		
87	3 B	Ⅱ	下呂石	2.1	(1.0)	0.4	(0.5)		f		
88	3 B	Ⅱ	チャート	(2.5)	(1.5)	0.4	(0.8)	1	h		
89	3 B	Ⅱ	黒曜石	(2.0)	(1.4)	0.3	(0.6)	1	f		
90	3 B	Ⅱ	黒曜石	(1.2)	(1.3)	0.2	(0.3)		e		
91	3 C	Ⅰ	下呂石	2.3	1.0	0.3	0.8	4 F			
92	3 C	Ⅰ	下呂石	1.5	1.4	0.2	(0.3)	C	a		
93	3 C	Ⅰ	下呂石	3.0	1.5	0.3	0.7	2 C		38－21	
94	3 C	Ⅰ	下呂石	(2.2)	1.8	0.4	(2.1)	C	a		
95	3 C	Ⅰ	下呂石	1.9	1.5	0.5	1.0	1 B			
96	3 C	Ⅰ	下呂石	2.4	(1.4)	0.4	(1.1)	1 C	b		
97	3 C	Ⅰ	下呂石	(1.2)	(1.2)	(0.2)	(0.3)	C	e		
98	3 C	Ⅰ	下呂石	1.9	(1.5)	0.6	(1.9)	1	b		
99	3 C	Ⅰ	下呂石	2.3	1.5	0.6	1.6		h		
100	3 C	Ⅰ	下呂石	2.1	1.7	0.4	0.9	1 C			
101	3 C	Ⅰ	下呂石	2.4	1.3	0.4	1.0	1 F			
102	3 C	Ⅰ	下呂石	(2.3)	2.6	0.5	(2.8)	B	a		
103	3 C	Ⅰ	下呂石	(1.8)	1.6	0.4	(1.2)		a		
104	3 C	Ⅱ	下呂石	2.4	1.6	0.5	1.3	5 C			
105	3 C	Ⅱ	下呂石	3.0	1.5	0.8	2.9	2 F			
106	3 C	Ⅱ	下呂石	3.1	2.3	1.7	3.8	1 D			
107	3 C	Ⅱ	下呂石	2.1	1.2	0.3	0.6	4 C			
108	3 C	Ⅱ	下呂石	2.7	1.1	0.3	0.9	2 C			
109	3 C	Ⅱ	下呂石	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.5)	1 C	e		
110	3 C	Ⅱ	下呂石	2.6	1.5	0.5	1.2	1 F		38－18	
111	3 C	Ⅱ	下呂石	1.6	1.1	0.3	0.4	1 C			
112	3 C	Ⅱ	下呂石	2.6	(1.7)	0.4	(1.2)	1 C	b		
113	3 C	Ⅱ	下呂石	1.8	1.4	0.2	0.5	1 C			
114	3 C	Ⅱ	下呂石	2.8	1.9	0.8	3.4	1 E			
115	3 C	Ⅱ	下呂石	1.7	1.3	0.2	0.4	1 C			
116	3 C	Ⅱ	下呂石	1.9	1.7	0.5	0.9	1 C			
117	3 C	Ⅱ	下呂石	(2.1)	(1.3)	0.4	0.9		e		
118	3 D	Ⅰ	下呂石	2.6	(1.4)	0.4	(1.1)	1 B	b		
119	3 D	Ⅰ	下呂石	3.9	2.4	0.8	6.4	1 E			
120	3 D	Ⅰ	下呂石	3.3	1.9	0.6	2.8	1 D			
121	3 D	Ⅰ	下呂石	3.1	2.1	0.6	4.1	5 C			
122	3 D	Ⅰ	下呂石	(2.1)	(1.7)	0.4	(1.2)		a		
123	3 D	Ⅰ	下呂石	2.4	(1.5)	0.4	(1.0)	1 B	b		
124	3 D	Ⅱ	下呂石	2.1	1.5	0.3	0.6	1 C		38－7	
125	3 D	Ⅱ	下呂石	2.1	1.1	0.3	0.4	1 C			
126	3 D	Ⅱ	下呂石	1.5	1.0	0.2	0.2	1 C			
127	3 D	Ⅱ	下呂石	2.2	1.5	0.3	1.0	1 C			
128	3 D	Ⅱ	下呂石	3.6	2.3	0.6	4.5	1 E			
129	3 D	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.7)	0.3	(0.9)	1	h		
130	3 D	Ⅱ	下呂石	2.1	1.0	0.4	0.5	2 C			
131	3 D	Ⅱ	下呂石	2.0	(1.4)	0.3	(0.6)	1	b		
132	3 D	Ⅱ	下呂石	2.7	1.8	0.4	1.4	1 C			
133	3 D	Ⅱ	下呂石	2.1	1.6	0.5	1.7	1 E			
134	3 D	Ⅱ	下呂石	(2.6)	1.5	0.3	(1.3)		a		
135	3 D	Ⅱ	下呂石	(1.5)	1.5	0.4	(0.7)		c		
136	3 D	Ⅱ	下呂石	(1.9)	1.9	0.4	(1.0)		h		
137	3 D	Ⅱ	下呂石	2.1	(1.0)	0.3	(0.7)		f		
138	3 E	Ⅰ	下呂石	2.1	1.6	0.3	0.6	1 C			
139	3 E	Ⅱ	下呂石	3.0	1.6	0.6	2.6	1 D			
140	3 E	Ⅱ	下呂石	3.4	1.7	0.3	1.2	2 C			
141	3 E	Ⅱ	下呂石	2.5	1.9	0.4	1.4	1 C			

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
142	3 E	Ⅱ	下呂石	(2.4)	(2.3)	0.4	(2.0)	C	e		
143	3 E	Ⅱ	下呂石	2.7	1.7	0.4	1.8	1 B			
144	3 E	Ⅱ	下呂石	1.5	1.1	0.2	0.2	1 C			
145	3 E	Ⅱ	下呂石	2.9	1.5	0.3	1.3	1 D			
146	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.3)	(0.2)	(0.3)	1 C	g		
147	3 E	Ⅱ	下呂石	2.2	1.7	0.2	0.6	1 C			
148	3 E	Ⅱ	下呂石	2.7	2.1	0.8	3.2	1 D		38－11	
149	3 E	Ⅱ	下呂石	2.3	0.9	0.2	0.4	1 C			
150	3 E	Ⅱ	下呂石	2.1	(1.2)	0.4	(0.4)	1 C	b		
151	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.2	0.2	(0.3)	1 C	a		
152	3 E	Ⅱ	下呂石	(4.2)	1.4	0.5	(3.0)	2 F	b		
153	3 E	Ⅱ	下呂石	2.9	(1.8)	0.5	(2.0)	1 D	b		
154	3 E	Ⅱ	下呂石	2.2	1.8	0.5	1.2	1 C			
155	3 E	Ⅱ	下呂石	2.1	1.5	0.3	0.8	1 B			
156	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.2	0.2	(0.4)		a		
157	3 E	Ⅱ	下呂石	3.3	(1.9)	0.4	(2.2)	1 B	b		
158	3 E	Ⅱ	下呂石	(3.3)	1.7	0.8	(3.5)		b		
159	3 E	Ⅱ	下呂石	4.0	2.2	0.8	5.2	1 D			
160	3 E	Ⅱ	下呂石	2.1	1.5	0.3	0.7	1 D			
161	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.9)	1.8	0.5	(1.3)		a		
162	3 E	Ⅱ	下呂石	1.7	1.1	0.4	0.6	4 C			
163	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.9)	1.6	0.4	(1.0)	B	a		
164	3 E	Ⅱ	下呂石	2.6	(2.0)	0.5	(1.9)	1 B	b		
165	3 E	Ⅱ	下呂石	3.3	(1.7)	0.5	(2.5)	1 D	b		
166	3 E	Ⅱ	下呂石	2.1	1.5	0.5	1.2	5 D		38－35	
167	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.8)	1.2	0.4	(0.9)	1	e		
168	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.5)	0.4	(0.6)	1 C	e		
169	3 E	Ⅱ	下呂石	3.7	(2.0)	0.5	(2.8)	5	b		
170	3 E	Ⅱ	下呂石	1.8	1.4	0.3	0.8	5 C			
171	3 E	Ⅱ	下呂石	(1.2)	1.7	0.3	(0.7)		a		
172	4 A	Ⅱ	下呂石	2.3	1.6	0.7	1.7	1 B			
173	4 A	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.3)	0.4	(0.7)	1 D	b	38－13	
174	4 A	Ⅱ	下呂石	2.6	(1.4)	0.3	(1.0)	4 C	b		
175	4 A	Ⅱ	下呂石	2.0	1.3	0.4	0.8	1 E		38－15	
176	4 A	Ⅱ	下呂石	2.8	1.0	0.4	1.0	2 F		38－24	
177	4 A	Ⅱ	下呂石	2.1	1.9	0.7	3.6	1 D			
178	4 A	Ⅱ	下呂石	2.0	1.9	0.4	1.4	5 C		38－33	
179	4 A	Ⅱ	下呂石	2.7	1.1	0.3	0.8	2 C		38－20	
180	4 A	Ⅱ	下呂石	1.8	1.4	0.3	0.7	1 C			
181	4 A	Ⅱ	下呂石	3.1	1.3	0.4	1.0	2 F		38－23	
182	4 A	Ⅱ	下呂石	1.8	(1.0)	0.4	(0.6)	1 C	b		
183	4 A	Ⅱ	下呂石	(1.8)	(1.4)	0.3	(0.5)	1 C	e		
184	4 A	Ⅱ	下呂石	2.4	1.5	0.3	0.9	1 C			
185	4 A	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(0.8)	0.3	(0.3)	1	g		
186	4 A	Ⅱ	下呂石	1.3	1.0	0.2	0.3	1 C			
187	4 A	Ⅱ	下呂石	1.5	(1.2)	0.2	(0.3)	1 C	b		
188	4 A	Ⅱ	下呂石	(1.7)	1.3	0.2	(0.4)	1 C	a		
189	4 A	Ⅱ	下呂石	1.7	(1.5)	0.4	(0.7)	1 C	b		
190	4 A	Ⅱ	下呂石	2.0	(1.3)	0.2	(0.5)	1	b		
191	4 A	Ⅱ	下呂石	(1.6)	1.0	0.5	(0.8)	F	e		
192	4 A	Ⅱ	下呂石	2.3	1.1	0.5	1.1	4 F			
193	4 A	Ⅱ	下呂石	2.4	1.7	0.4	1.0	1 C			
194	4 A	Ⅱ	下呂石	2.2	(1.3)	0.5	(0.9)	1 C	b		
195	4 A	Ⅱ	下呂石	(2.3)	1.1	0.3	(0.7)	4 F	e		
196	4 A	Ⅱ	下呂石	(1.4)	(1.3)	0.3	(0.5)	1	g		
197	4 A	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.0)	0.3	(0.6)	1 C	f		
198	4 B	Ⅰ	下呂石	(1.6)	0.9	0.2	0.2	A	e		
199	4 B	Ⅰ	下呂石	3.0	1.2	0.4	(1.0)	2 C	b		
200	4 B	Ⅰ	下呂石	2.4	1.5	0.4	1.0	1 C			
201	4 B	Ⅰ	下呂石	(2.4)	1.5	0.4	1.0	1 C	h		
202	4 B	Ⅰ	下呂石	(1.2)	(1.4)	0.2	(0.4)	C	a		
203	4 B	Ⅰ	下呂石	1.6	(1.2)	0.2	(0.3)	1 C	b		
204	4 B	Ⅰ	下呂石	(1.9)	(1.2)	0.3	(0.5)	1	g		
205	4 B	Ⅰ	下呂石	2.2	1.7	0.4	1.2	1 E			
206	4 B	Ⅰ	下呂石	(3.0)	(2.0)	0.6	(2.7)	1	h		
207	4 B	Ⅰ	下呂石	(2.2)	1.7	0.7	(1.9)		a		
208	4 B	Ⅰ	下呂石	1.3	0.9	0.3	0.3	1 C			
209	4 B	Ⅱ	下呂石	(2.3)	(1.5)	0.4	(0.9)	1 C	b		
210	4 B	Ⅱ	下呂石	(1.9)	1.2	0.2	(0.4)	1 C	b		
211	4 B	Ⅱ	下呂石	2.1	1.3	0.4	0.8	1 C			
212	4 B	Ⅱ	下呂石	2.5	1.1	0.3	0.6	1 C			
213	4 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	1.2	0.3	(0.6)	4 F			

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
214	4 B	Ⅱ	下呂石	3.6	2.0	0.6	2.4	1 C			
215	4 B	Ⅱ	下呂石	4.3	1.7	0.6	3.0	4 F			
216	4 B	Ⅱ	下呂石	2.8	(1.6)	0.3	(1.0)	1	h		
217	4 B	Ⅱ	下呂石	1.7	(1.1)	0.3	(0.4)	1 C	b		
218	4 B	Ⅱ	下呂石	(3.0)	1.7	0.7	(2.9)	1 F	b		
219	4 B	Ⅱ	下呂石	1.7	1.2	0.3	0.6	5 B			
220	4 B	Ⅱ	下呂石	(2.7)	1.0	0.6	(1.5)	4 F	b		
221	4 B	Ⅱ	下呂石	2.8	2.0	0.6	2.8	1 E		38－14	
222	4 B	Ⅱ	下呂石	2.0	1.4	0.3	0.9	1 E			
223	4 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.6	0.3	0.6	5 B			
224	4 B	Ⅱ	下呂石	2.5	1.2	0.3	(0.8)	4 B	b	38－26	
225	4 B	Ⅱ	下呂石	3.0	1.4	0.5	1.7	1 F			
226	4 B	Ⅱ	下呂石	2.0	1.5	0.3	0.9	1 D			
227	4 B	Ⅱ	下呂石	1.6	1.6	0.4	0.9	5 B			
228	4 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.3	0.4	1.0	4 C			
229	4 C	Ⅰ	下呂石	(2.0)	1.2	0.3	(0.7)	1	h		
230	4 C	Ⅰ	下呂石	2.5	1.3	0.4	0.8	1 C		38－6	
231	4 C	Ⅰ	下呂石	2.5	1.9	0.3	1.4	1 B			
232	4 C	Ⅱ	下呂石	2.4	(1.4)	0.4	(1.3)	5 D	b		
233	4 C	Ⅱ	下呂石	2.5	(1.8)	0.4	1.4	1 C	b		
234	4 C	Ⅱ	下呂石	2.0	1.5	0.4	0.7	1 C			
235	4 C	Ⅱ	下呂石	3.1	1.9	0.6	3.3	1 D			
236	4 C	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.4	(0.2)	(0.4)	C	a		
237	4 C	Ⅱ	下呂石	2.6	1.4	0.4	1.1	1 C		38－5	
238	4 C	Ⅱ	下呂石	2.7	1.2	0.4	1.1	2 C			
239	4 C	Ⅱ	下呂石	2.6	(1.6)	0.3	(0.8)	1 C	b		
240	4 C	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.6	0.4	(1.0)		e		
241	4 C	Ⅱ	下呂石	(1.5)	1.1	0.3	(0.5)	1 C	e		
242	4 C	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.0)	(0.2)	(0.3)	1 C	g		
243	4 C	Ⅱ	下呂石	1.5	(1.2)	0.2	(0.3)	1	b		
244	4 C	Ⅱ	下呂石	2.2	1.2	0.3	0.9	1 C			
245	4 C	Ⅱ	下呂石	2.5	1.7	0.5	(2.0)		a		
246	4 C	Ⅱ	下呂石	1.3	1.1	0.2	0.3	1 C			
247	4 D	Ⅰ	下呂石	2.5	1.6	0.3	1.1	5 C			
248	4 D	Ⅰ	下呂石	(1.6)	1.4	0.4	(0.8)		h		
249	4 D	Ⅰ	下呂石	2.3	1.4	0.3	0.8	4 C		38－27	
250	4 D	Ⅱ	下呂石	2.2	1.7	0.4	1.3	4 C		38－28	
251	4 D	Ⅱ	下呂石	2.0	1.6	0.3	0.9	5 C			
252	4 D	Ⅱ	下呂石	2.3	(1.1)	0.2	(0.3)	1 C			
253	4 D	Ⅱ	下呂石	(2.5)	(1.9)	(0.4)	(1.3)	1	h		
254	4 D	Ⅱ	黒曜石	1.1	1.1	0.2	(0.2)	1 C		38－10	
255	4 E	Ⅰ	下呂石	2.5	1.6	0.4	1.2	1 B			
256	4 E	Ⅰ	下呂石	3.5	2.3	0.9	6.0	1 E			
257	4 E	Ⅰ	下呂石	(1.6)	1.5	0.4	(0.7)		a		
258	4 E	Ⅰ	下呂石	(2.4)	(1.3)	0.5	(1.1)	1 B	a		
259	4 E	Ⅰ	下呂石	2.8	(1.8)	0.4	(1.5)	1 B	b		
260	4 E	Ⅱ	下呂石	3.1	1.5	0.4	1.4	2 C			
261	4 E	Ⅱ	下呂石	2.4	1.4	0.5	1.0	1 B		38－2	
262	4 E	Ⅱ	下呂石	(1.5)	1.5	0.2	(0.5)	C	a		
263	4 E	Ⅱ	下呂石	3.0	1.8	0.5	2.0	1 B		38－1	
264	4 E	Ⅱ	下呂石	2.5	2.0	0.5	2.1	1 D			
265	4 E	Ⅱ	下呂石	2.6	(2.0)	0.7	(3.5)	1	b		
266	4 E	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.3)	0.3	(0.4)	1 C	b		
267	4 E	Ⅱ	下呂石	2.4	(1.3)	0.3	(0.7)	1 C	b		
268	4 E	Ⅱ	下呂石	2.7	1.8	0.7	2.9	5 D			
269	4 E	Ⅱ	下呂石	2.0	1.6	0.3	1.0	1 C			
270	4 E	Ⅱ	下呂石	2.7	1.3	0.3	0.6	1 C			
271	4 E	Ⅱ	下呂石	2.0	1.3	0.5	1.1	5 D			
272	4 E	Ⅱ	下呂石	1.9	2.1	0.3	1.0	1 C			
273	4 E	Ⅱ	チャート	1.4	1.1	0.3	0.4	1 B		38－3	
274	4 E	Ⅱ	チャート	(1.8)	1.5	0.3	(0.6)		a		
275	5 A	Ⅱ	下呂石	(2.5)	1.1	0.3	(0.5)	2 C	b		
276	5 B	Ⅱ	下呂石	2.9	1.5	0.3	1.0	1 C			
277	5 B	Ⅱ	下呂石	2.0	1.2	0.4	0.7	1 C			
278	5 B	Ⅱ	下呂石	(1.6)	1.2	0.3	(0.4)	1 C	a		
279	5 B	Ⅱ	下呂石	(2.3)	(1.8)	0.3	(1.1)	C	a		
280	5 B	Ⅱ	下呂石	1.3	1.1	0.3	0.3	1 C			
281	5 B	Ⅱ	下呂石	2.6	(1.3)	0.4	(1.2)	2 G	b		
282	5 B	Ⅱ	下呂石	1.9	(1.5)	0.3	(0.5)	1 C	b		
283	5 B	Ⅱ	下呂石	1.3	1.1	0.2	0.3	1 C			
284	5 B	Ⅱ	チャート	(2.4)	(1.4)	0.5	(1.2)	1	b		
285	5 C	Ⅰ	下呂石	(1.3)	1.3	0.2	(0.3)		a		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
286	5 C	Ⅱ	下呂石	2.1	1.8	0.4	(1.1)	1 D	b		
287	5 C	Ⅱ	下呂石	3.5	0.8	0.5	1.6	2 C	a		
288	5 C	Ⅱ	下呂石	2.0	1.3	0.3	(0.4)	1 C	b		
289	5 C	Ⅱ	下呂石	2.2	2.0	0.5	1.9	1 E			
290	5 C	Ⅱ	下呂石	(2.0)	1.5	0.3	(0.8)		a		
291	5 C	Ⅱ	下呂石	(1.2)	(1.1)	(0.5)	(0.4)		c		
292	5 D	Ⅱ	下呂石	(2.1)	1.0	0.2	(0.4)	2 C	b		
293	5 D	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.0)	(0.3)	(0.4)	1	g		
294	5 D	Ⅱ	下呂石	(1.9)	(0.9)	0.3	(0.5)	1 C	b		
295	5 D	Ⅱ	下呂石	(1.2)	0.9	0.2	(0.2)		a		
296	5 D	Ⅱ	下呂石	2.4	1.9	0.6	(2.7)	1 B			
297	5 E	Ⅰ	下呂石	3.0	1.6	0.5	2.0	1 F			
298	5 E	Ⅱ	下呂石	2.8	1.8	0.5	1.7	1 C		38－4	
299	5 E	Ⅱ	下呂石	2.2	(1.8)	0.2	(0.6)	1	f		
300	5 E	Ⅱ	下呂石	2.5	1.6	0.4	0.9	1 D			
301	5 E	Ⅱ	下呂石	2.1	1.2	0.2	0.5	1 C		38－8	
302	5 E	Ⅱ	下呂石	(2.2)	(1.4)	0.4	(1.0)	1	h		
303	5 E	Ⅱ	下呂石	2.9	(1.9)	0.4	(1.4)	1	b		
304	5 E	Ⅱ	下呂石	(1.3)	(0.9)	0.2	(0.3)		i		
305	5 E	Ⅱ	下呂石	2.0	(1.2)	0.2	(0.4)		g		
306	5 E	Ⅱ	下呂石	(2.7)	(1.7)	0.4	(1.4)	1	g		
307	5 E	Ⅱ	下呂石	(1.7)	1.8	1.3	0.9	1 C	a		
308	5 E	Ⅱ	下呂石	(1.9)	1.2	0.4	(0.9)	1	h		
309	5 E	Ⅱ	下呂石	(1.2)	1.2	0.2	(0.4)		a		
310	5 E	Ⅱ	下呂石	1.9	1.4	0.4	0.8	1 C		38－9	
311	5 E	Ⅱ	チャート	(1.9)	(1.2)	0.4	(0.6)	1	g		
312	6 B	Ⅱ	黒曜石	2.9	1.4	0.5	1.7	2 F			
313	6 B	Ⅱ	下呂石	1.3	1.0	0.2	0.2	5 C			
314	6 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.4	0.3	0.6	1 A			
315	6 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.3	0.3	0.6	1 C			
316	6 B	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.7	0.4	(0.8)		a		
317	6 B	Ⅱ	下呂石	2.3	(1.6)	0.2	(0.6)	1 C	b		
318	6 B	Ⅱ	下呂石	(1.5)	1.3	0.2	(0.4)	1 C	a		
319	6 B	Ⅱ	下呂石	(1.6)	1.2	0.4	(0.7)	1	g		
320	6 B	Ⅱ	下呂石	2.1	(1.5)	0.3	(0.8)	1	b		
321	6 B	Ⅱ	下呂石	2.1	1.7	0.4	1.1	5 C			
322	6 B	Ⅱ	下呂石	(2.2)	(1.3)	0.5	(1.5)		g		
323	6 C	Ⅱ	下呂石	(2.5)	(1.5)	0.4	(0.9)	1 C	b		
324	6 C	Ⅱ	下呂石	(3.0)	1.2	0.6	(1.8)	2 F	b		
325	6 C	Ⅱ	下呂石	(2.6)	1.2	0.5	(1.4)	2 F	e		
326	6 C	Ⅱ	黒曜石	2.5	1.4	0.3	0.7	1 C			
327	6 D	Ⅱ	下呂石	1.5	1.4	0.3	0.6	5 C		38－34	
328	6 D	Ⅱ	下呂石	1.7	(1.2)	0.2	(0.3)	1 C	b		
329	6 D	Ⅱ	下呂石	(1.7)	(1.3)	0.3	(0.4)	1 C	a		
330	6 D	Ⅱ	下呂石	1.7	(1.5)	0.4	(0.9)		e		
331	6 E	Ⅱ	下呂石	(3.7)	2.1	1.0	(5.4)	1 D	a		
332	6 E	Ⅱ	下呂石	2.9	1.6	0.4	1.5	1 B			
333	6 E	Ⅱ	下呂石	2.3	(1.3)	0.4	(0.9)	1 C	b		
334	6 E	Ⅱ	下呂石	(1.3)	1.6	0.3	(0.6)		a		
335	7 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.4	0.4	0.6	1 C			
336	7 C	Ⅰ	下呂石	1.9	1.1	0.4	0.7	1 C			
337	7 C	Ⅰ	下呂石	1.8	1.3	0.3	0.4	1 C			
338	7 C	Ⅱ	下呂石	2.5	1.5	0.4	1.2	1 C			
339	7 C	Ⅱ	下呂石	1.9	0.8	0.2	0.2	1 C			
340	7 C	Ⅱ	下呂石	1.7	(1.2)	0.3	(0.5)	1 C			
341	7 D	Ⅱ	下呂石	1.6	1.3	0.3	0.3	1 C			
342	SK 7	Ⅱ	下呂石	2.2	(1.3)	0.4	(0.8)	1	h		
343	SK13	Ⅱ	黒曜石	2.5	1.5	0.4	1.1	1 C			
344	SK21	Ⅱ	下呂石	1.9	1.2	0.4	0.7	1 C			
345	SK38	Ⅱ	下呂石	(1.4)	1.5	0.3	(0.5)	1	h		
346	SK38	Ⅱ	黒曜石	2.8	(1.5)	0.3	(0.9)	1 C	b		
347	SK39	Ⅱ	チャート	(1.5)	(1.2)	0.2	(0.3)	1	h		
348	SK46	Ⅱ	下呂石	2.0	0.9	0.3	0.5	2 C			
349	SK49	Ⅱ	下呂石	2.3	1.0	0.4	0.8	1 B			
350	SK55	Ⅱ	下呂石	2.8	1.6	0.3	0.9	1 C			
351	SK57	Ⅱ	下呂石	1.7	1.2	0.2	0.4	1 C			
352	SK57	Ⅱ	下呂石	1.4	0.8	0.2	0.2	1 C			
353	SK57	Ⅱ	チャート	(1.4)	1.7	0.4	(0.9)		a		
354	SK57	Ⅱ	下呂石	2.2	(1.1)	0.3	(0.5)	1 C	b		
355	SK58	Ⅱ	下呂石	1.9	1.4	0.4	(0.7)	1 C	b		
356	SK61	Ⅱ	黒曜石	(2.2)	(1.2)	0.3	(0.5)	1	g		
357	SK65	Ⅱ	下呂石	1.8	1.2	0.2	0.3	1 C			

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
358	SD 1	Ⅱ	下呂石	3.2	1.2	0.4	1.3	2 B		38－19	
359	P 22	Ⅱ	下呂石	3.1	1.8	0.4	2.6	1 E			
360	P 23	Ⅱ	下呂石	(1.5)	(1.0)	0.2	(0.3)	1	g		
361	P 43	Ⅱ	下呂石	2.2	1.5	0.4	1.2	1 B			
362	P104	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.3)	0.3	(0.6)	1	d		
363	P104	Ⅱ	黒曜石	2.3	1.9	0.4	1.2	1 E		38－16	
364	P117	Ⅱ	下呂石	2.5	1.2	0.4	1.2	1 C			
365	P139	Ⅱ	下呂石	(1.6)	(1.3)	0.2	(0.4)		b		
366	SB 2	Ⅱ	下呂石	3.6	2.7	0.7	6.7	1 D			
367	表採		下呂石	3.0	1.5	0.7	2.4	1 D			
368	表採		下呂石	1.9	1.0	0.3	0.4	1 C			
369	表採		黒曜石	(1.5)	(1.1)	0.3	(0.3)		a		
370	表採		下呂石	2.4	(1.2)	0.4	(1.1)	4 C	b		
371	表採		下呂石	(1.5)	(1.1)	0.3	(0.3)		a		

石錐

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	2 A	Ⅱ	下呂石	(3.9)	1.3	0.8	(4.5)	1 A		
2	2 B	Ⅰ	下呂石	3.6	1.2	0.7	2.8	1 B	39－44	
3	2 B	Ⅰ	下呂石	3.6	1.3	0.5	1.5	2 A		
4	2 C	Ⅰ	下呂石	2.9	1.9	0.8	3.6	4 A		
5	2 D	Ⅰ	下呂石	2.1	1.5	0.4	1.1	3 B		
6	2 D	Ⅱ	下呂石	4.0	1.2	0.7	3.7	1 A	39－38	
7	2 D	Ⅱ	下呂石	(3.5)	2.2	0.6	(3.5)	4 A		
8	2 E	Ⅱ	下呂石	(2.4)	1.0	0.6	(0.9)	－		
9	2 E	Ⅱ	下呂石	(1.6)	0.6	0.3	(0.3)	1 A		
10	3 A	Ⅱ	下呂石	(2.6)	0.5	0.4	(0.5)	1 A		
11	3 A	Ⅱ	下呂石	2.4	0.8	0.4	0.7	1 A		
12	3 B	Ⅰ	下呂石	(3.6)	1.1	0.8	(2.6)	1 A		
13	3 B	Ⅰ	下呂石	(3.2)	1.8	0.5	(2.9)	4 B	39－56	
14	3 B	Ⅰ	下呂石	(2.2)	1.5	0.4	(1.1)	4 A		
15	3 B	Ⅰ	チャート	(2.0)	2.0	0.8	(2.4)	2 A		
16	3 B	Ⅱ	下呂石	2.7	0.8	0.6	1.3	1 A		
17	3 B	Ⅱ	下呂石	2.8	1.4	0.5	1.9	4 A		
18	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.4)	1.4	0.5	(1.5)	－		
19	3 B	Ⅱ	下呂石	2.7	1.9	0.5	1.8	2 B		
20	3 B	Ⅱ	下呂石	3.7	1.6	0.9	4.4	4 A		
21	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.4)	1.0	0.4	(0.8)	1 B		
22	3 B	Ⅱ	下呂石	(4.0)	0.9	0.7	(3.0)	1 B		
23	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.1)	(1.7)	0.4	(1.0)	2 A		
24	3 B	Ⅱ	下呂石	3.4	2.8	0.7	4.0	4 B		
25	3 B	Ⅱ	下呂石	1.5	0.7	0.5	0.8	1 A	39－40	
26	3 B	Ⅱ	下呂石	(3.1)	(2.4)	0.9	(5.0)	4 A		
27	3 B	Ⅱ	下呂石	3.2	1.6	1.0	3.9	4 B		
28	3 B	Ⅱ	下呂石	2.1	0.8	0.4	0.8	－		
29	3 B	Ⅱ	下呂石	2.3	1.1	0.4	1.0	4 A		
30	3 B	Ⅱ	下呂石	(3.1)	(2.0)	0.7	(3.2)	－		
31	3 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.9	0.6	1.6	3 A		
32	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.6)	1.1	0.6	(1.4)	2 A		
33	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.6	0.5	1.2	2 B		
34	3 B	Ⅱ	チャート	(1.9)	0.9	0.5	(1.0)	－		
35	3 B	Ⅱ	チャート	2.5	1.4	0.5	0.8	4 A		
36	3 B	Ⅱ	下呂石	(2.0)	1.4	0.4	(0.9)	4 A		
37	3 B	Ⅱ	下呂石	3.7	1.6	0.7	3.9	4 A		
38	3 C	Ⅰ	下呂石	3.1	1.1	0.7	2.1	1 B	39－43	
39	3 C	Ⅰ	下呂石	(1.4)	(0.7)	0.4	0.4	－		
40	3 C	Ⅰ	下呂石	3.0	1.4	0.7	2.9	3 A		
41	3 C	Ⅰ	下呂石	(4.7)	1.4	0.9	(4.9)	1 A		
42	3 C	Ⅰ	下呂石	(2.5)	0.9	0.6	(1.4)	1 A		
43	3 C	Ⅰ	下呂石	(3.1)	1.3	0.7	(2.5)	1 B		
44	3 C	Ⅰ	下呂石	4.0	1.1	0.7	2.7	1 A		
45	3 C	Ⅰ	下呂石	2.4	0.8	0.4	0.7	1 B	39－42	
46	3 C	Ⅰ	下呂石	3.2	1.2	0.6	2.1	1 A		
47	3 C	Ⅰ	下呂石	(1.9)	0.9	0.5	1.0	1 B		
48	3 C	Ⅰ	下呂石	(2.8)	1.0	0.4	(1.2)	－		
49	3 C	Ⅱ	下呂石	(3.2)	1.2	0.8	(3.4)	4 B	39－55	
50	3 C	Ⅱ	下呂石	(2.3)	0.5	0.4	(0.7)	1 B		
51	3 C	Ⅱ	下呂石	(3.5)	2.0	0.6	(2.5)	2 B	39－48	
52	3 C	Ⅱ	下呂石	(3.7)	1.5	0.8	(4.0)	4 A		
53	3 C	Ⅱ	下呂石	(3.3)	1.2	0.8	(3.2)	－		
54	3 D	Ⅰ	下呂石	(1.9)	1.1	0.8	(1.4)	－		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
55	3 D	I	下呂石	2.2	1.4	0.4	1.0	4 A		
56	3 D	I	下呂石	(2.4)	(1.7)	0.7	(2.1)	4 B		
57	3 D	II	下呂石	3.1	0.8	0.6	1.4	1 A		
58	3 D	II	下呂石	(2.4)	0.5	0.4	(0.6)	1 B		
59	3 D	II	下呂石	(2.4)	2.1	0.5	(1.4)	2 A	39－45	
60	3 D	II	下呂石	3.6	0.8	0.7	1.7	1 A		
61	3 D	II	下呂石	2.2	2.0	0.6	(2.4)	－		
62	3 D	II	下呂石	3.2	1.3	0.6	2.4	1 A		
63	3 E	I	下呂石	(3.4)	1.1	0.4	(1.3)	1 A		
64	3 E	I	下呂石	(2.9)	1.7	0.4	(1.5)	4 B		
65	3 E	II	下呂石	4.6	1.0	0.5	2.5	1 A		
66	3 E	II	下呂石	(3.5)	2.0	0.5	(2.7)	3 A		
67	3 E	II	下呂石	(2.6)	1.0	0.8	(1.9)	1 A		
68	3 E	II	下呂石	3.8	1.0	0.6	2.6	1 A		
69	3 E	II	下呂石	2.6	1.5	0.5	1.8	4 A	39－53	
70	3 E	II	下呂石	3.9	1.1	0.9	3.0	1 A		
71	3 E	II	下呂石	3.2	1.3	0.8	2.8	1 A		
72	3 E	II	下呂石	(1.2)	0.6	0.5	(0.7)	1 A		
73	3 E	II	下呂石	4.2	1.7	0.8	4.0	4 A	39－52	
74	3 E	II	チャート	2.1	0.9	0.5	1.0	4 A		
75	3 E	II	下呂石	3.7	2.9	0.9	10.0	4 A		
76	4 A	II	下呂石	(3.4)	1.8	0.8	(4.8)	4 A		
77	4 A	II	下呂石	(1.9)	0.5	(0.3)	(0.4)	1 A		
78	4 A	II	下呂石	(2.4)	(0.5)	0.5	(0.6)	－		
79	4 A	II	下呂石	2.8	0.7	0.4	0.7	1 A		
80	4 A	II	下呂石	2.9	0.6	0.4	0.7	1 A	39－39	
81	4 A	II	下呂石	1.8	0.6	0.4	0.4	1 A		
82	4 A	II	下呂石	(2.1)	1.5	0.6	(1.8)	4 B		
83	4 B	II	下呂石	(2.7)	1.9	0.4	(1.5)	4 B		
84	4 B	I	下呂石	(3.7)	1.2	0.6	(2.7)	1 B		
85	4 B	I	下呂石	1.4	1.6	0.6	2.1	4 A		
86	4 B	I	下呂石	(1.6)	0.5	0.4	(0.4)	－		
87	4 B	I	下呂石	(2.5)	1.6	0.6	1.9	4 A		
88	4 B	I	下呂石	(2.5)	1.8	0.6	(1.6)	－		
89	4 B	I	下呂石	2.6	0.9	0.7	1.8	－		
90	4 B	II	下呂石	(3.2)	0.9	0.5	(1.3)	1 A		
91	4 B	II	下呂石	(2.7)	1.5	0.5	(1.8)	－		
92	4 B	II	チャート	(2.1)	1.2	0.5	(1.1)	4 A		
93	4 B	II	下呂石	2.7	1.6	0.2	0.9	3 B	39－50	
94	4 B	II	下呂石	3.4	1.5	0.8	3.6	1 A		
95	4 C	I	下呂石	3.9	2.7	0.9	7.3	4 B	39－54	
96	4 C	I	下呂石	(2.4)	1.0	0.2	(0.6)	－		
97	4 C	II	下呂石	(3.2)	2.2	0.5	(2.8)	4 B		
98	4 C	II	下呂石	(2.1)	0.6	0.3	(0.4)	1 A		
99	4 C	II	下呂石	(2.2)	0.8	0.5	(1.0)	1 A		
100	4 C	II	下呂石	5.4	1.6	1.1	8.4	1 B		
101	4 C	II	下呂石	(2.2)	0.8	0.6	(1.0)	1 A		
102	4 C	II	下呂石	1.9	1.2	0.3	0.7	4 B		
103	4 C	II	下呂石	(3.0)	0.9	0.7	(1.5)	1 A		
104	4 C	II	下呂石	3.0	1.1	0.8	2.2	1 B		
105	4 C	II	下呂石	(2.3)	0.9	0.4	(0.7)	－		
106	4 C	II	下呂石	1.7	1.2	0.2	0.5	4 B		
107	4 C	II	下呂石	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.5)	－		
108	4 D	II	下呂石	(4.0)	2.5	0.6	(4.9)	4 B		
109	4 D	II	下呂石	2.7	1.2	0.5	1.6	4 A		
110	4 D	II	下呂石	2.3	1.5	0.4	1.3	3 A		
111	4 E	I	下呂石	3.3	1.1	0.6	2.3	1 A		
112	4 E	I	下呂石	(2.4)	1.5	0.5	(1.8)	4 A		
113	4 E	II	下呂石	(2.3)	0.7	0.5	(0.8)	1 A		
114	4 E	II	下呂石	3.9	1.5	0.5	3.5	4 A	39－51	
115	4 E	II	下呂石	(3.5)	1.0	0.7	(2.5)	1 B		
116	4 E	II	下呂石	(3.5)	1.3	0.4	(1.7)	4 A		
117	4 E	II	下呂石	(2.6)	1.5	0.5	(1.8)	2 B		
118	5 B	II	下呂石	(3.0)	0.9	0.4	(1.1)	1 A		
119	5 B	II	下呂石	2.4	1.6	0.4	1.4	4 B		
120	5 C	I	下呂石	(3.5)	2.0	0.9	(4.8)	4 A		
121	5 C	II	下呂石	3.1	2.0	0.5	2.4	3 B		
122	5 C	II	下呂石	(3.5)	1.5	0.7	(3.0)	4 A		
123	5 D	II	下呂石	(3.6)	1.4	0.6	(2.9)	1 B		
124	5 D	II	下呂石	3.2	1.4	0.5	2.0	1 A		
125	5 D	II	下呂石	2.5	1.2	0.4	1.0	4 B		
126	5 E	I	下呂石	(2.7)	1.8	1.0	(3.5)	2 A		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
127	6 A	Ⅱ	下呂石	(2.4)	2.1	0.6	(2.9)	3 A	39－49	
128	6 B	Ⅱ	下呂石	2.8	1.6	0.8	2.8	4 A		
129	6 B	Ⅱ	下呂石	3.5	0.8	0.5	1.6	1 A		
130	6 B	Ⅱ	下呂石	2.2	0.5	0.4	0.5	1 A		
131	6 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.3	0.5	1.5	4 A		
132	6 C	Ⅰ	下呂石	3.9	1.9	0.7	4.5	4 B		
133	6 C	Ⅰ	下呂石	(3.1)	2.1	0.9	(4.3)	4 A		
134	6 C	Ⅰ	下呂石	(2.5)	3.4	0.4	(2.3)	2 B		
135	6 D	Ⅰ	下呂石	(3.1)	1.2	0.6	2.0	1 B		
136	6 D	Ⅰ	下呂石	2.9	0.8	0.4	1.0	1 A		
137	6 D	Ⅰ	チャート	(2.4)	1.2	0.5	(1.7)	－		
138	6 D	Ⅱ	下呂石	(3.3)	1.4	0.7	(3.4)	1 B		
139	6 E	Ⅱ	下呂石	(3.0)	0.9	0.5	(1.5)	1 A		
140	6 E	Ⅱ	下呂石	(2.4)	1.7	0.6	(1.9)	3 A		
141	6 E	Ⅱ	下呂石	(3.3)	1.2	0.6	(2.1)	1 A		
142	6 E	Ⅱ	チャート	(5.8)	2.2	0.8	(11.1)	4 B		
143	7 C	Ⅱ	下呂石	2.0	1.8	0.6	1.8	3 B		
144	7 D	Ⅰ	下呂石	3.5	1.5	0.4	1.3	2 A	39－46	
145	SK13	Ⅱ	下呂石	(2.6)	2.0	0.5	(2.5)	4 A		
146	SK13	Ⅱ	下呂石	(3.2)	2.7	0.8	(3.6)	2 B	39－47	
147	SK13	Ⅱ	下呂石	1.4	0.8	0.4	0.7	1 A	39－41	
148	SK30	Ⅱ	下呂石	3.5	1.4	0.7	3.6	4 A		
149	SK38	Ⅱ	下呂石	4.1	0.9	0.6	2.7	1 A	39－37	
150	SK59	Ⅱ	下呂石	3.1	1.3	0.9	2.7	1 A		

石匙

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	2 C	Ⅱ	安山岩	6.1	2.4	0.8	12.2	41－70	
2	3 E	Ⅱ	安山岩	4.9	6.9	0.9	27.0	41－71	

削器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	2 B	Ⅰ	下呂石	3.0	4.2	0.6	7.3	1		
2	2 B	Ⅰ	下呂石	5.4	1.9	1.0	9.1	3		
3	2 C	Ⅰ	下呂石	3.1	1.7	0.8	5.2	3		
4	2 C	Ⅱ	下呂石	2.7	2.0	1.0	7.7	3		
5	2 D	Ⅱ	下呂石	2.5	3.7	0.6	5.2	1	40－63	
6	2 D	Ⅱ	下呂石	1.8	1.6	0.3	1.1	3		
7	3 A	Ⅱ	下呂石	2.7	1.7	0.7	3.0	3		
8	3 A	Ⅱ	下呂石	2.3	1.9	0.7	2.6	3		
9	3 B	Ⅰ	チャート	1.5	1.8	0.5	1.6	3		
10	3 B	Ⅱ	下呂石	3.2	1.9	0.8	4.3	1		
11	3 B	Ⅱ	下呂石	1.9	1.8	0.3	0.8	1		
12	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	3.5	1.0	5.2	3		
13	3 B	Ⅱ	下呂石	2.9	1.5	0.4	2.0	3		
14	3 B	Ⅱ	下呂石	8.9	4.9	1.2	39.6	3	40－64	
15	3 C	Ⅰ	チャート	2.4	3.2	1.2	7.5	1	40－59	
16	3 C	Ⅰ	下呂石	3.1	1.9	0.5	2.6	1		
17	3 C	Ⅰ	下呂石	2.7	1.8	0.5	2.1	3		
18	3 C	Ⅰ	下呂石	2.5	1.7	0.7	3.0	3		
19	3 C	Ⅱ	下呂石	3.0	1.7	0.7	3.1	1		
20	3 D	Ⅰ	下呂石	3.2	1.7	0.8	3.7	3		
21	3 D	Ⅱ	チャート	2.5	1.8	0.9	3.0	3		
22	3 E	Ⅱ	下呂石	2.8	4.3	1.0	9.7	1	40－58	
23	3 E	Ⅱ	下呂石	5.7	2.3	1.0	11.1	2	40－60	
24	3 E	Ⅱ	下呂石	2.3	2.1	0.3	1.3	3		
25	3 E	Ⅱ	下呂石	3.7	1.3	0.4	1.4	3		
26	3 E	Ⅱ	下呂石	2.2	1.6	0.4	1.6	3		
27	3 E	Ⅱ	下呂石	2.8	7.0	1.1	18.1	3	40－62	
28	4 A	Ⅱ	下呂石	5.7	4.1	1.0	23.4	3		
29	4 B	Ⅰ	チャート	2.5	1.6	0.7	3.2	1		
30	4 B	Ⅰ	下呂石	3.3	3.7	0.8	5.4	3		
31	4 B	Ⅰ	下呂石	4.0	1.9	0.7	8.7	3	40－65	
32	4 B	Ⅱ	下呂石	5.0	5.7	0.9	22.0	1	40－57	
33	4 B	Ⅱ	下呂石	2.3	2.8	0.6	3.6	1		
34	4 B	Ⅱ	下呂石	3.9	1.3	0.7	6.5	3	40－61	
35	4 C	Ⅱ	下呂石	2.6	2.8	0.5	2.2	1		
36	4 C	Ⅱ	下呂石	2.7	1.3	0.4	1.6	3		
37	4 C	Ⅱ	下呂石	3.0	1.5	0.5	2.6	3		
38	4 C	Ⅱ	下呂石	2.4	3.0	0.5	3.2	3		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
39	4 D	Ⅱ	チャート	2.2	2.1	0.6	2.5	1		
40	4 E	Ⅱ	下呂石	3.0	4.0	0.7	7.8	3		
41	4 E	Ⅱ	下呂石	4.0	2.4	0.9	7.2	3		
42	5 A	Ⅱ	下呂石	5.8	3.2	0.9	9.8	3		
43	5 B	Ⅱ	下呂石	4.0	6.1	1.2	25.7	1		
44	5 B	Ⅱ	下呂石	2.7	1.9	0.4	2.1	2		
45	5 B	Ⅱ	下呂石	2.2	2.0	0.5	1.9	3		
46	5 D	Ⅱ	下呂石	2.4	3.1	0.5	2.6	1		
47	5 E	Ⅰ	下呂石	2.1	1.5	0.6	2.0	3		
48	5 E	Ⅱ	下呂石	3.0	2.8	0.7	4.4	3		
49	6 E	Ⅰ	下呂石	3.4	4.1	1.0	11.8	3		
50	6 E	Ⅱ	下呂石	2.7	1.8	0.7	2.5	3		
51	6 E	Ⅱ	下呂石	4.0	6.0	1.2	22.9	3	40－66	
52	7 B	Ⅰ	下呂石	8.0	4.5	1.4	48.3	3		
53	SK58	Ⅱ	下呂石	3.6	6.2	0.8	17.7	3		
54	立石1	Ⅱ	下呂石	5.2	4.1	0.7	18.2	1		

掻器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	2 D	Ⅰ	下呂石	2.6	2.9	0.8	7.3	2	41－67	
2	3 A	Ⅱ	下呂石	3.0	2.4	0.9	6.8	4	41－68	
3	3 D	Ⅰ	下呂石	2.5	2.3	0.5	2.7	4		
4	3 D	Ⅱ	チャート	3.2	1.6	0.9	4.1	4	41－69	
5	4 B	Ⅱ	下呂石	3.0	3.3	0.6	7.4	4		
6	5 B	Ⅰ	下呂石	4.6	10.0	2.5	120.1	4		

両極剥離痕のある石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	2 B	Ⅰ	下呂石	3.7	2.8	1.6	16.5		
2	2 B	Ⅰ	下呂石	2.6	2.2	1.0	6.3	41－75	
3	2 B	Ⅰ	下呂石	4.6	3.5	1.1	17.8		
4	2 B	Ⅰ	下呂石	3.7	3.9	1.0	14.9	41－72	
5	3 A	Ⅱ	下呂石	3.3	1.4	1.2	5.2		
6	3 B	Ⅰ	下呂石	2.8	2.6	1.3	9.3		
7	3 B	Ⅱ	下呂石	2.7	2.9	1.8	17.5		
8	3 B	Ⅱ	下呂石	3.2	1.9	0.5	3.4		
9	3 B	Ⅱ	下呂石	2.0	2.7	0.6	3.4		
10	3 B	Ⅱ	下呂石	2.9	1.9	1.1	5.7		
11	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.6	0.8	3.0		
12	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.7	0.5	1.7		
13	3 B	Ⅱ	下呂石	2.7	2.4	1.0	7.3	41－79	
14	3 B	Ⅱ	下呂石	2.4	1.8	1.0	5.1		
15	3 B	Ⅱ	チャート	2.4	1.4	0.8	2.7		
16	3 C	Ⅰ	下呂石	3.3	1.8	1.0	7.1		
17	3 C	Ⅰ	下呂石	2.7	1.2	0.8	4.4		
18	3 C	Ⅱ	下呂石	3.7	3.5	1.9	27.3		
19	3 D	Ⅰ	下呂石	2.6	3.0	0.7	5.2		
20	3 D	Ⅱ	下呂石	2.5	1.5	0.9	3.4	41－81	
21	3 D	Ⅱ	下呂石	3.0	1.9	1.0	5.9	41－78	
22	3 D	Ⅱ	下呂石	3.1	2.1	0.6	4.6		
23	3 D	Ⅱ	下呂石	3.0	1.4	1.2	8.5		
24	3 E	Ⅱ	下呂石	2.4	2.0	0.8	3.5		
25	3 E	Ⅱ	黒曜石	2.4	1.1	1.0	2.4	41－83	
26	4 A	Ⅱ	下呂石	2.3	2.0	1.0	4.6		
27	4 A	Ⅱ	下呂石	1.7	1.6	1.0	2.7		
28	4 B	Ⅰ	下呂石	2.4	2.5	1.0	4.6		
29	4 B	Ⅰ	下呂石	2.4	1.9	1.0	4.6		
30	4 B	Ⅱ	下呂石	3.3	2.0	1.8	13.8		
31	4 B	Ⅱ	下呂石	3.0	2.0	1.2	7.9		
32	4 B	Ⅱ	下呂石	2.1	2.3	1.0	5.4		
33	4 B	Ⅱ	下呂石	2.3	1.2	1.4	4.2		
34	4 C	Ⅰ	下呂石	2.4	2.5	1.2	6.4		
35	4 C	Ⅰ	下呂石	1.8	2.7	1.0	4.2		
36	4 C	Ⅱ	下呂石	2.7	2.4	0.7	4.8		
37	4 C	Ⅱ	下呂石	2.9	2.4	1.1	7.7		
38	4 C	Ⅱ	下呂石	3.0	3.4	1.3	15.1		
39	4 C	Ⅱ	チャート	2.3	1.5	0.8	3.5	41－82	
40	4 D	Ⅱ	下呂石	2.5	3.5	1.1	9.0		
41	4 D	Ⅱ	下呂石	2.7	1.8	0.6	3.9		
42	4 D	Ⅱ	下呂石	3.3	1.1	0.6	1.9		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
43	4 D	Ⅱ	下呂石	4.0	2.4	1.2	11.0		
44	4 D	Ⅱ	下呂石	2.4	2.2	0.8	5.1		
45	4 E	Ⅱ	下呂石	3.0	2.4	1.0	7.2		
46	5 A	Ⅱ	下呂石	1.9	1.5	1.0	3.3		
47	5 B	Ⅰ	下呂石	3.5	2.4	0.7	6.4		
48	5 B	Ⅱ	下呂石	4.4	2.9	0.9	13.0		
49	5 B	Ⅱ	下呂石	2.8	1.7	1.3	4.1	41－80	
50	5 B	Ⅱ	下呂石	2.6	2.6	1.7	12.5		
51	5 B	Ⅱ	下呂石	2.7	2.7	0.9	6.6	41－74	
52	5 B	Ⅱ	下呂石	2.5	2.5	1.3	8.2	41－77	
53	5 B	Ⅱ	下呂石	3.0	2.3	1.8	20.2		
54	5 C	Ⅰ	下呂石	3.3	1.8	1.0	6.2		
55	5 C	Ⅱ	下呂石	3.4	4.1	2.0	22.8		
56	5 C	Ⅱ	下呂石	2.3	1.9	0.8	4.1		
57	5 D	Ⅱ	下呂石	3.0	4.0	0.9	9.1		
58	5 D	Ⅱ	下呂石	2.5	1.8	0.8	3.0		
59	5 E	Ⅱ	下呂石	3.0	1.9	1.3	8.3		
60	6 B	Ⅱ	下呂石	3.5	2.5	1.1	7.5		
61	6 B	Ⅱ	下呂石	4.0	4.1	1.8	26.8	41－73	
62	6 B	Ⅱ	下呂石	3.2	1.5	0.8	4.5		
63	6 B	Ⅱ	下呂石	2.9	2.3	0.8	5.4		
64	6 C	Ⅰ	下呂石	3.0	2.2	1.0	6.3	41－76	
65	6 C	Ⅱ	下呂石	3.2	4.9	0.9	15.5		
66	6 C	Ⅱ	下呂石	2.6	2.1	1.9	4.0		
67	6 D	Ⅱ	下呂石	4.7	2.3	1.5	18.5		
68	6 E	Ⅰ	下呂石	4.7	4.8	1.2	22.3		
69	6 E	Ⅰ	下呂石	4.1	1.2	0.9	4.8		
70	6 E	Ⅰ	下呂石	2.6	1.4	0.8	3.8		
71	SK13	Ⅱ	下呂石	3.0	1.1	0.9	3.1		
72	SK27	Ⅱ	下呂石	2.9	2.0	1.7	4.4		
73	SK51	Ⅱ	下呂石	3.6	2.5	1.4	10.4		
74	SK63	Ⅱ	下呂石	1.8	1.8	0.8	2.3		
75	P 37	Ⅱ	下呂石	2.7	2.4	1.3	11.7		
76	P104	Ⅱ	下呂石	1.8	1.7	0.5	1.8		
77	P123	Ⅱ	下呂石	2.3	3.0	0.7	5.1		

二次加工のある剥片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	2 B	Ⅰ	下呂石	3.9	3.1	0.9	8.0		
2	2 B	Ⅰ	下呂石	2.9	2.9	0.8	5.5		
3	2 B	Ⅰ	下呂石	3.8	4.0	1.3	16.1		
4	2 B	Ⅰ	下呂石	3.7	5.0	0.8	12.2		
5	2 B	Ⅰ	チャート	3.2	1.8	0.8	3.9		
6	2 B	Ⅱ	下呂石	3.8	2.6	0.9	7.4		
7	2 C	Ⅰ	下呂石	3.7	5.1	1.2	15.0		
8	2 C	Ⅰ	下呂石	4.8	5.4	1.6	20.8		
9	2 C	Ⅰ	下呂石	6.3	7.5	2.0	66.0		
10	2 D	Ⅰ	下呂石	3.5	4.9	1.0	12.1		
11	2 D	Ⅱ	下呂石	2.6	1.5	0.6	2.7		
12	2 D	Ⅱ	下呂石	2.2	2.2	0.6	2.8		
13	2 E	Ⅱ	下呂石	2.2	1.3	0.7	3.0		
14	3 A	Ⅰ	下呂石	3.6	3.5	0.6	9.6		
15	3 A	Ⅱ	下呂石	2.1	1.4	0.4	1.2		
16	3 A	Ⅱ	下呂石	3.1	4.0	0.7	8.6		
17	3 A	Ⅱ	下呂石	4.0	4.6	0.9	15.0		
18	3 A	Ⅱ	下呂石	2.6	3.5	0.8	6.7		
19	3 B	Ⅰ	下呂石	1.8	2.7	0.6	2.8		
20	3 B	Ⅰ	下呂石	2.1	4.3	0.9	8.2		
21	3 B	Ⅰ	下呂石	4.8	3.8	1.0	16.2	42－87	
22	3 B	Ⅰ	下呂石	3.1	2.9	1.3	9.1		
23	3 B	Ⅰ	下呂石	2.4	4.3	1.0	8.1		
24	3 B	Ⅱ	下呂石	3.5	2.5	0.9	7.0		
25	3 B	Ⅱ	下呂石	5.3	4.4	0.6	13.6		
26	3 B	Ⅱ	下呂石	4.6	5.9	1.2	21.9		
27	3 B	Ⅱ	下呂石	4.3	3.7	1.4	15.6		
28	3 B	Ⅱ	下呂石	3.0	1.7	0.5	2.6		
29	3 B	Ⅱ	下呂石	3.0	4.6	0.8	8.9		
30	3 B	Ⅱ	下呂石	3.5	4.5	1.3	14.5		
31	3 B	Ⅱ	下呂石	1.5	1.8	0.4	1.2		
32	3 B	Ⅱ	下呂石	7.1	3.9	1.1	26.5		
33	3 B	Ⅱ	下呂石	1.8	2.8	0.7	2.3		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
34	3 C	I	下呂石	2.7	3.7	0.9	6.6		
35	3 C	I	下呂石	2.8	4.5	1.2	14.3		
36	3 C	I	下呂石	5.8	4.6	0.9	20.6		
37	3 C	I	下呂石	2.9	1.4	0.5	2.5		
38	3 C	II	下呂石	2.8	2.3	0.7	4.3		
39	3 D	I	下呂石	3.7	4.6	0.9	12.7		
40	3 D	I	下呂石	3.5	4.4	1.5	17.0		
41	3 D	I	下呂石	5.4	5.0	1.0	20.2		
42	3 D	I	チャート	3.4	2.4	0.6	3.6		
43	3 D	II	下呂石	6.4	3.1	3.0	39.5		
44	3 D	II	下呂石	2.2	3.6	0.7	4.5		
45	3 D	II	下呂石	6.1	3.0	0.9	11.3		
46	3 D	II	チャート	2.8	1.9	0.6	3.7		
47	3 E	I	下呂石	4.0	3.5	0.9	8.7		
48	3 E	I	下呂石	2.5	3.6	0.7	5.5		
49	3 E	II	下呂石	4.5	7.3	1.0	35.0		
50	3 E	II	下呂石	2.5	3.7	0.9	6.5		
51	3 E	II	下呂石	3.8	2.5	1.0	7.6		
52	3 E	II	下呂石	4.4	4.3	1.5	27.8		
53	3 E	II	下呂石	4.0	2.5	0.7	5.3		
54	3 E	II	下呂石	1.9	3.7	0.7	5.7		
55	3 E	II	下呂石	3.0	3.6	1.1	9.1		
56	3 E	II	下呂石	3.3	3.3	1.2	10.9	42－88	
57	3 E	II	下呂石	3.6	3.3	0.5	5.4		
58	3 E	II	下呂石	2.5	3.6	0.8	6.5		
59	3 E	II	下呂石	2.9	2.2	0.9	4.6		
60	4 A	II	下呂石	2.6	2.4	0.7	2.9		
61	4 A	II	下呂石	3.7	4.6	0.7	6.9	42－89	
62	4 A	II	下呂石	3.6	2.7	0.9	6.9		
63	4 A	II	下呂石	2.6	2.5	0.8	4.4		
64	4 A	II	下呂石	2.9	3.2	1.1	9.1		
65	4 A	II	下呂石	2.9	3.1	0.7	6.2		
66	4 A	II	黒曜石	2.0	3.9	0.6	3.0		
67	4 B	II	下呂石	5.5	5.3	1.9	49.8		
68	4 B	I	下呂石	3.2	1.6	0.3	2.3		
69	4 B	I	下呂石	5.3	3.3	1.6	22.1		
70	4 B	I	下呂石	3.6	3.7	0.8	10.9		
71	4 B	I	下呂石	2.3	2.5	0.7	4.6		
72	4 B	I	下呂石	1.8	2.2	0.3	1.4		
73	4 B	I	チャート	2.7	2.1	0.8	4.0	42－84	
74	4 B	II	下呂石	2.0	2.0	0.4	1.5		
75	4 B	II	下呂石	2.0	2.7	0.6	2.4		
76	4 B	II	下呂石	2.8	2.2	0.7	3.1		
77	4 B	II	下呂石	2.8	3.7	1.0	9.8		
78	4 B	II	下呂石	2.8	5.3	1.1	16.4		
79	4 C	II	下呂石	4.9	5.0	0.9	20.7		
80	4 C	II	下呂石	2.6	3.0	0.7	6.3		
81	4 C	I	下呂石	3.2	6.4	0.7	11.1		
82	4 C	I	下呂石	5.0	3.6	1.1	21.4		
83	4 C	I	下呂石	4.6	4.0	1.7	30.8		
84	4 C	I	下呂石	3.9	3.7	0.6	6.5		
85	4 C	II	下呂石	1.5	2.4	0.4	1.3		
86	4 C	II	下呂石	3.7	2.4	1.1	10.1		
87	4 C	II	下呂石	3.9	7.5	2.0	49.3		
88	4 D	II	下呂石	5.2	4.0	1.0	22.3		
89	4 E	I	下呂石	2.5	4.9	0.6	8.4	42－86	
90	4 E	I	下呂石	2.4	3.1	0.9	6.0		
91	4 E	II	下呂石	3.6	3.6	0.9	13.8		
92	4 E	II	下呂石	2.6	2.0	0.6	3.0		
93	4 E	II	下呂石	2.7	1.8	0.5	2.3		
94	4 E	II	下呂石	3.6	2.2	0.5	3.1		
95	4 E	II	黒曜石	0.9	1.9	0.7	1.0		
96	5 A	II	下呂石	2.5	3.2	0.8	5.4		
97	5 B	II	下呂石	1.9	2.5	0.5	2.0		
98	5 B	II	下呂石	3.5	3.4	0.9	8.6		
99	5 C	I	下呂石	5.5	3.6	0.8	14.6		
100	5 C	I	下呂石	5.4	3.7	1.3	22.8		
101	5 C	II	下呂石	4.2	4.0	0.9	18.4		
102	5 C	II	下呂石	3.2	5.9	1.1	17.3		
103	5 C	II	下呂石	4.8	6.1	1.3	36.0		
104	5 C	II	下呂石	2.7	2.7	0.8	5.6		
105	5 E	I	下呂石	3.6	4.8	1.1	17.1	42－90	

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
106	5 E	I	下呂石	2.0	2.6	0.8	3.2		
107	5 E	I	下呂石	2.9	3.3	0.5	3.7		
108	6 C	I	下呂石	3.8	4.1	1.0	10.7		
109	6 C	I	下呂石	3.2	1.6	0.6	2.4		
110	6 C	I	下呂石	3.4	3.7	1.2	14.3		
111	6 C	I	黒曜石	2.2	2.7	0.6	3.0	42－85	
112	6 C	II	下呂石	3.7	1.6	0.5	2.5		
113	6 D	I	下呂石	1.4	2.9	0.7	4.4		
114	6 D	II	下呂石	3.2	1.8	0.5	3.5		
115	6 E	II	下呂石	4.4	2.0	1.4	12.7		
116	6 E	II	下呂石	3.8	2.1	0.7	5.6		
117	6 E	II	下呂石	2.1	2.9	0.9	4.4		
118	P111	II	下呂石	2.8	4.4	0.6	6.5		
119	P118	II	黒曜石	2.9	2.0	0.7	4.1		

使用痕のある剥片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	2 B	I	黒曜石	2.5	1.7	0.6	2.1	42－97	
2	2 B	I	玉髄	3.7	2.1	0.5	5.7		
3	2 B	II	下呂石	3.9	6.0	0.9	16.3	42－94	
4	2 C	I	下呂石	2.1	3.3	0.9	5.1		
5	2 C	I	黒曜石	3.3	1.7	0.8	4.0		
6	2 D	I	下呂石	5.0	6.8	1.4	28.7		
7	2 D	II	下呂石	4.9	3.7	0.8	9.8		
8	2 D	II	下呂石	3.1	2.5	0.6	4.4		
9	3 B	I	下呂石	3.8	5.2	0.8	15.4		
10	3 B	I	下呂石	5.0	2.7	0.8	5.1		
11	3 B	I	黒曜石	2.9	1.9	0.8	3.0		
12	3 B	I	黒曜石	2.2	1.7	0.6	1.5		
13	3 B	II	下呂石	8.0	7.7	1.9	48.4		
14	3 B	II	下呂石	3.6	2.8	0.7	7.5		
15	3 B	II	下呂石	2.6	3.7	0.8	5.5		
16	3 B	II	下呂石	3.2	3.2	0.5	2.8		
17	3 B	II	下呂石	3.7	2.2	0.7	4.6		
18	3 B	II	下呂石	3.9	6.7	0.5	11.1		
19	3 B	II	チャート	2.7	2.7	0.4	2.8		
20	3 C	I	下呂石	5.0	4.0	1.3	16.7		
21	3 C	I	下呂石	4.2	4.9	1.4	23.4		
22	3 C	I	下呂石	3.1	3.3	0.8	9.8		
23	3 C	I	下呂石	4.2	5.0	1.1	18.6		
24	3 C	I	下呂石	2.5	2.4	0.6	3.3		
25	3 C	II	下呂石	4.7	4.8	1.0	21.7		
26	3 D	I	下呂石	2.5	4.3	0.8	8.3		
27	3 D	II	下呂石	3.6	4.4	1.0	21.5		
28	3 D	II	下呂石	5.1	1.6	1.2	11.0		
29	3 D	II	チャート	3.8	2.8	0.5	5.5	42－95	
30	3 E	I	下呂石	5.3	6.4	1.0	39.5		
31	3 E	I	下呂石	4.3	3.2	0.8	11.0		
32	3 E	II	下呂石	6.1	5.8	0.8	15.2		
33	3 E	II	下呂石	3.8	3.7	1.0	11.0		
34	3 E	II	下呂石	3.1	3.8	0.9	10.3		
35	3 E	II	下呂石	3.2	3.3	0.9	8.9		
36	3 E	II	下呂石	2.7	2.9	0.9	5.3	42－96	
37	3 E	II	下呂石	2.9	2.4	0.7	5.0		
38	3 E	II	下呂石	6.3	4.8	2.3	48.6		
39	4 A	III	下呂石	6.0	4.5	1.4	20.7	42－91	
40	4 A	III	下呂石	4.1	4.2	0.7	8.5		
41	4 A	II	下呂石	6.5	6.0	2.6	67.2		
42	4 B	I	下呂石	4.0	1.9	1.1	6.0		
43	4 B	I	下呂石	3.9	7.0	0.7	15.9		
44	4 B	I	下呂石	3.1	1.6	0.5	2.5		
45	4 B	I	下呂石	5.2	4.1	1.0	20.3		
46	4 B	II	下呂石	5.4	4.2	1.3	26.3		
47	4 B	II	下呂石	5.2	3.3	1.7	27.6		
48	4 C	I	下呂石	3.3	3.5	0.5	4.9		
49	4 C	II	下呂石	5.8	4.2	1.8	34.1		
50	4 C	II	下呂石	3.4	5.1	1.4	20.9		
51	4 C	II	下呂石	3.1	4.1	0.7	6.6		
52	4 C	II	下呂石	3.8	5.0	1.4	22.8		
53	4 E	I	下呂石	3.3	4.0	0.9	8.7		
54	4 E	I	下呂石	4.0	6.0	1.0	20.2		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
55	4 E	Ⅰ	下呂石	3.0	4.4	0.5	9.3		
56	4 E	Ⅱ	下呂石	2.4	3.9	1.0	9.0	42－93	
57	4 E	Ⅱ	下呂石	4.1	3.0	1.1	9.8		
58	4 E	Ⅱ	黒曜石	2.2	1.8	0.3	1.1		
59	5 B	Ⅰ	下呂石	5.5	3.8	1.0	13.4		
60	5 B	Ⅱ	下呂石	4.3	3.7	1.2	17.0		
61	5 B	Ⅱ	下呂石	2.6	4.8	0.8	10.2		
62	5 B	Ⅱ	下呂石	3.7	3.8	1.0	10.1		
63	5 B	Ⅱ	下呂石	2.5	3.3	1.0	6.7		
64	5 B	Ⅱ	黒曜石	3.7	2.8	1.0	10.6		
65	5 C	Ⅰ	下呂石	7.0	6.2	1.5	57.3		
66	5 C	Ⅰ	下呂石	4.0	3.0	1.5	14.8		
67	5 C	Ⅰ	下呂石	3.9	3.6	1.0	9.3		
68	5 C	Ⅰ	チャート	3.0	2.7	0.7	5.7		
69	5 C	Ⅱ	下呂石	5.2	9.6	1.0	40.2		
70	5 C	Ⅱ	下呂石	4.4	2.9	0.5	7.4		
71	5 D	Ⅱ	下呂石	4.4	5.2	1.3	25.6		
72	5 D	Ⅱ	下呂石	5.0	5.4	1.0	23.1		
73	5 E	Ⅱ	下呂石	3.7	4.7	0.8	9.1		
74	6 B	Ⅰ	黒曜石	3.8	1.0	0.6	1.8		
75	6 B	Ⅱ	下呂石	3.3	6.7	1.0	17.6		
76	6 B	Ⅱ	下呂石	3.3	4.8	0.8	9.2	42－92	
77	6 B	Ⅱ	下呂石	4.6	4.1	1.3	21.3		
78	6 B	Ⅱ	下呂石	4.0	5.0	0.9	15.2		
79	6 B	Ⅱ	下呂石	3.4	4.2	1.5	9.5		
80	6 C	Ⅰ	下呂石	6.0	3.4	0.9	15.2		
81	6 C	Ⅰ	下呂石	4.8	4.1	0.9	18.8		
82	6 C	Ⅱ	下呂石	4.9	6.2	1.2	28.3		
83	6 C	Ⅱ	下呂石	4.1	3.6	0.9	4.0		
84	6 D	Ⅰ	下呂石	3.0	4.0	1.2	10.4		
85	6 E	Ⅱ	下呂石	4.9	3.2	1.3	13.8		
86	6 E	Ⅱ	黒曜石	2.2	3.0	0.9	3.6		

打製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	2 A	Ⅱ	凝灰岩	(6.7)	5.7	1.9	(90.4)	－	b		
2	2 B	Ⅰ	凝灰岩	11.5	4.8	2.2	144.2	1			
3	2 C	Ⅰ	凝灰岩	17.9	11.3	3.3	855.9	1			
4	2 C	Ⅱ	凝灰岩	12.0	7.0	2.4	257.1	1		44－106	
5	2 D	Ⅰ	凝灰岩	9.0	4.6	1.2	63.5	1			
6	2 D	Ⅱ	凝灰岩	13.8	7.7	2.8	317.7	3			
7	3 A	Ⅱ	凝灰岩	(11.5)	(5.9)	3.2	(381.8)	－	b		
8	3 A	Ⅱ	凝灰岩	(7.8)	4.8	1.2	(52.9)	1	b		
9	3 B	Ⅰ	凝灰岩	8.6	4.3	1.5	67.4	1			
10	3 B	Ⅰ	凝灰岩	(7.9)	6.1	1.6	(115.9)	1	a		
11	3 B	Ⅰ	凝灰岩	(9.0)	7.5	3.4	(304.7)	－	d		
12	3 B	Ⅰ	凝灰岩	(3.6)	(6.2)	(1.2)	(30.1)	－	b		
13	3 B	Ⅱ	凝灰岩	(5.0)	(4.9)	(1.4)	(27.4)	－	d		
14	3 B	Ⅱ	凝灰岩	(3.5)	(4.2)	(1.6)	(29.3)	－	d		
15	3 B	Ⅱ	凝灰岩	(7.4)	(5.4)	(1.6)	(93.9)	－	b		
16	3 B	Ⅱ	凝灰岩	8.4	4.0	1.5	79.7	1			
17	3 C	Ⅰ	凝灰岩	(10.1)	4.6	1.3	(71.9)	－			
18	3 C	Ⅰ	凝灰岩	10.0	(4.5)	1.3	(86.0)	－	c		
19	3 C	Ⅰ	凝灰岩	12.2	5.9	2.5	232.5	1		44－105	
20	3 C	Ⅰ	凝灰岩	(10.0)	5.0	2.2	(133.6)	1	c		
21	3 C	Ⅰ	凝灰岩	13.6	6.8	3.2	381.2	1			
22	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.8)	(7.5)	2.9	(268.6)	－	b		
23	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.2)	9.0	2.7	(286.7)	－	b		
24	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.0)	(6.1)	3.2	(241.2)	－	d		
25	3 C	Ⅱ	凝灰岩	10.0	5.0	1.3	77.0	1			
26	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(8.6)	5.0	2.4	(115.9)	1	b		
27	3 C	Ⅱ	凝灰岩	11.6	6.3	2.0	179.5	1			
28	3 C	Ⅱ	凝灰岩	9.0	4.8	1.6	63.8	3			
29	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(7.5)	5.0	1.5	(55.6)	1	b		
30	3 D	Ⅰ	凝灰岩	14.0	7.8	3.4	458.9	3			
31	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(5.6)	(4.8)	(1.5)	(45.2)	－	b		
32	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(6.9)	(4.9)	(1.4)	(46.4)	－	a		
33	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(9.3)	5.2	1.9	(111.2)	1	a		
34	3 D	Ⅱ	凝灰岩	11.2	5.0	2.2	148.7	1		44－104	
35	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(7.9)	5.9	1.8	(85.6)	1	b		
36	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(8.0)	(5.6)	2.0	(100.9)	－	b		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
37	3 D	Ⅱ	凝灰岩	9.0	4.4	1.5	79.7	1			
38	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(7.0)	5.5	2.0	(86.4)	1	b		
39	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(11.7)	5.6	2.2	(209.2)	1	c		
40	3 D	Ⅱ	凝灰岩	11.9	5.5	2.5	189.4	1			
41	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(7.6)	5.0	1.4	(62.7)	1	b		
42	3 E	Ⅰ	凝灰岩	(9.5)	5.6	2.7	(182.8)	1	d		
43	3 E	Ⅱ	凝灰岩	18.7	6.8	2.6	422.4	1		44－114	
44	3 E	Ⅱ	凝灰岩	14.4	6.9	3.0	389.4	1		44－108	
45	3 E	Ⅱ	凝灰岩	(9.4)	5.0	1.5	(75.3)	－	c		
46	4 B	Ⅰ	凝灰岩	11.7	6.9	2.3	247.2	3			
47	4 B	Ⅰ	凝灰岩	8.9	4.6	1.3	68.5	1			
48	4 B	Ⅰ	凝灰岩	(8.1)	4.9	1.3	(53.2)	1	a		
49	4 B	Ⅰ	凝灰岩	(5.6)	(5.6)	(1.4)	(32.8)	－	b		
50	4 B	Ⅰ	凝灰岩	11.3	5.0	1.8	122.8	1			
51	4 B	Ⅰ	凝灰岩	13.0	6.1	2.4	256.8	1			
52	4 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.8)	4.8	1.6	(83.2)	1	b		
53	4 B	Ⅱ	凝灰岩	(7.7)	(5.5)	2.7	(164.5)	－	d		
54	4 C	Ⅰ	凝灰岩	(5.0)	(8.8)	1.1	(106.7)	－	b		
55	4 C	Ⅰ	凝灰岩	(5.6)	(7.5)	(2.5)	(162.4)	－	c		
56	4 C	Ⅰ	凝灰岩	14.7	6.8	3.0	377.0	1			
57	4 C	Ⅱ	凝灰岩	14.8	8.0	3.5	493.4	3		44－112	
58	4 C	Ⅱ	砂岩	(7.2)	(5.7)	1.5	(87.4)	－	b		
59	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(6.5)	(5.8)	1.8	(98.3)	－	d		
60	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.0)	(7.0)	2.6	(236.8)	－	b		
61	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(8.0)	5.8	2.8	(148.9)	1	d		
62	4 C	Ⅱ	凝灰岩	11.0	5.2	1.7	142.9	1			
63	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(7.0)	5.3	2.0	(85.2)	1	b		
64	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.7)	(7.6)	3.2	(243.8)	－	b		
65	4 D	Ⅱ	凝灰岩	12.8	7.0	2.4	333.1	1		44－107	
66	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(9.7)	3.4	1.2	(52.1)	1	c		
67	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(11.8)	5.5	2.7	(209.0)	1	b		
68	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(7.8)	(7.9)	3.2	(161.8)	－	b		
69	4 D	Ⅱ	凝灰岩	9.8	5.3	1.6	104.9	1			
70	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(10.3)	(5.0)	3.0	(165.4)	1	a		
71	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(5.5)	(5.4)	1.5	(72.9)	－	b		
72	4 D	Ⅱ	凝灰岩	10.0	5.0	1.8	122.1	1			
73	4 E	Ⅰ	凝灰岩	(8.2)	(5.6)	2.1	(104.0)	－	a		
74	4 E	Ⅱ	凝灰岩	(9.3)	4.8	2.0	(130.2)	1	b		
75	4 E	Ⅱ	凝灰岩	(7.3)	(8.4)	(1.9)	(119.9)	－	d		
76	5 B	Ⅰ	凝灰岩	(7.4)	5.2	2.0	(94.7)	－	a		
77	5 B	Ⅰ	凝灰岩	(9.0)	5.9	1.9	(118.8)	1	b		
78	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(6.8)	5.0	1.9	(91.2)	1	b		
79	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(7.2)	5.1	1.9	(127.2)	1	d		
80	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(7.4)	4.9	1.4	(84.9)	1	d		
81	5 B	Ⅱ	凝灰岩	14.0	5.5	1.3	155.8	1		44－109	
82	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.2)	4.1	1.2	(49.3)	1	b		
83	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.4)	4.9	1.6	(96.3)	1	b		
84	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(8.7)	6.8	1.8	(124.3)	－	a		
85	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.4)	(6.9)	3.2	(293.9)	－	b		
86	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(10.0)	(7.2)	2.8	(216.5)	－	b		
87	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(10.6)	7.0	3.1	(318.3)	1	a		
88	5 B	Ⅱ	凝灰岩	11.9	5.0	2.6	210.2	1			
89	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(8.6)	6.0	2.9	(187.6)	1	b		
90	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(6.5)	(5.5)	3.3	(135.9)	－	b		
91	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(12.2)	7.5	3.7	(433.5)	1	b		
92	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(7.0)	5.6	3.0	(107.7)	－	b		
93	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(10.0)	5.9	1.5	(192.0)	1	b		
94	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(3.9)	(4.7)	(1.4)	(33.5)	－	a		
95	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(15.0)	7.1	3.1	(372.4)	1	b		
96	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.2)	5.5	2.9	(182.9)	1	a		
97	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(8.0)	6.5	3.2	(224.1)	－	a		
98	5 C	Ⅱ	凝灰岩	9.0	4.1	1.3	67.0	1			
99	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(8.1)	(6.0)	1.7	(97.0)	－	d		
100	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.8)	6.1	1.8	(145.0)	1	b		
101	5 D	Ⅱ	凝灰岩	9.6	4.1	1.4	72.3	1			
102	5 E	Ⅱ	凝灰岩	(6.6)	5.4	1.4	(63.8)	－	b		
103	5 E	Ⅱ	凝灰岩	(6.5)	3.9	2.0	(46.8)	1	a		
104	5 E	Ⅱ	凝灰岩	8.5	5.2	1.9	79.7	3			
105	6 A	Ⅱ	凝灰岩	(7.1)	(5.0)	1.2	(49.0)	－	a		
106	6 B	Ⅱ	凝灰岩	9.1	5.0	2.0	102.9	1		44－111	
107	6 B	Ⅱ	凝灰岩	(6.9)	(5.4)	2.4	(94.4)	－	a		
108	6 B	Ⅱ	凝灰岩	(11.0)	8.5	2.3	(321.7)	1	b		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
109	6 B	Ⅱ	凝灰岩	(12.2)	5.8	3.1	(236.2)	1	b		
110	6 B	Ⅱ	凝灰岩	(10.2)	6.9	3.0	(233.3)	3	b		
111	6 B	Ⅱ	砂岩	(5.3)	(4.6)	1.4	(44.6)	1	b		
112	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(7.0)	4.2	2.0	(71.3)	1	a		
113	6 C	Ⅱ	凝灰岩	15.9	9.2	4.1	664.5	3		44－113	
114	6 C	Ⅱ	凝灰岩	14.0	8.3	2.9	353.9	3			
115	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.0)	5.7	2.5	(185.7)	1	b		
116	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.8)	5.6	2.0	(189.1)	1	c		
117	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.6)	(6.6)	2.4	(176.8)	－	c		
118	6 D	Ⅰ	凝灰岩	(15.0)	7.2	4.0	(513.3)	1	b		
119	6 D	Ⅰ	凝灰岩	(8.8)	9.0	3.0	(240.6)	－	b		
120	6 D	Ⅰ	凝灰岩	14.6	7.2	3.2	415.0	1			
121	6 D	Ⅰ	凝灰岩	15.0	7.0	4.3	462.8	3			
122	6 D	Ⅰ	凝灰岩	(13.5)	7.0	2.7	(347.7)	1	c		
123	6 D	Ⅰ	凝灰岩	(8.5)	5.0	2.0	(100.2)	1	a		
124	6 E	Ⅱ	凝灰岩	10.0	4.4	1.6	97.7	1			
125	7 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.0)	6.6	1.7	(149.1)	1	a		
126	7 C	Ⅰ	凝灰岩	(8.6)	4.6	1.8	(92.0)	1	b		
127	7 C	Ⅰ	凝灰岩	(8.6)	5.7	1.3	(85.0)	－	b		
128	7 C	Ⅰ	凝灰岩	13.2	(8.5)	3.1	(388.5)	－	c		
129	7 C	Ⅱ	凝灰岩	13.0	7.0	2.2	190.1	1	b	44－110	
130	7 D	Ⅰ	凝灰岩	(3.1)	(4.1)	(1.1)	(17.4)	1	a		
131	SK15	Ⅱ	凝灰岩	10.3	5.0	1.8	112.8	1			
132	SK38	Ⅱ	凝灰岩	(9.8)	4.9	1.3	(98.0)	1	b		
133	SK40	Ⅱ	凝灰岩	(6.0)	5.0	1.8	(73.1)	－	b		
134	SK51	Ⅱ	凝灰岩	(8.6)	5.7	1.9	(156.1)	1	d		
135	SK58	Ⅱ	凝灰岩	(8.3)	5.5	2.5	(134.8)	1	a		
136	SK58	Ⅱ	凝灰岩	(11.5)	5.8	1.8	(100.1)	3	a		
137	P 39	Ⅱ	凝灰岩	(8.1)	5.8	2.6	(161.1)	1	b		
138	表採		凝灰岩	10.2	5.0	2.0	119.8	1			
139	表採		流紋岩	(10.6)	8.5	3.0	(412.2)	1	b		

磨製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	2 C	Ⅰ	蛇紋岩	7.5	(4.8)	1.8	(105.0)	2 B	a		
2	3 A	Ⅱ	蛇紋岩	(8.3)	5.2	(1.5)	(81.6)		d		
3	3 A	Ⅱ	凝灰岩	(9.4)	(5.7)	2.8	(222.0)	2 A	a		
4	3 B	Ⅰ	緑色片岩	(6.0)	(3.7)	(1.5)	(28.2)		e		
5	3 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.0)	5.1	2.6	(201.6)	2 A	b		
6	3 B	Ⅱ	凝灰岩	(4.8)	(4.5)	(2.4)	(49.0)		e		
7	3 C	Ⅰ	蛇紋岩	(8.1)	5.1	2.7	(150.9)		d		
8	3 C	Ⅰ	蛇紋岩	(1.2)	(1.9)	(0.4)	(1.2)		e		
9	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(7.0)	4.0	1.5	(68.4)		b		
10	3 C	Ⅱ	蛇紋岩	6.2	3.5	1.6	52.0	2 B		45－121	
11	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(11.0)	(4.9)	3.0	(225.7)	3	a	45－125	
12	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(4.4)	4.9	2.8	(73.9)		b		
13	3 D	Ⅰ	凝灰岩	(3.6)	(5.3)	(1.9)	(24.2)		e		
14	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	6.6	(3.4)	1.2	(40.6)	1	a	45－115	
15	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(8.5)	4.0	3.0	(143.6)		d		
16	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	(5.7)	4.3	1.8	(53.8)		a		
17	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	(9.8)	6.0	3.1	(277.3)	2 A	b		
18	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	(6.5)	2.4	0.9	(35.0)	2 B	c	45－122	
19	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	(4.1)	2.5	0.8	(11.4)	2 B	a		
20	3 D	Ⅱ	蛇紋岩	(7.4)	6.2	2.1	(141.4)		b		
21	4 A	Ⅱ	蛇紋岩	(2.5)	(2.7)	(1.0)	(6.7)		e		
22	4 B	Ⅱ	蛇紋岩	(10.3)	5.4	2.3	(218.2)	2 A	a	45－117	
23	4 B	Ⅱ	凝灰岩	(13.0)	5.1	3.3	(335.0)	2 A	c		
24	4 B	Ⅱ	凝灰岩	(6.5)	3.3	1.5	(45.1)	3	a		
25	4 C	Ⅰ	蛇紋岩	(9.7)	(3.6)	(2.1)	(107.5)	2	a		
26	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(5.8)	4.7	2.9	(99.4)		a		
27	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(8.2)	(4.6)	(4.1)	(200.4)	3	a		
28	4 D	Ⅰ	凝灰岩	(5.3)	4.8	2.3	(66.7)	3	a		
29	4 D	Ⅰ	蛇紋岩	7.1	3.5	1.2	45.7	2 B		45－119	
30	4 D	Ⅱ	蛇紋岩	(10.0)	4.9	2.4	(148.8)	2 A	d		
31	4 D	Ⅱ	蛇紋岩	(5.7)	6.0	2.6	(124.6)		d		
32	4 D	Ⅱ	蛇紋岩	(3.0)	(1.3)	(1.6)	(7.4)		e		
33	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(8.7)	(5.0)	(4.2)	(202.4)	3	a		
34	5 B	Ⅱ	蛇紋岩	(6.6)	4.8	3.1	(130.5)	3	a		
35	5 B	Ⅱ	蛇紋岩	(11.1)	5.3	2.3	(246.6)	2 A	a	45－118	
36	5 B	Ⅱ	蛇紋岩	6.0	(3.6)	1.2	(40.7)	2 B	a		
37	5 C	Ⅱ	凝灰岩	(6.0)	5.0	3.3	(140.6)		a		

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
38	5 D	Ⅱ	蛇紋岩	9.0	4.3	1.6	109.0	2 B		45－120	
39	5 D	Ⅱ	蛇紋岩	(11.2)	4.9	2.5	(224.1)	2 A	a		
40	5 D	Ⅱ	凝灰岩	9.1	(4.0)	2.1	(102.6)	2 B	a		
41	5 E	Ⅱ	玄武岩	(10.6)	4.3	3.7	(213.6)	3	a		
42	6 B	Ⅱ	蛇紋岩	(6.4)	5.7	2.1	(129.3)	2	b		
43	6 B	Ⅱ	凝灰岩	(2.8)	3.4	2.8	(31.6)		e		
44	6 B	Ⅱ	蛇紋岩	(8.9)	4.6	2.5	(189.5)		b		
45	6 B	Ⅱ	蛇紋岩	6.4	2.9	1.1	34.9	2 B		45－124	
46	6 B	Ⅱ	泥岩	(4.7)	(2.1)	1.0	(12.6)	2 B	d		
47	6 B	Ⅱ	蛇紋岩	5.2	3.3	1.1	27.8	2 B		45－123	
48	6 B	Ⅱ	蛇紋岩	(5.8)	2.9	1.0	(27.0)	2 B	a		
49	6 C	Ⅰ	緑色片岩	(7.8)	(2.4)	(0.7)	(18.2)		e		
50	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(9.0)	5.8	3.0	(268.6)		a		
51	6 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.0)	(5.9)	3.5	(310.6)	2 A	a		
52	7 C	Ⅰ	蛇紋岩	10.2	5.2	2.5	198.2	2 A		45－116	

切目石錐

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	3 B	Ⅱ	粘板岩	(3.1)	2.8	1.5	(23.6)	46－131	
2	3 D	Ⅱ	粘板岩	3.5	3.5	1.7	26.1		
3	3 D	Ⅱ	砂岩	(4.9)	(2.7)	(1.1)	(17.9)		
4	4 D	Ⅱ	粘板岩	4.1	2.8	2.1	34.3	46－130	
5	5 C	Ⅱ	凝灰岩	4.6	3.6	1.6	36.2	46－129	
6	SK38	Ⅱ	砂岩	3.4	2.4	1.4	16.4		

有溝石錘

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	3 D	Ⅱ	凝灰岩	2.2	2.0	1.0	5.2	46－132	

礫石錘（計測部位は、渡辺誠 1985「礫石錘計測部位説明図」『阿曽田遺跡発掘調査報告書』を参照した）

番号	出土区	層位	石材	長さ1	長さ2	幅	a	b	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	4 C	Ⅱ	凝灰岩	5.7	5.5	4.1	0.6	0.8	1.8	65.7	46－133	
2	4 D	Ⅱ	凝灰岩	5.4	5.2	4.7	0.9	0.9	2.6	91.9		
3	4 E	Ⅱ	粘板岩	4.3	4.1	3.3	0.7	0.5	1.6	30.8		
4	SK59	Ⅱ	凝灰岩	6.8	6.5	4.6	1.0	1.1	3.0	126.2	46－135	
5	立石1	Ⅱ	凝灰岩	5.9	5.3	4.2	1.1	1.0	2.6	73.4	46－134	

横刃形石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(3.6)	(6.9)	0.9	(25.7)		
2	3 D	Ⅱ	凝灰岩	3.6	10.5	0.8	43.1	46－126	
3	4 B	Ⅰ	凝灰岩	3.7	9.1	1.3	56.3		
4	4 B	Ⅱ	凝灰岩	4.8	(9.0)	0.7	(40.7)		
5	4 E	Ⅱ	凝灰岩	6.2	9.3	1.0	92.5	46－127	
6	5 C	Ⅰ	凝灰岩	8.9	12.3	1.7	167.6	46－128	
7	5 C	Ⅱ	凝灰岩	5.4	(9.3)	0.9	(66.0)		
8	6 C	Ⅱ	凝灰岩	7.7	11.5	1.9	178.3		
9	6 C	Ⅰ	凝灰岩	4.6	(5.1)	(0.9)	(27.9)		
10	SK30	Ⅱ	凝灰岩	5.0	7.5	1.0	42.4		

磨石・凹石・敲石

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類 形態	分類 凹みの数と形状		挿図番号	備考（磨面の状況）
1	2 A	Ⅱ	凝灰岩	14.6	9.2	6.2	1580.0	Ⅲb	・ ・		47－144	B
2	2 A	Ⅱ	凝灰岩	10.2	6.9	5.6	614.1	Ⅲd	・ ・			A
3	2 A	Ⅱ	凝灰岩	12.0	6.7	6.3	721.0	Ⅱc	・ ・			A
4	2 B	Ⅰ	凝灰岩	(6.5)	7.7	2.2	(161.9)	－	・ ・			B
5	2 B	Ⅰ	凝灰岩	12.3	5.5	3.9	341.9	Ⅱc	2・0・0	1 2		
6	2 B	Ⅱ	凝灰岩	6.1	5.5	3.4	150.6	Ⅰb	1・0・0	2		
7	2 B	Ⅱ	凝灰岩	(6.0)	4.3	2.7	(91.6)	－	・ ・			B
8	2 B	Ⅱ	凝灰岩	14.2	8.4	6.6	1106.5	Ⅱc	1・0・0	1		
9	2 C	Ⅰ	凝灰岩	8.0	7.7	4.0	307.2	Ⅱb	・ ・			A
10	2 C	Ⅰ	凝灰岩	12.0	9.4	5.6	824.2	Ⅱb	・ ・			A
11	2 C	Ⅰ	凝灰岩	10.8	7.0	6.7	848.8	Ⅱa	・ ・			B
12	2 C	Ⅱ	凝灰岩	7.5	4.8	3.9	227.6	Ⅲd	・ ・			A
13	2 D	Ⅰ	砂岩	9.0	8.0	5.3	535.2	Ⅰb	・ ・			B
14	2 D	Ⅰ	凝灰岩	12.5	10.0	7.0	1410.0	Ⅱb	0・0・2	1		B

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類 形態	分類 凹みの数と形状	挿図番号	備考（磨面の状況）
15	2 D	I	凝灰岩	7.0	6.0	4.5	232.6	Ⅰb	・・		A
16	2 D	I	凝灰岩	12.1	6.1	8.5	856.1	Ⅱc	1・0・0 1		A
17	2 E	I	凝灰岩	12.0	7.4	5.0	638.6	Ⅱc	・・		A
18	2 E	I	凝灰岩	9.1	7.4	6.8	609.7	Ⅱc	・・		A
19	2 E	I	凝灰岩	12.0	8.8	6.0	936.8	Ⅱb	・・		B
20	2 E	I	凝灰岩	14.2	12.4	4.3	1162.0	Ⅳ	・・		A
21	2 E	Ⅱ	凝灰岩	(12.0)	9.5	7.0	(1086.1)	—	1・0・0 2		
22	2 E	Ⅱ	凝灰岩	10.4	6.8	3.4	346.7	Ⅱb	2・2・0 2	47－141	
23	3 A	Ⅱ	凝灰岩	11.8	6.8	4.0	491.2	Ⅱb	・・		A
24	3 B	I	凝灰岩	10.4	10.0	4.0	608.6	Ⅰd	0・0・1 1	47－139	A
25	3 B	I	凝灰岩	6.2	6.6	4.8	277.4	Ⅰc	1・0・0 1		被熱
26	3 B	I	凝灰岩	16.3	5.9	4.0	535.6	Ⅱc	・・		B
27	3 B	I	凝灰岩	(11.1)	9.2	6.5	(1148.2)	Ⅱb	・・		A
28	3 B	Ⅱ	凝灰岩	10.0	8.5	5.3	661.8	Ⅱb	・・		A
29	3 B	Ⅱ	凝灰岩	12.0	7.8	7.5	967.7	Ⅱc	・・		B
30	3 C	I	凝灰岩	10.7	5.8	5.2	524.5	Ⅱc	1・1・1 1		
31	3 C	I	凝灰岩	10.4	6.0	4.0	387.2	Ⅱd	・・		B
32	3 C	I	凝灰岩	10.1	5.8	2.3	202.6	Ⅱc	・・		A
33	3 C	Ⅱ	凝灰岩	13.7	7.8	4.9	767.7	Ⅱb	・・		B
34	3 C	Ⅱ	凝灰岩	12.7	11.5	10.6	2440.0	Ⅰa	・・		B
35	3 C	Ⅱ	凝灰岩	(11.6)	10.0	5.5	(1022.0)	Ⅱb	・・		B
36	3 C	Ⅱ	凝灰岩	13.9	6.8	3.5	506.3	Ⅱb	2・2・0 2		
37	3 C	Ⅱ	凝灰岩	10.8	8.0	4.3	544.1	Ⅱd	2・1・0 1	47－145	
38	3 D	I	凝灰岩	8.8	6.9	4.9	435.5	Ⅱb	・・		B
39	3 D	I	凝灰岩	8.3	5.8	4.5	313.4	Ⅱb	・・		A 被熱
40	3 D	Ⅱ	砂岩	5.8	6.0	4.5	220.3	Ⅰb	・・		B
41	3 D	Ⅱ	凝灰岩	17.0	8.0	5.6	1260.0	Ⅱd	・・		A
42	3 D	Ⅱ	凝灰岩	14.5	7.9	6.9	1330.0	Ⅲb	1・1・0 1		A
43	3 D	Ⅱ	凝灰岩	12.5	7.6	5.5	856.2	Ⅱd	1・1・0 1		B
44	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(5.6)	(4.5)	4.9	(144.1)	—	・・		B
45	3 D	Ⅱ	凝灰岩	(5.9)	(5.4)	(2.4)	(104.5)	—	・・		B
46	3 E	Ⅱ	凝灰岩	10.6	6.7	4.7	483.6	Ⅱb	・・		A
47	3 E	Ⅱ	凝灰岩	7.0	(5.9)	4.7	(296.0)	Ⅰb	・・		B
48	4 A	Ⅱ	凝灰岩	8.4	7.3	4.4	369.8	Ⅰb	・・		A
49	4 B	I	凝灰岩	11.2	7.7	6.5	894.5	Ⅲd	・・	47－147	A
50	4 B	I	凝灰岩	13.5	8.3	5.7	898.2	Ⅲb	・・		B
51	4 B	I	凝灰岩	9.5	4.5	3.0	198.3	Ⅱb	・・		A
52	4 B	I	砂岩	16.8	4.5	8.8	1094.2	Ⅱb	・・		B
53	4 B	I	凝灰岩	12.0	6.7	3.0	410.2	Ⅱb	2・1・0 1 2		B
54	4 B	I	凝灰岩	15.0	5.5	3.4	456.2	Ⅱd	2・2・3 1		A
55	4 B	I	凝灰岩	7.0	(6.0)	4.3	(286.8)	Ⅳ	1・0・1 1		
56	4 B	I	凝灰岩	9.3	7.9	6.3	586.9	Ⅱb	・・		A
57	4 B	Ⅱ	凝灰岩	13.5	5.5	3.9	409.5	Ⅱc	2・0・0 1		B
58	4 B	Ⅱ	凝灰岩	(9.2)	8.4	5.0	(538.2)	Ⅱb	・・		B
59	4 B	Ⅱ	凝灰岩	19.0	13.0	7.0	2600.0	Ⅱb	・・		B
60	4 B	Ⅱ	凝灰岩	13.3	6.1	4.8	639.5	Ⅱd	・・		B
61	4 B	Ⅱ	凝灰岩	14.3	8.3	4.3	775.3	Ⅱb	・・		B
62	4 C	I	凝灰岩	9.3	8.6	5.8	628.7	Ⅰb	・・		A
63	4 C	I	凝灰岩	7.5	6.5	4.5	312.1	Ⅰb	1・0・0 1		
64	4 C	I	凝灰岩	10.2	6.9	6.8	683.5	Ⅱb	1・0・0 1		
65	4 C	I	凝灰岩	9.0	6.8	4.3	330.1	Ⅱb	・・		A
66	4 C	I	凝灰岩	(14.5)	5.5	5.0	(692.2)	—	・・		A
67	4 C	I	凝灰岩	13.4	5.0	4.7	528.3	Ⅱa	1・0・0 1	47－140	
68	4 C	Ⅱ	凝灰岩	7.8	7.7	4.9	337.2	Ⅰb	0・0・1 1		A
69	4 C	Ⅱ	凝灰岩	11.0	9.5	8.6	1410.0	Ⅰa	・・	47－137	B
70	4 C	Ⅱ	凝灰岩	9.6	7.5	3.7	369.4	Ⅱb	1・1・1 2		
71	4 C	Ⅱ	凝灰岩	9.7	8.0	6.9	905.8	Ⅲd	1・1・0 2		
72	4 C	Ⅱ	凝灰岩	11.9	8.8	4.7	641.2	Ⅱb	・・		A
73	4 C	Ⅱ	凝灰岩	11.5	7.6	4.9	604.8	Ⅱb	・・	47－142	A
74	4 C	Ⅱ	凝灰岩	7.7	7.3	4.5	383.2	Ⅰb	1・0・0 1		B
75	4 C	Ⅱ	凝灰岩	(10.1)	9.0	4.9	(580.2)	Ⅱc	・・		B
76	4 C	Ⅱ	凝灰岩	9.6	8.8	5.4	634.6	Ⅳ	0・0・1 1		B
77	4 D	I	凝灰岩	(7.4)	(6.2)	4.9	(333.0)	—	・・		B
78	4 D	Ⅱ	凝灰岩	10.4	8.0	5.4	669.8	Ⅱb	1・0・0 1		B
79	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(7.3)	8.0	(6.5)	(522.0)	—	・・		B
80	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(6.2)	8.7	5.1	(369.4)	—	・・		A
81	4 D	Ⅱ	凝灰岩	9.3	7.8	5.1	525.8	Ⅱb	・・		A
82	4 D	Ⅱ	凝灰岩	(10.0)	6.3	(3.1)	(309.4)	—	・・		B
83	4 E	I	凝灰岩	8.2	6.5	3.9	276.7	Ⅱb	・・		B
84	4 E	I	凝灰岩	(8.2)	(4.8)	(6.3)	(358.9)	—	・・		B
85	4 E	Ⅱ	凝灰岩	13.4	9.3	5.3	861.5	Ⅱb	・・		A

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類			挿図番号	備考（磨面の状況）
								形態	凹みの数と形状			
86	4 E	Ⅱ	凝灰岩	11.5	10.3	6.1	1056.3	Ⅰb	・ ・			B
87	4 E	Ⅱ	凝灰岩	8.3	7.2	5.3	458.8	Ⅳ	・ ・		47－148	B
88	4 E	Ⅱ	凝灰岩	10.3	7.8	5.2	397.2	Ⅱb	1・1・0	2		
89	5 A	Ⅱ	凝灰岩	11.0	9.0	5.7	820.0	Ⅱb	・ ・			A
90	5 B	Ⅰ	凝灰岩	9.0	8.6	4.7	594.3	Ⅰb	・ ・		47－138	B
91	5 B	Ⅱ	凝灰岩	11.7	(5.9)	3.3	(337.0)	－	・ ・			A
92	5 B	Ⅱ	凝灰岩	12.3	8.5	5.6	860.0	Ⅱb	・ ・			A
93	5 B	Ⅱ	砂岩	10.9	6.8	3.5	404.3	Ⅱb	・ ・			B
94	5 B	Ⅱ	凝灰岩	11.5	7.7	4.0	349.1	Ⅱb	1・1・0	2		A
95	5 B	Ⅱ	凝灰岩	(11.0)	8.2	4.4	(593.5)	Ⅳ	1・0・0	1		A
96	5 C	Ⅱ	凝灰岩	10.0	7.5	5.8	615.6	Ⅱb	・ ・			A
97	5 C	Ⅱ	凝灰岩	8.0	7.3	5.2	422.3	Ⅰb	2・1・0	1 2		B
98	5 C	Ⅱ	凝灰岩	13.0	9.8	6.0	1085.0	Ⅱb	1・0・1	1		長軸一端に敲打痕
99	5 D	Ⅰ	凝灰岩	10.9	8.0	4.8	501.2	Ⅱc	1・0・0	1		
100	5 D	Ⅱ	凝灰岩	10.1	9.5	3.8	545.8	Ⅱb	・ ・			B
101	5 D	Ⅱ	凝灰岩	(8.0)	7.8	3.2	(322.5)	－	・ ・			B
102	5 E	Ⅱ	凝灰岩	15.0	9.2	5.5	1280.0	Ⅱb	・ ・			B
103	5 E	Ⅰ	凝灰岩	10.0	6.8	4.9	556.6	Ⅲb	1・1・0	1		B
104	5 E	Ⅰ	凝灰岩	(13.0)	(6.2)	9.3	(1098.0)	Ⅱb	・ ・			B
105	6 A	Ⅱ	凝灰岩	10.5	7.5	7.2	827.2	Ⅱa	1・0・0	1		
106	6 B	Ⅰ	凝灰岩	17.0	10.5	6.2	1720.0	Ⅱb	・ ・			A 被熱
107	6 B	Ⅰ	凝灰岩	16.4	5.9	6.3	776.0	Ⅱc	・ ・			B 被熱
108	6 B	Ⅰ	凝灰岩	(12.0)	10.0	6.4	(1027.9)	Ⅱb	・ ・			A
109	6 B	Ⅰ	凝灰岩	12.7	10.0	9.0	1900.0	Ⅱa	・ ・			B
110	6 B	Ⅰ	凝灰岩	12.1	4.3	3.6	275.7	Ⅱd	・ ・			B
111	6 B	Ⅰ	凝灰岩	11.2	5.8	4.0	454.6	Ⅱd	・ ・			A
112	6 B	Ⅰ	凝灰岩	(13.9)	(7.0)	3.6	(537.2)	Ⅳ	・ ・			B
113	6 B	Ⅱ	凝灰岩	7.6	6.7	3.2	228.2	Ⅰb	・ ・			A
114	6 B	Ⅱ	凝灰岩	16.6	11.5	5.3	1650.0	Ⅱb	・ ・			B
115	6 B	Ⅱ	凝灰岩	7.9	7.6	4.1	379.6	Ⅲc	・ ・			B
116	6 B	Ⅱ	凝灰岩	11.4	(9.4)	6.2	(910.5)	Ⅱc	・ ・			B
117	6 B	Ⅱ	凝灰岩	11.0	8.7	6.1	642.2	Ⅱb	2・1・0			A
118	6 C	Ⅰ	凝灰岩	11.6	4.7	4.6	392.4	Ⅱc	・ ・			B
119	6 C	Ⅰ	凝灰岩	11.1	6.8	4.2	482.8	Ⅱc	1・0・0			A
120	6 C	Ⅰ	凝灰岩	13.3	9.0	6.0	1013.4	Ⅱb	・ ・			B
121	6 C	Ⅰ	凝灰岩	(8.6)	(8.0)	(4.3)	(289.5)	－	・ ・			B
122	6 C	Ⅰ	凝灰岩	(7.3)	4.5	3.8	(179.9)	－	・ ・			B
123	6 C	Ⅰ	凝灰岩	(10.2)	(5.8)	3.5	(266.6)	Ⅱb	1・1・0	1		
124	6 C	Ⅱ	凝灰岩	11.1	6.8	4.7	470.0	Ⅱb	・ ・			A
125	6 C	Ⅱ	凝灰岩	10.9	7.6	4.9	565.7	Ⅱb	1・0・0	1		
126	6 C	Ⅱ	凝灰岩	12.0	7.3	4.6	595.2	Ⅱb	・ ・			B
127	6 C	Ⅱ	凝灰岩	7.6	5.9	4.6	326.9	Ⅰb	1・0・0	1		
128	6 C	Ⅱ	凝灰岩	10.0	8.4	4.3	509.4	Ⅱb	・ ・			B
129	6 C	Ⅱ	凝灰岩	12.5	7.8	4.2	699.2	Ⅲd	・ ・			B
130	6 D	Ⅰ	凝灰岩	9.8	5.8	4.0	372.9	Ⅱb	・ ・			B
131	6 D	Ⅰ	凝灰岩	13.5	8.5	4.7	572.0	Ⅱc	1・0・0	1	47－143	A
132	6 D	Ⅰ	凝灰岩	10.7	7.5	5.0	543.9	Ⅱc	1・0・1	1		A
133	6 D	Ⅰ	凝灰岩	12.1	10.2	5.0	879.0	Ⅱb	1・0・0	2		A
134	6 D	Ⅱ	凝灰岩	12.1	5.9	4.3	415.8	Ⅲc	・ ・		47－146	A
135	6 D	Ⅱ	凝灰岩	11.1	6.2	5.2	464.6	Ⅱb	1・0・0	1		
136	6 D	Ⅱ	凝灰岩	8.5	5.8	3.0	271.6	Ⅱd	1・0・0	1		B
137	6 D	Ⅱ	凝灰岩	8.5	7.1	5.1	429.3	Ⅱb	1・1・0	1		
138	6 D	Ⅱ	凝灰岩	9.6	8.0	6.5	699.5	Ⅱc	・ ・			長軸一端に敲打痕
139	6 E	Ⅱ	凝灰岩	5.8	5.0	3.6	126.3	Ⅰb	1・0・0	1		
140	6 E	Ⅱ	凝灰岩	15.0	9.0	6.4	1200.0	Ⅱb	・ ・			A
141	6 E	Ⅱ	凝灰岩	13.5	8.5	6.2	854.2	Ⅱc	・ ・			A
142	7 C	Ⅰ	凝灰岩	10.2	9.8	5.2	820.2	Ⅰb	1・0・0	1		B
143	7 C	Ⅰ	凝灰岩	10.5	7.7	4.7	503.5	Ⅱb	・ ・			B
144	7 C	Ⅰ	凝灰岩	14.4	5.0	4.1	472.8	Ⅱc	・ ・			B
145	7 C	Ⅰ	凝灰岩	9.3	8.8	4.2	548.1	Ⅲb	・ ・			A
146	7 C	Ⅰ	凝灰岩	12.1	6.2	5.1	563.1	Ⅱc	・ ・			A
147	7 C	Ⅰ	凝灰岩	9.2	9.0	5.9	776.0	Ⅳ	・ ・			A
148	SK11	Ⅱ	凝灰岩	13.0	7.0	4.4	654.0	Ⅱb	・ ・			B
149	SK12	Ⅱ	凝灰岩	(10.0)	11.0	5.0	(857.0)	－	・ ・			B 被熱
150	SK43	Ⅱ	凝灰岩	10.0	8.8	6.0	829.0	Ⅱd	1・1・0	1		
151	SK60	Ⅱ	凝灰岩	11.4	5.9	5.0	461.1	Ⅱb	1・1・0	2		長軸一端に敲打痕

砥石

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	5 B	Ⅱ	砂岩	10.0	6.4	2.7	130.6	46－136	有溝
2	6 B	Ⅱ	凝灰岩	9.3	8.8	5.3	503.0		

刀剣形石製品

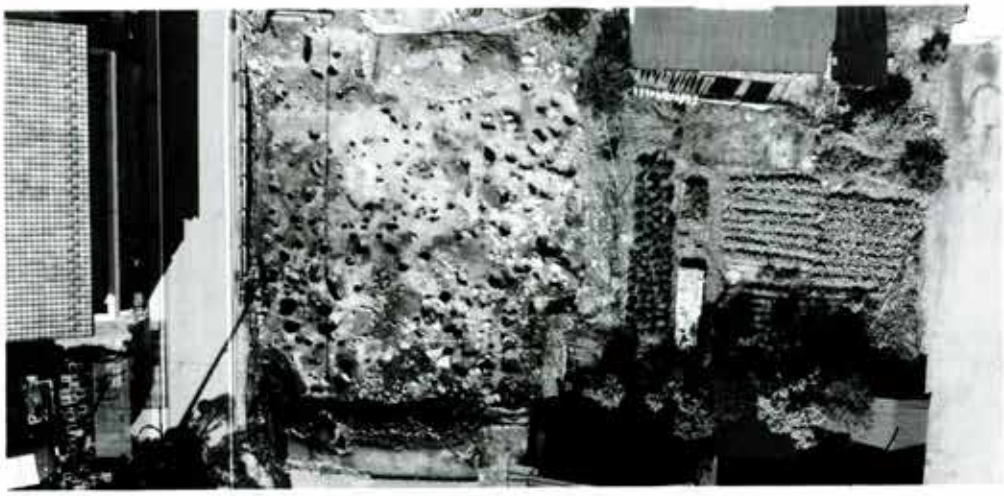
番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	2 C	Ⅰ	粘板岩	(18.3)	2.0	1.9	(138.3)	石棒	48－4	
2	3 C	Ⅱ	粘板岩	(7.6)	(2.0)	(1.1)	(26.1)	石棒	48－3	有溝
3	4 B	Ⅲ	粘板岩	(7.4)	(1.6)	(1.3)	(21.8)	石棒	48－2	有溝
4	5 E	Ⅰ	粘板岩	(7.6)	(1.8)	(1.5)	(28.5)	石棒	48－5	
5	6 B	Ⅱ	粘板岩	(9.8)	(2.3)	(2.2)	(76.2)	石棒	48－1	
6	6 C	Ⅰ	粘板岩	(5.6)	(1.7)	(1.6)	(28.1)	石棒		有溝
7	3 B	Ⅱ	粘板岩	(7.4)	(2.9)	(1.0)	(30.3)	石刀	48－6	
8	3 D	Ⅱ	緑色片岩	(4.0)	(2.9)	(0.8)	(14.2)	石刀		
9	5 C	Ⅰ	粘板岩	(5.5)	(2.1)	(1.2)	(19.0)	石刀		
10	2 D	Ⅰ	粘板岩	(8.2)	(1.9)	(0.7)	(17.8)	不明		
11	3 B	Ⅱ	粘板岩	(4.7)	(2.0)	(0.7)	(11.4)	不明		

石製装身具

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	SK44	Ⅱ	滑石	2.7	1.3	0.6	3.7	垂飾	48－7	
2	4 E	Ⅱ	蛇紋岩	3.7	2.3	0.7	10.0	垂飾	48－8	定角式磨製石斧状

1

2

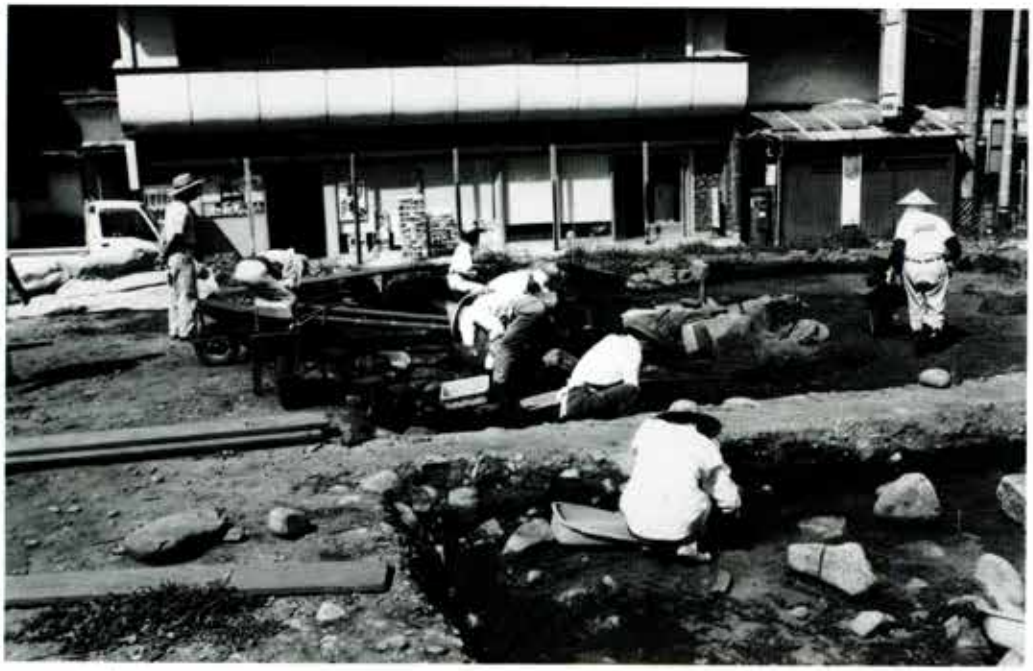


1．遺跡遠景　2．発掘前の状況　3．遺跡全景

図版2

1

2



3

1．C列東壁　2．4列南壁　3．作業風景

1

2

3

4

5

6

7

8

1・2．遺構検出状況　3．SK5　4．SK11　5．SK15　6．SK19　7．SK47　8．SK52

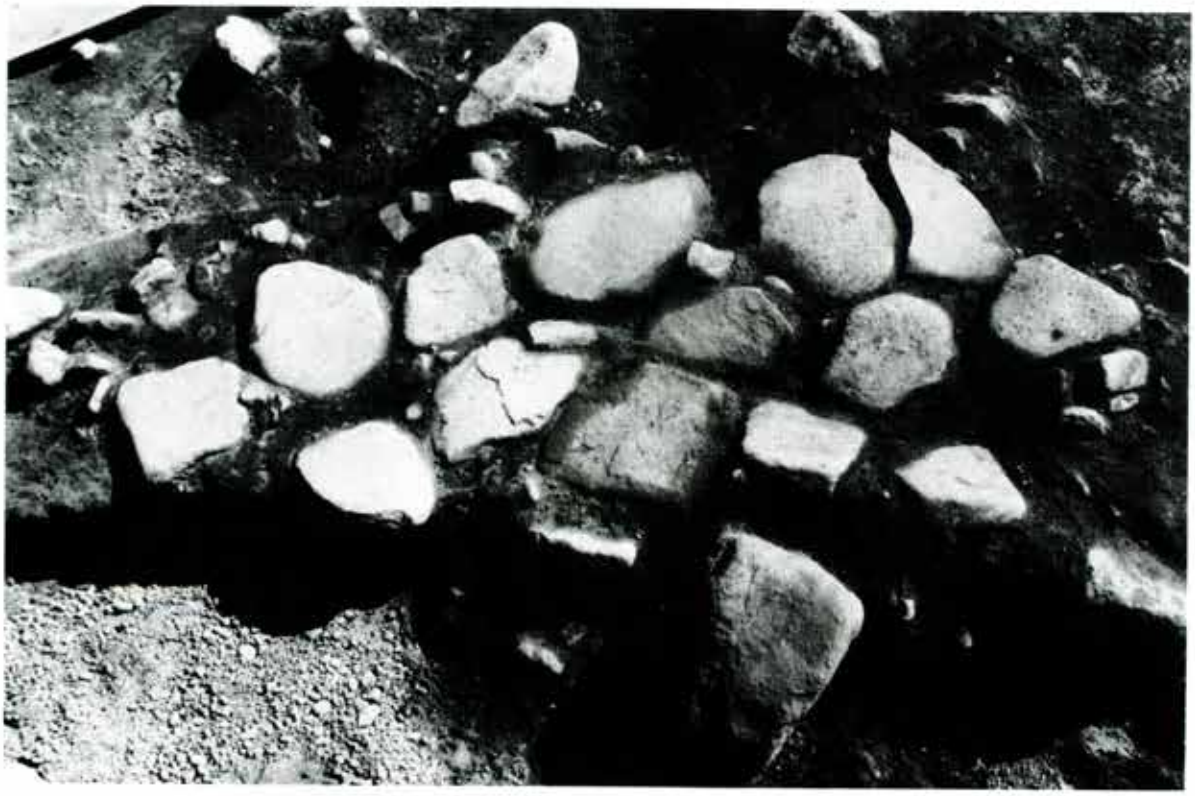
図版4

1

2

3

4



5

1．SK63　2．立石1　3．立石2　4．立石3　5．配石遺構

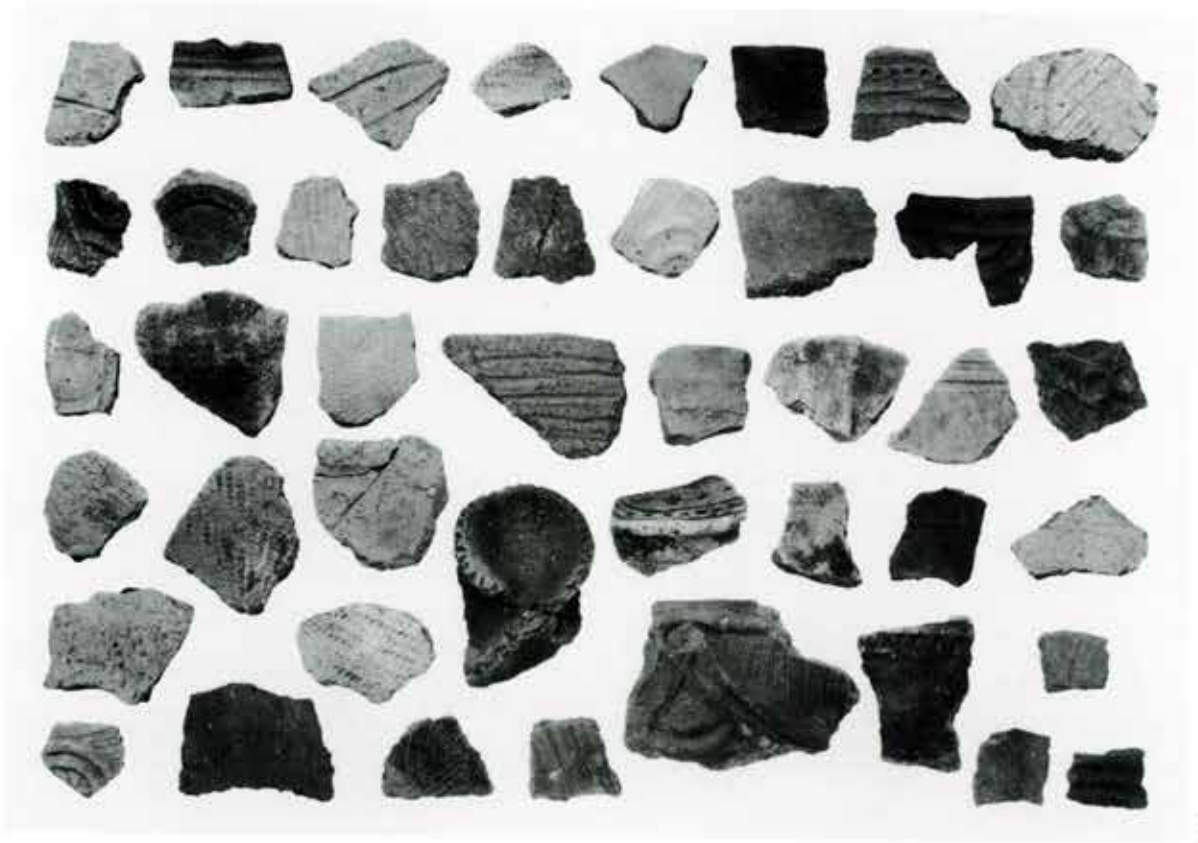
1

2

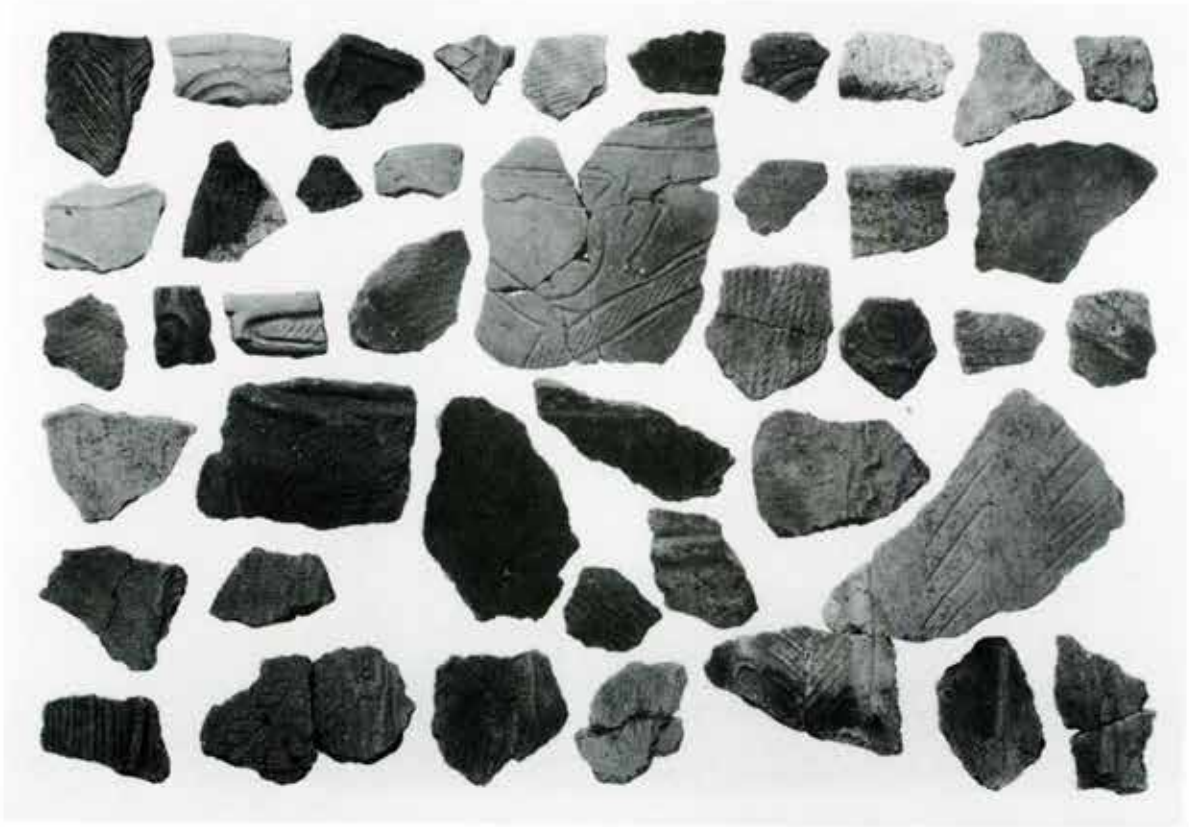
3

1～3．遺物出土状況

図版6

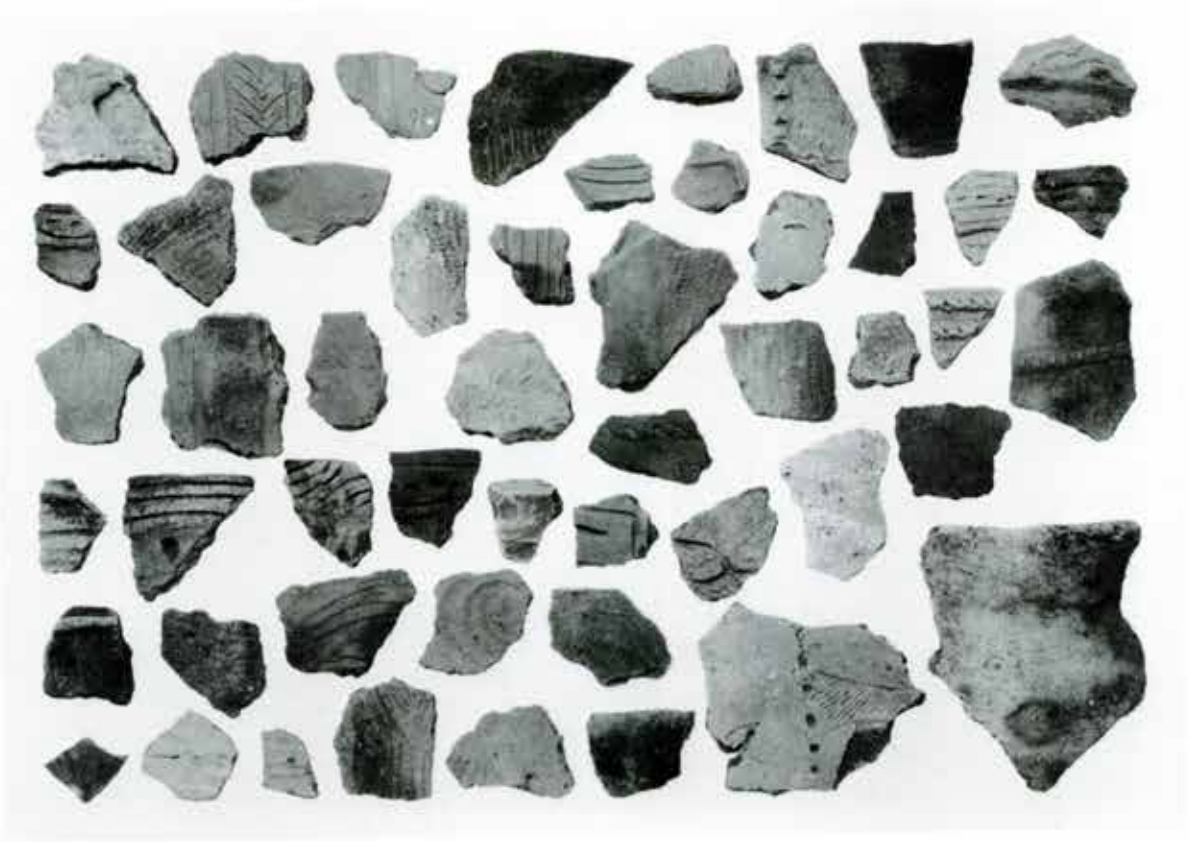


1



2

1・2．土坑出土の縄文土器

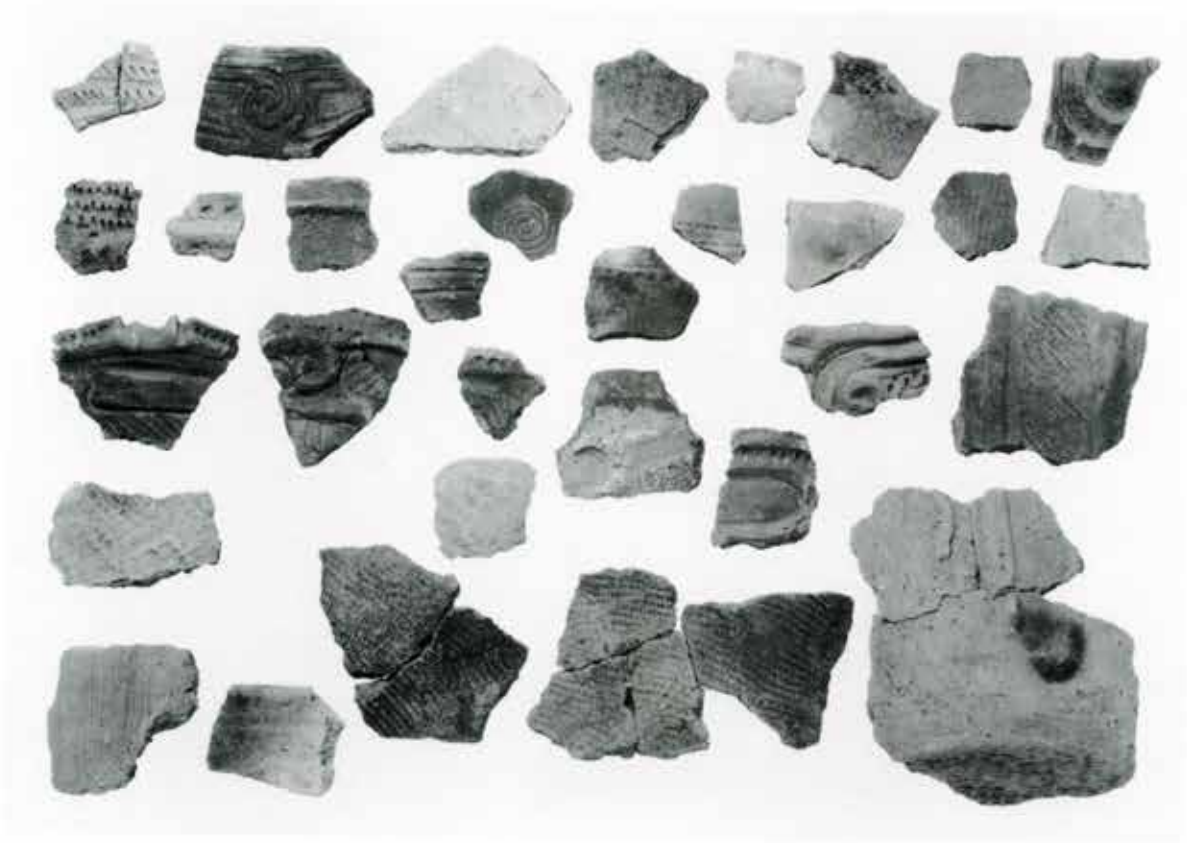


1

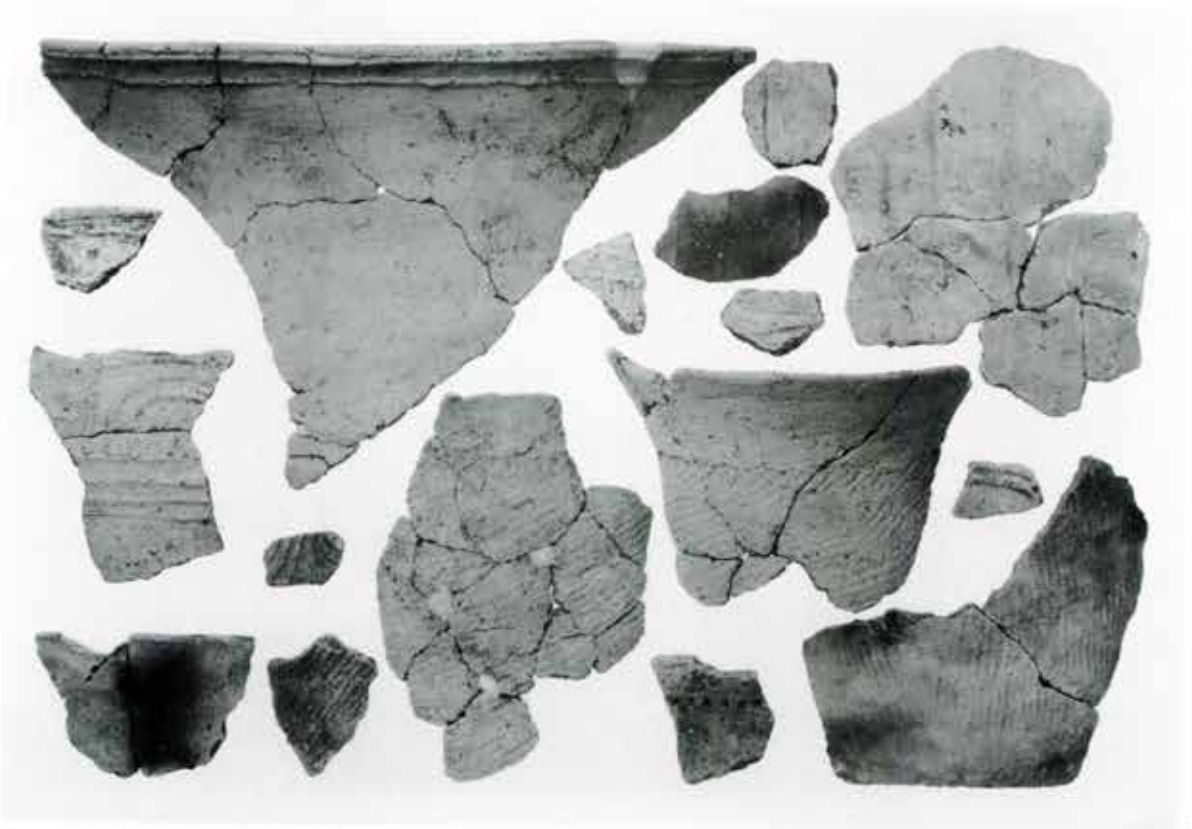
2

1．土坑出土の縄文土器　2．ピット出土の縄文土器

図版8



1

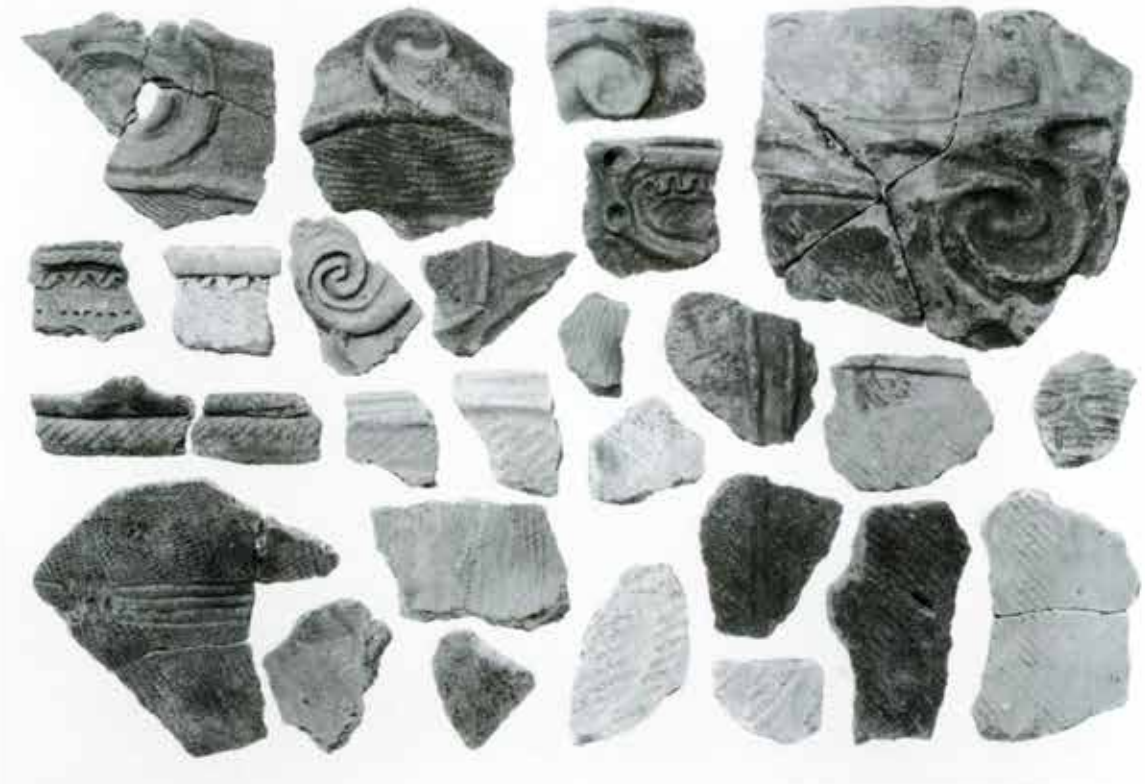


2

1・2．その他の遺構出土の縄文土器

1

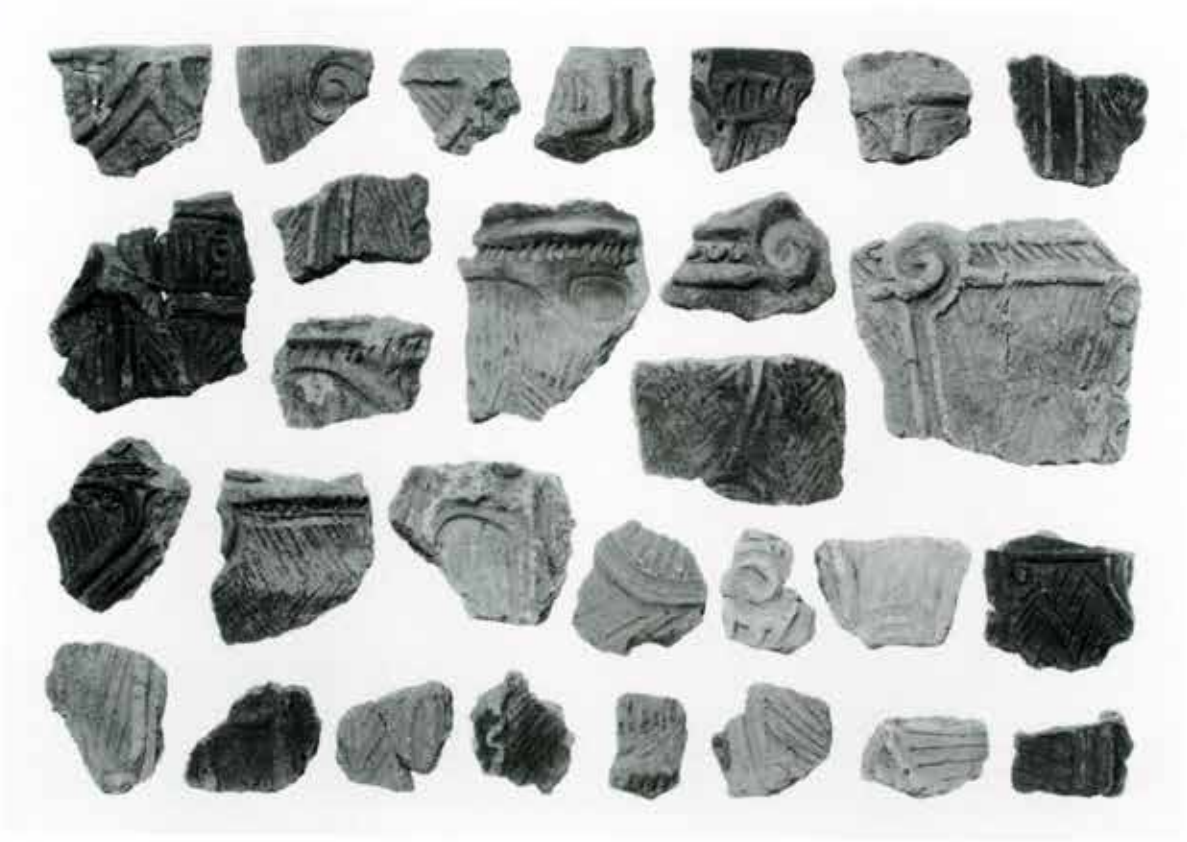
2



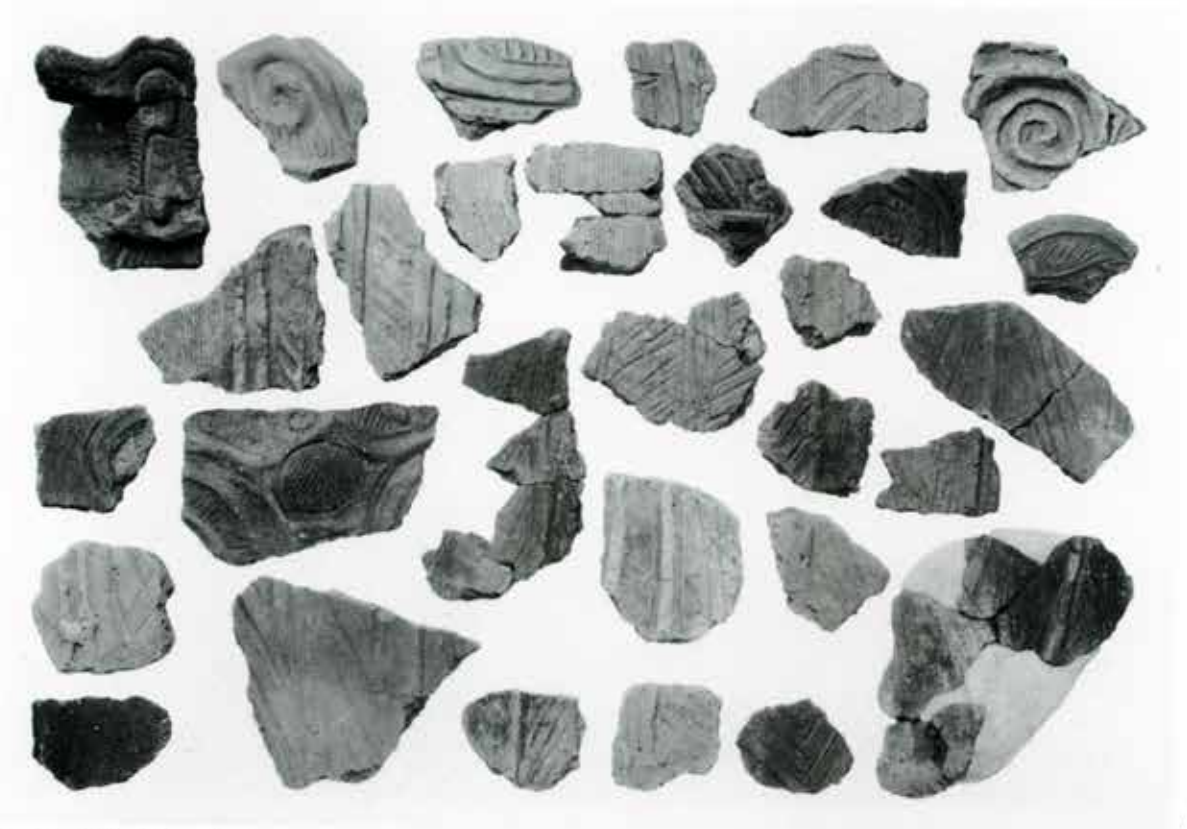
3

1．縄文土器Ⅰ群1類　2・3．縄文土器Ⅰ群2類

図版10

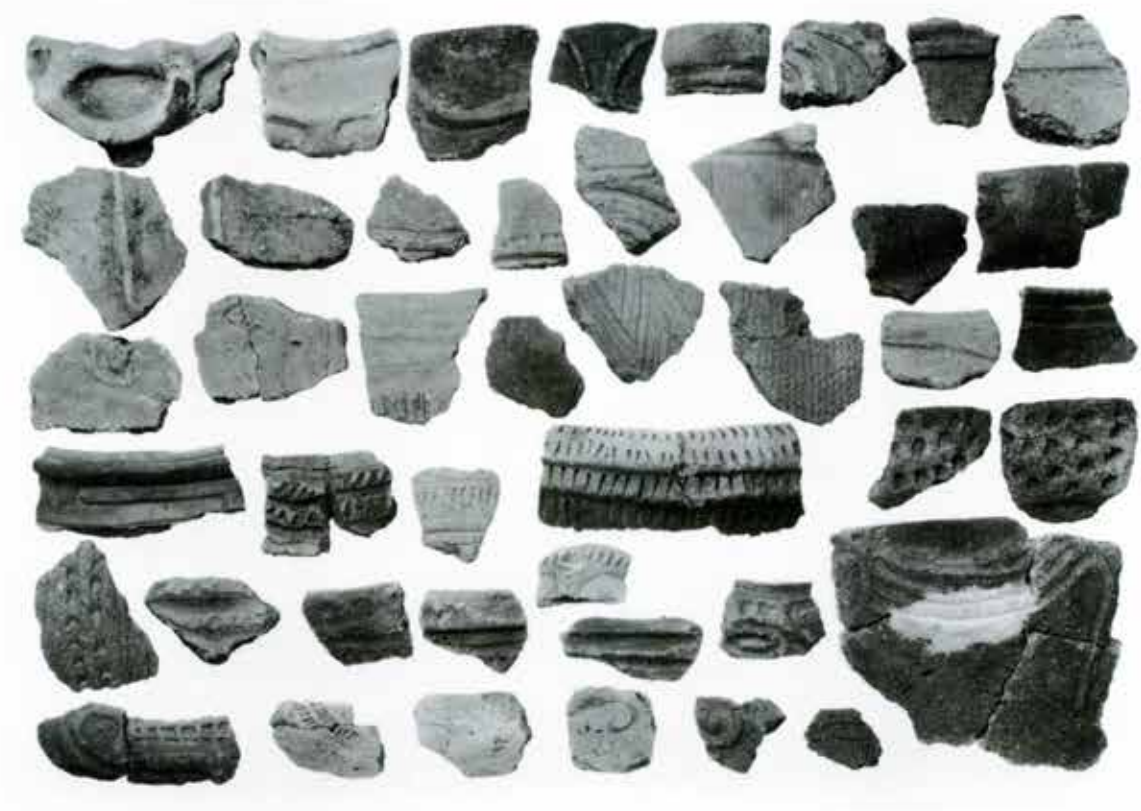


1

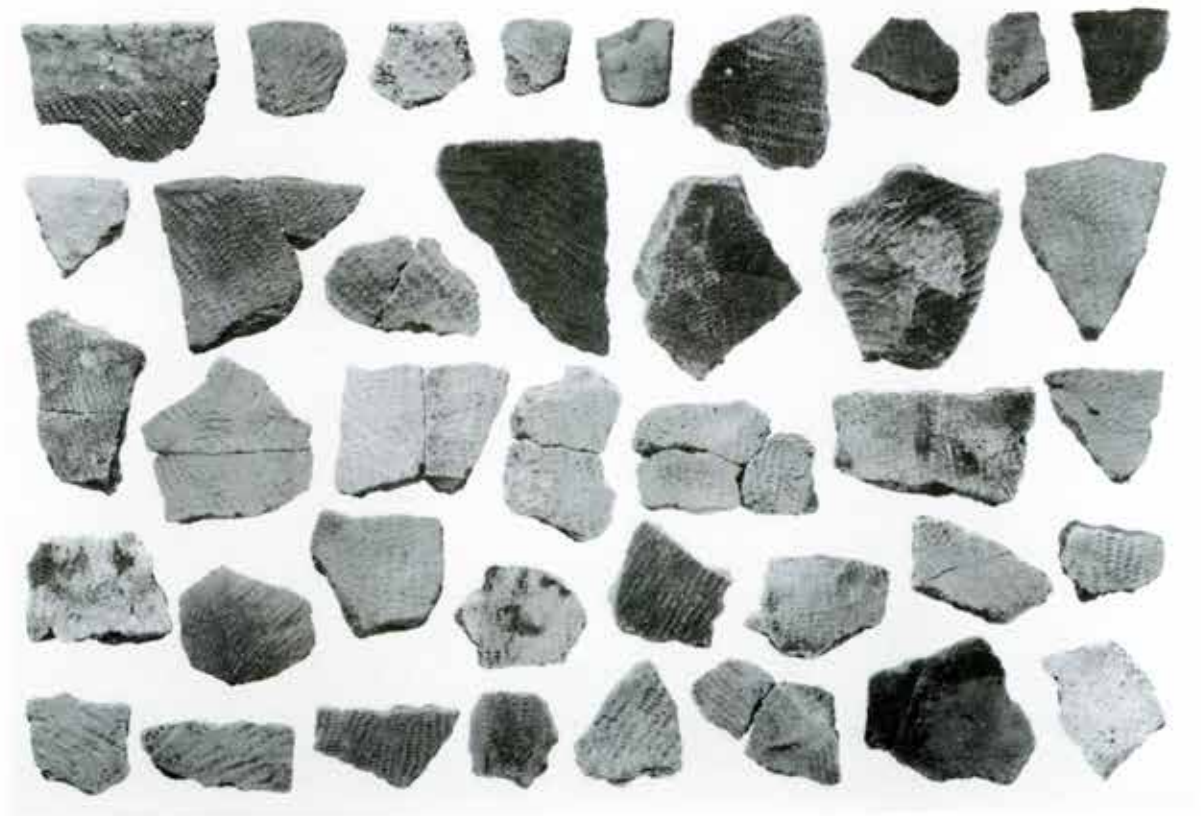


2

1・2．縄文土器Ⅰ群2類



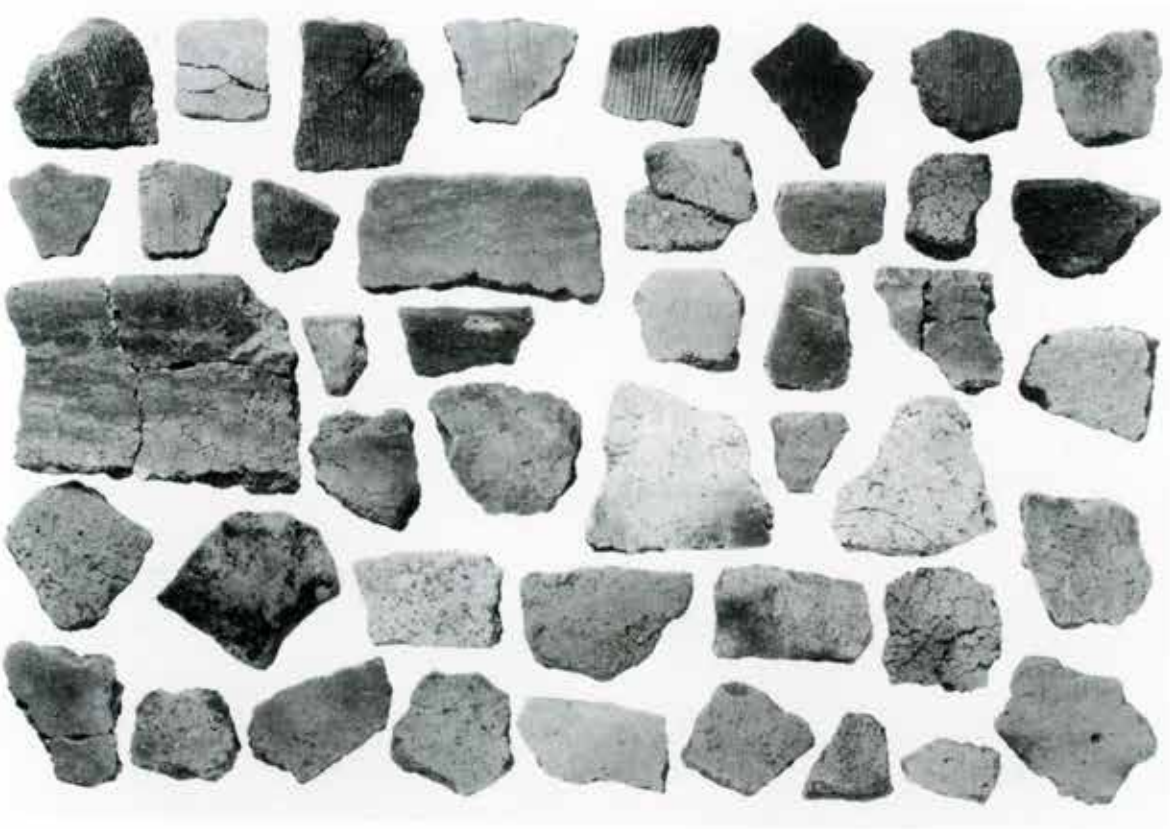
1



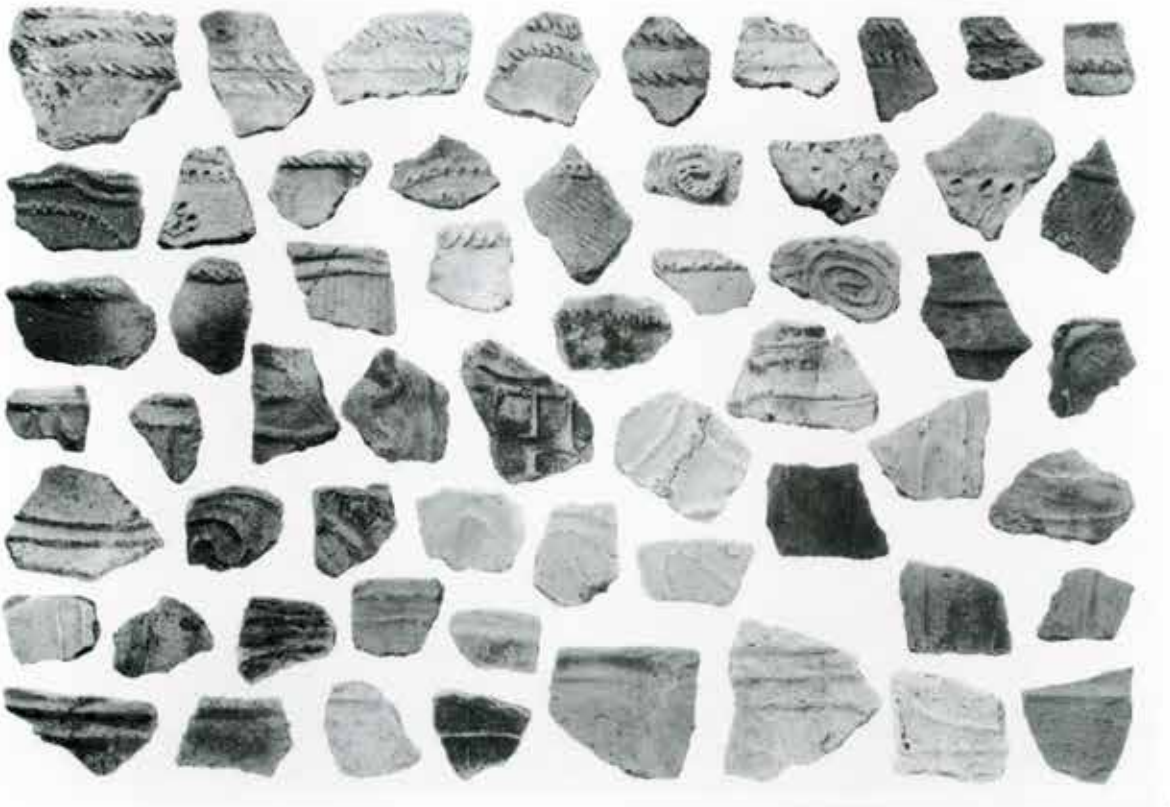
2

1．縄文土器Ⅰ群2類　2．縄文土器Ⅰ群3類

図版12

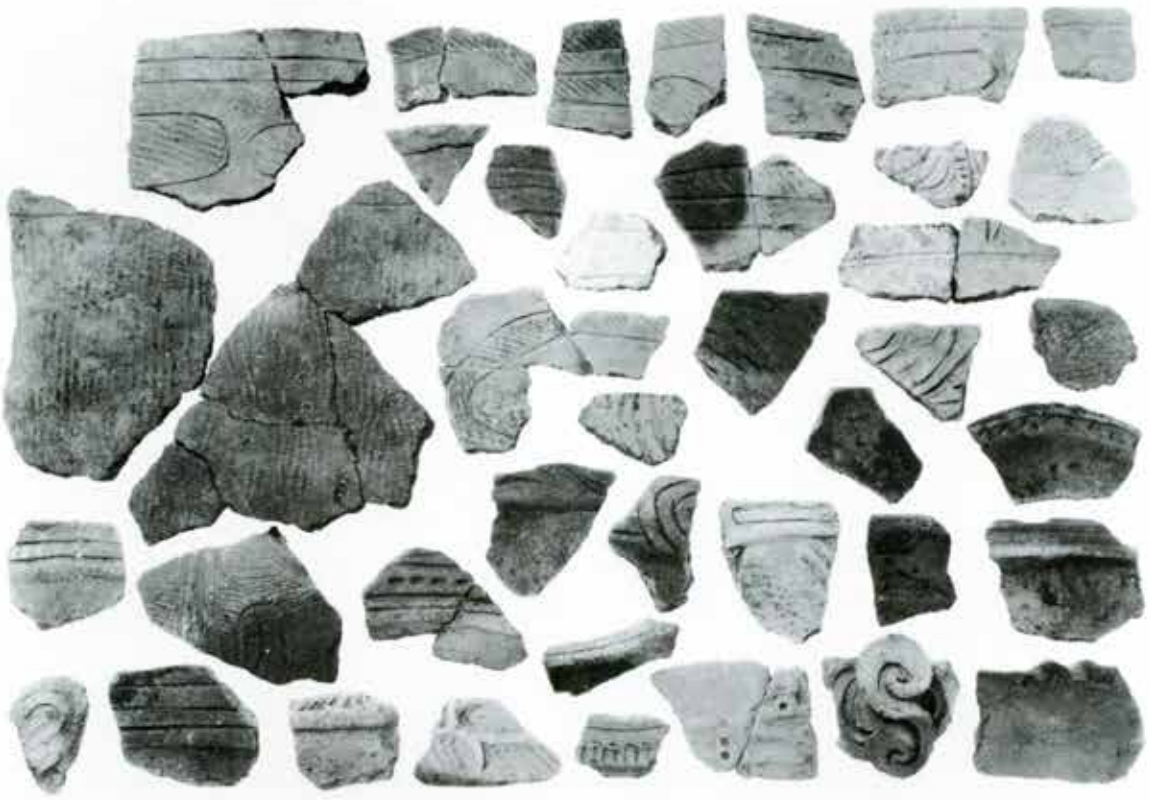


1



2

1．縄文土器Ⅰ群3類　2．縄文土器Ⅱ群1類



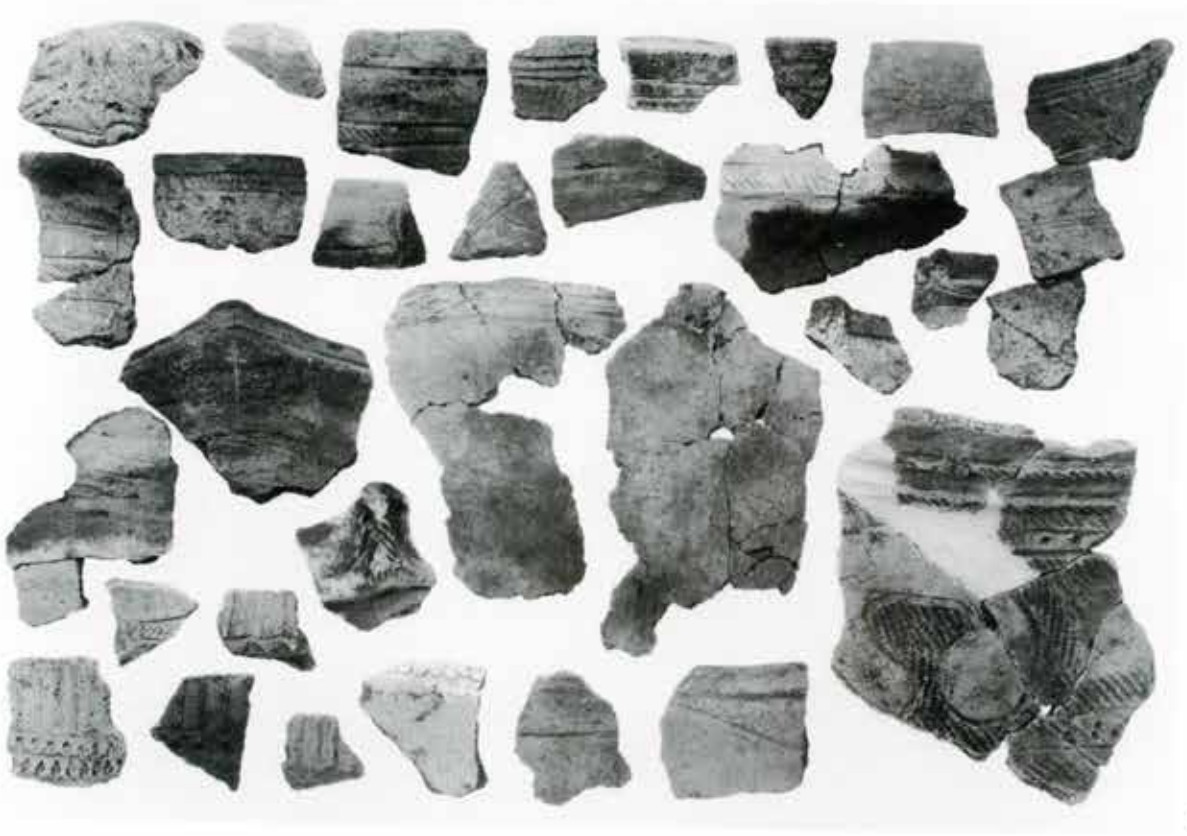
1

2

3

1．縄文土器Ⅱ群1類　2．縄文土器Ⅰ群2類　3．縄文土器Ⅱ群2類

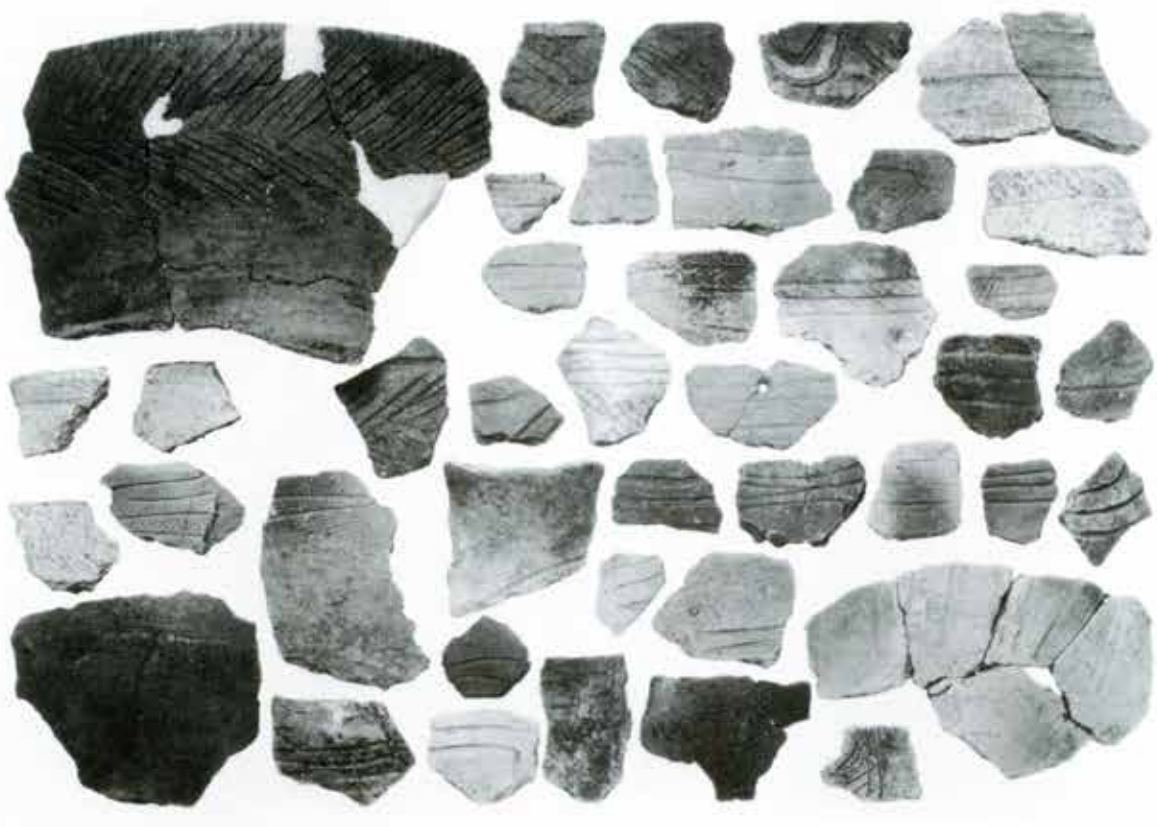
図版14



1

2

1．縄文土器Ⅱ群2類　2．縄文土器Ⅱ群3類

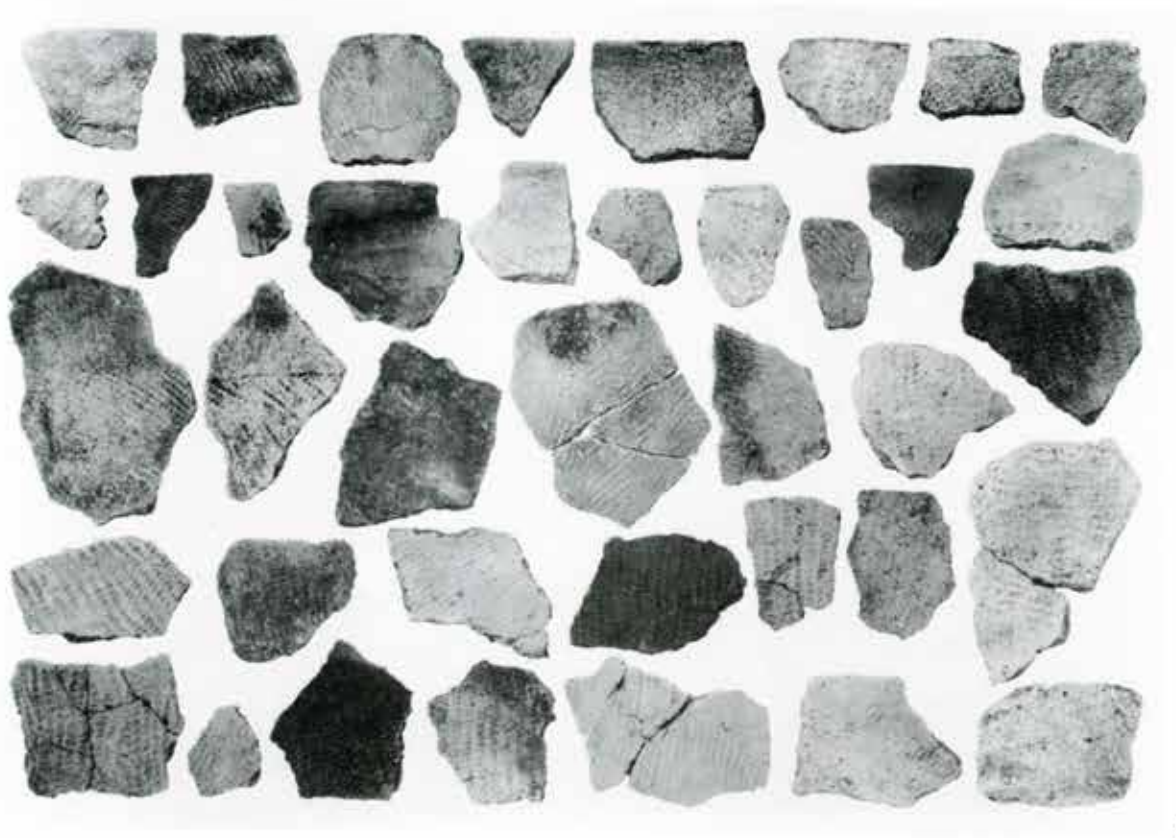


1

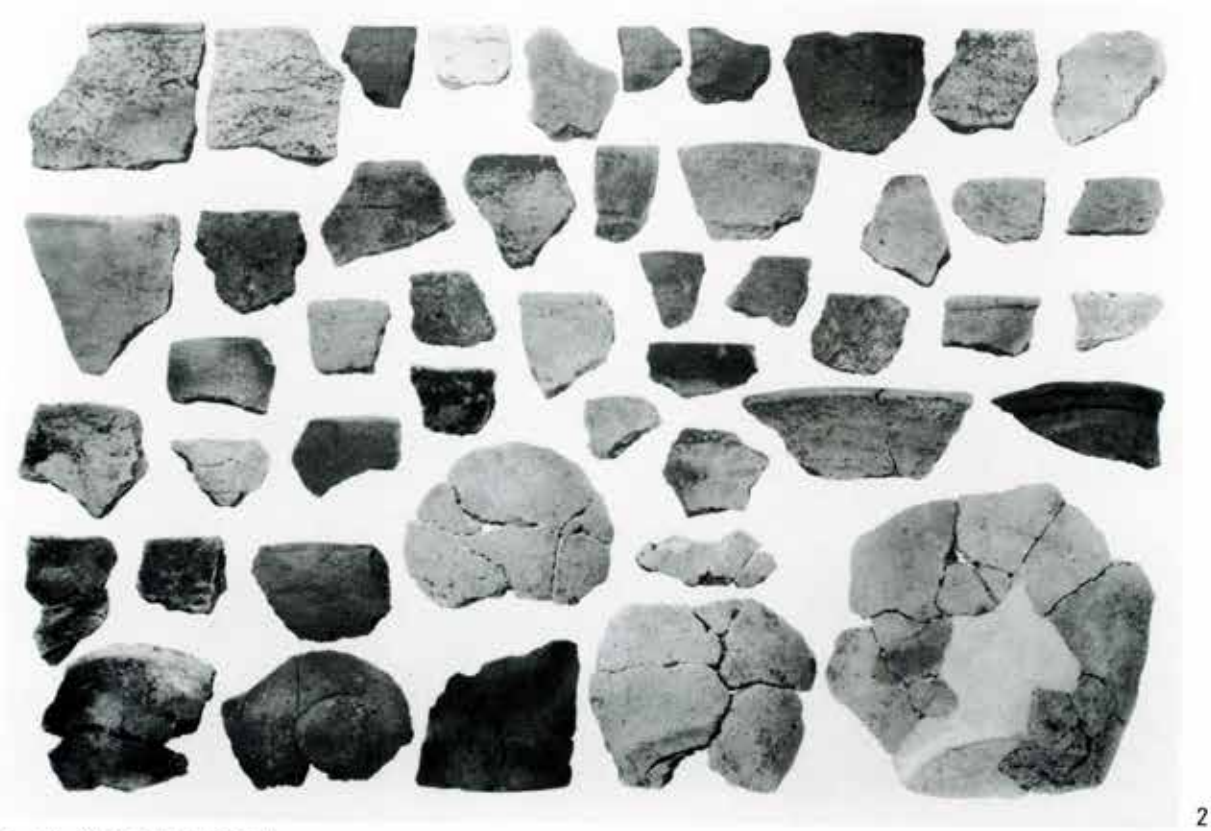
2

1・2．縄文土器Ⅱ群4類

図版16



1

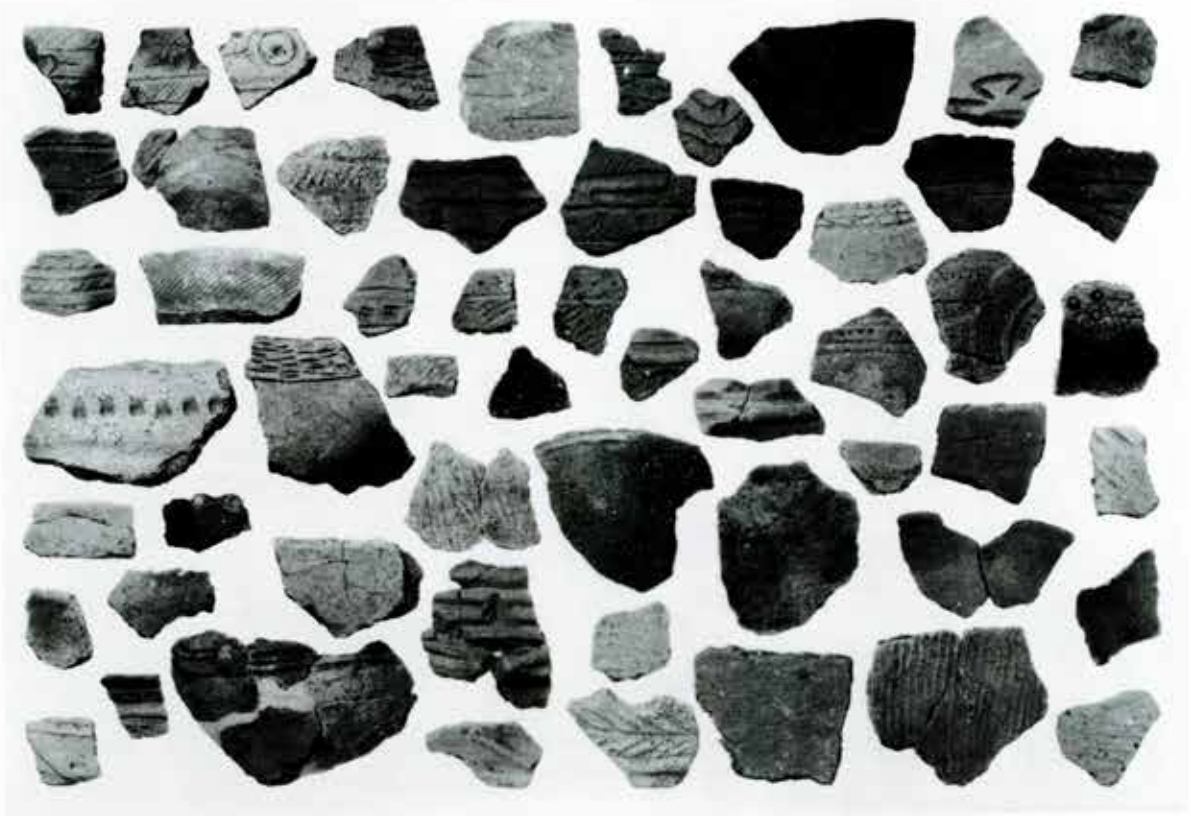


2

1・2．縄文土器Ⅱ群5類

1

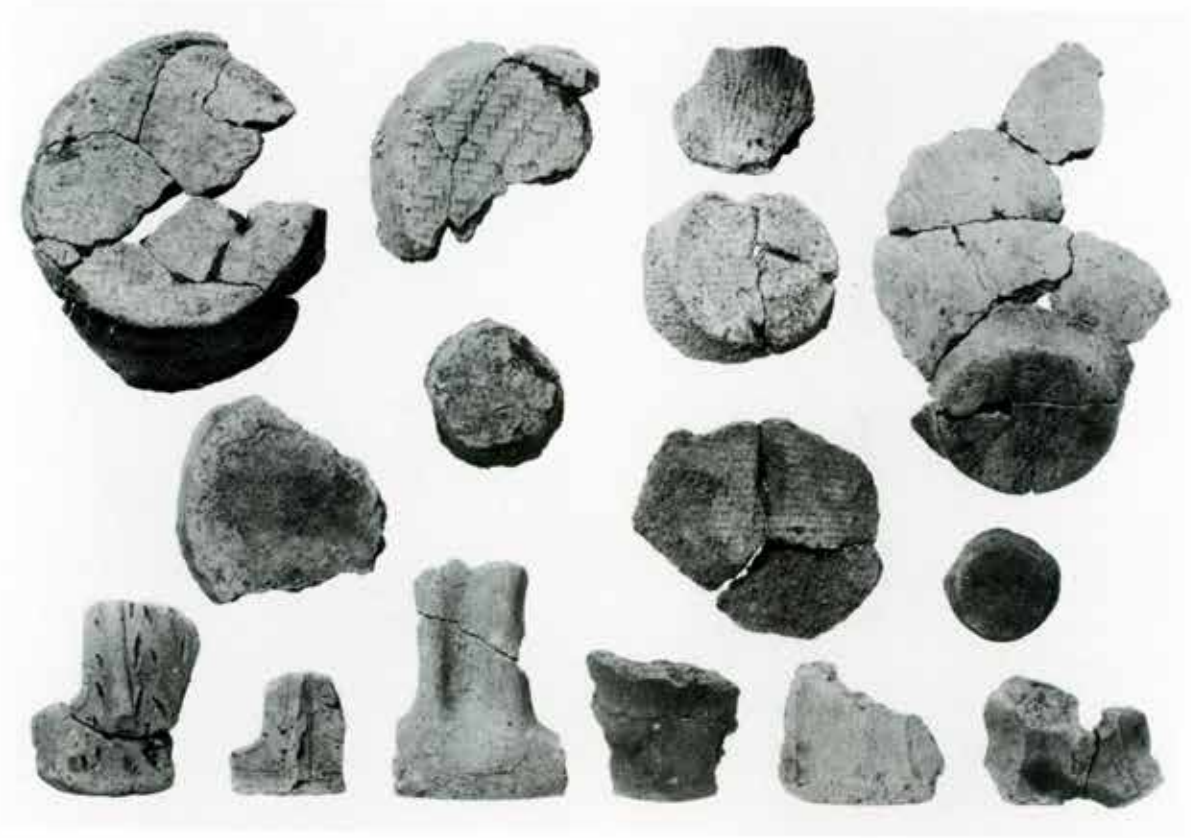
2



3

1．縄文土器Ⅱ群3類　2．縄文土器Ⅲ群2類　3．縄文土器Ⅲ群1・2類

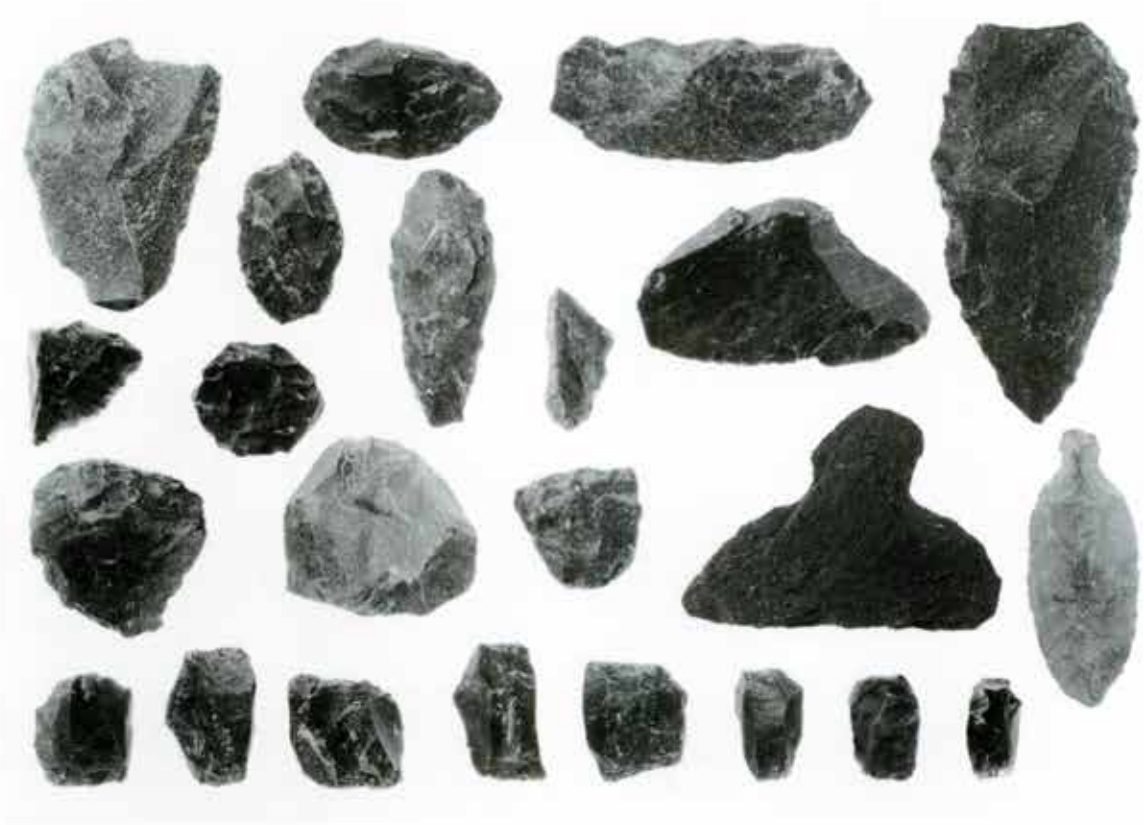
図版18



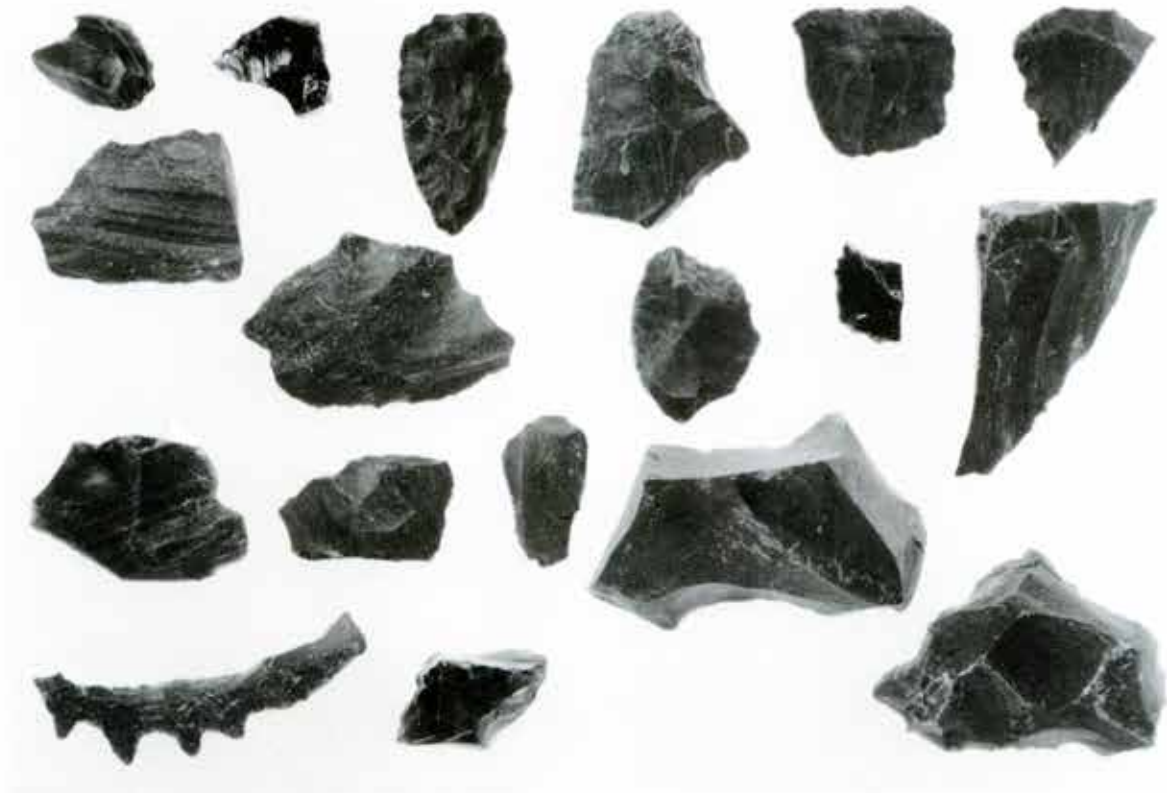
1

2

1．縄文土器 底部　2．石器類 石鏃・石錐



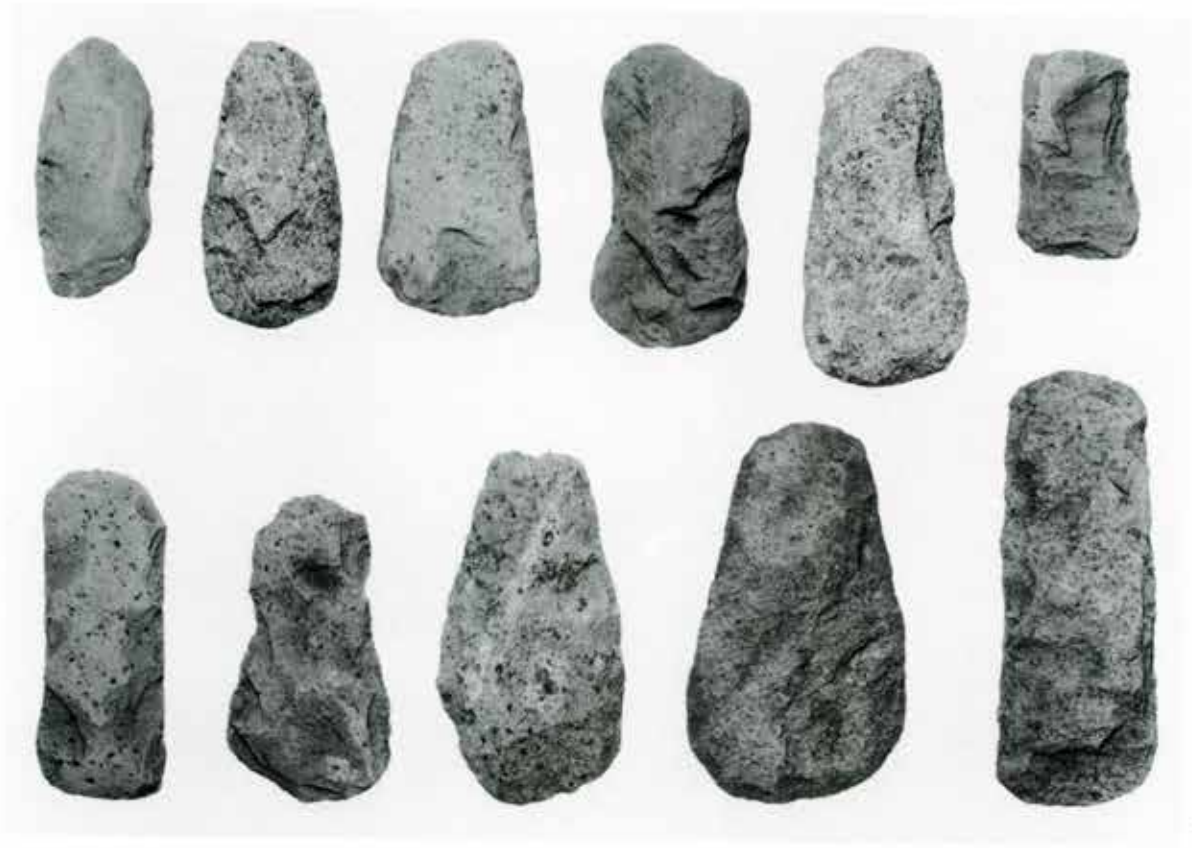
1



2

1．石器類 削器・掻器・石匙・両極剥離痕のある石器
2．石器類 二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・異形石器・石核

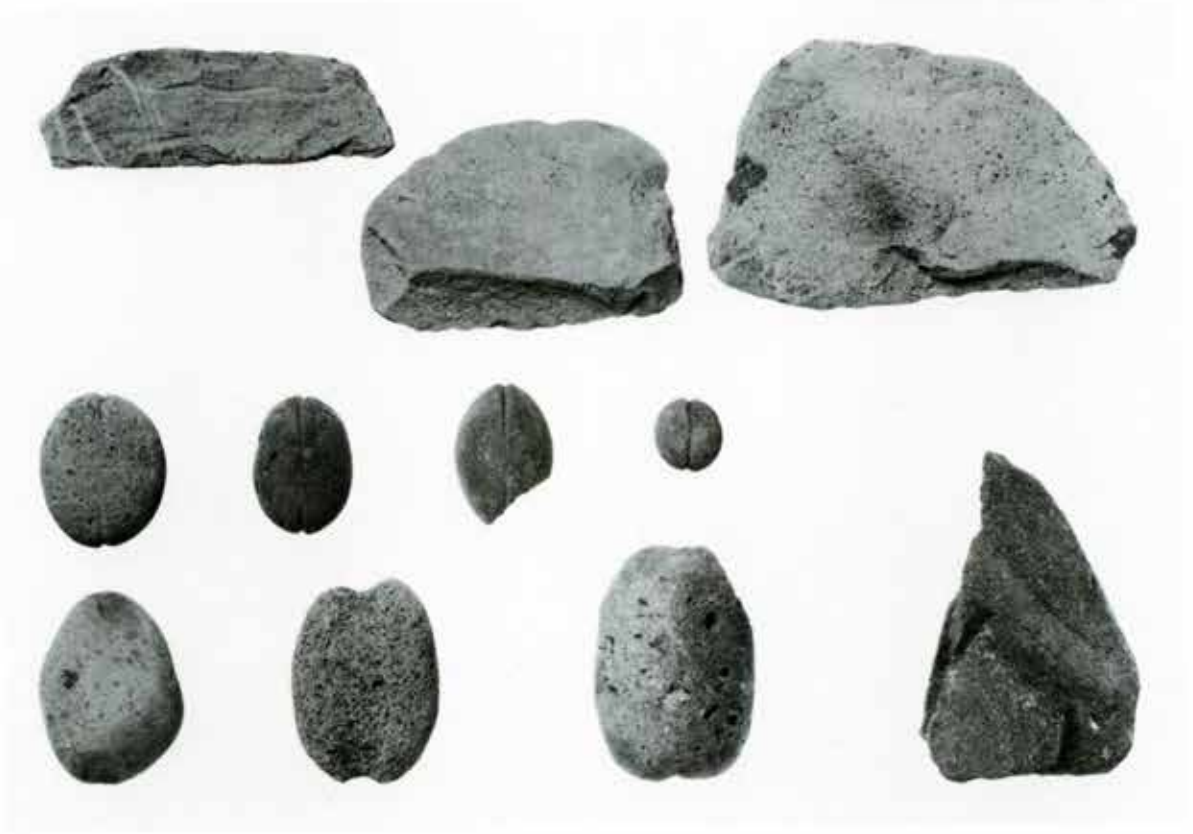
図版20



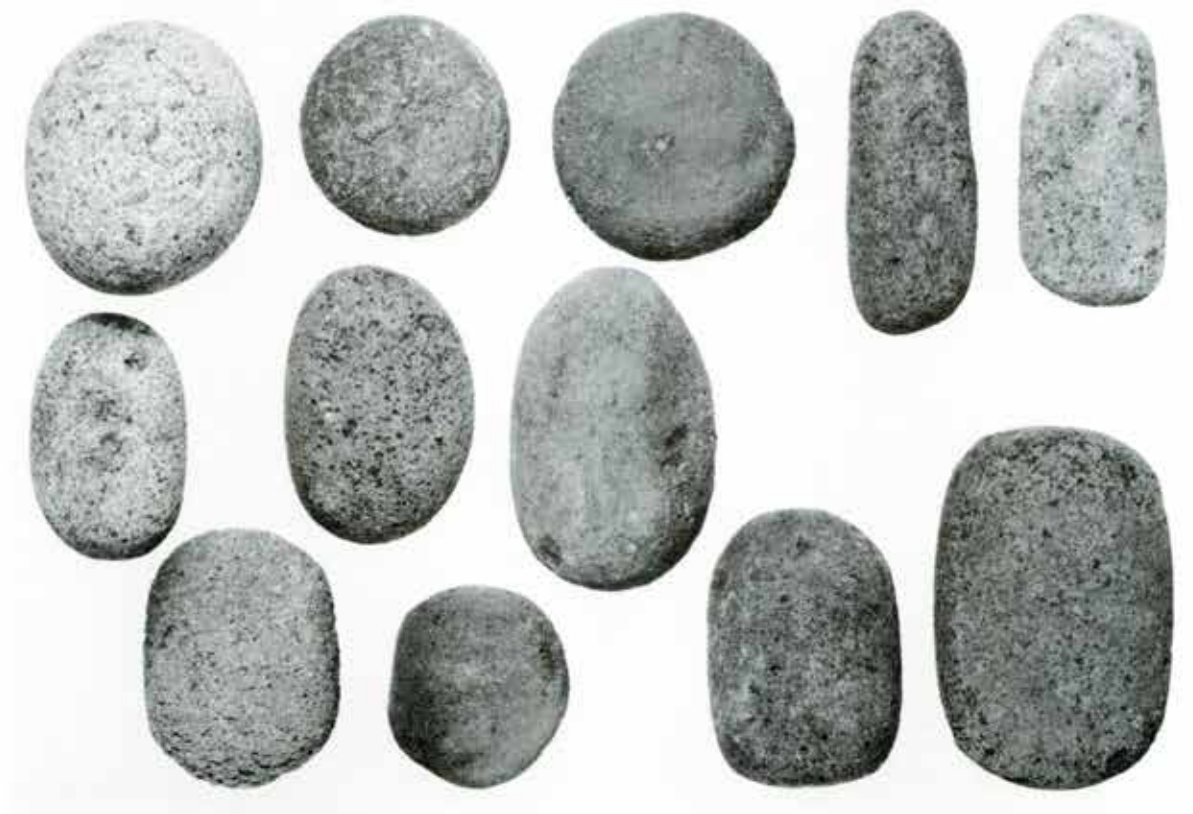
1

2

1．石器類 打製石斧　2．石器類 磨製石斧



1

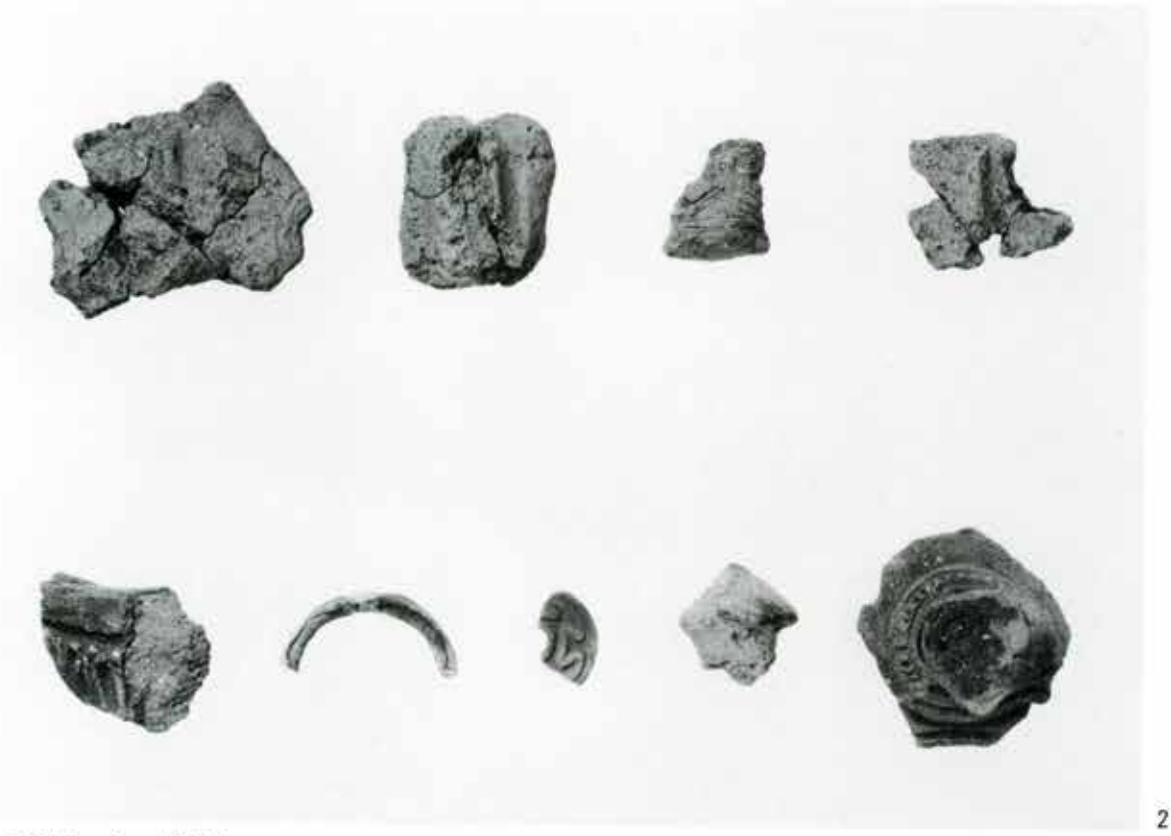


2

1．石器類 横刃形石器・切目石錘・有溝石錘・礫石錘・砥石　2．石器類 磨石・凹石・敲石類

図版22

1



2

1．石製品　2．土製品

1

2

3

4

5

6

1～6．陶磁器

報告書抄録

ふりがな	ゆやいせき
書名	湯屋遺跡
副書名	湯屋温泉線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第42集
編著者名	上嶋善治　古田靖志　本郷一美
編集機関	財団法人　岐阜県文化財保護センター
所在地	〒500-8708 岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）　TEL 058-264-1111(814)
発行年月日	1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
ゆや 湯屋遺跡	ぎふけんましたぐん 岐阜県益田郡 おさかちょうゆや 小坂町湯屋	21582	00909	35° 54′ 28″	137° 19′ 02″	19970804～ 19971029 400㎡	湯屋温泉線道路改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
湯屋遺跡	集落	縄文 近世	土坑 ピット 溝状遺構 配石遺構 竪穴状遺構 立石	縄文土器 石器 土製品 陶磁器	土坑群が検出された。縄文土器は中期から晩期まであるが、中期後半および後期が主体である。瘤付土器の出土が注目される。下呂石のフレイク類が大量に出土した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第42集

湯屋遺跡

湯屋温泉線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998年3月25日 印刷
1998年3月31日 刊行

編集・発行　財団法人岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）

印　刷　大　進　社　高山市有楽町40番地